

# Sei-Tan

## コロナ白書

“近くて遠い”キャンパス  
当惑と奮闘の900日

学校法人稲置学園  
学園創立90周年事業



KANAZAWA SEIRYO UNIVERSITY WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

金沢星稜大学女子短期大学部



Sei-Tan

コロナ白書

“近くて遠い”キャンパス  
当惑と奮闘の900日

学校法人稲置学園

学園創立90周年事業









新型コロナウイルス蔓延は、短大生のあなた達にとって未曾有の体験であったと思います。

特に、短大生というたった2年間しかない大学生活において、新型コロナウイルスによって奪われた、本来あったはずの楽しく洋々とした経験は、どれほどあったか計り知れないものと推察いたします。また、大学生活に限らず、今までの日常が普通であることがどれだけ有難いことなのか身をもって感じる事ができたことでしょう。

しかし、それはあなた達にとって悲観すべきことばかりではなかったのかもしれませんが。新型コロナウイルス蔓延で遠隔授業になり、それまでの対面授業とは違った、未来にグッと近い授業形態の体験や、iPadを利用することで社会人になったような感覚を味わうこともできたのではないのでしょうか。古来より、「災い転じて福となす」「人間万事塞翁が馬」「禍福は糾える縄の如し（かふくはあざなえるなわのごとし）」といった諺があります。人生の幸・不幸は予測し難く、幸運も喜ぶばかりでなく、不幸も悲しむばかりではない、といった先人達の多くの経験から生まれた諺です。

物事を良い方向に考えることも人生には大切であると思います。物事が思ったように進まない時でも、焦らず少し立ち止まるくらいの心の余裕が大切です。

皆さんの『Sei-Tan コロナ白書』の感想文を楽しみに読ませていただきます。

2022年8月

## 発刊にあたって

学校法人稲置学園  
理事長 稲置 慎也



## 刊行にあたって

金沢星稜大学女子短期大学部  
学長 大久保英哲

2020年4月2日、入学式で、私は新入生155人を迎え、次のように述べた。

新型コロナウイルス感染者は、先月には、世界で30万人を超え、1万人を超える方々が亡くなられています。日本国内の状況も決して予断を許しません。そのような中で、感染予防に最大限の注意を払いながら、皆さんの入学式を執り行い、晴れの門出を言祝ぎたいという我々の思いがこの稲置講堂での入学式になりました。来賓や保護者の方々のご臨席はかないませんが、皆さんの新たな生活や学びのスタートが、ご家族はもちろんのこと、社会から見守られ、支えられ、期待され、また祈られているのだということに想いをいたしていただきたいと思います。

それにしても、新型コロナウイルスの流行は、世界の経済や人々の交流に大きな影響を及ぼしています。ついこの間まで信じられていた「地球は一つ」、「グローバルな世界」という姿は、あっという間に国境や人々の往来を閉ざし、一時的であるにせよ、鎖国状態に戻ってしまったようにさえ見えます。世界の歴史は、国家や地域が統一や統合に向かう求心力が働く時代と、分離・独立、多様性が尊重される遠心力が強く作用する時代が螺旋状に交互に現れると申しますが、イギリスのEU離脱、アメリカの孤立主義、そしてコロナ対策にみられる自国主義は、遠心力が世界を支配する時代に入ったことを告げるものかもしれません。

それから2年後の2022年3月17日の卒業式である。

この2年間、皆さんは入学式から、本日の卒業式に至るまで、新型コロナの感染拡大に悩まされ続けた、まことに気の毒な学年でした。入学直後から遠隔授業になり、後期は対面授業に戻りましたが、マスク、体温測定、ソーシャルディスタンス、ステイホーム、イベント中止、海外研修

中止、自粛生活などなど、アルバイトも含めて、さぞや大変困難な2年間だったことでしょう。

私たち教職員が心配したのは、星短の皆さんの学業継続や就職・進路にどんな影響が出るのかということでした。皆さんは、「夢を力に、2年で4年を超える」、「明日輝く女性になる」をスローガンに、これまで努力を積み重ねてこられました。その夢と努力がかなえられない事態になることを恐れたのです。

しかし、その心配は結果的に杞憂に終わりました。今年度皆さんが達成されたその成果は、名目就職率95.5%、国家・地方公務員合格者延べ24名、大学編入者8名でした。これは入学定員150名規模の女子短大としては驚異的な数字です。うれしい限りです。

新型コロナウイルスの襲来を受け、翻弄された私たちの姿は、やがて後代には、まるで、アルベール・カミュ(1947)の『ペスト』のように描かれるのかもしれない。

私は教育史研究に連なる学徒の一人として、本学がコロナ危機に対して、成功や失敗・反省も含めて、どうふるまい、立ち向かったのか、その軌跡の一端を学生一人ひとりの生活実感まで含めて主体的に記録にとどめておきたいと考えた。

冒頭に述べたように、金沢星稜大学女子短期大学部2020年度入学生は、まさにコロナの影響を色濃く受けざるを得なかった2年間の中で学生生活を送り、卒業していった学年である。その学生たちの声や記録は、本短大はもちろん、本学園、あるいは日本の大学・短大教育史にとってもコロナ禍に翻弄されつつもけなげに立ち向かった学生、教員・職員などの貴重な資料となるかもしれない。

また、2020年度以後のコロナ感染症対策は、短大のみならず金沢星稜大学危機管理本部が打ち出した施策である。短大はそれを基本的に踏襲したに過ぎない。その点では政府・文部科学省、石川県の通達や指示を参考にしながら、金沢星稜大学が

とった全学的な対応の記録にもなっている。

ただ『Sei-Tan コロナ白書』と銘打ったものの、教員・職員、保護者、教育関係者、学食、コンビニ関係者など、学生生活を支えてくださっている多くの方々の声は収録されていない。あくまでも学内の危機管理と対応の記録、そして学生たちの感想を主としたコロナ・アーカイブの記録である。それでもこれは率直な学生たちの声として貴重な資料になろう。

2022年10月に迎える「稲置学園 学園創立90周年事業」に際し、「短大部独自企画」として本書の刊行を企画した所以である。

なお、副題の「当惑と奮闘の900日」は、危機管理本部が発足した2020年2月から、本書刊行予定(2022年10月)までのおおよその日数である。コロナ禍は現在も収まっていないが、その対応策は事実上大幅に緩和されている。それだけに本書に収録された対面授業から遠隔授業への全面移行、各種の行動制限などはやはり歴史的な事実として記録されるべきであろう。

その評価は後の歴史家に委ねたい。

2022年8月

## Contents

発刊にあたって 学校法人稲置学園 理事長 稲置 慎也  
刊行にあたって 金沢星稜大学女子短期大学部 学長 大久保英哲

### 1. COVID-19 概要 ————— 9

1. 新型コロナウイルスとは 9
2. 2020年の日本の状況と対策 12
3. 2021年の日本の状況と対策 13
4. 2022年前半の日本の状況と対策 14

### 2. 当惑と奮闘 危機管理とその対応記録 ————— 15

1. 危機管理体制の構築 15
  - 1.1 危機管理委員会対策本部2つの方針
  - 1.2 2020年度入学式式辞
2. 2020年度前期 17
  - 2.1 遠隔授業の導入と体制の整備
  - 2.2 学生支援と感染防止対策
  - 2.3 進路支援
  - 2.4 学内組織
3. 2020年度後期 21
  - 3.1 対面授業と遠隔授業の併用
  - 3.2 感染者の発生と対応
  - 3.3 流星祭
  - 3.4 海外研修
  - 3.5 入学者選抜
  - 3.6 学位記授与式
4. 2021年度 24
  - 4.1 入学式
  - 4.2 流星祭
  - 4.3 学位記授与式

### 3. 学生たちの想い 2020・21年度在学生339人の記憶 ————— 29

### 4. 学生たちのコロナ・アーカイブから見た Sei-Tan 教育

「遠ざかった Sei-Tan、帰ってきた Sei-Tan」 ————— 111

あとがき 編集代表 山田 範子

# 1. COVID-19 概要

人類史上、類を見ないほどのパンデミック（世界的大流行）を引き起こした新型コロナウイルス。人々の健康と安全を脅かし、社会経済活動を大きく制限したことで、人々の生活は本質的に変化していった。COVID-19の概要を記録しておく。

## 1. 新型コロナウイルスとは

2019年12月、中国湖北省武漢でウイルスによる感染症が観測された。2020年1月14日、WHO（世界保健機関）は中国当局から情報提供を受けた上で、「中国で発生している原因不明の肺炎から、新型コロナウイルスが検出された」と明らかにした。

新型コロナウイルスは1月21日にはアメリカ、1月25日にはフランスで感染が確認されるなど欧米へも広がり、1月31日にはWHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言する。新型コロナウイルスは、“coronavirus disease 2019”（2019年に発生した新型コロナウイルス感染症）として「COVID-19」の正式名称が付けられ、2020年3月11日にはWHOがパンデミック（地理的に広い範囲の世界的流行）を認定した。

### ■全世界で5億人が感染

COVID-19（以下、新型コロナウイルス）とは、病原体 SARS-CoV-2 が原因で起こる感染症である。ジョンズ・ホプキンス大学のまとめによると、世界の感染者数は2022年4月13日時点で5億人を越えたとされる。同年6月15日で感染者が最も多い国はアメリカで約8563万人、次いでインド約4323万人、ブラジル約3149万人、フランス約2891万人、ドイツ約2691万人と続く。死者の数は、世界全体で630万人を越える。日本の感染者数は2022年5月1日までに、全人口の約6.2%にあたる約786万人が報告されている。

感染源は、中国の武漢が有力である。WHOは調査チームを2021年1月に武漢へ派遣し、翌月の2月3日より中国科学院武漢ウイルス研究所を調査した。研究所はウイルスの発生が疑われる武漢の海鮮市場から車で30分ほどの場所に位置し、「研究所からウイルスが流出したのではないかとアメリカなどから疑惑の目を向けられていた。2月7日に調査を終えたチームは、同年3月31日に「武漢研究所からの流出は極めて低い」と結論づけている。しかし中国から詳細な情報を得られたのか不明で、調査結

2022年6月15日時点の世界の感染者数・死者数(累計/多い順)  
※米ジョンズ・ホプキンス大学の発表をもとに作成

	国名・地域名	感染者	死者
1	アメリカ	85,632,808	1,011,543
2	インド	43,236,695	524,777
3	ブラジル	31,497,038	668,180
4	フランス	28,917,263	145,478
5	ドイツ	26,915,085	139,914
6	イギリス	22,410,583	179,274
7	韓国	18,239,056	24,390
8	ロシア	18,111,240	372,392
9	イタリア	17,664,043	167,432
10	トルコ	15,078,186	98,976
11	スペイン	12,478,994	107,108
12	ベトナム	10,732,429	43,083
13	アルゼンチン	9,276,618	128,973
14	日本	9,047,604	30,909
15	オランダ	8,107,857	22,336
16	オーストラリア	7,660,750	9,089
17	イラン	7,233,880	141,352
18	コロンビア	6,117,847	139,894
19	インドネシア	6,056,017	156,604
20	ポーランド	6,010,090	116,371



果の信憑性には疑問が残る。

## ■症状と重症化

新型コロナウイルスに感染すると、平均5～6日間、長くて2週間程度で症状が現れる。主な症状には、発熱・咳・息苦しさ・体のだるさ・悪寒・筋肉痛・頭痛・喉の痛み・鼻水・鼻詰まり・味覚障害・嗅覚障害などがある。軽症の場合は経過観察のみで自然治癒し、さらに本人が感染していることに気付かない無症状のまま治癒しているケースもある。

重症化すると、肺炎・酸素不足・心臓病など深刻な問題を引き起こし、最悪、死に至る。重症化の割合は年齢により異なり、高齢者は高く若年者は低い傾向が見られる。若年層であっても、慢性閉塞性肺疾患（COPD）・慢性腎臓病・糖尿病・高血圧・心血管疾患・肥満・喫煙など基礎疾患等があると重症化リスクは高まる。

発生当初に比べるとウイルスの変異やワクチン接種により、重症化の割合は低下傾向にある。厚生労働省が作成した2022年1月～2月の感染者119,109人を対象としたデータでは、重症化の割合は50歳代以下で0.03%、60歳代以上で2.49%。また死亡した人の割合は50歳代以下で0.01%、60歳代以上で1.99%となっている。

完治した後も、後遺症に悩まされるケースが見られる。症状としては、倦怠感・呼吸困難・咳・記憶障害・睡眠障害・全身の痛み・味覚障害・聴覚障害・脱毛などがある。

## ■感染経路と予防策

ウイルスの主な感染経路は、飛沫感染と接触感染の2種類である。飛沫感染は、感染者の唾からの感染を指す。唾液にはウイルスが多く含まれており、咳・くしゃみ・発声・呼吸などで唾が水滴の飛沫となって飛散し感染する。そのため飛沫感染の防止には、マスクの着用が有効となる。

接触感染は、エレベーターのボタンやドアノブなど人の手の触れる場所にウイルスが付着し、手にウイルスの付いた状態で目・口・鼻に触れて感染する。接触感染は、手洗いやアルコールによる手や指の消毒が感染防止につながる。

これら感染のうち、約半数は症状の出ない無症状感染者からと推測される。そのため感染防止には明確に症状の出ている人だけでなく、健康に見える人への検査が必要である。感染しているかどうかの検査には、PCR検査、抗原検査、抗体検査などがある。PCR検査と抗原検査は「現在、感染しているかどうか」を調べ、抗体検査は「過去、感染していたかどうか」を調べる。検査方法は、PCR検査と抗原検査とが唾液もしくは鼻腔咽頭ぬぐいから、抗体検査は採血を行う。

無症状者からの感染を踏まえ、公共の場所でのマスク着用が予防には重要である。マスクは種類によって効果が異なり、N95やKN95など保護マスクが最も高い。帰宅時に手を洗うことも、接触感染を防ぐために有効である。手洗いの効果的なやり方は、石鹸やハンドソープを用い、手首・爪・指などを20秒以上かけてこすり洗いする。手洗いの代わりに、濃度70%以上のエタノールでの消毒も効果がある。飛沫感

染の予防から同居している人以外のすべての人と、2メートル以上の間隔（社会的距離）をあけるのが望ましい。

## ■異例のスピードで開発されたワクチン

予防には、ワクチン接種に効果が期待できる。新型コロナウイルスが確認されてから、アメリカをはじめ各国でワクチンの開発が進められた。世界で初めてワクチン接種が開始されたのは2020年12月8日からのイギリスで、アメリカ製薬大手のファイザーとドイツのビオンテックが開発したワクチンを用いた。同月14日にはアメリカ各地でも、医療従事者への接種が開始されている。

これら新型コロナウイルスのワクチンは、発生から1年未満で開発・承認・接種された。従来のワクチン開発に比べると、異例のスピードである。開発されたワクチンは、mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンと呼ばれる。このワクチンはウイルス表面のタンパク質の遺伝情報（スパイクタンパク質）を持つmRNAを人工的に作り、人間の体内に入れることで抗体を作るという、これまでにないタイプのものである。

新型コロナウイルスの予防に効果があるとされ、オミクロン株発生前のデータでは接種から一定期間の予防効果が約70～90%と報告されている。一度だけでなく複数回の接種（ブースターショット）により、重症・入院・死亡の可能性を低減できるとされる。

日本国内で使用されるワクチンは2022年5月1日時点で、ファイザー社・武田/モデルナ社・アストラゼネカ社の3社。国内で初めてワクチンが接種されたのは2021年2月17日で、医療従事者を中心にスタートした。同年4月12日からは、高齢者向けの接種が開始されている。また2021年12月1日からは3回目、2022年5月25日からは4回目の接種がスタートしている。

日本をはじめ多くの国が欧米製ワクチンを採用しているのに対し、ロシアと中国は自国産のワクチンを開発・接種している。また北朝鮮は新型コロナウイルス発生から一貫して、アメリカ・韓国・COVAX（ワクチンの公平な配分を目指す国際的な枠組み）などからのワクチン提供を拒否している。2022年4月から新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、北朝鮮の国営メディアによると同年5月に250万人近くにまで感染者が増えているという。



G20 など先進国が複数回のワクチン接種を完了する中、アフリカなどの一部の国や地域では 1 回目さえ完了していない。「国や地域間でワクチン格差があるとウイルスは収まらない」とし、WHO は先進国から途上国へのワクチン分配を呼びかけている。

### ■ 変異株の出現

ウイルスは増殖と感染を繰り返し、徐々に変異していく。新型コロナウイルスも例外でなく、いくつかの変異株が確認されている。主な変異株としては、2020 年 9 月にイギリスで発生したアルファ株 (B.1.1.7 系統)、2020 年 5 月に南アフリカで発生したベータ株 (B.1.351 系統)、2020 年 11 月にブラジルで発生したガンマ株 (P.1 系統)、2020 年 10 月にインドで発生したデルタ株 (B.1.617.2 系統)、2020 年 10 月にインドで発生したカッパ株 (B.1.617.1 系統)、2021 年 11 月に南アフリカで発生したオミクロン株 (B.1.1.529 系統) などがある。

特にデルタ株は従来の約 2 倍と感染力が高く、日本では 2021 年 7～8 月にかけての感染者急増の一因となった。その教訓からオミクロン株が発生した際、日本政府は即座にすべての国と地域の外国人新規入国を原則停止した。その後の感染者数の減少を受け、2022 年 6 月 10 日からは観光目的の入国者の制限を解除している。

### ■ 対策に追われた企業と学校

新型コロナウイルスの発生は、企業の働き方の変化を強制的に促した。ステイホームを余儀なくされた際には、メールやメッセージアプリの活用、ZOOM などビデオ通話を使ったミーティングなど遠隔でのコミュニケーションが促進した。

ステイホームでの仕事は通勤時のラッシュを避けられるなど良い面がありつつ、一人で閉じこもって働くため孤独を感じやすく、精神的な不調を訴える人も多数見られた。またオフィスで顔を合わせる機会が減ったことで、「チームワークが取れない」「雑談によるコミュニケーションが取れず、新しいアイデアが生まれにくい」「若手社員は成長を実感できない」といったマイナス面も指摘されている。

教育機関も、新型コロナウイルス発生により対策に追われた。マスクの着用や手洗い、教室内の換気など基本的な感染対策はもとより、タブレットを使っての遠隔授業など ICT (情報通信技術) を活用した学習が実施された。ICT 活用は通信環境に依存するため、家庭によって学習機会に差が生まれる。そのため各家庭へポケット Wi-Fi の支給や光回線の設置補助など、学習サポートを行う自治体の動きも見られた。

こうして 2019 年に発生した新型コロナウイルスは、2022 年現在にいたるまで世界中に大きな影響を及ぼしている。人の移動が制限され経済活動に大きな支障をきたしつつも、遠隔でのコミュニケーション促進のため IT の環境整備が急速に進みもした。

ネット環境が整備されデジタルツールが行きわたった現代社会では、真意不明の情報が膨大に生まれ高速で行き交っている。その結果、マスクやトイレトペーパーの買い占め、感染者に対する差別など混乱をもたらした。国や自治

体など公共機関には、これまで以上に正確な情報をわかりやすく敏速に発信する取り組みが求められる。

### ■ 給付金・助成金・補助金

感染者数が日に日に増加する中、日本政府は 2020 年 4 月 7 日に緊急事態宣言を布告した。その結果、一時的に感染者数は低減したものの、懸念されたのが経済活動である。「国民へ何かしらの支援が必要だ」と声が高まり、4 月 20 日には国民一人当たり 10 万円を支給する特別定額給付金が閣議決定された。さらに中小企業・個人事業主へは、持続化給付金の申請を 5 月 1 日より開始。2021 年～2022 年のまん延防止等重点措置で時短営業などを行った飲食店へは、各自治体が事業規模に応じた協力金を支給した。

また、感染拡大により事業活動の縮小を余儀なくされた事業者に対して、2020 年 4 月 1 日から雇用調整助成金の特例措置が講じられた。雇用環境が急変する中、休業や教育訓練、出向等により従業員の雇用維持を図った場合に休業手当等の全部または一部を助成し、失業率の急上昇を食い止めた。

こうして事業者への支援は見られたものの、アルバイト先が休業するなど経済活動が制限されたのは学生も同じである。政府から学生への支援が十分といえない状況を見て、金沢星稜大学女子短期大学部では本学生へ向け独自財源を用いての給付を決定した (第 2 章参照)。



## 2. 2020年の日本の状況と対策

以上が、新型コロナウイルスの概要である。ここから国内における状況の推移、政府の対策などを時系列で見えていく。

日本で初めて新型コロナウイルスの感染者が報告されたのは、2020年1月15日だった。感染者は中国の武漢に滞在していた30代の中国籍男性で、武漢滞在中の1月3日に発熱し帰国後に感染が判明した。2月13日には神奈川県内の80代の女性が、新型コロナウイルスの重症化に伴う国内初の死亡患者として報告された。

日本で初めてクラスター（小規模な集団感染）が観測されたのは、2020年1月18日だった。都内の屋台船で個人タクシーの組合支部の新年会が開催され、参加した約100人のうち発熱などウイルス感染の症状のあるものが多数報告された。2月には大阪の2つのライブハウスからも、クラスターが発生している。2月3日に横浜港に入港したクルーズ船のダイヤモンド・プリンセス号では、すでに下船していた香港在住80代の男性からウイルスが検出され、船内でのクラスターが確認された。乗客約2600人・乗組員約1000人のうち、最終的な感染者数は712人、死亡者は14人を数えた。

これらクラスターの発生を受け、専門家会議では感染に共通する条件を「換気の悪い密閉空間・多くの人が密集・近距離での会話や発話（密接）」と定め、三密（密閉・密集・密接）の条件の揃う場所や場面を避けるよう国民へ呼びかけた。

### ■初の緊急事態宣言が布告

三密を避けるため、予定されていたイベントの多くが中止に追い込まれた。夏の全国高校野球が戦後初めて中止になったほか、2020年7月に開催を予定していた第32回オリンピック競技大会（2020/東京）および東京2020パラリンピック競技大会（以下、東京オリンピック）も3月24日の安倍晋三首相とIOCバツハ会長との電話会談により「2021年へ延期」と発表された。

全国への感染拡大の懸念から、4月7日、政府は初となる緊急事態宣言を発出した。対象は、東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・福岡の7都府県（後に全国へ拡大）。緊急事態宣言とは、新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく措置として、2020年3月13日に成立した布告である。宣言対象の都道府県知事は、住民に対し生活維持に必要な場合を除いた外出の自粛など、感染防止のための協力を要請できる。

緊急事態宣言と似た措置に、まん延防止等重点措置がある。こちらは新型コロナウイルス対策の改正特別措置法として、2021年2月3日に設けられた布告である。緊急事態宣言が医療ひっ迫状況の重点のレベル分類のレベル3相当が目安になるのに対し、まん延防止等重点措置はレベル2～3相当の場合に適用できる。緊急事態宣言が都道府県単位への布告に対し、まん延防止等重点措置は地域に対し適用できる。まん延防止等重点措置が適用された地域は、都道府県知事の判断で飲食店に対し営業時間の短縮や酒類提供の停止などを要請できる。

緊急事態宣言により2020年4月上旬には1日700人超を記録していた新規感染者数は、5月7日には100人を切るまでに減少した。感染者の減少を受け、初の緊急事態宣言は5月25日に全国で解除された。

### ■批判を受けた「Go Toトラベル」

緊急事態宣言による外出自粛や海外からの観光客の激減により、観光業は大きなダメージを受けた。政府は観光需要の喚起策として、「Go Toトラベル」を7月22日からスタートした。この政策は、旅行代金の割引や観光施設・土産物店などで使えるクーポンを発行するというもの。この政策により県をまたいで人の移動が活発になるため、「感染拡大につながるのでは」と懸念されてのスタートとなった。

11月18日に1日の新規感染者数がこれまでで最多の2201人を数えると、日本医師会の中川俊男会長は「経過や感染者が増えたタイミングなどを考えると、（Go Toトラベルは感染拡大に）間違いなく十分に関与している」と指摘した。



### 3. 2021年の日本の状況と対策

2020年秋から気温低下とともに、感染者数は増加していく。感染力がそれまでより約1.32倍高いとされるイギリスで発生した変異株（アルファ株）の広がりも、感染拡大の一因となった。

その状況を踏まえ、政府は年明け早々1月7日に2回目となる緊急事態宣言を出した。対象は、東京・埼玉・千葉・神奈川の1都3県。2回目の緊急事態宣言は、対象都道府県の拡大と期間の延長を繰り返したのち、3月21日まで続いた。

春先からは、アルファ株だけでなくインドで発生した変異株（デルタ株）が世界で猛威を振るい始める。変異株への警戒感と感染者数の増加傾向を踏まえ、4月25日には3回目の緊急事態宣言が出された。

東京オリンピック開催を間近に控えたこと、また従来の約2倍の感染力を持つデルタ株の広がりが重なり、政府は6月20日で3度目の緊急事態宣言を終了したのち、7月12日から4回目となる緊急事態宣言を出した。そうして変異株による感染者の急増で不安の高まる中、1年間延期された東京オリンピックが7月23日から開幕した。

#### ■ 1年延期された東京オリンピックが開幕

1年間延期された東京オリンピックは、開催数カ月前にもトラブルに見舞われている。医療責任者を務める予定の医師の多数から、感染拡大による業務多忙を理由に辞退が相次いだ。また聖火ランナーを予定していた著名人の何人かは、コロナ禍での開催に疑問を投げかける意味で辞退を申し出た。開催数日前には、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の入るビルや東京オリンピック・パラリンピック選手村周辺に「開催反対」のデモ行進があった。

7月9日には東京・神奈川・埼玉・千葉、翌日の10日には北海道のすべての会場で観客を入れずに競技することが決定する。1年間の延期と無観客での開催は、ともに近代五輪において史上初である。

#### ■ 止まらない感染拡大が一転、急減へ

オリンピック開催中も1日の感染者数は、収まるどころか増加の一途をたどった。医療体制のひっ迫を防ぐため菅義偉首相は、重症患者および重症化リスクの高い人以外は、自宅療養を基本とする考えを示した。こうした政府の方針の結果、8月12日には東京都内の自宅療養者の数が1カ月前の11.3倍に急増。8月13日には、国内の1日の新規感染者数が初めて2万人を突破した。

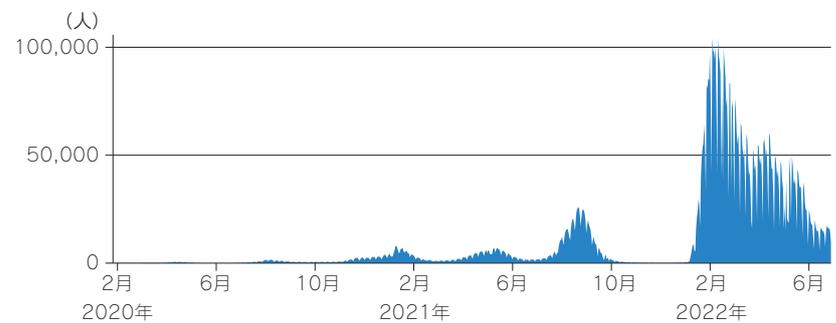
1日の新規感染者数の増加は全国で2万5000人にまで到達するが、8月下旬になると一転し減少していく。9月6日には東京で7月19日以来、1000人を下回る968人を記録し

た。感染者数の急拡大後の急減少について政府分科会の尾身茂会長は、繁華街への出入りの減少・ワクチン接種の拡大・気温や雨など天候の影響などを要因としてあげている。

感染者数の減少を受けて、9月30日には緊急事態宣言と石川を含む8県へのまん延防止等重点措置が解除された。実に半年ぶりに、宣言と重点措置とがどの地域にも出されていない状況となった。

国内では休日に余暇を楽しんだり繁華街で会食を開いたりと平穏な日々が訪れたものの、収束への期待感を挫くように変異株が世界的に流行を始める。南アフリカで発生したオミクロン株がヨーロッパを中心に広がり、日本でも11月30日に初の感染者が報告された。同日中に岸田首相は緊急避難的な予防措置として、全世界対象に外国人の新規入国の禁止を決定した。外国人の入国はその後、段階的に緩められ、2022年6月10日からは外国人観光客の受け入れを2年ぶりに解除するにいたる。

国内の感染者数(1日ごと)



厚生労働省ホームページ 新型コロナウイルス感染症についてオープンデータより作成



## 4. 2022年前半の日本の状況と対策

外国人の入国を禁止したものの、オミクロン株をはじめとした新型コロナウイルスの感染拡大は気温の低下とともに再度増加していく。2022年1月22日には、これまでで最多となる1日の新規感染者数5万4576人を数えた。じつに最初の緊急事態宣言下の約78倍である。

感染拡大を受けて政府は、1月9日から沖縄、山口、広島の3県（その後、首都圏や東海、石川など合わせて15都県を追加）へまん延防止等重点措置を適用した。その後、3回目のワクチン接種が全国で進められたこともあり、3月には感染者数の上昇が頭打ちとなる。3月21日には、およそ2カ月半ぶりにすべてのまん延防止等重点措置が解除された。

2022年5月は、3年ぶりに行動制限のない大型連休となった。都道府県をまたいで移動する人の数は、2021年から3割の増加。新型コロナウイルス感染拡大前と比較すると、76%にまで回復した。

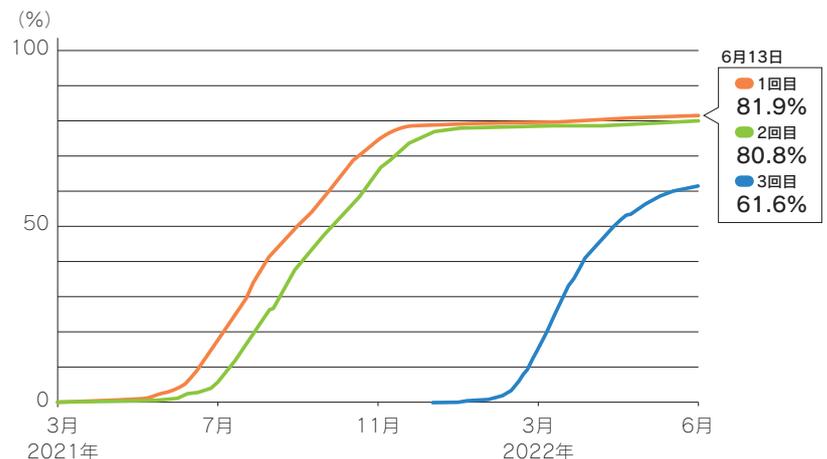
新型コロナウイルスの発生から2年以上が経った。

マスク着用義務などの規制を全廃したイギリスをはじめ、新型コロナウイルスとの共生を目指し、世界的に行動制限が緩和される一方、「ゼロコロナ」政策を堅持する中国は、厳しい外出制限や大規模検査による徹底した封じ込めを継続するなど、各国の対処方針の差は非常に大きい。現時点では、どちらが「最適解」なのかは分からない。

日本では、ニューノーマルと呼ばれる新しい生活習慣や感染予防の普及、ワクチン接種の行きわたりにより、1日の新規感染者数は減少傾向にあったが、7月にはいわゆる「第7波」に見舞われ感染者数が激増、過去最多を連日のように更新した。それでも行動制限は行われず、感染抑制と社会経済活動の両立を目指して、社会全体が少しずつ平常化してきているが、新型コロナウイルスのまん延が収束に向かうのか、予断を許さない状況は依然として続いている。

(2022年8月20日時点)

日本国内ワクチン接種全人口に占める割合



厚生労働省や首相官邸の情報より作成

## 2. 当惑と奮闘 危機管理とその対応記録

金沢星稜大学及び女子短期大学部では、新型コロナウイルス感染症に対して、学生、教職員の安全を考慮しつつも授業をはじめとする教育活動全般を継続できるよう、様々な対策を立案し実行してきた。職員や教員あるいは学生が手探りの中で工夫を凝らし、学びの継続を目指した。

### 1. 危機管理体制の構築

新型コロナウイルス感染症防止のため、2020年2月5日付けで金沢星稜大学内に危機管理委員会対策本部を設置した。

前日までの雨がやみ、晴天に恵まれた2020年3月12日、キャンパス内の稲置講堂で2019年度の学位記授与式が行われた。感染症拡大防止の観点から、式は規模を縮小して行われ、学内放送にて学長式辞や卒業生代表による答辞が一斉放送された。その後、各教室にてゼミナール担当の教員から学位記が授与された。

#### 1.1 危機管理委員会対策本部2つの方針

危機管理委員会対策本部では、2019年度の卒業式後、「大学4年次生、短期大学部2年次生を修業年限内で卒業させる」「在学学生を「コロナ世代」と呼ばれるような世代にさせない」という2つの方針を掲げた。

こうして迎えた2020年度の入学式は、2020年4月2日、本学稲置講堂において行われた。入学式は過去7年間、石川県立音楽堂で行っていたが、この年は、保護者の立ち入りを禁じた上で学内にて実施した。座席の間隔を十分保ち、在学生代表による歓迎の言葉、新入生代表の宣誓も書面にて送られるなど、式典内容を大きく縮小して挙行された。この年から、大久保英哲先生が本学第10代学長に就任し、新入生154名に式辞を述べた。

建学の精神や教育方針などはもとより、新型コロナウイルス感染症に対する想い（決意も戸惑いも）が込められている。長文となるが全文を掲載する。

#### 1.2 2020年度入学式式辞

本学キャンパスのある御所町の桜も、まさに満開。みごとに咲き誇り、本日、金沢星稜大学女子短期大学部に入学された皆さんを祝うかのようです。本日ここに、教職員とともに、皆さんの入学式を執り行うことができますことを、心より喜びたいと思います。これまでの皆さんのご努力に敬意を表しますとともに、皆さんを支えてこられましたご家族や関係者のみなさまにお祝いを申し上げます。

さて、皆様ご承知の通り、世界は大きな危機と変動の時期を迎えております。新型コロナウイルス感染者は、先月には、世界で30万人を

超え、1万人を超える方々が亡くなられています。日本国内の状況も決して予断を許しません。そのような中で、感染予防に最大限の注意を払いながら、皆さんの入学式を執り行い、晴れの門出を言祝ぎたいという我々の思いがこの稲置講堂での入学式になりました。来賓や保護者の方々のご臨席はかありませんが、皆さんの新たな生活や学びのスタートが、ご家族はもちろんのこと、社会から見守られ、支えられ、期待され、また祈られているのだということに想いをいたしていただきたいと思えます。

それにしても、新型コロナウイルスの流行は、世界の経済や人々の交流に大きな影響を及ぼしています。ついこの間まで信じられていた「地球は一つ」、「グローバルな世界」という姿は、あつという間に国境や人々の往来を閉ざし、一時的であるにせよ、鎖国状態に戻ってしまったようにさえ見えます。世界の歴史は、国家や地域が統一や統合に向かう求心力が働く時代と、分離・独立、多様性が尊重される遠心力が強く作用する時代が螺旋状に交互に現れると申しますが、イギリスのEU離脱、アメリカの孤立主義、そしてコロナ対策にみられる自国主義は、遠心力が世界を支配する時代に入ったことを告げるものかもしれません。これは誠に憂慮すべき事態です。なぜなら資源の乏しい日本が、将来にわたって生きていくには、世界との協調が不可欠だからです。また、2050年、今から30年後、つまり皆さんがおおよそ50歳、皆さんの子ども世代が大学の入学式を迎えるころ、日本の人口は9000万人に減少しているそうです。つ



2019年度卒業式 玄関でアルコール消毒

まり、昭和10年代の水準に逆戻りするということです。GDP（国内総生産）も減少し、日本が相対的に貧しくなることは言うまでもありません。そのような、明るくだけではない、むしろ困難な時代を迎えるからこそ、私は皆さんを信頼し、期待を託したいと思います。日本が持つ最大の資源ないし財産は人間です。嘘をつかず、誠実で、勤勉、威張らず、相手をリスペクトできる日本人の姿は、アフガニスタンで長年人道支援活動に携わり、2019年12月4日、銃撃で亡くなられた日本人医師、中村哲さんを思い浮かべることができるでしょう。また2011年、東日本大震災の大災害に遭遇しながらも、助け合い、譲り合いながら、懸命に立ち上がろうとする東北の人々の姿は、世界中に驚きと感動を巻き起こしました。そうした人間の存在こそ、日本の文化と教育の最大の成果だと思います。一人ひとりの人間を大事にし、育てることこそが日本の生きる道だと思います。

では、本学では皆さんにどのような教育を施そうとするのでしょうか。一言でいえば「誠実にして社会に役立つ人間の育成」です。

「誠実」というのは、自分の夢や理想に向かい、それを実現するために、日々、目の前のことがらを一つ一つきちんと、手を抜かずにこなし続ける力を持った粘り強い人のことを言います。皆さんの中には、昨年甲子園で活躍した星稜高校ナイン、奥川恭伸投手（東京ヤクルトスワローズ）や山瀬慎之助捕手（読売ジャイアンツ）たちと同学年の方が多くことと思います。私も夢中になって応援しました。準優勝という輝かしい成果は、監督・コーチといった先生方の指導のたまものではありますが、何よりも「日本一になるんだ」という選手一人ひとりの強い思いがあつて、「誠実に」努力した結果でありましょう。そして「準」という少しばかり涙味の混じった歓びは、彼らをいつそう謙虚に未来の夢にかきたててくれるのではないのでしょうか。皆さん、あなたの夢は何でしょう。「星短」は創立40年余り、これまで7000名を超える卒業生が、夢をかなえ、社会で輝く女性となって活躍しています。あなたもその夢をかなえ、輝く女性になりましょう。そのためには、まず「2年で4年を超えるんだ」と、一人ひとりが強い思いを持つことです。そして「社会に役立つ人間」というのは、あなた方が自分の夢を実現するとともに、それが自分のためだけではなく、誰かが喜んでくれたり、幸せになったり、社会が少しでも良くなるような活動や行為に結び付けなさい、ということです。折に触れて、建学の精神を思い起こしてください。「2年で4年を超える」星短のカレッジライフは、当然、密度の濃い時間を過ごすことになります。日々のことがらを一つ一つ、きちんと手を抜かずにこなし続けるには、楽しいことも、辛いこともあるかもしれません。でも一人ではありません。生涯にわたって付き合える友もできることでしょう。また星短が大学や大学院と同じキャンパスにあるという強みもぜひ生かしてください。図書館や総合情報センター、キャリアセンター、スポーツ施設、講義室、クラブ、サークル活動、大学行事なども共有することができます。先生方も学生も、経済、人間、人文といった様々な専門分野を持ち、さらに、留学生、そして皆さん、とバ

ラエティに富んでいます。若い時に多様な考え方や人間に触れることは一生の宝物になります。

結びに、皆さんが、金沢御所町の自然豊かなキャンパス環境で、多様な文化や考え方もつ仲間と交流し、充実した教育プログラムと先生方の指導のもと、夢をかなえる様々な力を身につけ、社会に役立つ人材となることを祈念して、私の式辞いたします。ご入学誠におめでとうございます。星短によるこそ。  
(令和2年4月2日)



2020年度入学式

## 2. 2020年度前期

当初は感染対策を実施しながら全面的に対面授業を4月9日より実施していく予定であったが、学生及び教職員の不安感の大きさなど諸事情を鑑みて授業開始を5月7日に延期し、休校期間中の行動等に関する注意喚起を行った。同時に4月13日から5月6日までの本学校舎への学生等の立ち入りを制限した。

前期授業は5月7日から開始したが、6月3日まで、学内への立ち入りの原則禁止を継続し、遠隔授業を実施した。パソコンや遠隔対応の通信手段を用意することができず、事前の申請手続きで許可を受けた学生のみ、所定の範囲で本学の情報演習室を利用できるものとした。さらに遠隔授業の実施に向けて、全学生を対象に情報環境の整備支援金(学生1人あたり3万円)の支給を行った。

図書館は、文献複写・現物取り寄せのみの対応とした。諸手続きをおこなうために登校の必要があると認めた場合は、別途案内を行って対応した。

### 2.1 遠隔授業の導入と体制の整備

#### ■授業の基本骨格の決定

2020年度の前期は、原則として学修管理システム(LMS)であるdotCampus(本学の授業支援システム)を利用し、オンライン会議システムZoomなどを補助的に組み合わせた遠隔授業を行った。

対面授業でなくては実施が不可能な科目については、別途、申請の上相談とした。非開講、夏季の集中講義や後期への時間変更等を教員に依頼した場合もあった。学事スケジュールについては前期を14週、第1Qと第2Qを各7週の期間で運用した。遠隔授業は、教育効果を確保し、円滑な授業実施を行うために、予定されていた時間割通りでの実施とした。

前期(1Q、2Q)では学事層上の授業日程が14回分の授業を行うこととしたが、これは授業計画を15回から14回に縮小するという趣旨ではなく、15回分の授業計画を作成したうえで、文科省通知「令和2年度における大学等の授業の開始等について」の趣旨を踏まえ、必要な学修時間を事前事後学習やレポート課題などにより確保するように担当教員に求めた。

#### ■遠隔授業に至るまでの準備

4月13日からの2週目は、専任教員の遠隔授業準備のためにdotCampusの利用方法についての講習をZoomを活用して実施した。また、遠隔授業での出欠確認方法について資料に基づき説明を行い、先生方への理解、協力を求めた。

4月20日からの3週目では非常勤講師に対するdotCampusの利用方法についての講習を実施した。最初に本学の遠隔授業実施に向けたガイドラインを説明した上で、講習会を3回実施した。遠隔授業実施中のトラブル等に対応するため、Garoon(本学が使用するグループウェア)内のスペースにて教員同士の情報共有の

場を設け、情報支援課からの専門的助言などのサポート対応も行った。

情報環境等のアンケート調査を学生に実施した結果、この時点でのパソコン保有率が約6割であり、スマホを含めてもICT機器を用いて遠隔授業を受けられるという学生の割合は9割程度であった。誰一人取り残すことのないように、学内の情報演習室パソコンを遠隔授業受講に利用できる手続きを準備した。

4月27日からの4週目では学生対象の演習を実施した。経済学部、人間科学部、人文学部、大学院、女子短期大学部、科目等履修生を含めて、およそ3000名対象での大規模な演習を実施した。dotCampusの運用負荷の実地テストとして、各学科や学部等に分け、負荷を少しずつ増大してのテストを実施した。ほぼ100%に近い学生がこの演習授業に参加しており、アンケートなどへの回答、模擬レポートのシステムへの提出、電子ファイルでの配付資料のダウンロードや閲覧など、遠隔授業で必要と思われる主な機能の理解を促すことができた。また、dotCampusを介してZoomを利用する科目があるため、Zoom利用の基本操作についてもあわせて説明を行った。

#### ■遠隔授業の実施体制

##### ①シラバスの修正

対面授業から遠隔授業への移行にあたり、4月21日までに各教員がシラバス(授業計画・成績評価等)を修正した。4月24日には、遠隔授業内容に変更したシラバスを一斉に公開をした。

##### ②遠隔授業のガイドライン作成

遠隔授業の成績評価終了後には、実施チェックシートを用いて、各科目の遠隔授業実施状況及び成果を確認した。

##### ③遠隔授業に対する事務局側の体制

遠隔授業開始にあたり、本学の授業支援システム(dotCampus)を中心に実施するよう各教員に徹底して案内を促した。dotCampusでの資料提供は、ワード・エクセル・パワーポイントでの提供とし、1ファイル30MB以下での添付とした。dotCampus内で動画素材を組み合わせる場合は、個人情報保護



学生の姿が消えた講義室

の観点からPrivate YouTube等での動画・音声配信サービスの併用活用を推奨した。

オンライン会議システム(Zoom)を組み合わせて使用できるよう本学としてライセンス契約を行い、希望教員へ周知した。通信容量過多によるサーバーダウンを想定して、ダウン時の対応フローを作成し、緊急に備えた。

6月より、全学生へMicrosoft社のクラウドサービス「Office365AI」の提供が開始され、学生の在学期間中は無料で利用可能となった。

## ■教育の環境整備等に関する各種対応

危機管理委員会対策本部では、授業開始を5月7日から延期し、4月11日から5月7日までの期間で教育の環境整備等にかかる以下のような対応を行った。

### ①教室等の環境整備

自宅等の通信環境が不十分なためやむを得ず学内にて遠隔授業を受講する学生に対し、通信環境調査を実施した上で、大教室にコンセント108個を増設した。また、大会議室や学生ホール等も開放することで通信環境が不十分な学生に対する環境の確保に努めた。

### ②学生にかかる各種調整等

学事スケジュールの変更に伴い、履修登録期間が修正となったことに加え、以下のような対応を行った。技能審査による単位認定申請やシティカレッジ申込の締切日を変更し、提出方法を窓口提出からメール提出へと変更して受け付けた。教科書販売期間を後ろ倒しし、販売方法をウェブ上でのみ受け付け、すべての納品は配送で行うこととした。また、例年、一定金額未満の注文の場合は配送手数料を学生負担としていたが、全額を本学負担とした。

### ③専任教員にかかる各種対応等

本学の授業支援システム「dotCampus」を中心とする遠隔授業の実施方法についてガイドライン等を作成し、全教員に体験できる場をdotCampus内に用意した。また、遠隔授業への授業方法変更にあたり、シラバス(授業計画・成績評価等)について修正した。

### ④非常勤講師にかかる各種対応等

非常勤講師には、感染予防対策を徹底し、情報演習室にてdotCampusの活用方法についての講習会を3回設けた。また、遠隔授業実施に必要な資料準備等についてガイドラインを作成して開始まで案内を繰り返した。

## ■システムの整備

### ①サーバーシステム処理能力向上の実施

コロナ禍以前、dotCampus(本学の授業支援システム)は対面授業の補完であったため、運用負荷は少なく、1台のサーバーでCampusPlan(本学の学務管理システム)とdotCampusの2システムを運用することができた。しかし、5月末に緊急措置としてコロナ禍対応として全講義・全学生を対象に遠隔授業を本格実施することとなったため、高い負荷への対応措置が必要となり、新規サーバーを増設し、サーバーを2系統に分離し、負荷の軽減を図ることとした。

その措置により、年度内は無事に授業を終えたが、今後の継続的な活用増に備えて、2月に再度のサーバー処理能力の向上を実施した。

### ②可搬式遠隔授業配信セット整備

既存のdotCampusによる遠隔授業体制では、非常勤講師の通信環境や実施能力に差が出たり、授業実施に支障をきたしたりする恐れがあるため、非常勤講師を含めた遠隔授業に慣れない教員に対応できるように学内に可搬式の遠隔授業設備を5式整えた(台車に、PC・モニター・スピーカーを搭載し、各教室へ移動可能とした)。

また、Private YouTube等での動画・音声での充実した配信を行うために書画カメラを各教室に配備した。

### ③映像教材配信システムの整備

動画型授業コンテンツの拡充のために、補助金を活用して新たに映像教材配信システムを整備した。具体的な活用は、2021年度以降に展開していくこととした。

## 2.2 学生支援と感染防止対策

### ■全学生への3万円支給

新型コロナウイルス感染症拡大予防のための、遠隔授業実施に向けて、本学に在籍する全学生を対象に、遠隔授業受講のための情報環境の整備支援金(学生1人あたり3万円)を支給することとし99%の学生に振込を完了した。

### ■施設管理・消毒

#### ①入館者管理

学内で感染者が発生した場合には、入館履歴をたどる必要が生じる可能性があることから、学生及び学外者については入館時に記録をつけることとした。6月上旬に警備員の配置がなされるまでの間、建物入口での検温担当は事務職員が交替で務めた。

入学試験シーズンには出願者等、学生以外の来訪者が増え、入館記録をつける際に混雑が生じたことから、入館記録を個票にするなど、密を避ける工夫を行った。

#### ②サーモグラフィー設置と入館制限

A館・C館・G館の入り口にサーモグラフィーを設置したことにより、入館時のスムーズな検温が可能となった。なお、37.5℃以上の熱がある学生については、一度、屋外で休憩・リラクセスさせたのち、再度手動で検温し入館させた。それでも熱がある学生は速やかに帰宅させ自宅待機とした。

#### ③学生の居場所確保

学内のテーブルの利用について、対面を禁止し、スクール形式での利用とした。学内の座席を減らしたことから、中庭に大型テントを設置することで屋外での居場所を増やした。

後期から対面授業と遠隔授業が並行して実施されることに伴い、学内の居場所を増やすことを検討した。前期スクール形式としていた学生ホール等のテーブルや学食のテーブルなど、学内のテーブルすべてに飛沫予防のパーティション(クリアボード)を設置し、対面でのテーブル利用を可能とした。これにより学内のテーブルは複数人での利用が可能となった。

#### ④消毒対策

各館入口及び各階フロアにアルコール消毒液を設置した。新型コロナウイルスの接触及び飛沫感染防止の観点から、トイレ内のハンドドライヤーの利用を不可とした。また、冷水機で直接水を飲むことを避け、各自が準備した水筒等に、冷水機から水を汲み使用するように指示した。

各教室にアルコール消毒液、マイク消毒スプレーを設置し

た。教室によっては空気清浄機を新たに設置した。また、教員にはフェイスシールドを配付するとともに、希望者には個人で使用可能な有線マイクを貸与した。

### ■その他施設関連

喫煙所について前期期間中は学生の利用を禁止していたが、後期より同時に2名までの利用を認めた。

これまで体調不良者は速やかに帰宅するよう指導していたが、保護者等の迎え待ち等でどうしても待機が必要な学生が発生する。ケガ等を処置する部屋と体調不良者の部屋は完全に振り分ける必要があるため、第2保健室を設置した。

学食については、飛沫対策として各テーブルにパーティションを設置し、席数を減らし間隔を空けての利用とした。食前食後のマスクの着用や食事時の会話を制限し、食事終了後は速やかに退出するよう指示した。

新入生にコンビニエンスストアの電子マネーの利用を促し、コンビニエンスストアでの現金払いを少しでもなくし、少しでも密をさけるよう誘導した。

上下2階分までのエレベータの利用は避けて、階段を利用するよう促し、同時に利用する人数上限を4名までとし密を避けるよう指示した。

#### ①教室等の環境整備

一部の遠隔授業（履修者100名以上）以外の対面授業再開に向け、学内に滞留する学生数についてヒートマップ等によるシミュレーションを繰り返し、前期同様、自宅等の通信環境が不十分な学生のための大教室を確保しつつ、対面授業用各教室の収容定員を6割程度として着席不可の席に×印の紙を貼り、感染防止するための学生間の距離を保った配置確保を行った。さらに、校舎入口にサーモグラフィカメラを設置し、各教室前の廊下に手指消毒液を置き、各教室の教壇マイクには消毒スプレーを常備するなど、感染症予防対策を講じた。

#### ②学生にかかる各種調整等

一部の科目において遠隔授業（履修者100名以上）を継続するにあたり、履修修正日（履修タームV期）を前倒しし、早期に履修者数を確定させて授業方法の再調整を図った。それに伴い、学事スケジュールを変更し学生に周知した。また、自宅等での通信環境調査を改めて実施した上で、学内での遠隔授業受講場所を大教室以外にも大会議室や学生ホール奥ミーティングスペースなど、学生の密集を防ぐために広めの空間を最大限提供した。さらに学生からの質問を取りまとめ、本学ホームページに「遠隔授業実施に関するFAQ」を掲載して随時情報を更新した。

#### ③専任教員にかかる各種対応等

遠隔授業実施担当教員には、改めて後期用ガイドラインを作成し案内した上で、シラバス（授業計画・成績評価等）について修正依頼をした。

#### ④非常勤講師にかかる各種対応等

後期から開始される遠隔授業担当の非常勤講師には、dotCampusの活用方法について前期で使用したガイドライン等の資料を配付し、メール等による質疑応答の場を設けた。

## 2.3 進路支援

### ■各種サービスの非対面等への切替等

模擬面接・添削・就活相談、進路ガイダンス、就活相談、学内合同説明会などをWebex、YouTube、メール等を用いて実施した。SPI模擬試験は試験問題を学生の自宅に郵送し、各自で解答後に郵送にて返送してもらうことで実施した。

また、各種の対面行事も予約制とし、Webexの利用か対面かを選択できるようにした。対面式で実施する場合、1回の参加人数を制限した。

### ■書類提供サービス

証明書発行申請を対面式から郵送での申請に変更した。学内で販売していた大学指定履歴書・封筒をメールで申請受付し郵送した。従来有料だった各種証明書・大学指定履歴書・封筒の学生負担金を無料とした。

### ■行事

夏季休暇に予定していた、ほし☆たびウラジオストク、ほし☆たび北海道、MOONSHOT abroad!!（フィリピン・セブ島）の中止を決定した。また短期大学部1年次対象のキャリア合宿を中止した。

## 2.4 学内組織

### ■教員・職員の勤務体制

緊急事態宣言発令期間中は、公共交通機関で通勤する職員は、原則、在宅勤務とした。やむを得ず出勤する場合も、時差出勤を活用することとした。

さらに、各部局の実情に応じて、出勤者を通常の半数程度に抑えることを目標にし、在宅勤務や時差出勤、休日も含めて勤務を割り振るなどの取組を活用し、可能な限り、同時に職場に出勤する職員の人数を制限することとした。なお、オンラインの活用に当たっては、情報セキュリティ対策にも留意するよう指示した。



C館玄関での検温の様子

### ①教員

教員については、遠隔授業に移行した期間においては、勤務場所を大学の研究室のほか、必要に応じて、学外において授業の準備・研究ができる「学外研修」を申請することで、通常と同様の勤務時間により、大学を離れた自宅等の場所での遠隔授業や研究を行う在宅勤務を実施した。

### ②事務職員

事務職員については、事務局各課の実情に応じて、人との接触を低減させるための学内での業務遂行場所の分散や、出勤者を通常の2/3から半数程度に抑え、同時に勤務する事務職員の人数を制限する自宅待機の措置を行った。

## ■学内会議

教授会、協議会、常任部会、意見交換会などほぼすべてオンライン会議を導入した。当初、これらの会議のオンラインシステムとしてはCisco社のWebexを導入したが、その後Zoomを導入した。事務職員も教員と共に使い方を学び、学内外のオンライン会議に即時対応した。

### 3. 2020年度後期

#### 3.1 対面授業と遠隔授業の併用

後期の授業方針について、受講人数が100人以上の授業を遠隔授業とし、その他は全面的に対面授業とすることを案内し実施した。学生の履修科目修正により、受講人数が100人を下回った場合であっても、当初の予定どおり遠隔授業を行った。なお、受講人数が履修科目修正により100人以上になった場合は、科目ごとに個別対応した。受講人数が100人未満の科目であっても、授業の特性上から遠隔授業の実施が必要な場合は、その旨を学部長・教養教育部長に届け出てもらい、承認の上で遠隔授業を実施した。

コロナ禍の状況が続いている中、対面授業型の効果を可能な限り損なうことなく安全な教育を提供するため、高品質な映像を活用した教育コンテンツの整備を行うことを目的として、2020年度後期に補助金を活用して映像教材配信システムを導入した。

#### 3.2 感染者の発生と対応

新型コロナウイルス感染者が出た場合の授業等の対応や、教職員に向けての年末年始における新型コロナウイルス感染症対策、在学生に向けての冬季休業期間の行動を含めた感染拡大防止に向けてのお願いなどは、随時、本学ホームページや学生及び教職員宛のメール配信による情報発信に努めた。

12月30日に、短期大学の学生1名が新型コロナウイルスに感染していることが確認された。保健所の調査により、当該学生は冬季休業期間中の発症と判明したため、学内の二次感染の恐れはなく、施設等の消毒の必要は生じなかった。また、濃厚接触者となった学生6名については、陰性の検査結果であることが確認され、自宅待機及び健康観察を行ってもらった。その際に、学内外に周知案内した内容は次のとおりである。

----- (案内の内容) -----

「金沢星稜大学女子短期大学部における

新型コロナウイルス感染者発生について」

学校法人稲置学園・金沢星稜大学女子短期大学部

12月30日(水曜日)、短期大学の学生1名が、新型コロナウイルスに感染していることを確認したことをお知らせいたします。

保健所の調査では、当該学生は冬季休業期間中に発症したため、学内感染の恐れはなく、施設等の消毒の必要ないとのこと。また、保健所の調査で判明した濃厚接触者である本学学生6名については、検査の結果陰性であることが確認されておりますが、念のため、自宅待機及び健康観察を行っております。

感染が判明した学生及び関係者の人権への配慮と個人情報保護のため、所属・行動歴等は公表いたしません。ご理解をお願いいたします。

今後も、本学園では、対策本部が中心となって、石川県等と協力しながら感染症防止に努め、学園及び周辺地域において安心した日常を過ごせるよう最善の努力をしております。

-----

国内全体において感染が拡大していることから、本学における新型コロナウイルス感染症を防止し、学生及び教職員の健康と安全を守るため、1月16日から2月3日までの間、学生のキャンパスへの立ち入りを禁止し、すべての授業及び期末試験は遠隔やレポート等に切り替えて実施することとした。また、ゼミ・フィールド活動、クラブ・サークル活動等の課外活動は禁止とした。各学部、部署等の学内行事はオンライン対応を除いて禁止し、図書館は文献複写、貸出・返却のみ対応した。公私問わず国内移動は原則禁止した。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた学生・教職員についての2月4日～2月28日までの対応、3月1日から4月8日までの対応については行動制限を緩和して対応した。

#### 3.3 流星祭

流星祭実行委員を中心に感染予防を検討し、本学学生のみでの参加、またライブ中継も同時に行い、来訪者の分散を図るなど、全員が感染に十分注意しながら、土日の2日間の開催にこぎ着けた。マスクの着用や各自の手洗い・手指消毒やマイク利用時のこまめな消毒など最善の対策が無事の実施につながった。

#### 3.4 海外研修

##### ■学生の海外派遣（国際交流センター主催海外研修等）

全世界での感染拡大となったため、世界各国で国境封鎖や都市のロックダウン、航空機の減便などが行われた。世界各国の協定大学もキャンパス封鎖、オンラインによる授業配信を中心に行うなど、これまで例を見ない措置をとっている。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、海外研修及び海外留学での海外派遣実績は0人となった。

本学においても、大学危機管理委員会の判断により、2019年度春季、2020年度夏季・春季の本学主催の海外研修等は中止とし、学生や教職員の海外渡航を禁止した。

語学研修については、いくつかの協定大学がオンライン語学研修プログラムを提供してくれたため、オンラインによる語学研修に切り替えてプログラム提供を行った。これに伴い、海外研修等に係る助成金規程も一部修正を行った。

##### ■外国人留学生の受け入れ

2019年度後期から滞在していた短期留学生について、2020年度前期開始直前に、協定大学スタッフ及び本人の意思確認を行ったうえで希望者を帰国させることとなった。

短期日本語・日本文化プログラムについては、当面外国人留学生の受け入れは難しいことが予想されたため、中止とした。

2020年度後期についても、海外からの外国人留学生の日本への入国が制限（査証発給の停止、外国人の入国一時中断等）されていたため、インドネシアのビヌス大学からの留学生1名のみとなった。また、日本への渡航ができないインドネシアのアトマジャヤ大学の学生で、オンラインでの日本語プログラム受講を希望する学生1名に対して、日本語プログラム初級Ⅰを開講し、日本語の授業をオンラインで提供した。

## ■海外留学広報関連活動の実施

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、学生たちの大学キャンパスへの立ち入りが制限されたため、通常対面で行っている報告会をオンラインに切り替えて実施した。

## ■Zoomを利用した新たな試みの国際交流行事

Zoomを利用した国際交流行事として、以下の事業に新たに取り組んだ。

本学主催の協定校とのオンライン交流を複数回実施した（インドネシア・ピヌス大学、カナダ・ナイアガラカレッジ、ハンガリー・コドラニャーノシュ大学）。世界各国で活躍する人を講師として迎え、世界各国のコロナの現状を知ってもらい、コロナ禍で「いまできること」について学生に考えてもらうきっかけとなることを目的として、IEC（International Exchange Center：国際交流課）主催によるオンラインセミナーを複数回実施した。学生サークルのSeiryō Ambassadors主催でオンラインクリスマストークを実施した。

なお、2017年度採択課題「留学生就職促進プログラム（東洋大学・島根大学）の一環として、2017年度より実施している石川県でのインターンシップ企画を2021年2月にZoomを利用し実施した。東洋大学の留学生9名が参加し、2日間の日程で、本学の本康教授による金沢学の講義、株式会社アウルの灘村氏による留学生の就職に関する講義、本学卒業の留学生による経験とアドバイス、人文学部4年次による就活経験談と交流という内容を実施した。

## 3.5 入学者選抜

2021年度入学者選抜の実施にあたっては、令和2年6月19日「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」決定による「令和3年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」に基づき、受験者及び運営側の教職員全ての関係者の感染予防に配慮した環境を整備した。

また不測の事態に備え、一般入試については1日程分の予備問題（英語、国語、数学、記述英語）を作成した。

## ■入学者選抜における事前対策

入学者選抜における事前対策としては、以下の項目に対して対処を行った。

①試験室の確保、②試験室の座席間の距離の確保、③マスク、速乾性アルコール製剤の準備、④試験監督者等の体調管理等、⑤医師、看護師等の配置、⑥別室の確保、⑦試験室の机、椅子の消毒、⑧面接試験、実技試験の実施、⑨試験場への入場方法の検討、⑩トイレの使用、⑪試験終了時の試験室からの退出方法の検討、⑫保護者控室の設置、⑬試験監督者等に対する感染対策の要請、⑭感染防止対策としての準備物・設置物。

## ■入学者選抜当日の対策

当日の対策としては、以下の項目に対して対処を行った。①マスク着用の義務付け、②試験室ごとの手指消毒の実施、③発熱・咳等の症状のある受験生への対応、④体調不良を訴えた試験監督者等への対応、⑤換気の実施⑥昼食時の対応、⑦試験場入場前の対応、⑧試験終了時の周知。

## ■入学者選抜後の対策

選抜後の対策としては、以下の項目について対処を行った。  
①試験監督者等の健康観察、②試験室の机、いすの消毒。

## ■受験生への要請

受験生には、以下の項目についての協力を求めた。①医療機関での受診、②受験できない者、③受験の取りやめ、④試験当日における対応、⑤試験当日の服装、昼食、⑥ワクチンの接種、⑦「新しい生活様式」等の実践。

## 3.6 学位記授与式

保護者の式場内への立ち入りは禁じたが、YouTubeによるリアルタイム配信映像を別教室等で見るができるようにした。入学式同様、祝辞等は式次第に掲載するなど、内容を短縮した上で実施した。2019年度同様、保護者会経費により卒業証明書を全員に、成績証明書を希望者に無償発行することで、学位記授与式当日の混雑を避けることができた。

また、保護者会で作成したアルコール消毒スプレーを来訪の卒業生・保護者に配布し、都度の消毒を促した。

卒業生168名一人ひとりがそれぞれの夢や目標に向かって走り抜いた2年間。途中、誰しもが予期せぬ苦難に見舞われた中でも、「2年で4年を超える」をモットーに逆境に立ち向かい、努力を積み重ね、学位記授与式を迎えた。

## ■2020年度学位記授与式式辞（抜粋）

短期大学士の課程を終えられ、晴れて「学位記」授与式に臨まれた168人の皆さん、金沢星稜大学女子短期大学部を代表して、心からお祝い申し上げます。併せて、これまで皆様の学業生活を支えてくださった、ご家族をはじめ、多くの方々のご支援に対し、深い敬意と感謝申し上げます。

この一年間、我々人類は新型コロナの世界的な感染に曝されました。3月8日時点で、世界では1億2000万人が感染、250万人が亡くなりました。国内でも累計感染者数44万人、亡くなった方も8000人を超えています。世界中が同時多発の戦争に巻き込まれた状態です。星短でも12月30日、学生1名が、新型コロナウイルスに感染していることが確認されましたが、さいわい軽度で、また冬休み中のこともあって、感染拡大等もありませんでした。3月に入って、石川県内でも医療従事者へのワクチン接種が始まり、感染も減少傾向にあるように見えますが、まだまだ予断を許しません。

こうした状況下で、来賓の方々にはご遠慮いただきましたが、保護者の方々のご列席をいただいて、皆さんの卒業式が挙行できることを、心から喜びたいと思います。

思い返せば、新型コロナ禍によって、われわれの生活様式は激変いたしました。手洗い、うがい、マスク、体温測定、ソーシャルディスタンス、ステイホーム、リモートワーク、緊急事態宣言、イベント中止や、自粛生活などなどです。関西空港の12月国際線旅客便は前年比98%減、小松空港は国際線が運航できない状態が1年以上続いています。これに象徴されるように、産業界は社会的、経済的にも大きな打撃を受け、雇用状況も深刻なままです。

こうした社会情勢を考えた時、私たちが一番心配したのは、

星短の皆さんの学業継続や就職・進路にどんな影響が出るのかということでした。星短も前期は遠隔授業にせざるを得ませんでしたし、課外活動行事や就職活動も様々な制約が生じたことと思います。皆さんは、「夢を力に、2年で4年を超える」、「明日輝く女性（ひと）になる」をスローガンに、これまで努力を積み重ねてこられました。その夢と努力がかなえられない可能性を心配したのです。

しかし、その心配は結果的に杞憂に終わりました。今年度皆さんが達成されたその成果は、実質就職率91%、国家・地方公務員合格者延べ13名、金沢星稜大学をはじめ他大学も含めた大学編入・専門学校進学者計7名でした。これは入学定員150名規模の女子短大としては驚異的な数字です。うれしい限りです。皆さんの努力を讃え、敬意を表します。

最後に、ここに卒業の日を迎えられた皆さんが、より良い社会の担い手として、健康で幸せな、希望に満ちた未来を築かれることを心より祈念して、お祝いの言葉とします。本日は誠にありがとうございます。  
(令和3年3月18日)



前後左右の座席をあけて着席

## 4. 2021年度

2021年度の大学・短大部全体のコロナ対応は、2020年度後期とほぼ同様であった。そこで、変化のあった行事（入学式・流星祭・学位記授与式）を取り上げる。

### 4.1 入学式

2020年度は学内の稲置講堂で行った入学式であったが、2021年度は、2019年以前のように石川県立音楽堂を会場とした。2021年4月3日に行われた入学式では、新入生133名を迎えた。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、式典内容を縮小して行われた。

#### ■2021年度入学式式辞

金沢の桜も満開。見事に咲き誇り、金沢星稷大学女子短期大学部に入学された皆さんを祝うかのようです。保護者の皆様、教職員とともに、皆さんの入学式を執り行うことができますことを、心より喜びたいと思います。これまでの皆さんのご努力に敬意を表しますとともに、皆さんを支えてこられましたご家族や関係者のみなさまにお祝いを申し上げます。

さて、皆様ご承知の通り、新型コロナによって、世界は大きな危機と変動の時期を迎えております。WHOによりますと、世界の新型コロナウイルス累計感染者は、3月18日時点で、1億2000万人を超え、280万人を超える方々が亡くなられています。3月21日で東京など首都圏の緊急事態宣言は解除されましたが、感染状況は決して予断を許しません。

そうした中で感染予防に最大限の注意と対応をこころがけつつ、私たち星短は、皆さんの2年間の大学生活を豊かで実り多いものにすべく、総力を挙げて皆さんとともに歩んでまいります。ただし、主役は皆さん一人ひとり、われわれ教員、職員は叱咤激励するサポート役です。この音楽堂での入学式もその第一歩です。

本日、まず皆さんに覚えていただきたいことがあります。星短生のスローガンです。「夢を力に、2年で4年を超える。明日輝く女性（ひと）になる！」

みなさん夢を持ちましょう。本学は経営実務科の女子短大です。将来、あなたは北陸地域の産業やビジネスの世界で、どんな仕事について働いてみたいと思いますか。まずその夢を描いてみましょう。企業の事務職として働きたいと考えている方。もちろん大丈夫です。そのためには、簿記や税務会計能力はもちろん、その土台には例えば美しい日本語を話す、きちんとした文書を作成するなど、基本的な教養と皆から慕われる人柄・人格が必要です。本学には、簿記会計、税務会計はもちろんのこと、元アナウンサーの先生がおられて、やさしくも厳しく指導します。

また英語で、海外からのお客様に日本の文化を紹介する、見積・請求・納品書なども英語で対応できる、国際的なビジネスをやってみたいと考える方もいると思います。これもOKです。

本学にはネイティブの先生も、国際会議の通訳や、元国際線のフライトアテンダントなど、実務にたけた先生がおられて、国際水準の女性ビジネス・パーソンを育てます。

また、現代のビジネスにはIT技能の習得が不可欠。パソコンやタブレットを活用して、文書作成や予算・決算書作成もできるようにいたしましょう。本学には、日本はもとより海外でも教育に携わってきた先生がおられて指導していただきます。日本はIT教育分野で、アジア諸国に5年ほど後れを取っているのだそうです。台湾や韓国など海外先進地の実態に触れながら、国際的な水準のIT技能を身につけましょう。

一方で忘れてはならないのが、石川県のみならず北陸地域の過疎過密の問題です。なぜ若者が故郷を離れるのか、帰りたくても帰れないのかというと、仕事がないからです。なければ、新しく作りましょう。星短の卒業生で、大学時代サークル活動で知り合って結婚し、能登半島の漁師さんに嫁いだ女性があります。子どもも生まれて幸せに暮らしているそうですが、夫がとってきた魚やカニを、星短で培った経営実務のノウハウを使って加工販売し、地域に新しい風を吹き込んで、評判になっているそうです。これも一つの夢の実現です。

また自分でパン屋さんをやってみたい、地元を豊かにするために、特産品を使った新しい商品を開発して、販売してみたい。そういう人もいらっしゃると思います。星短には自らも地元野菜の小坂レンコンを使ったチョコレート・クッキーを試作するなど、起業（ベンチャー）を後押しする経営学の先生もおられます。

公務員志望の方には、充実したキャリア・ディベロップメント・プログラム（CDP）がありますし、皆さんの進路全体は進路支援課が強力にバックアップします。

このようにして、昨年度（3月31日段階）の実質就職率なんと93.5%、北陸の短大ではトップレベルだと思います。4年制大学でも難関とされる難関企業にも星短生はぐいぐい食い込んでいます。

同じように、昨年度、国家公務員・地方公務員にも延べ13名が合格いたしました。また2年間一生懸命勉強しているう



通常開催に戻った入学式

ち、もう少し勉強してみたい、家族も応援しているということで、金沢星稜大学や他大学、専門学校へも計7名が進学しています。

このように見てみますと、社会の星短教育への期待には大きなものがあることがわかります。星短は4年制大学に比べて、レベルが低いわけではなく、2年間で大学教育を完結させる高等教育機関なので、選択と集中、あれもこれもではなく、しっかりとターゲットを絞って集中的に勉強するところに特色があるのです。私たち教職員は自信と誇りをもって、誠実にその使命を果たしたいと思います。

ですから、「夢を力に、2年で4年を超える」というのは「2倍勉強しましょう」ということでもあるのです。そのため、やや忙しい2年間になりますが、その分、充実度も2倍です。中には「のんびりした4年より、充実した2年のほうが良い」と、あえて星短を選んでくださる方もいます。短大2年を終えて、有利な就職を選ぶもよし、さらにプラス2年間の意識で大学に進むというも新しい学び方も、賢い選択ではないかと思えます。

また星短は女子大というところに特色があります。私たちは、皆さんに人間としてどう生きるかを語りますが、型にはまった女性の生き方を教えるわけではありません。女性としてどう生きるかは、皆さんのお母さんやおばあさん、先生方など大人の女性をよく見て、最終的に皆さん自身が決めることなのです。

日本の社会では、男女平等とはいいながら、往々にしてリーダーシップは男性に任せてしまいがちです。しかし、星短では女子大ゆえに皆さん自身がとることになります。それによって得られる経験や自信、またフォロアーシップも着実に身につけることができます。ジェンダーにとらわれない、女性の特性や品格ある振舞、プライダル講座、ビューティー講座なども、その道のプロを招いて徹底して磨き上げます。男女共同参画社会の実現には、このような輝く女性の果たす役割がいつそう重要になります。

一方、皆さんの中には、男子共学に親しんできて、女子だけの環境に慣れることができるか不安と感じる人がいるかもしれません。しかし全然心配要りません。同じキャンパスには2千人ほどの男子がおりますので、決して寂しいことはないでしょう。昨年天皇杯全国大会に出場した金沢星稜大学サッカー部のマネージャーは星短の女子学生でした。大勢の男子部員たちを見事に取り仕切っておりました。

皆さんまず夢を持ちましょう。そこから始めましょう。「2年で4年を超える」星短のカレッジライフは当然密度が濃くなります。日々の事柄を一つひとつ、きちんと手を抜かずこなし続けるには、楽しいことも、辛いこともあるかもしれません。でも一人ではありません。生涯にわたって付き合える友もできることでしょ

う。また、星短が金沢星稜大学や大学院と同じキャンパスにあるという強みもぜひ生かしてください。図書館や情報関連センター、進路支援サポート、スポーツ施設、講義室、クラブ・サークル活動、大学行事なども共有することができます。先生方も学生も、経済、人間、人文

といった様々な専門分野を持ち、さらに、留学生、そして皆さん、とバラエティーに富んでいます。若い時に多様な考え方や人間に触れることは一生の宝物になります。

結びに、皆さんが、金沢御所町の自然豊かなキャンパス環境で、多様な文化や考え方もつ仲間と交流し、充実した教育プログラムと先生方の指導のもと、夢をかなえる様々な力を身につけ、2年後に輝く女性になることを祈念して、お祝いの言葉にかえます。(令和3年4月3日)

## 4.2 流星祭

「第20回流星祭」という節目の年ということで、Mr. シャチホコさん・なみななさんのモノマネライブが学生限定対象で開催された。またHighway StarやCRASHによるダンスライブを始め、ファッションショーなどオンラインでも視聴できる工夫をした。屋台・模擬店では、短大からは校友会、星短オープンキャンパス、手塚ゼミの出店があった。徹底した消毒作業などの感染対策をとり、規模を縮小しながらも、無事に開催することができた。

## 4.3 学位記授与式

最も新型コロナウイルスに翻弄された2020年度に入学した学生は、2022年3月17日に学位記授与式を迎えた。新型コロナウイルスとともに歩んだ2年間は、さまざまな制限があったことは事実である。しかし、多くのことが思い通りにはいかない状況の中でも、卒業生145名の一人ひとりが目標に向かって歩み続けてきた。晴れやかな表情の卒業生に対して、大久保学長からは以下の祝辞が述べられた。

### ■2021年度学位記授与式式辞

本日、短期大学士の課程を終えられ、晴れて「学位記」授与式に臨まれた145名の皆さん、金沢星稜大学女子短期大学部を代表して、心からお祝い申し上げます。併せて、これまで皆様の学業生活を支えてくださった、ご家族をはじめ、多くの方々のご支援に対し、深い敬意と心からの感謝申し上げます。



活気づいた模擬店

皆さんの入学時点での仲間は155人でした。病気や家庭の都合、進路変更など、さまざまな事情でこの日を迎えられなかった方もおられます。人間には、いろいろなできごとがありますから、生きていくことはやはり大変なことなのです。皆さんは幸いなことにそれを切り抜けてこられたのです。

2月24日以来、私の心は晴れません。ロシアがウクライナに軍事侵攻して、戦争を始めたからです。つい先日まで平和に暮らしていた300万人もの人々が、妻や子どもを隣国へ避難させ、夫が戦いのために残るといふ、まことに悲惨な場面を、21世紀の今日、この年齢になって見ることになるうなどは思ってもいませんでした。

幸い、日本は平和で、同じようなことがすぐ起きるとは考えにくいのですが、しかし平和というのは自然から与えられる当たり前の恩恵ではないのだと改めて思わされたことでした。

本日、皆さんが卒業式を迎えられるのは、社会が平和であり、皆さんご自身の努力はもちろんですが、それにはご家族をはじめ、多くの方々のご支援があって可能だったことに改めて気づかされます。どうかそのことの意味を謙虚に受け止めて、今日、家に帰られたら、ご両親やご家族にきちんと卒業の報告をし、お礼と感謝の言葉を述べてください。

さて、この2年間、皆さんは入学式から、本日の卒業式に至るまで、新型コロナウイルスの感染拡大に悩まされ続けた、まことに気の毒な学年でした。入学直後から遠隔授業になり、後期は対面授業に戻しましたが、マスク、体温測定、ソーシャルディスタンス、ステイホーム、イベント中止、海外研修中止、自粛生活などなど、アルバイトも含めて、さぞや大変困難な2年間だったことでしょう。

私たち教職員が心配したのは、星短の皆さんの学業継続や就職・進路にどんな影響が出るのかということでした。皆さんは、「夢を力に、2年で4年を超える」、「明日輝く女性になる」をスローガンに、これまで努力を積み重ねてこられました。その夢と努力がかなえられない事態になることを恐れたのです。

しかし、その心配は結果的に杞憂に終わりました。今年度皆さんが達成されたその成果は、名目就職率95.5%、国家・地方公務員合格者延べ24名、大学編入者8名でした。これは入学定員150名規模の女子短大としては驚異的な数字です。うれしい限りです。

星短生の活躍は、金沢市のあすなろ文学賞入賞、JA金沢さんとのコラボレーションによる打木カボチャや小坂レンコンの商品開発と販売の様子などが、テレビや新聞などでもとり上げられ、地域の人々に夢とエネルギーを与えてくれました。皆さんの努力を讃え、敬意を表します。

星短の教育の特徴を私はこう考えています。星短は4年制大学と比べて、2年間しかないのだから、必要な分を精選し、ギュッと凝縮して教える「選択と集中」の高等教育なのです。少し忙しかったかもしれませんが、その分充実しているため、あつという間だったのではないのでしょうか。そして私は短大の良さは、2年間であるために、勉強をしすぎていない点にあると考えています。

私の知っている剣道の老先生がおられます。かつて日本チャンピオンにもなったこの先生、

今でも稽古の時間はきっちり2時間です。ある学生がこれでは足りないと思い、自主練で稽古前に1時間ほど汗をかき、道場に出かけると、猛烈に叱られたそうです。「出がらしのお茶みたいな状態で稽古に来るんじゃない！それじゃ新しいことを覚えられない！」

皆さんも同じです。これから世の中に出て、新しいことをどんどん吸収していくのです。必要なことは身に付いており、それでいて、草臥れていない。若くて元気なのです。それが星短生の魅力なのだと思ってください。

皆さんは、本日星短という港を離れ、それぞれの道に向かって旅立ちます。新しい船出です。卒業は英語でgraduation（グラデュエーション）とかcommencement（コメンズメント）といいます。graduationは、grade（グレード、ランク）が一段上がることを、commencementは「始まり」を意味します。卒業は終わりなのではなく、始まり、新しい船出なのです。

皆さんが船出すると、長い航海の間には、嵐や台風にぶつかるかもしれません。これまで長い間、私たち日本人は、例えば北に進路を定めたら、目標に向かって一直線。ともかくがむしゃらに突き進むことがよいと考え、またそのように教わってきたように思います。しかし、フランスのドゥルーズという哲学者は、世界にはもっと多様で柔軟な生き方が必要なのだと説きました。目の前に嵐や台風が迫っているなら、その時に一直線などと言わず、さっさと避けなさい。逃げなさい。命があれば、どれだけ回り道をして時間がかかろうと、いつかは目的地に到達することができるのだと言います。

若い頃には、その考え方は逃げ腰で、あまり潔くないように思えたのですが、今は社会の多様性を維持していくには、そちらのほうが、はるかに合理的で、勇気が要ることなのかもしれないと考えています。大事なことは、「生きて幸せになること」です。人間は幸せになるために生きるのです。ぜひ、このことを覚えていてください。

そして、皆さんが目指す目的地は、「誠実にして社会に役立つ人間」です。「誠実」というのは、これまで皆さんがやってこられた、自分の夢や理想に向かい、それを実現するために、日々、目の前のことがらを一つ一つきちんと、手を抜かずにこなし続ける力を持った粘り強い人のことを言います。そして「社会に役立つ人間」というのは、あなた方が自分の夢を実現すると



笑顔で語り合う2021年度卒業生

もに、それが自分のためだけではなく、誰かが喜んでくれたり、幸せになったり、社会が少しでも良くなるような活動や行為に結び付けなさい、ということです。折に触れて、この建学の精神を思い起こしてください。

そして「卒業」が終わりを意味しないのと同じく、うれしいにつけ、悲しいにつけ、折に触れて星短を訪れてください。星短はあなたの母校として、いつでも帰ってくることのできる特別な場所ですし、星短もまた、皆さんと一緒によりよい社会に向けた駆動力であり続けたいと願っています。

最後に、ここに卒業の日を迎えられた皆さんが、より良い社会の担い手として、健康で幸せな、希望に満ちた未来を築かれることを心より祈念して、お祝いの言葉とします。本日は誠に  
おめでとうございます。 (令和4年3月17日)

\*\*\*\*\*

本章は、「金沢星稜大学における令和2（2020）年度新型コロナウイルス感染症への対応報告書」に基づき作成しました。また、金沢星稜大学女子短期大学部ホームページを参考にしました。関係各位に心より感謝申し上げます。



# 3. 学生たちの思い

## 2020・21年度在学生339人の記憶

“寝て起きて画面を眺めるだけ”“友人の笑顔がボタンひとつで消える悲しさ”“何もできない不安と焦り”を感じながらも、“学ぶことの意味”や“自分で考えて、動く”ことの大切さ、“当たり前の毎日がかけがえのないもの”だと気づいた学生たち。誰も経験したことのない時代を生きた一人ひとりの心情や葛藤、気づきや決意をここにアーカイブする。

**私**はコロナ禍の一年間で努力する力と時間を有効活用する力を身につけ、自らの成長に繋げることができました。前期は遠隔授業になったため、友人ができないまま短大生活を始めることになりました。遠隔授業開始当初は、パソコンに触れることにもあまり慣れていないことや、周囲の学習状況が分からないことから、不安と焦りの毎日でした。私は学力が周りに劣っていると感じていたため、さらに周囲と差ができてしまっただけではいけないという気持ちから予習復習を毎日行いました。その結果、周囲に遅れることなく前期の授業を終えることができました。また、普段なら2時間ほどかかる通学時間が遠隔授業の影響でなくなりました。私はコロナウイルスの影響でできた時間を有効活用しようと思い、勉強とアルバイトの両立を目標にしました。平日は授業を受け、5時間アルバイトを行い、帰宅後予習復習をするということを毎日続けました。私は今まで勉強が苦手でやろうという気持ちになっても諦めてしまう癖がありました。しかし、勉強をする時間が限られていることで「勉強をやらなければ」という気持ちになり、毎日欠かさず勉強に励むことができました。その結果、よい成績を取ることができ、またいくつかの資格を取得することができました。私はこの前期の経験からこつこつと努力する力と時間を有効活用する力を身につけることができ、後期にも活かすことができました。後期は対面授業だったため友人ができました。コミュニケーションをとれる喜び、

授業や就職活動の情報交換ができる喜びを味わいました。友人が良い刺激にもなり、資格勉強や就職活動に対してのモチベーションが上がりました。また前期同様、勉強とアルバイトの両立も行いました。目標達成することができたと思います。新型コロナウイルスの影響で様々なことが自粛され入学前に思い描いていたような生活を行うことができませんでした。しかし私にとってコロナ禍の一年間は自分の成長につながる有意義な一年間になりました。

**私**はこの一年間、毎日不安を抱えながら生活していました。入学する前はどんな学生生活を送れるのだろうと胸を膨らませていました。しかし入学してからは遠隔授業となって同級生とあまり関われなかったり、外出自粛で友達と遊ぶこともできず、何も楽しむことができなくなっていました。先日銀行に行くとき、偶然星短の卒業生である方に受付をしていただきました。その方は星短の二年間が本当に楽しかったと仰っていて、今の私とは全く違う学生生活を送ったのだろうと羨ましく思いました。しかし、今からでも学生生活を楽しむのは遅くはないのではないかとも思いました。そこで、新しい環境で人と交流するためにアルバイトを始めました。知らない人と関わる経験ができるのだと久しぶりに心が躍りました。今の時期からは就職活動によってこれまで以上に学生生活を楽しむことができないくもしれません。しかし私は、この一年間を何とか耐えてきまし

た。これから卒業までの一年間は、就職活動も頑張りながら学生生活を楽しんでみようと思います。

**コ**ロナ禍の一年を振り返ってみて、今までにはない新しい生活スタイルが見つかったと思いました。就職活動や大学生活も1年生の時では想像もしていなかったものとなりました。学業では、家にパソコンすらなく購入をするところからでした。初めてのオンライン授業も最初はわからないので探り探りで行っていました。徐々に慣れてはきましたが、友人に会えないのはとても寂しかったです。アルバイトはほとんど変わらずあったのですが、イートインではなく、テイクアウトが主になりお客さんが来るという有り難さが特に1年間でわかりました。家族との時間は、親が医療従事者ということもあり、いつもと変わりはしませんでした。就職活動でも、オンラインでの面接があったり、就職活動も中断することが多くて苦戦しました。例年だと夏には終わっている人がほとんどだけど、冬までしている人がいたり、全てが例年より遅かったと思いました。1年間、オンラインでの物事が多かったり、周りとのコミュニケーションをとる機会が減って、残念でしたが、新しい経験として今後活かせる機会があればと思いました。

**コ**ロナという、残酷なウイルスにより社会が悲劇に襲われ、命を落とされた方、またその家族、そしてコロナ

にかかってしまい体力的にも精神的にもしんどい方など、人の数だけ悩みも多く存在すると思います。コロナにかからないように、マスクをつけて出歩く事は当たり前で、不要不急を要する呼びかけがかかっていました。そんな中で、いかに今という時間をどのように大切にするかというのを考えました。正直、最初は友達と気楽に遊んだり、旅行に行ったりしたかったので、現実と理想が違い過ぎて、しんどい時期がありました。でも、このままでは駄目だと思い、何かしらやろうと思いました。そこで始めたのは、今までやっていなかった絵を描くことやおすすめしてもらっていたけど観ていなかったアニメや漫画を観ることです。まず、絵を何も考えず描く事によって、ストレス発散になりました。そして、アニメや漫画を観ると、内容のほとんどが逆境の中でも自分の夢に向かって努力を惜しまずに頑張っていました。それを観て、私も頑張らないといけないと思いました。恥ずかしながら、私にはまだ夢はないのですが、何かに夢中になって、努力してそれが少しずつ出来るようになり、そういう事を少しでも増やしていきたい、自分のスキルアップを目指していこうと思いました。そして、自分の夢というものを見つけていこうと思いました。私は、コロナというものを言い訳に使わず、乗り越え、素晴らしい自分に出会えるように、今やるべき事をやり、自分を変えていこうと思っています。

**新**型コロナウイルスが生活の中にあってるのが当たり前となってしまった。春は、楽しみにしていた短大生活のスタートだったが、前期からオンライン授業となり非常に残念だった。仲の良い友人がつかれない、授業ではわからないことをすぐに質問・相談できないという環境で、初めはなかなか慣れることができず悩むことも多かった。しかし、zoomで初めて話す人とコミュニケーションをとることで、オンライン授業でも楽しさを感じることができたり、自宅での学習ということで、普段より集中して授業を

聞いて理解しようと努力できた。資格を取るために、高校が同じ友人と連絡を取り合い励まし合って勉強をし、合格したときは達成感を感じることができ、嬉しかった。オンライン授業になってしまったことは残念だったが、集中力や計画性を更に身につけることができたのではないかと考えている。後期からは対面授業が始まったが、二年生に向けての就職ガイダンスや説明会、講座などを通して就職活動が目前に控えていると実感した。先輩や先生方、企業の方、テレビでのニュースの話聞くことで、コロナ禍での就職活動の大変さを知り、正直いまは不安でいっぱいである。しかし、今は友人と相談しあったり刺激を与えあっている。今後、本格的にスタートする就職活動の際も、自ら行動すること、挑戦することの大切さや周りとの支え合って、自分が望むところに就職できるよう自分に厳しく頑張りたいと考えている。友人や家族と遊びに出かけたり旅行に行ったりできない時代となってしまった。気分転換やストレス発散のために楽しいことをたくさんしたいという気持ちがあるが、今は我慢をしてとにかくはやくコロナが収束してほしい。社会に出ていく中で、自分の行動に責任を持つことや、状況を理解して判断することが大切だと思うので、今その能力を養い立派な大人になれるようにしたい。二年生では、支えてくれている人や周りの環境に感謝して1日1日を大切にして、コロナ禍での就職活動を頑張っていく。

**2**020年3月頃から、新型コロナウイルス感染者が日本でも確認されるようになりました。初めは、未知だった新型コロナウイルスは、東京都から石川県へと渡ってきて、また、拡大が大きくなるにつれて、危機感はあるなが



らもとても現実味のあるものになっていきました。そのような状況の中、2020年3月、私は、金沢星稜大学女子短期大学部へ入学しました。入学してすぐに、学校生活はオンライン授業で受けるのみでした。また、私は飲食店のアルバイトをしていた為、アルバイトさえもお客さんが少ないのであまりシフトを組んでもらえませんでした。自粛期間は、時間があるにもかかわらず、何もできないような日々が続きました。そんな生活が続き、学校は後期に入りました。後期からは、学校で対面授業が行えるようになりました。友達もでき、大学生活がやっとできた感じがしました。しかし、後期の終盤に差し掛かった頃、大学側で新型コロナウイルスの感染者が出てしまいました。そして、学校がまた立ち入り禁止となり、残りの授業やテストさえも、オンラインで受けるという事になりました。新型コロナウイルスと生活していくことは、私たちの中で当たり前になってしまいました。そのせいで、まともな短大生活を知ることはなく、アルバイト先にも大きく影響してきています。いつまで続くかわからない、終わりがあるのかもわからないこの生活に、これから向き合っていかなければならないのです。

**就**職活動が思っているよりうまく行かなかった。会社説明会、面接と対面のものもあったものの、オンラインの方が多く、環境を作るのが大変だった。また対面であってもマスクの着用や時間を区切つての個人面接だったため、上手く伝えられているか不安だった。オ

オンライン面接では、どうしても画面の向こうであるため何を言っているのかわからない時もあつたし面接官の顔があまり見えないこともあつたので正直不安でしなかつた。だけどこの時期に対面で行ってくれた企業には感謝しかないし、対面がどれだけ自分の気持ちを伝えやすいのか実感した。オンライン説明会になるとどうしても画面越しなため、家で受けているとどうしてもどこか怠けてしまうところがあるので集中するのが大変だった。それに比べて対面は1人1回は必ず質問しなくてはいけない空気感があるところが多く、気を引き締めながら聞けたのでやはり対面の方がいいなと感じた。やはり自分の気持ちを伝えるのは対面の方がいいなと思った。

**2** 020年はコロナウイルスの影響で、前期の授業が全て遠隔授業になりました。私はパソコンが苦手だったので、最初はとても戸惑いました。初めての短大の授業なのにオンラインになってしまい不安でした。ですが、先生方が丁寧に学びスタートアップの使い方や授業の受け方を教えてくれました。社会人になったときにはパソコンは当たり前に使えないといけません。私は前期の授業を通してパソコンをスムーズに使えるようになりました。コロナ禍では家で過ごす時間がとても多くなり、自分の時間がとても増えました。アルバイトも学校もなく、自分のやりたいことをすることができました。とても有意義な時間を過ごすことができました。コロナウイルスはとても危険でたくさんの人を傷つけたものです。私たち一人一人は感染しないこと、もし感染してしまった場合は広めないことに注意して生活する必要があると思います。

**2** 020年はコロナウイルスが流行し、今まで日常的にできたことが突然制限され、これまでの生活が一変しました。この一年で特に印象深い出来事は就職活動です。右も左も分からない中、コロナ禍で始まった就職活動は非常

に困難でした。企業説明会はコロナウイルス対策を行った上で開催され、面接はオンラインで実施する企業が多かったです。オンラインでの面接は、直接会えていない分、自身の思いや表情が伝わりにくいため通常よりハキハキ話し、笑顔を絶やさないと意識して臨みました。オンラインの面接は初めての上、緊張し上手くできなかったことがあり、その後何度も練習を繰り返し、面接対策を行いました。これまでと一切異なる環境での就職活動は分からない点だらけで大変でしたが、他の学生にも負けないほどの多くの知識や経験を就職ガイダンスやメンタイコ合宿などを通して得ることができました。就職活動の基礎から履歴書の書き方、面接対策など幅広く学び、身につけられた点は星短ならではの強さを感じています。経験のない就職活動となり、難しく上手いかわないことが何度もありましたが、友人や職員方と励まし合い乗り越えることができ、非常に印象に残る就職活動となりました。

**2** 021年を振り返ってみて一番濃い思い出は、初めてのアルバイトです。もともとはコミュニケーション能力を高めることと何もする事がない時間でお小遣い稼ぎをしようという思いで始めましたが、続けるうちに出来ることが増えていったりお客様に感謝されたりすることがとても嬉しくて、アルバイトに行くことがとても楽しいと思う事ができました。レジの仕事や品物の補充、パンの中身の具材を作ったりなど様々なことをすることはとても大変で、失敗することもあります。新しいことに挑戦してみても良かったと思いました。接客のアルバイトをしたおかげで、あまり得意ではなかった初対面の方とのコミュニケーションや目上の方への接し方を学ぶことも出来ました。まだ約3か月しかアルバイトをしていませんが、もっと色々なことが出来るようになったらと思っています。残りの短大生活でも体験したことのない事がたくさんあると思います。いろいろな体験をして自分自身を成長

させたいと思いました。

**私**は、今回コロナ禍というなかで就職活動を行いました。今まで頑張ってきた練習してきた面接での笑顔がマスクをしての面接という形となり、マスク越しでも笑顔を伝えることができるのかとても不安でした。ただでさえ緊張で顔がこぼってしまうのに、マスクでさらに見えなくなり、目だけで表情を伝えなくてはなくなりました。しかし、そこでうまく伝えることができれば周りとの差をつけることができると思い、マスク越しでも笑顔が伝わるように精一杯頑張りました。無事、内定も頂き就職活動を終えることができ良かったです。また、コロナ禍となり当たり前前のことが当たり前前にできなくなり、今までの当たり前がどれほど大切でありがたかつたを知ることができました。友人と会うことも旅行に行くこともできない時期があり、社会人になる前の最後にたくさん遊ぼうと考えていたことがコロナでなくなってしまいました。しかし、急にコロナが終わるということはないと思うので、これからもウィズコロナとして向き合っていきたいと思います。

**私**はこの一年を振り返って、本当に大変な一年だったと考える。まず、入学してすぐに学校閉鎖や緊急事態宣言など今まで経験したことがない出来事が続いた。二年間しかない短大時代に、まさか半年もコロナウイルスに持っていかれてしまうとは考えてもいなかった。授業もオンラインという新しいやり方で、出会ったこともない同級生と画面を通してのやり取りに違和感を感じた。もし、コロナウイルスがなかったら大学へ通い、友達を作るために対人コミュニケーションをとったり、部活やサークル、行事などもたくさん参加ができる考えると何故、このような時代に入学してしまったのかと本当に考える。高校の卒業式に大きな影響がなくて良かったと考えるが、貴重な短大生活が半分無くなってしまったと大変残念に思える。し

かし、そんな中だからこそ自主的に学ぶ大切さを知った。今までは、教室に行つて当たり前のように授業を受けていたが、自宅ということで、自分から学ばなければいけないことを知った。これからも自主的に動けるようになりたいと思つた。

**短**大入学と同時にコロナウイルスが流行し、入学当初はしっかり学校に行けるのかと不安がたくさんありました。授業が遠隔授業となり学校へ行く機会がなくなり、学校の様子やどんな人がいるか分からない状態で正直学校に入学したのかと実感できない日々を過ごしていました。遠隔授業が初めてのことで初めはどうすればいいのか分からず苦戦しました。ですが回数をこなしていくうちに慣れていくことができました。また、友達作りができるか不安でしたが遠隔でのグループワークで仲良くなるのが出来たため、学校に行けた際には仲良く話すことができたので良かったです。コロナウイルスを通して不便なこともたくさんありましたが、たくさんを学ぶことができました。後期からは学校に通うことができ、やっと短大生になれたと実感することができました。新しい友達もたくさん増えたことがとても嬉しかったです。

**2**020年新型コロナウイルスによってリモートなどの仕事形態が講義形態の変化が大きかったと思います。それにより私生活にも色々な変化がありました。コロナ禍で無理に会社へ向くことなく業務や講義を行うことが可能であるということを知ることができました。それによりこれからの会社経営やインターネットを使用した講義等に変化が現れると思います。また、自分が関係するところだと2020年の挑戦の一つとして一人旅や旅行に行きたいと考えていたのでとても残念です。都市圏へ行くこともできなくなり行動範囲が狭くなりました。その中でどう人生経験を積んでいくかが大切になってくると思いまし

た。これを機に日本全体・世界全体がコロナに対応してきたため変わりつつあるものに自分も対応していかなければなりません。しかし人には向き不向きあり、苦手なことにどう接していくのか、使えるようにするのが大事になっていきます。なによりシンプルなものを提供していくべきだと考えました。

**コ**ロナ禍の一年を振り返って、学業の面ではオンライン授業になったことで自宅で授業を受けられるというメリットはあるものの、分からない時にすぐ聞くということや友達との相談ができないため、1人で受講しているという感じがしました。また、zoomで行うため人数制限があり、履修したい授業の抽選に外れてしまったため、前期の受講数が少なくなって後期がとても大変だったという印象でした。オンラインのためレポート提出や課題が出るが多かったのですが、私はアラームをかけて授業に遅れないようにすること、期限を守ることを常に意識して取り組みました。その結果、単位が取れて目指していた評価をいただけたのでよかったです。就職活動の面で大変だったのは、マスクでの面接です。緊急事態宣言が出ていたために学校での面接練習は強制ではなかったのですが、本番の雰囲気など掴めるのか不安だったので進んで練習に行くようにしました。練習を積んでいたのですが、本番の面接ではマスクで顔が見えないため、見える部分だけで表情を伝えることと声のトーンを意識しました。前例のないコロナ禍での就職活動だったのですが、売上減少という世の中で採用してもらえのかという焦りはありましたが無事終わられたのでホッとしました。これから先の未来は分かりませんが、在校生にもどんな状況下でも負けずに頑張ってもらいたいと思います。

**コ**ロナ禍は高校生でも経験していたが、短大生活で高校時代と大きく違ったのは、授業がオンラインで行われたことだ。オンデマンドやzoom機能を

利用して授業が進められたが、初めは少し戸惑いを感じる部分もあった。zoomを利用するのが初めてで操作方法やオンライン上での意見交流など難しさを感じたが、これからの社会で必要になっていくスキルだと思われるので良い経験であったのではないと思う。また、アルバイトを通して新型コロナウイルスの怖さを感じた。感染状況が悪化し、感染者が増加すると蔓延防止措置が取られ営業時間の短縮や酒類提供の制限が取られた。アルバイト先のお客が減少することもそうだが、収入が大きく減少することも痛く感じる部分であった。だが、この問題に関しては特定の誰が悪いという矛先がないため、多くの人が同じ気持ちを持っているのだろうという事を思った。

**新**型コロナウイルスがはびこっている現状が続いて早1年、去年の2月から私たちの生活は劇的に変化しました。授業が対面授業ではなく、オンラインを使った授業になったり、生活の時間が逆転したりと様々な変化がありました。このまま授業を受けても自分の身に学びとしてつながるのか不安ばかりでした。結果的に不安のまま、この1年を過ごしました。一時的に、対面授業になり、「こんなに人が多い授業なのに対面にしても大丈夫なのかな…」と友達ともしやべっていました。しかし、不安は学校の授業だけではなくアルバイトにも影響を及ぼしていました。シフトの数が明らかに減っていたり、結婚式場なのにビール注ぎはなかったり、各テーブルの座るところにすべてフェイスシールドがあったり…。学園創立90周年という記念すべき年はもう少し晴れやかになるといいなと思っています。

**今**年1年の短大生活を振り返り、考えてみれば、コロナで生活が激変し自分の中で成長できたと思います。まず、高校時代のとき部活動をしていて出来なかったアルバイトを短大生になり初めて行ったことです。今、焼肉屋のアルバイトをしています。感染拡大を防ぎア

クリル板など、アルコール除菌を徹底している飲食店は本当にすごいと思いました。そして次に、コロナ禍で星稜女子短大に入学し、素敵な友達に出会えたことです。初対面で表情が見えずらくて友達は出来るのかという不安がともありました。ですが今は、とても楽しい学生ライフを送れていると実感できます。2年生に上がることで今後益々、就職活動へ力を入れなければなりません。企業が倒産している中、本当に就職が出来るのかという不安でいっぱいです。ですが、進路支援課の先生方と話していく中で、安心することができました。目標に向かって頑張りたいと思います。私がコロナ禍で1番学んだ大切なことは、「他者の存在」です。普通に喋って遊んで、当たり前だと思っていた日常がコロナ禍でぐらりと変わり、遠隔授業になりました。会いたいときに会いに行くということが当たり前ではないと実感しました。今ある生活を大切に他者へ向ける気持ちも優しい気持ちで接していかなければならないと思いました。

コロナ禍の1年を振り返って、私は去年とあまり変わっていないと思いました。去年の今頃は、来年はもう少し収まっているかなと考えていたのですが、全然収まる気配がなく、新種のコロナウイルスまで出て来ていて、いつ収まるのかと不安な気持ちでいっぱいです。短大生活1年目は、約半分がリモートでの授業となり、わからない点や不安が多くありましたが、なんとか1年を乗り切れてよかったです。この1年で、zoomの使い方はとても成長できたと思います。また、新種の株が流行り始めているので、2年生で対面の授業になるかわからない雰囲気ですが最後の1年なので対面でできたら嬉しいです。いつ自分がかかってもおかしくない状況なので、感染対策は引き続き徹底して行っていきたいです。対面になったりリモートになったりと、授業は慌ただしかったです。先生方がわかりやすいようにパワーポイントを作成してくれたおかげで、授

業は遅れることなく参加できたのでよかったです。

コロナウイルスが流行した1年間でたくさんの出来事がありました。就職活動が上手くいかなかったり、アルバイト先が休業になり働けなかったり、学生最後の長期休みが楽しめなかったりと泣きたくなりました。ですが、これは私だけではなく世界中の人に言えることです。私の周りではコロナに感染した人はいませんが世界中のどこかでコロナに感染して亡くなった人がいます。そしてその家族、友人などは想像できないくらい悲しい思いをしていると思います。そんなコロナウイルスと戦っているのは医療従事者の方で、テレビやsnsを見てみると医療従事者の悲痛の叫びをよく目にします。私はコロナから患者さんを救ってあげることはできないけど、不要不急の外出やマスク、アルコールなどの感染予防対策をすることで少しでもコロナにかからないように気を付けています。2021年もコロナウイルスが消えることはないと思われていますが、コロナウイルスとの付き合い方を考えて生活していきたいです。

コロナ禍の1年を振り返って、悔しい気持ちがある反面、学んだことや、自分のために時間を使うことが出来た一年でした。入学式を終えてからすぐオンラインでの授業になってしまったため、入学式の日には仲良くなった友達とも会えなくなってしまい、コミュニケーションが取れずに、まだ入学したばかりだったので、何が失敗で何が正しいかが分からず、困ってしまう部分もありました。しかし、今の時代SNSなどで連絡を取り合うことが出来るので、しっかりと連絡を取り合っ

ることが出来ました。私はこのコロナ禍で、オンラインになったことは自分の中でもプラスだったなと思います。それはなぜかと言うと、オンラインの授業が終わった後に、復習や予習をする癖がついたからです。対面になって、いざ授業を学校で受けると、その授業で頭がいっぱいになり、予習や復習を怠っている自分がいました。後々考えてみると、オンライン授業は自分にとってとてもプラスだったなと思います。また、オンライン授業は家で受けるので、勉強以外でも自分の時間を作ることができ、私はコロナ禍の中でもしっかりと充実して過ごすことが出来ました。悪いこともあれば、良いこともありましたが、私はこの一年将来に向けて、自分を見つめ直すことが出来たので、良い一年になったと思います。

コロナ禍の中での就職活動が一番大変だった。本格的に就職活動が始まる3月に、ほとんど全ての合同説明会が中止となり、自分の知らない企業を知るチャンスがなくなり、とても心配になったが、企業が小規模で行った説明会に積極的に参加した。人事の方が自分に向けて説明をしてくださったり、質問のしやすい雰囲気だったり小規模だからこそ周りの就活生を良い意味で意識せずにリラックスして参加できた。また、授業が遠隔になり、学校に行くこと自体が難しくなったため、普段なら対面でできていた進路支援課への就職活動相談も電話で行った。何も相談できないより電話で話を聞いてもらえるだけでも心がとても軽くなった。学業の面では、対面授業



と遠隔授業ではあまり変わらないと感じた授業がいくつかあった。自宅で受講するためいつもより起床時間が遅くなったり、周りの景色が一日中変化しないためやる気が起きなかったり、体や気持ちが悪くコロナ禍になる前よりも重くなった。しかし私は通学に1時間以上かかるため、移動時間の短縮や空いた時間にアルバイトを入れることができ、時間の使い方が以前よりも充実したと感じる。

**自**分自身の生活を振り返り、今まで過ごしてきたどの年より、時間が早く過ぎていったと感じました。星短に入學し、前期はオンラインでの授業だったため、思い描いていた学校生活とは違って不安になることもありましたが、時間通りに授業を受けることや提出物を出すことで、自分は星短生なんだという外との繋がりを自覚することができました。前期は友人に会えず、外出も控えていたため一人の時間が多かったですが、後期での対面授業を通して、参加できることへの喜びや、人との会話の大切さを実感しました。新しい環境で、初めて話す星短生と次第に仲良くなっていくことが嬉しかったです。また、家で過ごす時間が増えたことで、家事を積極的に行う力がつきました。家族に頼っていた部分だったので、自分のできることが増えたことはひとつの成長だと思います。2020年のコロナ禍で、最初は不便なことばかり目に付いていましたが、今自分でできることは何かを意識できた年でもあったので、無駄な時間は無いのだと感じました。

**私**はコロナがはやってしまったことから、不要不急の外出は控えたり、人混みがひどいところにはいかないようにしました。また、コロナでStay Homeと言われることが多かったことにより、家で自分のしたいことを探して外出は控えめにしていました。授業は対面授業と思っていたのに遠隔授業と知り、前期の初めの方はzoomやパソコンを全然使ったことがないことから対応に

戸惑いました。しかし、わからないときは友達や家族に聞き、遠隔授業に対応していき、zoomの授業では早めにzoomに入ることや、サイトへは早目につないでおくなど、遠隔授業の対策をしました。そのほかにも家にいることが増えたため、親の手伝いをし負担を減らすように心がけていました。さらに、友達とは電話で話すなどして自粛するからこそできることを探し取り組んでいました。今もまだコロナの変型も出てきているので、今後も家でできることを探し過ごしていきたいと感じました。

**新**型コロナウイルスの流行は、私たちの生活に良くも悪くも大きな影響をもたらした。入学式を迎え、晴れて新生活を迎えたと思いきや、すぐに自粛生活が始まったのだ。入学した心地のないまま、授業はオンラインで行われることになった。何もかもが初めての中、人と顔を合わせずに進む授業が大半で、初めの方はとても不安が大きかった。しかし、ネット上での活動を通して新たに得られたこともある。それは、相手側を意識して表現をする力だ。面と向かった時に感じ取れる表情や態度は、文章情報だけでは伝わりにくい。それを言葉だけでどう表現すれば伝わるのか、どんな言葉で伝えるべきか、試行錯誤したのだ。その結果、相手の立場に立って物事を考えるクセをつけることができた。コロナ禍で、人と人との距離は遠くなった。だが、それによって置かれた新たな場所では、その場所でしかできない経験をするのできるのだ。マイナスな状況にみえても、そこには自分にとってプラスがあるかも知れない。どんな状況でも前向きに自分を追い求められる人間になりたい。

**私**は、短大生になり1年を振り返ってみると特に記憶に残っていることはない。それは、コロナウイルスの中で、ほとんど学校にいけず、前期で取れる予定の資格試験も中止だったり、学校行事や友達との交流もなかったりしたか

らだと感じる。そのため、正直なんのために短大に入ったのかも分からない時もあった。まともな学びもできず、何も得ることができないことからすべてから諦めようと思っていた。先生も初めてのことで、精一杯私たちのために頑張ってくれているのは知っていたし、しっかりオンライン授業に向き合ってはいたけどやはり限度があり、就活のことも考えると、どう考えても経験が豊富な大学生には敵わないと思う自分がいて、どんどん自信はなくなっていた。後期になり、何も強みがない自分を変えようと資格試験をたくさん受け、ガイダンスも受講し、ちょっとずつ自信はついてきたけれど、あつという間の3月で全然時間が足りないと感じる。しかし、やらなければ何も始まらないから、コロナウイルスの中でも頑張ってきたことを信じて、やっていこうと思うことが今の率直な感想だ。

**短**大生としての1年目の今年はコロナ禍の中での今までとは違った1年でした。コロナウイルスの影響により前期はほとんど学校に行くことが出来ませんでした。また、授業もオンライン授業となり、自分の思っていた「短大生」とは大きく違った生活でした。学校の行事も十分にできず友達を作ることもままならないまま、後期の対面授業が始まりました。しかし、対面になったことでグループディスカッションなどを通して徐々に友達も作ることが出来ました。そうして、後期は充実した学校生活を送れたように感じます。オンライン授業の間は家での時間を多く持つことが出来たので、その時間を有効活用し学校の課題や授業の勉強の他にも、自主学習として資格取得に向けた学習に取り組むことが出来ました。このようにして、今まで経験しなかった学生生活の中で自分で時間を有効に使い成長につなげることが出来たと思います。今回の経験で得た力を今後にも活かして、より自分を成長させたいと思いました。

**2** 021年の一年間はとても充実した生活を送ることが出来ました。入学したときは友人が出来るか不安でしたが、趣味や好きなことをきっかけに自ら話しかけていき、沢山の友人が出来ました。とても嬉しかったです。また、アルバイトでは二つしていて楽しくアルバイトが出来たと思います。楽しくない時やコロナの感染拡大で出勤できない時がありましたが、それでもくじけず将来の仕事に就くために二つのアルバイトで色々なことを学ぶことができたのではないかと思います。五月から六月の一か月間はキャンパス立ち入り禁止で自宅で遠隔授業をしました。遠隔期間に入ることを知った時、コロナの感染拡大が酷く自宅から出られずアルバイトにも行けずつまらないのですが、早起きして通学をしなくてもよくzoomを通して友人ができたり私にとっては楽な生活だと感じました。しかし、せっかく仲良くなれた友人とずっと会うことができなくとも悲しかったです。夏休みには自動車学校に通い始めたりインターンシップに参加したりなど色々なことをやりました。後期からは対面授業になり、友人と会えて毎日過ごすことができ嬉しかったです。9月から短大生向けの企業オンライン説明会や合同説明会、MOONSHOT 講座など沢山の就職ガイダンスが始まり、就職活動に少しずつ近づいてきたと思いました。2021年を振り返って充実した生活を送ることができ、コミュニケーション能力が向上して、人間関係を良く築くことができました。私自身成長した一年だと思いました。



**短** 大に進学し、コロナ禍の影響ではじめて遠隔授業というものを経験した。進学したばかりで、慣れていない環境と重なりストレスに感じることもあった。ZOOM内でコミュニケーションをとるということが難しく、スムーズに話し合いが進まず、授業に支障が出てしまうことも何度かあった。アルバイトでは、お店の営業時間の短縮やお店を開けない日が続き、以前と同じように働くことが難しかった。友人と遊ぶ時も、縛りがあるようでもどかしい気持ちになることが多くあった。人混みを避け、公園や家で遊ぶなど、小さい頃を思い出すような遊びをして楽しんでた。授業がリモートになった期間は、家にいる時間が増えたことで、掃除や洗濯などの家事をするようになった。思うように動けないことも多かったが、その中で工夫して楽しめるようなことを考えたりしながら生活することができた。コロナが終息し、のびのびと生活する日になることを楽しみにこれから頑張りたい。

**短** 大に入学する前の自分の想像していた学校生活とは全く違う形で短大生活がスタートしました。初めて一から自分で決めた時間割もコロナウイルスで授業が全てリモートになったことで変わり、新しい友達を作ることも難しかったです。入学した後たまたましゃべっていた子が同じクラスだと分かり、授業や学校のことについてLINEなどを使って連絡しあうことしかできませんでした。LINEで連絡をしあっても直接話したことはほとんどなくどんな子かもわ

かっていませんでした。しかしそのようなことが前期にあったからこそ後期になり他の人とかわることが増えると、新しい友達が増えていくのが嬉しかったです。よく連絡をしあっていた子とも

毎日会うようになり今では学校生活の中で一緒にいることが一番多い友達になりました。コロナウイルスは私たちが想像していた生活と全く違う生活に変えてしまった原因ですが、友達など親しい人がいることがどれだけ大切かを教えてくれました。みんなが同じ状況の中で不安に感じていてもよく話せる友達がいることでその不安も和らぎます。コロナウイルスは私に友達の大切さを教えてくれました。

**コ** ロナが世間に広まった当初、私は受験を終え、卒業を控える高校3年生でした。友人と卒業旅行について計画を立て、飛行機も予約していました。ですが、コロナウイルスの感染拡大により行かないという決断をせざるを得ませんでした。アイドルのコンサートも中止になってしまい、このために受験勉強頑張ってきたのに、と悔しい気持ちでいっぱいでした。ですが、私も私の周りの人もみんな同じ状況だったので、仕方ないことだったと思います。学校にも通えず、自分たちの学校生活や友達ができるのか、就活についてなどの沢山の不安を抱きながら、慣れないオンライン授業に取り組みました。自粛期間で家で時間が増え、家族との時間や趣味に没頭する時間が増えました。退屈な時間でしたが、今思えばめったにないいい時間だったと思います。大変なことも沢山ありましたが、新しいことに挑戦したり、周りの人の大切さを改めて気がついた一年でした。これからは沢山の不安がありますが、今できることを精一杯頑張りたいです。

**新** 型コロナウイルス感染者が日本で初めて確認されたのは、2020年1月20日、神奈川県での30代男性でした。それから徐々に日本中に広まり、私が住む石川県にまで感染者が拡大しました。初めにコロナウイルスの影響を受けたのは、学校生活でした。当時私は高校生でした。高校2年の2月から3年の5月まで休校となり、6月から学校が再開

しましたが夏休みが一週間ほどになったり、学校行事が短縮・中止・延期になったりしました。そして、卒業式は卒業生と先生方、在校生の代表1名だけで、保護者も1人の卒業生に対し2人までと決められていました。この一年はコロナがほとんど落ち着いていましたが、大学で数名感染者が出たため、オンライン授業となりました。楽しみにしていた短大生活が、コロナ禍によって友達に会えなくなり、仕方ないことですががとても残念でした。そして今、私が学業以外で一番頑張っているアルバイトにも、コロナの影響がありました。私は、飲食店のアルバイトをしています。コロナ前からずっと続けていたので、お客様の一日の来店数が徐々に減少していくのを感じました。お客様が少なくなっていくので、スタッフの人数も減っていき、希望のシフトを出しても通らないことがありました。アルコール販売の中止や、パンサービスがセルフサービスになったため、多くのお客様が残念だとおっしゃっていました。また、アルコール消毒の徹底、手袋の着用などのお願いを入店時に説明をしています。アルコールは今も販売していますが、オミクロン株が現在流行りつつあるので、またいつアルコール販売が中止になってもおかしくはない状況です。早くこのコロナ禍が終わり、パンサービスでお客様のテーブルに焼き立てパンを持って行った時のお客様の笑顔や「ありがとう」「おいしいよ」という声を聞けるといいなと思います。

**2** 020年を振り返って、私は当たり前が当たり前でなくなり行動を制限しないと行けない場面が増えたことでもどかしい思いを沢山しました。高校の卒業旅行は全て中止、卒業式や入学式も簡略化、学校にも行けず全て遠隔授業、旅行やライブにも行けない。コロナは私から楽しみを全て奪っていきました。今までは楽しみがあるから頑張ろうと思ってモチベーションを保っていたことが多かったため、楽しみがなくなるということによりモチベーションをキープするこ

とがとて大変でした。また、感染者が減ってきたから少し外出したいと思った矢先にクラスターにより感染者が増加するということが少なくなく、毎日家で講義を受けるといった決まったことをし続けることが今までになく苦痛に感じることもありました。友達にも会えない、学校にも行けない。今まで当たり前でできていたことが簡単には出来なくなったことで今までできていたことが当たり前ではなかったのだと初めて気付かされました。コロナ禍での法事の際、お坊さんから感染症などは約3年が目安という話を聞きました。あと2年ほどあると思うとまだまだ長い道のりで、人生で一番楽しい時期の行動が制限されてしまうと考えると本当に悔しく思います。しかし、その先でもできることもあるしコロナが流行ったことでリモート化も進み新しい方法が沢山生み出されました。自分も自分の周りの人も安心して過ごせるよう自分の行動に責任をもって今はもどかしい思いでも長い人生のあと2年だと思って頑張っていきたいと思います。

**コ** ロナ禍の学校生活を振り返って、入学してから学校生活に慣れないまま、またコロナが広がってしまい、遠隔授業になったのが少し不安がありました。しかし、新しくできた友達や先生方などのサポートがあり、ここまで何事もなく生活できています。また、短大生活は高校生活と違い、自分で全ての物事を進めていかなければいけないので、計画性が大切になってくると実感しました。私は、元々高校の時にテストなどで勉強の計画をして、その計画を実行することが苦手でした。しかし、短大ではその計画性が求められています。日々試行錯誤しながら、計画を立ててレポートや課題など期日に遅れないよう頑張っています。計画通りに進めることができてなくても、自分なりに時間を見つけて期日に間に合うよう頑張ることができたと思います。また、短大に入ってから、勉強とアルバイトの両立が大変だと感じる人が多いです。授業でのレポート、課題の

締め切りに余裕があると思っていて気づいた頃にはもう締め切りが迫っていて、アルバイトがあり、出し遅れることもありました。自分自身で情報を管理することも大切であり、アルバイトとの両立も大切であると気付くことができました。

**コ** ロナ禍の中、私の就職活動はとてもしんどく辛いものだった。リモートでの面接のため、自分の思いや表情を相手に伝えることができなかった。想像をしている以上に「しんどい」「もう逃げたい」という気持ちが日に日に膨らんでいたと、今は思う。その中でも、面接後に自分自身の面接はどうだったか、よかったところと悪かったところを何度も振り返った。周りの友人が内定をもらったと聞くと、自分だけ取り残された気持ちになる時もたくさんあった。しかし、そんな時こそ自分自身を見失うことなく本当に自分がしたい仕事、その仕事で何ができるのかを考え、どのような働き方をしたいのかを深く考える機会にもなった。このことからうまくいかなかったことを振り返り、改善点を自覚し、次の機会に繋がれば、前より少し自信をもって行動できることを学んだ。また、より深く自分の人生を後悔しないためにどう行動して、どう生きていけばいいかということも考えるようになった。コロナ禍だからこそ、家にいる時間の中で、自分自身を見つめ直す機会が増えた。このことはいいことだと思っている。春から社会人となり、これからさまざまなことに立ち向かう、自分や友人たち、頑張れ！頑張ろう！

**授** 業が対面ではなく遠隔ということでは、パソコン操作に自信のなかった私はちゃんと授業を受けられるのが不安でいっぱいでした。しかし、先生方の丁寧な指導により、特に問題もなくこなすことができました。さらに、前期の間にMOS (Excel) の資格を取得したことは、大きな自信に繋がりました。パソコン操作の苦手な私が、家で1人でコツコツと勉強し、この資格を取得できたとい

う事実達成感を得ました。学校に行けないことは辛くて、大変で、悔しかったけれど、この経験によりたくさん成長できた気がします。できなかった行事がたくさんあります。でも、この機会だからこぞできたこともあります。パソコンと向き合わなければならない時間が増えたことで、操作に自信を持てるようになりました。対面授業ではここまで自信を持てなかったかもしれません。そう思えば、嫌だなと思っていた遠隔授業も無駄では無かったと思えます。まだまだこれから予想していないことが起きるかもしれませんが、臨機応変に対応し、更なる成長を目指したいです。

**コ** ロナ禍の1年を振り返って、私はコロナ禍になる前より成長したと思います。私は、オープンキャンパスサークルに入っており、夏休みにはオープンキャンパスのスタッフとして参加し、たくさんの学生さんと関わってきました。私が星短に入りたいと思い、オープンキャンパスに参加した時にはもうオンラインのzoomでの参加になっていました。オンラインのzoomでは、ネットの事情やコンピュータの事情により、上手くスムーズにはいかなかったり、途中で止まってしまうなどトラブルもあり、やはりオンラインということもあり分からないことが多くありました。そのため、私はこの学校に入り、オープンキャンパスサークルがあると知った時、このサークルに入ってたくさんの学生さんと関わり、分かりやすい説明を心がけ、この学校に入りたいと心から思ってもらえるようにしたいと思いました。実際、私たちの時はコロナ対策やワクチンも進んでおり、オンラインでのオープンキャンパスは最初の何度かだけでした。しかし、対面は去年していなかったので先輩も初めてだったので初めの頃は難しく、分からないことだらけでしたが、先輩も初めてだからとより気合いを入れ、工夫し、分からない所や困っている時には助けてくださり、とても助けられました。そのお陰で、私はほとんどのオープ

ンキャンパスの回に参加したのですが、全部が大成功という形に終わることができました。初めての体験だったので少し緊張していましたが、周りの友達の支えや先輩、先生のアドバイスや

えもあり成功させることが出来たということに、すごく達成感を感じることができました。学生生活、実際には短大なので2年しかなく、すぐ過ぎてしまうと思いますが、2年だからこそ1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。オープンキャンパスでの経験もアルバイトやこれからの就活、将来でも活かせると思うのでこの経験を忘れずに思い出で終わらないようにしようと思いました。

**コ** ロナ禍を振り返って、とても大変な時期だったなと思いました。前期は授業が全部遠隔で行われて友達にもなかなか会えず、みんなで授業も受けられなくて少し寂しい気持ちが大きかったです。アルバイトは居酒屋とかの飲食店は休業したり、時短になったりと大変な年だったと思います。私自身は結構大丈夫な方のアルバイトだったのであまり支障はなかったなと思います。学生最後の1年だったので、旅行にも行きたかったし、何をしようかと色々考えていた事も全部出来なくて学生最後の1年はもっと遊びに行きたかったと感じました。私の息抜きは旅行とかライブに行く事だったので、それがもう全面的に無理になって悲しかったです。完全にはコロナはなくなるかもしれないし、いつまたライブが出来るかもわからなくて、楽しみにしていた人とかはもちろんのこと、アーティスト側も悲しいだろうなと思いました。2020年は何事も制限される年で、何をすることも大変だったと思います。学業も、アルバイトも、友人と遊ぶのも全部思いっきり出来なかったのも、もちろん楽しいこと



もあつたけれど、もっと自由に楽しめたかったと感じた年でした。

**貴** 重な最後の学生生活1年間で、コロナによって制限されてしまったことがすごく悔しかったです。学校には行かず家でのオンライン授業が始まって、ついだらけてしまうことが増えました。家を出ることができるのはアルバイトと必要最低限の買い物くらいで、毎日つまらないなと感じていました。そして、1番大変だったのは就活です。行って初めてわかることばかりなのにオンラインが増え、内定もなく時間だけが経って焦る気持ちばかりでした。内定は現在頂けましたが、もっと普通の生活ができているときに就活ができれば今より満足できていたかなと感じます。ですが、逆に家にいる時間が増えてよかったこともあります。映画をたくさん見たり、家事が好きになったり、趣味が増えたりしましたが、たまには電話をすると、それはそれで新鮮で楽しかったです。改めて周りの環境のありがたみを感じました。この一年、こうなることは予想もしていなかったのですが、どうにか卒業をすることができて安心しました。

**私** にとってこの一年は、忘れることのない一年となりました。短大生活が始まる前に、新型コロナウイルスの影響により、外出を控え家で過ごすことが当たり前になりました。初めは、外に出て遊びに行きたい、学校に行きたい、なぜこんなにも我慢をしなければいけない

いんだろうと毎日考えていました。しかし、家で1日を過ごしていると、1日が長く感じ、時間の大切さを実感しました。学校、アルバイト、外に出かける、これらのことが当たり前時は、あっという間に1日が終わり、時間が足りないままで思っていました。時間があると、この時間は決して無駄にしたいくないという思いから、新しく何か始めようという志向に変わりました。1日の時間は決まっているため、1日にやることリストを作成し、できたらチェックをつけるということを毎日し、時間を有効に使いました。そこで私は、短大生活で取得しなかった資格の勉強に励みました。新しく知ることが多く苦戦しましたが、時間があつたため、自信がつくまで何度も何度も繰り返しました。自粛期間に3つの資格の勉強をし、自粛空けに一発で合格ができました。新しく挑戦したことが、達成できた時は嬉しかったですし、コロナ禍で時間があるからこそ、できたことでもであると感ずきます。コロナ禍で、想像していた短大生活を送れず、悔やむこともありましたが、今だからこそできることがあり、今しか感じることができないこともあり、私にとっては、なくてはならない一年となりました。今後もコロナ禍は続くと思いますが、決してマイナスには考えず、前向きに物事を考えていきたいです。

**私**は短大に入学し、友達をたくさん作り、サークルでは中学生の時に所属していたバドミントンサークルに入り、先輩とも仲良くなり充実した短大生活を送り、私生活ではアルバイトを始め、友達と遊びに行き、美味しいものを食べたりして楽しもうと考えていました。しかし、コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が出たことによって授業が全て遠隔になりました。ほとんどの学生は自宅で授業を受けますが、私はネットワーク環境が悪かったので、学校に来て授業を受けていました。電車通学だったので金沢駅で乗り換えですが、ほとんど人がいませんでした。昼時の電車に乗る

と、一車両に二人だけしか乗らなかったこともあり。人生初の遠隔授業は不安でいっぱいでした。名前は知っている顔は全く知らない先生の授業を受け、レポート提出はこの方法で良かったのかなどと考えていました。遠隔授業で最も辛かったことは、パソコンの画面を見続けたことです。こんなことを言っていたら将来仕事にならないと思う人がいると思いますが、私にとってはとても辛かったです。遠隔授業は先生が作ったWordやPowerPointの文章を読み取る必要がありますが、私は読むことが不得意なので、文章を読むことがしんどかったです。次に私にとっては学校のパソコンの画面が明るすぎることです。明るさ調整なら自分で出来ると思っている人がいますが、学校のパソコンは設定が固定されているので明るさ調整が出来ませんでした。音量なら調整できました。最初に考えていたことは全てコロナウイルスで潰されました。ただ、悪いことだけではありませんでした。途中、自宅で遠隔授業を受けることが出来たのでその分の交通費が浮いたこと。家にいたので映画やアニメを見る時間が増えたこと。お菓子作りをしたこと。家にいる時間を大切にすることが出来ました。

**コ**ロナが流行り始めた頃、正直ここまで日常の当たり前が当たり前で無くなるとは思っても見ませんでした。私が一番心配だったことは、コロナ禍の中での就活でした。先輩方がしてきた就活とは一変し、違う形での会社訪問や面接の日々、心配事が重なり、毎日が嫌になりつつありました。そんな時支えになったのは、学生支援課の先生方や同じ状況にある友達でした。自分一人ではない、どんな小さなことでも支えてくれる人がいることを、いつも思い出させて

くれました。コロナウイルスの流行で、これまでの常識が常識でなくなることはありましたが、普段気づかないようなことに気づき、感謝できた年でもありました。コロナ感染の悲しいニュースばかりですが、誰かのせいにするのではなく、一人一人ができることを、私自身ができることを、今、精一杯頑張りたいです。

**コ**ロナウイルスの流行により、この1年で世界中のほとんどの人の生活が一変した。授業のリモート化により、友人に会える機会が減った。感染しないために人混みを避け、家にいる時間が長くなった。お金を稼ごうとしてもアルバイト先の飲食店にはお客さんが1人も来ず、予定時間より早く帰宅することも多かった。2年生になった私のメインである就職活動にも大きく影響した。運よく私の志望していた企業はリモートでの面接を実施してくれた。コロナウイルスが以前よりも終息に向かい始めた頃、対面で面接する場を設けてくれた。友達と就職活動の話や他愛のない話を面と向かってすることができず、とても悲しかった。そのような状況の中で、私の友人は電話で面接練習を手伝ってくれた。顔を合わせることはできなくてもできることはあった。コロナウイルスにより、私達の生活は変わり、ネガティブな考えをしてしまうこともあったけれど、家での時間が増えたことによって新しい趣味もできた。漫画や映画、掃除や料理など好きなものがたくさん増えた。一日も早くコロナウイルスが終息し、マスクを外した日常を取り戻せるまで、今はまだ気



を抜かずに生活していきたい。

**入**学する前は、新型コロナウイルスの感染拡大で学校に行けない日々が続くのではないかととても不安だった。私は富山県から星短へ入学した。そのため、知っている子がおらず周りに馴染めないのではないかと考えていた。オンライン授業だと学校にも行けないので友達が出来ない日々が続くのではないかと不安だった。だが、4月は対面で授業を行うことができ、楽しい学校生活を送ることができた。感染対策を徹底しながら、対面授業を実施してくださった先生方にはとても感謝の気持ちでいっぱい。短大へ入学して、新たな環境でたくさんの人と出会うことが出来た。クラスの皆はもちろん、サークルで他学年との交流や、プレゼминаールで新たな仲間と出会った。私にとって、この1年はたくさんの人と出会い、充実したとても濃い日々を送ることができた。資格取得にも積極的に取り組み、学問においても新たな知識を習得することができた。この経験から星短へ入学して本当によかったと思えた。

**入**学式は無事対面で行われ、非常に安心したことを憶えています。慣れない生活に少しずつ慣れ始め、通うことが楽しくなってきた頃にコロナ感染者が急増し、全ての授業を遠隔で行うという連絡を受け、不安ばかりが大きく膨らみました。しかし、先生方の手厚い支援や、友人の協力により、遠隔授業期間は遠隔授業期間として楽しく過ごすことが出来ました。コロナで全員マスク着用となり、顔がはっきり見えない部分がコミュニケーションのとりづらさに影響を及ぼしましたが、そこを乗り越えたことで、コミュニケーション力がさらについたと実感しています。また、コロナが授業内容にどのような影響を及ぼすのか、しっかりと学べるのか、と不安でしたが、先生方が可能な範囲で最高の授業をつくってくださったおかげで、沢山のことを学ぶことができています。就活面に

関して、インターンシップや合同企業説明会などをオンライン開催とする所が多く、対面で参加したい私はショックでしたが、情報収集をしっかり行い、対面で開催されるものに参加することが出来ました。コロナのおかげで得た力もあるので、ポジティブに物事を捉え、自分自身をさらに成長させていきたいです。

**私**はコロナ禍の1年を振り返り、挑戦する1年であったと考える。コロナ禍以前は周りの状況がよく見えたため、周りに合わせて行動したり、周りを見て自分がすべきことを考えたりしていた。しかし、コロナ禍でリモートでの生活になり、周りとのコミュニケーションが減ったことで、自分で判断しなければならないことが増えた。友人に確認することもあったが、まず自分の意思を決めてから聞くことが多かったため、コロナ禍以前よりも自己判断をするようになった。そして、短大生活において私は様々なことに挑戦したいと考えていたこともあり、イベントに参加したり、それまでしたことがないことに興味を持つようになったりした。それまでは興味があっても不安や恐怖で消極的になったり、友人に誘われなければ参加しなかったりとなかなか挑戦しなかったが、短大では友人が参加しなかったとしても自分が興味あるものには挑戦するようになった。それによって、失敗することも増えたが、様々な学びや経験を得ることができ、自分を見直す機会にもなった。この1年で得たことは今後の生活においても活かしていきたい。

**私**は今年初めて親元を離れ、一人暮らしを始めました。高校時代までは家の家事を手伝うこともほとんどなく一人暮らしを始めることになったので不安が募る一方でした。ですが、自分で調べてみたり友人や親に話を聞くことで解決しました。解決するまでも失敗がありました。自分なりの方法を見つけることができました。また、今までは常に家に誰かがいる状態だったので心細い思い

をしていましたが、友達の家に遊びに行ったり新しい趣味を見つけることで解消し有意義な時間を作れるようになりました。コロナウイルスがなければ沢山旅行に行きたいと思っていましたが出来なくて残念に感じました。ですが、そのような中でも違う楽しみ方を見つけたりコロナウイルスが終わったあとのことを考えることを楽しみに生活しています。そして、就活という人生における大きな転機を無駄にすることのないように今後の短大生活をしていきたいと思えます。

**星**短では入学初日に同級生と顔を合せてただで、親しい友達もできないまま遠隔授業となりました。分からないけれど誰にも確認できない、他の人がどれだけの速さで勉強を進めているのかが分からないという状況で、不安や焦りといった負の感情しかありませんでした。今思えば、こんな社会の状態です職はできるのか、就活が始まるまでに自分は何か得ることができるとかという将来に関する悩みがずっと家にも持っている中で膨らんでいたのだと思います。アルバイトもシフトが減り続けたためダブルバイトに変更したりと、新型コロナの影響で生活が大きく変わりました。新型コロナで悪影響を被ったことは事実ですが、一人で学習する、一人で考えるという機会が多かったおかげか、自主的に行動することが多くなったように思います。MOSの試験を各自で受験するようにと授業で伝えられた時、周りの状態が分からなかったが遅れを取るくらいなら早すぎるくらいに行動してしまった方が良かったらと考え、指定されていたExcel、Word、PowerPointの3つを夏休み中に受験しました。このように新型コロナの影響で悔しい思いや我慢をすることの多い一年ではありましたが、同時に普通に過ごしてはなかなか身に付けることができなかつたと考えられる力を身につけられました。これからは悲観的にならずコロナ禍ではあつたが得るものは十分にあつたと思えるように日々を過ごしていきたいと思えました。

**私**は短期大学部だったので大学生活が2年しかありませんでした。なのにコロナウイルスで1年生の半分以上自宅学習でした。学校行事やイベントと行事を、入学する前から楽しみにしていたので中止や延期になり非常に残念でした。リモート学習だったので友人ができるかすごく不安でした。学校が再開してからは対面で授業を行ったのですが、多くの学生が居るので少し不安でした。休日も外出をすると気づかないうちに感染してしまい、学校でクラスターが発生しないかすごく心配でした。学校生活だけでなく日常生活もコロナウイルスを意識して、不要不急の外出をしないように徹底してきました。私が思い描いていた学校生活ではなかったのですが、貴重な経験が出来てよかったと思います。就活では今まで企業説明会などは対面で行い直接話を聞くことができたのに、感染リスクを減らすためにWebが殆どになりました。合同説明会や面接ではマスクを着用しているため、表情が分かりにくく大変でした。この中でも頑張っていきたいと思います。

**私**は、このコロナ禍の一年を振り返ると、出来なかったことが多かった分、学ぶことが沢山ありました。友達と普通に会うことができなくなったり、人と話すことも少なくなり、一人で過ごす時間が増え悲しくなることが多かったのです。しかし、一人の時間が増えたことにより自分自身を見つめなおす機会が増え、どんな自分になりたいのか、また、嫌いな自分の部分とどう向き合えばいいのか考えることが多くなり、自分と向き合ったことにより、自己肯定力が高くなった気がします。そして、自分自身の心の成長だけでなく、人と会って話すことがどれだけ大切かを学ぶこともできました。リモート授業では相手との会話はカメラ越しで、相手と目を合わせるためにはカメラの黒いレンズを見なくてはならないことがとても苦痛でした。そして、会話が終わった後に、ボタンを押したらすぐに目の前から人がいなくなるの

が悲しかったです。リモート授業や友達と会えなくなった日々から、コロナ禍になる前にもっとしっかりと向き合って話していればよかったと感じています。この1年で、できなくて悔しい気持ちになったこともありましたが、悔しい=自分なんてと思わず、悔しい=悔しいけど仕方ない次にいこうと感じられるようになりました。この状況がいつまで続くか分かりませんが、前を向いて進んでいきたいです。

**新**型コロナウイルスの影響で、前期の授業のほとんどをリモートで行うこととなりました。先生、学生共に慣れない環境の中で、各々が試行錯誤しながらも助け合い、前期が終わる頃には随分と操作にも雰囲気にも慣れていたと思います。私が遠隔授業を受ける上で最も困ったことはあらゆる動作に「慣れる」事でした。インフルエンザなどの流行病とは違い、今の生活は前例のない事です。緊急事態宣言によって外出すら憚られる日々、マスクの着用はもはや義務と化し誰もが神経質になりました。今でこそ少しは緩和されつつありますが、未だ前のように過ごすことは困難です。私は、もう元の生活に戻ってくることは無いのだと思っています。息苦しい生活だとは思いつつ、元の生活に戻るよりは変わってしまった今の生活に慣れることを考えた方がきっと合理的なのでしょう。それでも私は、何事もなく穏便に過ごしていた頃を夢見るのです。いつか再び以前のように過ごせることを、マスクを外して外の空気を吸えることを、願うのです。

**今**年の一年は私にとって良くもあり悪くもある一年でした。良い面としては、料理や運動などの健康を重視した趣味を増やすことができました。コロナ禍のような家で過ごす環境がなければ始めなかったことが多くあったので、コロナ禍でも自分のできることを増やせたので良かったと思います。悪い面としては、例年であればできていたことができ

なかったことや、想定していなかった就活になったことです。一つ目の例年であればできていたことができなかったことについては、旅行やカラオケなどです。私は今年友人と旅行に行く計画を立てていましたが、コロナ禍のため断念しました。また、二つ目の就活においては、これまで学んできたような対面の面接ではなく、練習をしてこなかったオンライン面接が主な面接となり、慣れていない中の就活になり、苦労しました。それらのようなことがあり、私にとっての今年の一年はいい面もあり悪い面もある一年でした。また、次にこのような環境になった場合も新しいことを始めて気分転換をしていきたいと思います。

**こ**の1年、コロナ禍でありながらも非常に充実していたと感じています。私は、この短大生活で多くの友人に恵まれました。多くの規制が行われた中でも、短大で出会った友人たちのおかげで毎日楽しい時間を過ごすことができました。一時は休校という形になりましたが、その間も友人たちと協力し合ったことで、慣れない環境にも対応することができました。また、何よりも、笑顔で短大生活を送らせてくれた学校には感謝の気持ちでいっぱいです。学校が催してくれた様々な行事は、私の学校生活を彩る素敵な思い出になりました。中でも、流星祭は私にとって一生忘れられない大切な思い出です。後夜祭に出させていただいたという経験は、私自身の自信育成に繋がりました。来年は、就職活動という大きな岐路があります。その際、辛い思いをすることもあるかと思いますが、友人たちと支え合い懸命に努力していこうと思います。そして、来年1年も笑顔で締めくくりたいです。

**新**型コロナウイルスが流行し、生活の制限がかかり、思うように日常を過ごせないのはとても精神的に苦痛でした。今までの日常がどれだけ幸せで恵まれていたかと思うほどです。3月に卒業をする私は、2年生になって学校に

行ったのは後期のみです。少ないと感じるか多いと感じるかは人それぞれだと思いますが、私はもっと学校に行きたかったと思っています。なぜなら、私にとって最後の学生生活だったからです。後期に対面授業が再開される事になり、再びみんなと会えると思った時の喜びは今でも覚えています。コロナが流行しだした時、私はすぐに収まるだろうと思っていました。流行っているのは一部であって、毎日流れてくるニュースを聞き流していました。日に日に感染者が増え、重症者が増え、命が亡くなり、ただ事では無いと思った時には緊急事態宣言が出され、家からは出られず、リモート授業になり、アルバイト先も休業、時短営業となりました。マスクは必須になり、手洗い、うがい、アルコール消毒、検温など、コロナが流行したことにより、必ずしなければいけない事が増え、皆がそれに敏感になり、神経質になったと思います。1年前はマスクをせず外出するのが当たり前でした。今では、マスクをせずに外出する事ができません。マスクをしていない事に罪悪感を感じるほどです。就職活動では、流行しだした時期が最も活動するはずの時期でした。志望していた企業からは、面接の中止、延期、次の面接については決まり次第連絡するなどメールが届きました。急に将来に対しての不安が大きくなり、このまま就職できないのではないだろうか、と沢山考えました。6月に縁があり内定を頂くことができましたが、それまでには多くの企業を調べ、連絡を取り、緊急事態宣言でも気は抜けませんでした。友達と連絡を取っていても就職活動については話す事ができませんでした。聞くことも答える事も相手がどのような状況が分からないので、周りに内定を頂いた事は言えませんでした。こんなに難しい状況の中でも最後まで努力する事は今後の自分に繋がると感じました。2年生にあがった時は、友達と沢山遊んで、卒業旅行の計画などをして、最後の学生生活を思いっきり楽しむ予定でした。何一つ出来ないことがとても悔しいです。悔しいと思えるのも、大切な

友達に出会えたからだだと思います。星短に通って多くのものを学びました。自分に足りないものを見つける事ができ、この2年間で大きく変わる事ができたと感じています。前向きに捉える事が出来ているのも、学んだことを活かせる場所に就職し、そこで更に自分を変えられると期待しているからです。コロナ禍であってもできる事はいくらかもあります。その可能性を自分で潰してはならないとコロナが流行してから思いました。少しでも早く前の日常に戻ると嬉しいです。

この1年は、思い描いていたものとはかけ離れたものになりました。慣れないオンライン授業では、苦勞した面が多く、また、家から出ることが出来ない虚しさもありました。知り合いが1人もいない状況で、友達もまともに作れない、部活動もできない。どうしても不安が多くありました。しかし、後期で対面授業が始まり、仲良くなりたい子に積極的に話しかけにいき、友達になれたときは嬉しかったです。部活動も再開でき、ライブに参加できたときは、感動しました。こうして、対面で授業を受けられたり、部活動が出来ることは、決して当たり前なことではないのだと、わかりました。このまま、対面で授業が受けられるかなと思っていたところ、急に決まったオンラインでの授業。あともう少しで、後期の授業が終わるというタイミングで、非常に残念に思いました。それでも、数か月間での対面授業は、充実した時間を過ごすことができました。対面授業が受けられるような環境を作ってくださいの方々に、感謝しています。ありがとうございました。

コロナによってこの一年は大きく変わってしまった。短大に入ったらやろうとおもっていたことが全てできなくなってしまう。前期の授業は全て遠隔になり後期対面になったかと思えば人との距離感は遠く満足に授業は受けられなかったと思う。私が心配だったことは短大で友達が作れるか、資格が取れる

か、就活は大丈夫か。遠隔授業やSNSを通してなんとなく友達を作ることではできなかったがやはり顔を合わせていない分寂しい気持ちがあった。そのため私はサークルに入った。そのおかげで四大の友人や、先輩とも仲良くなる事ができた。資格の勉強はとても難しいものだった。前期でしっかり知識が定着しない分、後期での授業は中途半端になってしまった。そのためどうすればいいか考え短期間集中型で勉強に力を入れた。お陰で資格を取ることができた。今就職活動がメインになってきているが、学校でのガイダンスや企業説明会などに参加。またSPIの勉強や面接練習などを行っている。これらのようにコロナによって影響されたことも多くあるがそれを自分なりにどうしたら解決できるか考えることが大切だと思う。コロナが当たり前になってきたこの時代の中でコロナと共に自分たちが成長しなければいけないと考える。

2020年度を振り返って、2020年度は、新型コロナウイルスの発生により、本学も多大な影響を受け、オンライン授業などの措置を取ることを余儀なくされました。しかしながら、私はそこから学ぶことも多く、有意義な一年にできたと考えております。まず例として、オンラインであっても話し合いも可能であるし、対面の講義と変わらず、学びを深めることができるということを学びました。ある先生は、「対面授業であるからこそその偶然の出会いによって、新しい学びを得ることができる。しかし、その機会が奪われてしまった。」とおっしゃっていました。しかし私は、オンライン授業を受講する中で、グループワークや、全体での意見交換などから、そうではないのではないかと感じるようになりました。たとえ顔は見えずとも、たくさんの人と話合う機会を設けていただのおかげで、交流を深めつつ、意見も深められたと感じたし、オンライン講義と対面講義の優劣はそこでは決まらないのではないかという考えに至り、またこのような考えを持つに至りました。次に、

授業で使用した資料や、講義の映像などを見返すことができるため、普段よりも復習の難易度が下がり、成績を上げることが可能になったと感じました。その他にも、平時であれば可能であったボランティア活動への参加や、クラブ活動などへの参加を自粛しなければならないということで、これまでの社会貢献や、地域貢献の方法についてもっと深く考えていかなければならないのではないかと考えさせられる一年でした。さらに、コロナ禍で貧困にあえぐ若者の増加など、平時から言われていた若者層の貧困化問題などがコロナウイルスの影響によって深刻化しているということで、このことについても同世代の私は他人事ではないと考えさせられました。このように学生生活のみならず、私生活を通して、学びや考えさせられることの多い一年だったというふうに思いました。

**私**は一年振り返って大変だった分、少しでも周りを明るくさせようと就職活動期間や家族といる時間、アルバイト時間も笑顔で人と関わることを心がけて過ごしていました。こうしたことで今思い返してみると、以前より“何事も前向きに頑張ろう”という気持ちが高まったのです。そしてなにより嬉しかったのは、私の笑顔により笑顔になる人が増えたことです。普段と変わらずにアルバイトでお客様に接客をしていた時に、ある高齢のお客様が私に“あなたの笑顔素敵ね。ありがとう、また来ます。”と言ったのです。その時に、今まで頑張ってきたことが一人のお客様によって認められたように感じ、マスクで表情が分かりにくい今だからこそもっと大きく笑顔を届けようと思いました。現在ではアルバイト先の人にも笑顔の大切さを伝え、仲間と力を合わせて多くのお客様の対応に日々励んでいます。コロナ禍の一年で気づかされたこと、学んだことを新社会人になってからも変わらずに継続していこうと思います。この現状が落ち着くには時間がかかりますが、こんな時だからこそ一人ひとりの発言や行動に責

任を持っていかなければならないと強く思います。

**私**は、県外から金沢星稷大学女子短期大学部の経営実務科に入学しました。私の地元は、金沢市からだとなん幹線や電車を乗り継いでも片道3時間、車でも片道3時間半かかってしまいます。コロナ禍の中ということもあって、私の周りの子は地元に戻っている中、私は地元に戻れず、自分は精神的に弱い部分があり、対面授業の時でも体調不良でなかなか大学にも通えない状況の中、ゴールデンウィーク後と夏休み前の1ヶ月のリモート授業があり、人見知りな性格も相まって友達も上手く出来ず、自分の中では少し辛い部分が多かった前期でした。しかし、リモート授業自体は私の性格に合っていて、朝の支度や公共交通機関を使つての登校やほぼ初対面の人と直接グループワークをしなければいけないというストレスが軽減され、心身共に安定して授業を受けられたというメリットもありました。メリットもデメリットもしっかりとあったコロナ禍の短大生活ではありましたが、友達との交流もちゃんとあったのでそこそこ充実した生活を送れたと思います。

**2**020年、新型コロナウイルスが流行し、世の中は当たり前のことを当たり前でできなくなりました。このようなことになるとは誰もが想像していませんでした。そんな中、私が一番印象に残っていることは友人です。毎日当り前のように会っていた友達と、普通に会うことができなくなりました。そして、家族とも必要最低限の用事以外は家から出ず、過ごしていました。アウトドアの私にとってはとても辛く、早く外で遊びたいという気持ちがとても強かったです。外食できること、ショッピングできること、友達に会うことが本当に当たり前ではないのだと気づく一年になりました。しかし、そのような中でも自分が成長できることはあると思いました。最初は、スマホばかり触ってだらだらした生

活を毎日繰り返していました。でも、これから社会人になるにあたって、ずっとこのままの生活ではダメだと思い、本屋に行き、小説や参考になりそうな本をたくさん買いました。そうすることで色々な知識をつけることができ、自分自身少しは成長できたかなと感じています。まだまだこのような生活が続くと思いますが、そのような中でも自分を成長させることはたくさんあるので、自分で探して一つずつクリアしていきたいです。そして、当たり前前に感謝できるような人間になりたいと思います。

**私**はこの1年を振り返って、自分と向かい合う時間が沢山あったと感じます。親が仕事へ行き、家に一人でいる時に自分はこれからどうして行くべきなのか、今何をすべきなのかをよく考えていました。今までの学生生活は部活が忙しく、自分をゆつくりと考え直す時間がありませんでした。そのため、時間の流れがとても早く、いつの間にか高校を卒業していたという感覚が強かったです。しかし、嫌でも家にいる時間が増えたこの1年は自分がしなければならぬことをしっかり考え直すことができました。今までの自分、そしてのこれからの自分を考えることで勉強や生活面における目標を立てることが出来ました。私の勉強に対する目標は、2年で4年を超えるというスローガンを達成するために授業を通して資格取得に励むことであつたため、そこに力を入れました。その結果、今の時点で資格は7つ取得することができました。家にいた時の焦りも重なってより勉強に力を入れることができたと感じています。世の中の不穏な雰囲気は流されず、自分がどうそれを活かしていくのが大切であると感じました。

**コ**ロナの影響で、学校に行けなくなりオンラインでの授業がありました。コロナ禍で、できることが制限されてしまい、県外に行ったり、遊びに行ったりと短大に入ってしまったことができない事がありました。しかし、高校生

の時と比べてオンライン授業があり、電子機器やZoomが使えるようになりました。また、レポートなども紙ではなくパソコンやスマートフォンを使って出すということが増え、良い機会だったと思いました。このコロナ禍でできること、挑戦できることをチャンスだと思い、様々なことが学べたと思います。オンラインという事もあり、怠けてしまう時期もありました。来年はさらに気を引き締めて、オンラインの中でも頑張っていきたいです。来年は、行動できる範囲が広がって欲しいです。そして、もっといろんなことに挑戦して自分自身を成長させたいです。残りの1年を充実した短大生活にしたいです。一刻も早くコロナがきて、元通りの生活に戻りたいです。

**こ**の一年を振り返ってコロナによって様々な影響があった。その中でも特に二つのことに対する影響が大きかったと感じた。一つ目は就職活動だ。コロナの影響で説明会などがなくなった会社も多く、その時点で例年とは違う就職活動となりかなり大変だった。また、面接などもなかなか対面で出来なかったため、パソコンや周辺機器にも気を配り回線が切れないよう努力したことも私にとってはかなりストレスになった。最終面接は本社で行ったものの、自分の性格などが採用担当者などに伝わったのかもとても不安になった。例年通りであれば、このような不安を抱える必要はなかったと思うのでコロナが就職活動に与えた影響は大きいと思う。二つ目は学業だ。二年の前期が遠隔授業となり学び方が変わってしまった。分からないところがあっても自分で解決しなければいけなくなり、慣れるのに時間がかかった。慣れてしまえばそこまで大変ではなかったし、何より自分のペースで進められたので嫌な事ばかりではなかった。むしろその点に関しては良かったのではないかと感じる。その他にアルバイトでも少し影響があったように感じる。シフトを減らされる様なことはなかったが、ゴム手袋を着用しての接客など、変わってしまっ

たこともあった。コロナウイルスは私たちの生活に様々な影響をもたらした。少しでも早く前の様な生活に戻れるよう感染拡大防止など努力をしていかなければいけないと考えた。

**春**休みの間、私は短大生活を楽しくしていました。しかし、始まるに遠隔授業が多くなり学校に行く機会が少ないという現状でした。ようやく仲良くなれた友人ともしばらく会えない期間がありました。しかし、2学期になって流星祭を行うことになって、私は広報部に入りました。最初はあまり知り合いもおらず不安でしたが、新しい友達もできて、先輩方とも仲良くなることができました。広報部の仕事はコロナの影響によって少なかったですが、他のサークルにインタビューしたり、流星祭の期間にSNSを更新したり普段できないようなことを体験することができてとても楽しかったです。また今年で最後の大学3年生に向けてみんなでメッセージボードを作りました。集まる時間が短かったですがみんなで手分けして作りました。それを3年生はとても嬉しそうに受け取ってくれたので頑張った甲斐がありました。短い期間でしたが、大学・短大の学年関係なく仲良くなることができてとても良い思い出になりました。最初は不安でしたが実行委員に入るととても良かったです。2学期からはコロナも少しずつおさまり対面授業になりました。以前より友達と会う回数も増え、前より仲が深まりました。授業の中で合宿もあつたりしてとても充実しています。最初はつまらないと思っていた短大生活でしたが、自分の考え方を変えて行動するだけで楽しいこともあった一年でした。来年は就職活動が本格的に始まるので、頑張っていきたいです。

**入**学して約1年が経ちました。コロナ感染者が出て対面→遠隔→対面が続き、テストも遠隔と先生の顔は勿論、友達を見る回数も減りました。また、外出する機会も減り、家で過ごす時間が増えたような気がします。しかし、家で過ごす時間が増えたので家族との会話が増えたり、バラバラに食事をしていましたが同じ時間に食事をするようになり家が明るくなったと思います。全くお手伝いをしないのですが、自由な時間が増えたのでお手伝いをする機会も増えたので良かったと思います。また、犬を飼っているため、散歩をし軽い運動やストレス発散をし快適なりモット授業生活を送ることができたと思います。自分の部屋で授業を受けているからか授業に集中できなかったため、家でも集中して授業を受けることができる空間を作りたいと思いました。また、入学してから初めて資格を取ったりアルバイトを始めたりと生まれて初めての経験を多くしましたが、周囲の人の支えて今も続けることができています。卒業まで後悔のしないような学校生活を過ごしたいと思います。

**私**が金沢星稜大学女子短期大学部に入学したときは、まだ今のように県内のコロナ感染者数がそれほど多くなく、20～30人程度でした。そのため、対策としてマスク着用や消毒を徹底するくらいで対面授業は多く、新しい友人も増え大学に行くのも楽しかったです。しかし、感染者数が増えるにつれ遠隔の授業も多くなりました。その結果、家で一



人授業を受け、分からないところがあつてもすぐ友人に聞くことができず、授業についていけないことが何度かありました。それでも、短大でできた友達に連絡して分からないところを教えてもらい、内容を理解することができました。遠隔授業が増えてきた当初は、やっと仲のいい友達ができたのに会わなくなってしまったら疎遠になってしまうか不安に思っていました。SNSで繋がっているため、こまめに連絡を取ることでコロナ禍でも仲を深めることができました。遠隔が増えたことによる問題はあつたけれど、それでも友達もできたし、メールや連絡の確認をする習慣も身についたので、そんなに悪いことばかりの一年ではなかったと思います。

**コ** ロナ禍の1年をふりかえってみると、本当に激動の年だったと感じる。高校の時ほど、休校の期間は長くはなかったが、休校と学校再開が何度も繰り返され、初めの方は何度も切り替わる授業スタイルに困惑した。入学式が終わって程なくして休校に入ったので、休校が明けた後も、同級生の名前と顔がしばらく一致しなかった。そのため、学校ではなく、Zoomのブレイクアウトルームで初めて話した、という人も多かった。しかし、Zoomで話をしたことが仲良くなるきっかけにもなったので良かった。このように、コロナ禍で受けた影響は悪いものばかりではなかった。休校になったことで、片道だけで何時間もかけていた登校の時間が浮いたため、その時間を勉強に充てることができた。これは正直嬉しかった。コロナ禍の生活を振り返ると大変だったこと、また反対に良かったこと、それぞれ沢山挙げられる。しかし、どちらかと言うと大変だった事の方が多いように思う。学校に行けば友達と会える、当たり前なのが当たり前でできない生活はつらかったけれど、学校からのオンライン環境のサポートや友達の存在のおかげで頑張ることができた。

**コ** ロナ禍の1年を振り返って感じたことは、普通に通学できることの有り難さです。星陵大学女子短期大学部に入学が決まってから新しい出会いやこれから始まる短大生活に期待をふくらませていました。しかし、コロナの影響でオンライン授業となりました。パソコンの操作が難しかったり、友達ができず、想像していた短大生活とはかけ離れたものになりました。夏休みになり、ようやく対面での授業ができるようになりましたが、マスクをつけての授業で顔を覚えるのに時間がかかりました。後期が始まり、ようやく対面での授業や学校生活に慣れ始めました。学校に通い友達とわいわい話すだけでもすごく楽しくて、コロナがある中で対面授業をできる環境に感謝しようと思いました。また、部活動では、ハンドボール部に所属しました。楽しみにしていた部活動が始まったのは6月からで、体育館の人数制限や対外試合の制限も多くありました。しかし、このような環境でも部活動ができ、素敵な先輩方と素晴らしい仲間をもて良かったです。いつコロナが収まるか誰にも分かりませんが、普通の生活が戻ってくることを願っています。

**私** は人とコミュニケーションをとることが、とても苦手です。ですので、知っている人が数人しかいない短大で友達ができるのか、うまくやっていけるのかなど多くの不安がありました。しかし、同じクラスになった子が話しかけてくれ、一日で仲良くなることが出来ました。それから少しして、学校の授業がすべてリモートになり仲良くなったばかりの友達にも会えず、とてもさみしい気持ちなどもあじわった一年でした。今では対面授業が続き、学校に行く日が面倒くさい日もありますが、友達と助け合いながら、とても楽しく過ごすことが出来ます。私は現在飲食店でアルバイトを頑張り一年間続けています。その飲食店ではホールスタッフを担当しているので、お客様と関わる機会が多くあります。私は人見知りです。初対面の人と話すこ

とが苦手だと感じていました。そんな時に母と知り合いのお店に行きました。そこではよく進路の話や将来の相談を普段から話したいと思っていました。その時は将来の目標もなく、就職できればいいなど簡単に考えていました。そして知り合いの方に、アルバイトの話をしているときに「そのバイトを一年間続けられるってことは、本当は人と関わるのが好きなんじゃない。」と言われました。私もそうなのではないかと思いました。日ごろからお客様と関わる時は、どのようにお客様に喜んでいただけるかなど、無意識に考えながら行動していました。人と関わるのが好きということを知る前までは、人と関わることの少ない職業に就職しようと考えていました。しかし、知ってからは職業の幅も広がり、いろいろなことに興味を持つようになりました。この一年では高校から短大に進学し、たくさんの人との出会いがありました。たくさんのお会いの中で、いろんなことを発見したり、こうなりたくないなど、自分がなりたい人物像が具体的にありました。そのおかげで、今まで聞かなくても答えることが出来なかった、夢や目標を少しずつ答えられるようになってきました。残り約一年の短大生活も、人との出会いを大切にしたい人物像に近づけるように、資格取得やアルバイトを頑張っていきたいと思っています。

**私** はこのコロナ禍で、会いたい人に会えないという初めての経験をしました。東京はもちろん、県外に住んでいる友達に気軽に会えないという、今まで経験したことのないことが急に訪れ、とてもストレスになりました。ですが、ビデオ通話などを通して、現状報告をしたり顔を見ることで、すこしでもストレスが半減されました。このような環境になって落ち込むだけではなく、自分にできる解決策はたくさんあるということに気付かされました。これからたくさんの困難や戸惑いがあると思いますが、自分にできることをしっかり考え行動していきたいと思っています。また、自分が置かれ

た環境に柔軟に対応していく力も、このコロナ禍によってついた力なのではないかと思えます。今まではこうだったという概念を捨て、新しい環境に柔軟に対応していく力は、これから先社会人になる上で、とても大切なことだと考えます。このことも忘れずに生活していきたいと思えます。

**今**年は、コロナウイルスの影響で遠隔授業や遠隔での就職活動など、例年では考えられない体験をすることが出来ました。2020年の4月から外出自粛が余儀なくされ、約2ヶ月間家族以外の人に会うことが出来ず、友達とも顔を合わすことが無くなり、今まで学校に行ったら普通に友達と会えることが当たり前ではないことを実感し、友達の存在のありがたみを知ることが出来ました。また、緊急事態宣言と同時期にコロナウイルスではないウイルスに感染してしまい、入院することになった時は、1週間美味しいご飯を食べられず、家族にも会えない日々が続く、好きなご飯を食べることが出来る幸せや、家族がいることで普段寂しくならず暮らせていることに気づくことが出来ました。就職活動では、不採用が出るたびに、「周りの就職活動の状況はどんな感じなのだろう」、「内定が決まっていないのは自分だけじゃないのか」など、友達と直接会って話せない分、不安な気持ちがどんどん募っていきましたが、オンラインでお互いに相談し合うことで乗り越えることが出来ました。これからまた、このようなウイルス感染の流行に直面することがあるかもしれませんが、今回、学んだことを生かして多くの人々が助かることが出来るように、自分に出来ることから取り組んでいきたいです。

**コ**ロナ禍になり、マスクをするのが当たり前になり、今は普通に暮らしていますが、コロナウイルスが流行る前は顔を出していたことを思うと、どういう生活をしていたんだろうとたまに不思議に思えます。マスクは肌が荒れた

り、メイクがついたり、毎回洗ってと色々大変な思いをしています。しかしながら、コロナウイルスに立ち向かうためには、一つ一つの心がけが大切だと思えます。実際に家に帰るとまず手を洗い、ハンド用消毒をするのが家族皆の日課になっています。父は接客業をしているということもあり、他の家庭よりも徹底的に対策をしていたと思えます。例えば、ハンド用だけでなく、普通の消毒が各部屋、玄関にも置かれ、アルコール除菌シートも常に使っていました。また、家だけではなく、アルバイト先でもマスクを付けての接客や、お客様が触るところは片付けの度に消毒を行っています。このように、常にコロナウイルスのことを考えた生活をするのが当たり前になっており、最初の方は苦ではありましたが、今ではそれが今までしてきたかのような毎日を送っています。そう思うと、何も特別なことでないような気もしますが、旅行へ行けないことや気軽に出かけられないことを考えてしまうと、少しでも早くコロナ禍が終わって欲しいと願う毎日です。

**行**事が立て続けになくなり、友人と遊ぶどころか登校もままならない日々が続いた。「いつまでこんな日々が続くのだろう」という不安に何度も襲われた。そのような中で外に出なくとも家で授業が受けられるオンライン授業はありがたかった。しかし苦勞もした。操作が上手くいかなかったり、ネット環境が不安定になったりして、満足に受講できたとは言えない日もあった。そのような日々の中で、対面授業では意識せずとも自然に声をかけるなどコミュニケーションを取っていたと実感した。無意識に支え合いながら過ごしていた。オンライン授業では、顔が見えず質問するにもひと手間かかるようになった。コミュニケーションが取りづらくなっただけで、今までのように支え合うには一人一人が小さな勇気を出すことが必要だろう。何か困っていることがないか声をかけてみる。今まで電話しなかった人にかけてみる。こ

のような小さな歩み寄りでほっとする人が数多くいるのではないだろうか。私たちは今までの学生生活で意識せずとも自然に支えあってきた。その心は時代は変われど変わらない。これからもずっと大切にしていきたい。

**ま**ず就活面では受けたいと思っていた企業の応募がなくなってしまう、辛かったけれど、他の企業を視野にいれ最終的には行きたいと思える会社に内定をいただけたのでよかったです。授業面では、初めてのオンライン授業となり最初はうまくやれるのか心配だったし1人で受けることに少し心細さを感じたときもあつたけれど、思っていた以上に分かりやすく、課題などもスムーズに進めることができたので安心しました。なにか困ったことがあつたら先生にすぐ相談できるシステムにもなっていたので助かりました。ただ、オンライン授業は家で受けられるので楽だけれど、授業の少し前に起きれば大丈夫という状況に甘えてしまい生活習慣があまり良くなかったのは反省点でもあります。正直自粛生活ではスマホを見る時間がものすごく増えてしまったと思うしダラダラした生活が続いてしまっていました。友達ともなかなか会えず、どこにも遊びに行けないのも辛かったし今もまだ自由に行動できない状況だけれど、危機感をもった1人1人の意識、行動がとても重要だと思うので引き続き感染対策を徹底しながら生活していきたいです。

**新**型コロナウイルスの影響で学校に行くことができなくなり、遠隔授業となりました。短大にいくことができなかつたため連絡できる友達も少なく、周りの友達がどのくらい授業を進んでいるのか不安でした。しかし、私はこの自粛期間の時間を有効に使おうと前向きに考え、効率の良い学習方法を身に着けることができました。私は、夏休みまでにMOSの資格を取得するという目標を立てました。私は高校までExcelを使用しなかつたことがなく、初めてExcelの問題に挑

戦しました。前期の授業は、新型コロナウイルスの影響で対面で授業を受けることができなくなり、合格できるか不安でした。しかし、この自粛期間を有効に使い、一日1時間は集中して取り組みました。分からない問題はそのままにせず、ZOOMを利用し、先生に直接聞きました。その後、間違えた問題を中心に何度も問題を繰り返して解きました。その結果、私は効率の良い学習方法を身に付けることができ、その後も様々な試験に挑戦しました。自分の力だけで問題を解くことは、困難なことではありましたが、この期間に自分自身の学習について見直すことができた貴重な時間だったと思います。今後も時間の使い方についてよく考えて行動をしていきたいです。

“これから新たな生活がはじまるのだ”という期待よりも多くの不安を抱えて私の短大生活が始まりました。通学の際の満員電車、授業のこと、楽しみにしていた行事や研修、就職活動、様々な不安が私を襲いかかり一時は自宅の外に一步でも出るのが怖く、仕事から帰ってくる親の存在ですら恐怖に感じていました。そのような中、遠隔授業がスタートし、不安の日々が始まりました。操作に慣れないパソコンと長時間睨めっこをし、分からないことがあっても頼れる友達がいなくて、家から出ることもできないのでリフレッシュができない、この状況がいつ終わるかも分からない、そんな日々が本当に辛く感じました。さらに追い打ちをかけたのが、習い事のレッスンを2ヶ月間行くことができないうことでした。私はモダンバレエを幼少期から習い続けており、将来は表現者・ダンサーとして活躍したいと考えています。人生の目標のひとつにテーマパークダンサーになることがあり、ダンサーが次々と解雇されていく報道を目にした時はショックと同時に夢が奪われたという悲しさが私を襲いました。テレビをみても暗いニュースばかりが放送されており気持ちも沈んでいた時、習い事の恩師から一通の手紙が届きました。そ

こには“このような状況だからこそ皆で力を合わせて乗り越えよう”と書かれていて、いつまでもよくよしてはダメだと自分を奮い立たせることが出来ました。その日から私は、将来への投資のために今できることはないかを考え始めました。密な状況避けるために自宅の中でストレッチやバーレッスンをを行い、外で踊ったり、普段習うことの出来ない県外の先生方のレッスンをオンラインで受けてみたり、たくさんの動画を見て研究をしノートにまとめたり、限られた状況でも工夫をすれば出来ることが沢山あることに気づくことができました。コロナ時代とまで言われているこの状況がまだ終わったわけではありませんが、この経験があったからこそ学ぶことができ、感じとれたものが多くあります。何となく学校に通い授業を受け友達と交流し、当たり前のように習い事のレッスンに通い、夢を追い続け、家族と思い出を作り、日常を過ごしていたことがどれだけ素晴らしいことで幸せなことであるか、あたりまえと感じていた日常がどれほど特別なものなのか、家族や友達の存在がどれだけ多くの幸せを私に与えてくれたのか、たくさんたくさん感じとる事ができました。そして、初めは違和感でしかなかったマスク着用や手指の消毒など、ひとりひとりが小さな努力を重ねることで医療従事者の方の負担を減らすことができ、多くの命を救うことに繋がるのだという“絆”のようなものを感じとることができました。これからは、この経験から学んだ多くのことを無駄にするのではなく次のアクションを起こす時にどれだけ活かすことができるのか、重要なのではないかと思えます。自分の命のリスクより相手のことを思って日々闘っている方や世界のためを思って行動している方を見習って、私も夢を追い続



けたいと思います。1人でも多くの方に勇気と笑顔を届けることができるよう、1人でも多くの方の心を動かすことができるよう、“今できることは何か”を常に考えて努力していきたいです。

**短** 大生活が始まるのと同時に授業がオンラインになって友達もいない中で、課題提出や授業をこなすのは大変でした。分からないことがあったら連絡できる人もいなかったのほとんど1人で頑張るという状況でした。それでも、時間割を把握したりいつまでに課題を終わらせなければいけないのかというスケジュール管理能力がついたと考えます。また、就職活動でオンライン化が進む中、授業の中からパソコンなどの電子機器に触れる時間があったことにより、今後の役に立つと思えました。最初は慣れない短大の授業を受けることに不安もありましたが、後期からは対面という形で授業を受けることが出来たことはとても嬉しかったです。仲の良い友達も作ることができ、留学などのプログラムがなくなったり通常できることができなくなったのは残念でしたが、この状況下での学校生活は充実したと言えそうです。感染対策をしっかりと行った上で残りわずかな学生生活も頑張っていきたいと思えました。

**2** 020年度を振り返ると、コロナウイルスの影響により、当たり前の日常が当たり前ではなくなりました。高校生の時に思い描いていたような短大生活も送れなくなりました。短大生活がス

スタートすると、キャンパスに入ることができたのはほんの数回でした。新しい友達と出会えることをとても楽しみにしていたため、とても残念でした。だんだん慣れてきたアルバイトも、コロナウイルスの影響により営業時間がどんどん短くなり、店自体が営業を停止することにもなりました。授業は全てオンラインという形になっていたけど、夏休みを終えると、学校で授業を受けることができるようになりました。コロナ禍以前の状況と同じようにはいかないけれど学校に通えるようになり、とても嬉しかったです。コロナウイルスの影響によって悪いことばかりではなく、様々な環境に対応する力が身についたと思います。どんどん就職活動の時期が迫ってくるなか、今年は去年よりもさらに難しいことが予想されます。沢山不安がありますが、沢山の方がサポートしてくれるので後悔のないように頑張りたいです。

**コ** ロナ禍で1番印象に残ったことは、zoomでの授業です。不安も沢山ありましたが、パソコンに触る機会があまりないので、勉強になったと思っております。そして、仲の良い友達もでき、学校が始まってから毎日が楽しかったのを憶えています。勉強も、ついて行くのが大変だと思っていたのですが、先生方も学生のスピードに合わせてくれ、分からないところがあれば止まって教えてくださいました。アルバイトでは、休業で働くことができませんでしたが、お弁当販売をしており、たまに手伝いに行きました。私はアウトドア派なので、自粛中は散歩によく行ったりしていました。私は、旅行が大好きなので、行けなかった2年。沢山行きたい場所を調べて、行った時に楽しめるように考えていました。この前東京に行ってきた時、とても感動しました。行ったことなかった横浜中華街や久しぶりに行った渋谷、沢山変化していたので楽しかったです。

**コ** ロナウイルスが広まり、全授業が遠隔になったことで私が一番つ

らかったのは、なかなか気持ちにオンオフがつけられず、1日がだらだらと過ぎてしまっていたことです。授業数も少なく、周りの人たちがどのような生活をしているのかが見えないことも、自分を甘やかすことにつながっていたのかもしれない。そのような状況の中で私を助けてくれたのは友人の存在でした。友達とやらなければならないことを確認しあい、わからない場所を教えあい、励ましあうことがとても自分の成長につながったと私は思います。また、この状況のおかげだといえることもありました。様々な資格試験が延長され、受けることが出来る時期が限られてしまいました。しかし、だからこそ勉強時間もとることが出来、半年の間でたくさんの資格を取ることが出来ました。リモートでの働き方も重要視されているなかで、リモートで授業を受けられたこと、話し合いをすることが出来た経験は良い経験になったと思います。

**コ** ロナウイルス流行の影響は就職活動と授業の面から感じました。就職活動では私の場合、面談や面接にZoomを使いました。企業説明会から面接まですべてオンラインだった企業や、一次面接はオンラインで、最終面接は対面で行った企業など様々でした。特にオンライン面接と対面面接の両方の対策をしなくてはいけないところが最も大変なところだったと思います。授業では遠隔になり、課題の提出やテストをドットキャンパスで行うようになったので、ついて行くのに苦労しました。一方で、Zoomを使って受ける授業は大事なところをスクリーンショットできるので、何度も見返せたり焦ってノートにメモする必要がなかったりしたところはよい点だと感じました。このように、コロナウイルスが流行してから苦労することもありましたが、遠隔授業やオンライン面接など、以前ではありえなかったことを経験できたことは自信にもつながってよかったのではないかと思います。

**私** はコロナ禍の一年を通して、今までの普通の生活が送れる幸せを改めて実感しました。私は新型コロナウイルスが流行する前まではアルバイトを週6回入れていたのですが、緊急事態宣言での自粛が決定してからは、バイトが週2、3日しか入れてもらえなくなりました。人件費削減のため、知人にも仕事が無くなったという人もいました。とても過酷な時期に仕事が無くなるという最悪な事態で、私自身もこれから先の不安がとても大きくなりました。また、学校の授業も家でオンライン制となったため、家にいることが増えストレスがとても溜まりました。ストレスの発散方法として、いつも洋服を買ったりしていたのですが、アルバイトに入れなかったためお金が稼げず自分に使えるお金も減る一方でストレスを発散させる方法もありませんでした。ですが、家から出たいという気持ちが大きかったため、運動をはじめました。そのおかげで趣味が見つかり筋トレやウォーキングなどが今ではストレス発散方法となりました。人と関わらず自分のしたいこと、できるものを見つけ、その楽しさも感じることができました。この一年は自分の人生計画においてもとても大事な時間だったので、留学ができなかったりしたことは気持ち的にもとても大きな影響を受けましたが、改めて今までの生活がどれだけ幸せなことか感ずることができました。やりたいことがすぐできたり、行きたいところがすぐ行けたり、自由に生きていける日本がまた戻ってくると信じて今は感染者を増やさないために、自分も健康管理には気をつけています。今年は就職活動があるのでコロナに負けず、面接はマスク下でも150%の笑顔で精一杯乗り切ろうと思います。

**こ** の1年は、新しい環境に適應するために必死でした。4月から短大生活が始まりましたが、学校生活に慣れる前に遠隔授業に切り替わり、新しいことが次から次へと増え、分からないことだらけで大変でした。しかし、そのおかげで、自分で考え行動する力が身につ

ました。学校生活だけでなく、普段の生活もコロナの影響で制限されている日々だったので、なかなかストレス発散が出来なかったことも辛かったです。私の趣味は、カラオケで熱唱する事なのですが、この1年は営業停止することが多々あったので新しい趣味を見つけることにしました。そして、新しく見つけた趣味は、映画鑑賞とカレー屋さん巡りなのですが、どちらも今ではカラオケと同じくらい好きなことになり、制限された日々でも充実した日々を送れています。この1年で学んだことは、自分の機嫌は自分でとるということです。限られた生活の中で、自分で楽しみを見だし熱中できることを探す事は大切であると、この1年で気づくことが出来ました。この世の中だからこそ、大切なことがわかったり、新しいことにチャレンジしやすかったりすると思うので、これからもどんどん新しい楽しみを見つけていこうと思います。

**私**はコロナ禍の一年を振り返って、とても辛い一年だったけれど新しい力を身に付けることができた一年でもあったなと思います。就職活動は自分が思い描いていたものとは全く違うものとなり、最初はどうすればいいのかとても悩みました。企業説明会は直接企業に行くことができずほとんどがオンラインで行われ、会社の雰囲気やどのようなことをしているのかがあまりわからず履歴書を書くことも大変でした。しかし、中でもしっかりと対策をして本番に挑めたことはとても良かった部分だなと思います。先輩に自己PRを添削してもらったり、オンラインで面接対策をしたりなど誰かから評価してもらうことで自分のためな部分にも気づくことができたし、ダメだった部分は本番までに修正することができたので、対策することはとても重要だなと改めて気づくことができました。その時に自分から積極的に意見を聞きに行く力を新たに身に付けることができました。自分から聞きに行くことによって、何が良くてどこを直した方が良

いか詳しく教えてもらうことができるし、何より質問する力や意見を聞く力を同時に身に付けることができるので、積極性はとても大事なことだと就職活動を通して学ぶことができました。社会に出てもこの力がなくなることはないし、さらに伸ばしていけたらいいなと思います。コロナ禍の一年はどうか誰も想像つかなかったし、私自身もこうなるとは思ってもいませんでした。しかし、その中でもしっかりと授業を受けて、就職活動を行えたことはとても素晴らしいことだなと思います。今後も引き続き頑張っていきたいです。

**私**の中でコロナは、とても大きな存在でした。ただでさえ一人暮らしで人と関わるのが少なかったのに、それに追い打ちをかけるようにステイホームを要求されました。コロナが流行り、せつかくの春休みでしたが、実家に帰ることも許されずにアパートで過ごしました。新しい病気でしたので、どのようなウイルスなのかも理解していない恐怖があり、友達と会うのを控えました。それは自分なりの最大の努力だったと感じています。そんな中で就職活動が始まりました。一人で行動し、考え、コロナに対応した面接の練習もしていないまま、数々の面接を受けました。受けた会社に落ちていく度に、コロナで脆くなっていた心が砕けていきました。オンライン授業だったので、友達と会うこともありません。みんなの就活状況がどのくらい進んでいるのかなと想像しながら授業を受けていました。頭の中はずっと就活かコロナの2択でした。そんな中で、友達との電話はとても楽しい時間でした。コロナに対する不満や、慣れないオンライン授業を受ける大変さを語ることで、ストレスは半減していきました。私は、フリードリヒが生まれた赤ん坊に話しかけなかったらどうなるのかという実験をしていた事を思い出しました。その実験では、コミュニケーションを取らなかった赤ん坊50人は1歳の誕生日を迎えることも無く亡くなっています。人は、コ

ミュニケーションを取らなければ死んでしまうのだと思いました。私は、改めて友達の大切さに気づけたのだと実感しました。コロナは、多くの人の命を奪い、自由を奪い、決していいものではなかったけど、その中で自分は何を得たかを考えた時に、家族や友達の大切な人をこれからも大切にしていきたいと思わせてくれる出来事だったと私は思います。

**こ**の1年を振り返って良かったこともあれば、悪かったこともあったと思う。入学して新たな学校生活が始まることをとても楽しみにしていた。しかし、実際はコロナの影響で様々なイベントがなくなったり、オンラインでの授業となってしまった。そのためにコミュニケーションを取ることが難しく、新たな人間関係を構築することは実際にはとても困難だった。授業で度々グループワークをする機会があった。しかし、顔も分からない人といきなり会話するのは抵抗感があり、緊張した。このようにオンライン授業を通して不安に感じることは多くあった。だからこそ対面で授業を行えることになった時、改めてそのありがたさを感じた。相手の表情がよくわかるし、授業で分からないことはすぐに質問することができた。不安なことは多くあったが、同じ経験をした人だからこそ共感を得られ、通じる部分もあったのではないかと考える。また、オンライン授業になったことは残念ではあったがその反面パソコン操作が入学前と比べて上手くなった。初めはタイピングすらままならない状態であったのにレポートや課題提出を通して今ではとてもスムーズに行えるようになったと感じる。このように1年を振り返って残念なことも多くあったが、このような状況下でしか出来ない経験もあった。コロナはいつ終息するか分からないがこの1年の経験を活かし、臨機応変に対応していきたい。

**コ**ロナ禍の中で入学した短期大学でしたが、最初は本当に不安しかありませんでした。友達ができるかという

こともそうですが、一番心配していたのは、オンライン授業になったときちゃんとして行けるのかということです。また、短大の勉強が難しくなり、より専門的になっていくので、オンライン授業にしっかり理解が出来るのか、分かりませんでした。実際に、オンライン授業になった期間がありましたが、心配していたほどではありませんでした。それでも、スムーズには行かなかったと思います。また、私は短期大学の入学を機に、一人暮らしを始めました。一人暮らしをするとなると、家事や自炊全てをしなければなりません。両親も、実家が遠いのでそんなに来れないので、電話でのやりとりをずっとしていました。会えていないということもあるので、最初の2ヶ月はとても寂しく感じました。友達と遊ぶにしろ、ソーシャルディスタンスを意識しないと行けなかったため、遊ぶに遊べませんでした。そのため、家で一人で過ごす日々が続いていました。ずっと家にいる期間、なにが別なことが出来ないかと新しい趣味を見つけられたので、この一年は私にとって良い経験が出来たと思いました。

**3**月の頭にあった大きな合同説明会が新型コロナウイルスによる影響で中止となり、また色々な企業の情報を得られていなかった私は就職活動に対する不安が一気に大きくなった。就職活動を本格的に始める3月中旬頃から県内での感染者も増え始め、徐々に自分自身も新型コロナウイルスに対する危機を持ち始めた。県内で行われる企業説明会もマスクと消毒の徹底や人数を制限したり、人と人の距離を取った対策がされる中で参加していた。採用情報や企業情報を直接聞くのが難しい中での就職活動は本当に不安だった。コロナ禍での初めての就職試験は第一志望の企業だった。書類審査と一次面接を通過し、最終面接は緊急事態宣言が発令された次の日だった。コロナウイルスにより思っていたように就職活動を進められていなかったが、第一志望の企業だけはしっかりと情報収集もし

ていたため、この面接で就職活動を終わらせるという気持ちで最終面接に臨んだ。おかげで無事に内定を頂くことができた。不安だったコロナ禍での就職活動を終えた。ここで就職活動を終わることが出来ていなければ、緊急事態宣言が発令されていたので合同説明会はもちろん企業説明会も無くなり不安な気持ちを抱えたまま自粛生活を過ごしていただろうと思う。第一志望だけでもしっかりと企業情報や採用情報などの情報収集をしておいて良かったと感じた。4月中旬に就職活動を終えられたおかげで3月中旬から抱えていた不安やストレスから解放され、自粛期間をだらだらのんびりと過ごせたのも今ではいい思い出になっている。

**私**はコロナの影響で今までの生活ができなくなり、当たり前の日常が変わって行ったと感じました。本来は高校を卒業して友人と旅行に行ったり、みんなで集まって遊んだりなどしたかったです。ですが、卒業したタイミングでコロナが流行してしまったため、楽しみが全部なくなりました。人と会うこともできず、外に出ることも出来なくなる、こういった日が来るとは誰も予想していなかったと思います。緊急事態宣言が出され1度は落ち着きましたが、第二波がすぐにやってきたりとこの1年は油断出来ない状況でした。その中でも医療従事者の方達は、必死でずっと戦ってくれていると想像したら本当に感謝しかないです。毎日1人でも多くの人を救うために戦ってくれているからこそ私たちは恩返しをするべきなのではないかと思えます。たくさんのおりがとうを伝えたいです。いつ今の状況が収まるか予測できないですが、一人一人が自分の行動を考え直し、意識すれば少しでも良い方向に戻っていくと感じます。生きづらい世の中になっているからこそ今は我慢が必要だと思えます。

**私**は、短大約二年間を通して新しいことに挑戦したり、20歳で知ら

ないようなことも知ることができたと感じました。まず、コロナ禍で簡単にマスク無しでは出歩けない、旅行にも行けない、友達とのお飯もあまり進まない、という日々のストレス発散できる場所がなく、とても苦痛に思っていました。ですが、逆に家にいる時間が増えたからこそ、今までしてこなかったことをしてみたり、普段より家事をするようになったり、自分の時間が増えたり、家族との団欒の時間が増えたりと、小さな幸せに気づくことができました。今思うと、この短大生活はある意味自分にとって大きな節目になったと思います。就職活動も厳しかったり、授業もオンラインになったりと、今まで思いもよらないことがあり、新しいことを知ることができました。オンライン授業になったからこそ、パソコンをある程度触れるようになり、これからの就職先でも生かしていけると思います。コロナ禍で沢山の我慢と努力をしたので、これからの就職活動は新しいことにもっともっと挑戦していきたい、今の、この暗い経済を明るくする小さな力になればいいなと思います。

**コ**ロナ禍で日々の学生生活だけでなく、就活やアルバイト、プライベートな時間に支障が出た1年だった。自粛期間中は就活が出来ない焦りと不安、外出出来ないストレスばかりで先が見えなかった。友達とも会えない日々は本当に辛く、改めて学校に行ける有り難さ、友達の存在の大切さを実感した。コロナ禍で色々な事を実感できた気がする。家族の仲も以前より深まった気がするし、何より家族と話す機会が多くなった為、自分の就活に対する不安や、やりたい職業の話ができた気がする。今だから言えるのは、新型コロナウイルスが流行しなかったら、私たちは今も密を避けたりマスクを必ず着用して外出することは無かった。だが、新型コロナウイルスが流行してくれたから、身の回りの人の存在の大切さ、家族という居場所を感じられることができたと思う。良くも悪くも新型コロナウイルスは私たちの日常を

変えてくれたと思う。学生最後だったので、いつも通り学校に行って友達と話したり放課後そのまま遊んだりして過ごしたかったが、それよりも大きな事を学生のうちに実感出来たため、自分にとってはいい思い出となった。

**新**型コロナウイルスの中で家族のことを知ることが出来ました。前期の授業は、オンライン授業で一日中家にいることが多くありました。そのため、今まで知らなかった両親が何時に起きて何をしているのかなど一日の生活をより知ることが出来ました。両親の大変さを知ったことで、忙しかったのにも関わらず今まで私を支えてくれたことに感謝しなければならぬと思いました。今は「ありがとう」と感謝を伝えることができません。しかし、私が就職したとき両親を旅行に連れて行ったり、便利な料理器具を購入したり、親に今までの感謝を行動で伝えていきたいと思います。また、私は両親が仕事で外出している時、家に一人であることが多くありました。一人であると「将来は大丈夫なのか」などいろいろなことを悲観的に考えてしまいます。しかし、親戚が「家に来ないか」「一人で大丈夫か」など私のことを心配してくれていました。私を心配してくれている家族の大切さを知りました。コロナの経験で、物事を悲観的に考えるのではなく前向きに考えて周りを見て行動することで私の将来の人生を考えることが出来ました。今まで経験したことがない「新型コロナウイルス」で困難な状況を経験して、今の私は、これからどんな困難にも乗り越えられる気がします。

**コ**ロナの影響を最も感じたのは、公務員試験の筆記対策でした。CDPでは毎年2年生の8月に筆記試験の直前答練があります。例年は毎日学校で行われるのですが、今年は各自模試をこなしていくという形式に変わりました。このような形式になり、不安の要素が大きかったです。CDPを受講している友だちにも会えないので孤独感があり、最後

まで集中して勉強をやりきることができたのかという思いがあったからです。しかし、この経験があったからこそ自己管理能力が養われたと思います。コロナがあったことで、これまで当たり前で友だちと授業を受けられていたことに感謝できた1年でした。親孝行ができたのは、コロナ禍で良かったことだと思います。もともと就職活動が終わったらアルバイトをしたり旅行に行ったりしたいと思っており、実家に帰省したとしても短期間を考えていました。しかしコロナでアルバイトと旅行が難しくなったことで、実家に帰省し、家事を手伝うことができました。両親に手料理を食べてもらう機会があまりなかったため、新鮮に感じました。これまでは自分のことで精一杯だったので、両親を手助けできる機会があったことに良かったと思います。コロナで友だちに会いにくいこともあり、家族といる時間が増え、離れていたときの分も話ができていると日々感じています。

**私**は、コロナの影響で前期の授業が少なくなったことを利用してその時間を資格取得に利用しました。挑戦した検定は、MOSのエクセル、ワード、パワーポイントの3つです。本来なら通学に1時間かかってしまうところを、勉強時間に充てることができるようになりました。それによって、他の授業科目の勉強時間を削ることなく、検定勉強のための時間も十分に確保することができました。しかし、3か月という限られた時間の中で授業の合間に3つの検定勉強を両立させることは、中々大変です。そこで私は、授業の復習や課題などに関する勉強と検定勉強とで別けて時間を確保して進めました。別々の時間に勉強を進めることでどちらとも集中して取り組むことができ、どちらかに偏ったり疎かにならなうことを防ぐことができました。そのおかげで、授業も資格もどちらもいい成績を修めることができました。コロナ禍で授業がオンラインとなり時間ができたからこそ、短期間で複数の資格取得に挑戦し、高得点で合格することができ

たのだと思います。

**コ**ロナの一年を振り返り、コロナでやりたいことができないこともあったけれど、その分、コロナの状況があったからこそできたことも多かったと感じました。短大では、前期にコロナの感染の影響で、オンライン授業と対面授業が交互に行われることがありました。そのときにオンライン授業で使われたのはZOOMでした。高校生の時はYOUTUBEでのオンデマンド型の授業が主だったのですが、ZOOMは使ったことがなく、短大に入って初めて使いました。使い方は一切分からず、授業などで説明がありましたが、最初は慣れることができずに戸惑っていました。しかし、だんだん使い方が分かるようになり、今では共有や、背景の設定などたくさんの機能を使えるようになりました。そして、ZOOMがこれからの生活で必要になってくる物なので、コロナの影響でZOOMを使えるようになったのは良いことだと感じています。今から就活が始まりますが、特に県外だと、ZOOMでの面接が増えてきたり、オンラインでの説明会があると思います。親の仕事場でもZOOMでの仕事が増えてきているようなので、これからの自分のためにも良い機会になりました。コロナの影響で県外に旅行ができなかったり、マスクが必須になってしまったり、アルバイトが飲食店だと営業時間が短縮になってしまったりと不便なことも多く、悲しいこともありますが、コロナの中でも自分にとって楽しいことや、充実していると感じる出来事は多く、良い一年を過ごせたと思いました。

**2**020年のコロナを振り返って、短大一年目という新しい環境の始まりに起こったことなので、授業とか、就職とか不安が多かったです。家から出ることもあまりなかったため、家にいることも多くなり、友達とも会えず、辛かったです。でも家にいることで家族との会話が aumentari、普段しなかったことに手

をつけられるようになりました。まだコロナ終息には時間がかかると思います。気を抜かずにコロナにかからないように気をつけて行きたいです。

**2** 020年1月頃からから新型コロナウイルスが流行し始めました。始めは中国で原因不明の肺炎が流行っており大変そうだなと他人事のように感じていました。2月にはほし☆たび上海の同窓会に参加して自分が変わった分、ほかのメンバーも大きく成長しており「負けていられない」と気持ちを新たにこれからの就活を頑張ろうと思えました。3月に入ると得体のしれないウイルスを私たちは恐れはじめ、マスクや消毒液が店頭から消えました。4月には全国に緊急事態宣言が発出され、その影響で就職活動は例年より後倒しになりオンライン化が進みました。慣れないオンライン説明会や面接に戸惑いながらも活動を続け7月に内定をいただくことができました。私にとって新型コロナウイルスは憎くて怖い存在です。ですが、そのおかげで色々なことを知り、経験できています。新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は大きく変化し、当たり前だったことが当たり前に出なくなりました。いかにこれまでが幸せだったのかを実感しました。感染のリスクを背負いながら働いてくださっている人々や、コロナ禍での学校生活を支えてくれた先生方に感謝をし、自分に何ができるのかを探しながら新社会人として活躍していきます。

**2** 020年を振り返るとコロナに振り回された一年だったと感じる。高校の卒業式では在校生がおらず、声も発してはいけない静かな卒業式が行われた。少しの間で終わると思ったコロナ禍での生活は今までの生活を一気に変えるものであったと感じる。春から新たな出会いを胸に星短へ入学したものの、授業が全てオンラインになり孤独な日々を過ごしていた。大学での友達がいないため、わからないことや困ったことを相談できる相手がいなかったことがとても辛かつ

た。昔から仲の良かった友達とも、なかなか会えずずっと引きこもってばかりいた。しかし、コロナになり学校が遠隔になったことで私は免許センターへ通うことができたため運転免許を取得することができた。このことだけは、コロナで良かったと思う。初めてのアルバイトで会う方全員がマスク姿しか知らないとことがとても不思議に感じた。マスクだけでは伝わりづらいことが多く、接客面ではかなり苦労した。また、シートが貼ってあるためお客様の声が聞こえない、私の声が届いていないということもあった。このようなことから2020年の私の生活は、今までとは違う新しい生活となっていた。

**く** れまでのコロナ禍を振り返ると、やはり就職活動が一番の思い出です。石川県初の感染者が出た日はインターン中で、その時まで感染対策はなにもしておらず、すぐにおさまるだろうといった軽い気持ちでした。しかし、マスク・消毒が当たり前の毎日になり、合説も全て中止となってしまいました。合説中止が決まったときは本当に焦りと不安でいっぱいでしたが、この気持ちのおかげで就職活動のやる気に繋がったと思います。私はそこから10社以上の個別会社説明会に参加し、気になる会社は全て受験するなど積極的に行動することを意識しました。また、友人と会えない日が続くなかでも電話で相談し合うことも大切にし、気持ちを高め合っていました。その結果、コロナ禍の影響をほとんど受けることはなく就職活動を行うことや無事第一志望の会社に内定をいただくことができ、本当に嬉しく思っています。4月から社会人となり、今は不安な気持ちもありますが、明るく前向きに日々成長していきたいです。



**私** がコロナ禍のなかで得たものはあるのだろうか、考えることがよくある。短大に進学し、一人暮らしを始め、オンライン授業で学校が始まり、自分の時間が大いに作れたはずであった。私はまず、アルバイトを始めた。金沢の中心街の方が家の近くよりは時給が高いのが目に見えていたが、私は家からの近さを優先した。車の免許を持っておらず、バスでの移動もめんどくさいと感じてしまったからだ。アルバイトというものを初めて体験したのだが、まず、「いらっしゃいませ」ということになれることから始まった。挨拶すら苦手の私は、それを言うのにはじめは抵抗があった。なにも知らないところから始めるということがやはりはじめは緊張するし、うまくいかないことを実感した。そして、少しして思ったことがあった。家からの近さを優先したはずなのに、距離が遠くないか？雨の日も雪の日も休むわけにはいかないし、人手が足りない中で店長がほぼ毎日半日以上お店にいる。まず一度入れると言ったのだから休んではいけないと、責任感があった。しかし、遠かった。自転車で15分、歩いて50分。私はなにしているのだろう、と思ったのが雪の日の朝5時半に家から歩き始めていた時だ。私のシフトは6時半からだった。雪かきがされていない道を、音楽を聴きながら歩いていた。時給800円台のアルバイトにここまでしていく必要があるのかと自問自答を繰り返していた。このアルバイトは今年の1月にやめた。半年も続けていた自分を褒めたい。コロナ禍でわたしは時間を有効活用できなかった。資

格取得も勉強もなにもしなかった。しかし私は、すべて言い訳にしかならない理由を並べて、自分を正当化してしまう。この期間で、他人との差をつけることができた人も、コロナを言い訳になにもしなかった人も、さまざまな人がいる。高校生や大学1年生、就活生は変化を余儀なくされ、周りからはかわいそうといわれる。確かに、制限されたことは沢山あった。卒業旅行も海外研修も留学も諦めた。しかし、そこで気持ちを落としてはいけなかった。人間は、環境が変化することに対する対応力をもっと必要であることに気づかされたのではないかと。結局はすべて自分次第なのである。限られた中でどう行動するか、楽しむものにもしないのも、人生は自分のせいである。これが、私が新型コロナウイルスの影響をうけて改めて感じたことである。

**コ** ロナ禍になって、一番変わったことは、人に対する信頼度です。新型コロナウイルスに感染してないと本人が言っているにもかかわらず、実際に感染してしまっていた人もいたので、どんなに仲良く信頼していても、軽率な行動で感染してまた誰かに感染させてしまうという負の連鎖から、人を疑ってしまいがちになってしまいました。外出や人と話すことが億劫になってしまい、家に引きこもるようになってしまいました。テレビを見たり、スマホを触る時間が増えたので視力も低下してしまいました。しかし、外出をしなくなったので、貯金が増えました。しかし、コロナの影響でアルバイト先でも暇なことが多く、売上げがないとマスターも困っていました。世間的には、このような時期に外出するのは好ましくありませんが、店側からは、お客さんが来ないので、売上げがない、在庫が余ってしまうなどの問題が出てしまっていました。私のバイト先では、アクリル板の設置や、次亜塩素酸の機械の設置、アルコール消毒徹底をし、お客さんに安心して来店していただけるようにしてきました。このような、積み重ねが大切で、急にコロナが収束するはずがないのでみん

なが協力していかなければならないと思います。ニュースを見ていると、政治家の人が経験をして国民に呼びかけていますが、やはり、国民一人一人が責任のある行動をしていかなければならないと思いました。

**コ** ロナ禍の1年を振り返ると、非常に変化の大きかった年のように感じます。私自身が実際に経験したこととしては、講義を自宅でオンラインで受けるようになったり、アルバイトでの時間短縮、移動の制限、マスクの着用がありました。友人と過ごす時間や思い出を作る時間、社会に出るまでの学生としての経験をする時間を失うこととなりました。失うことが多く悲しい気持ちになることもありましたが、変化が生じることで新たに得ることもありました。得たこととして、自分について考え、見つめる時間が多くなったことです。以前は、アルバイトに追われていたため、最初は何をしたらいいのかということに悩んでいました。しかし、時間の使い方を見つめることでうまく過ごすことができるようになったと思います。コロナが終息し、以前のような生活とまったく同じように戻ることはないと思いますが、オンラインで済むようなことはオンラインで継続していったりなど、コロナ禍で得たことを上手く取り入れて、便利な世の中になっていければと思います。

**新** 型コロナウイルスというウイルスに全世界の人々が悩まされ、時代に残る現象が起きてしまい、残酷な気持ちでした。初期の頃はどのような威力のあるウイルスであるのか分からなく、自分は大丈夫だろう、すぐ収まるだろうなどと思っていました。しかし、全国でウイルスに悩まされる人々が大幅に増え、マスク、アルコール等が手放せなくなりました。そして、命を落とす危険性もあることが判明した時は、改めてこのウイルスの力は今までになく恐怖でした。私が新型コロナウイルスの影響で一番悩んだ事は、就職活動でした。就職活動が始

まる頃に流行りだしたため、合同説明会や個別説明会が延期になり、どのように行動を起こすべきか分からなくなってしまいました。そして、春休みを終え2年生を迎える頃には、学校が遠隔授業を開始し、学校に行く機会がなくなり「まだ始めなくても大丈夫」を繰り返し考えるようになりました。その為、就職活動が遅れ気味になり、企業の説明会が終了してしまっ、焦り始めました。また、友達から面接や内定の報告を受けた時は、面接を受けられる企業はあるのか、どのように自己分析するべきなのか不安でした。その為には、行動を起こさなければ始まらないと思い、進路支援課の方々に相談し、個別説明会を聞き、何社か面接を受け、無事内定を貰うことができました。この経験を得て、新型コロナウイルスに悩まされ思うように就職活動が出来ませんでした。自分から行動するというのを忘れずに、これから社会人として行動していきたいと思います。1年経った今でも終息はしていない為、気を引き締め生活していきたいです。また、1年生は、今、就職活動の最中だと思いますが、「まだ大丈夫」と思わずにまずは行動を起こし、後悔しないような就職活動をして頂きたいです。

**コ** の一年は新型コロナウイルスの感染がまだまだ収まらず、大変な年でした。感染予防のために手洗いや消毒の徹底、マスクの着用、ワクチンの接種、不要不急の外出を控える、3密を避けるなど様々なことをしてきました。コロナ禍の生活には慣れてきて感染予防することにあまり苦は感じていませんでしたが、辛かったことや残念だったことが2つありました。1つ目は、ワクチンの接種です。私はワクチンの副作用で39.8度の熱が出たり、関節が痛くなったり、体がだるくなったりする症状がでました。2、3日で症状は治まったけれど、副作用がひどかったのでとても大変な思いをしました。2つ目は、友達や親戚と会えない日が多くあったことです。私は、星短に入学する前は知り合いが誰もいな

かったため、最初のころは不安でいっぱいでした。しかし、入学してからは仲の良い大切な友達が出来ました。もしコロナが無ければ、新しく出来た友達ともっと色々なところに遊びに行ったり、学校で会ってたくさん話したりとさらに仲を深めることが出来たのではないかと思います。コロナ禍で友達と関わる機会が減ってしまったことが少し残念だったと感じています。また、親戚が遠い県外に住んでいるため、なかなか会えなかったことも残念でした。しかし、辛かったことや残念だったこともあったけれど、良いこともたくさんありました。家で過ごす時間が多かったため、勉強時間が増えたり、趣味の時間が増えたりしました。そのおかげで充実した日を送ることが出来ました。また、家族と一緒に過ごす時間が増えたので、家族で色々なことを話したり、笑いあったりして家庭がにぎやかになったと思います。今後はさらにコロナが増えてきて大変になってくと思うし、制限されることが多くなるかもしれません。しかし、そのようなことが嫌だと思っても、必ず前を向いて進んでいきたいと思っています。そして、今まで以上に感染予防を徹底して過ごしていきたいです。

**コ** ロナウイルスの影響を受けて私の学校生活は大きく変わったと思います。具体的には、イベントなどの行事が減ったことや、オンライン授業があげられます。イベントでは楽しみにしていた百万石まつりの参加がなくなってしまったことが、短大に来て初めにショックを受けました。短大で友達と一緒にイベントを楽しみたいと考えていたので、こればかりはコロナを少し恨んでしまいました。オンライン授業では、私たちが1か月ほど対面授業を受けて突然の出来事でした。社会ではZOOMでの会議が浸透しているのは知っていましたが、いざ自分がその立場になると、どのようにしたらよいのかと、不安に駆られました。また、友達も数えるほどしかおらず、頼れる友人も少なかったため、ほ

ぼ一人での作業はととても大変でした。新しい環境に変わってすぐの状況だったので、どっと疲れた半年間でした。無事、オンライン授業を乗り越え、対面授業に切り替わった後期では、前期よりもコロナウイルスが落ち着き、当たり前前の日常に戻った気がします。イベントもソーシャルディスタンスを取りながらですが、行われていますし、ゼミによっては県外に研修に行っているところもあります。今は、また新たなウイルスが拡大していますが、私はコロナに負けず、残り一年の短い短大生活を充実させたいと思います。

**私** はこのコロナウイルスの影響で多くの事ができなくなったり、悪いことが多くあったと思います。まず、旅行に行けなくなったことです。私は今年で学生生活が終わるので今の内にできることをたくさんやりたいと思っていました。特に海外旅行に行つたことがないのでずっと行きたいと思っていて、二年ほど前から家族で旅行に行くことを決めていました。ですがコロナウイルスの影響で行くことができなくなり、働き始めたらなかなか旅行に行くことが難しくなるので、行けなかったことが一番悔しいです。また、学校行事は全て無くなり、もっと友人と思い出を作ることができたのにそれができなくなった事が残念でした。逆にまだ良かったことは、家にいる時間も増えて自分の趣味を見つけることができたことです。自分と向き合うことができ、読書の面白さに気づくことができました。また、コロナウイルスが流行する前の生活がどれほど良かったのか気づくことができ、改めて「当たり前」という素晴らしさに胸がやられました。まだしばらくはマスク生活で、みんなでマスクを外して楽しく生活できる日常を早く迎えられるように一人一人がしっかりと注意をして、自分の体は自分で守るようにしたいと思います。また、医療関係者の方々に本当に感謝します。

**今** 年度は新型コロナウイルスの影響で遠隔授業に切り替わり、平凡な学校生活というわけにはいきませんでした。この1年私は充実した学校生活を送ることができたと胸を張って言えます。私たちにとっては学生として残された時間は2年という短い時間です。学生でしかできないことを今最大限にすべきだと思い、思い切って新しいことに挑戦することを決めました。今まで続けていた競技とは離れ、新たな競技でマネージャーになることを決意しました。しかし、初心者である私はルールさえも分からず何もできない自分が嫌で、自分に葛藤する毎日でした。そのような日々を暗中模索しながら我武者羅に進んできた結果、任されることやできることの幅が広がり、やりがいを感じ始めました。選手たちには全日本インカレ・東日本インカレと素晴らしい舞台を見させてもらい、貴重な経験を得ることができました。マネージャーとして選手が一番近くで見守ることができ、勝利の喜びや悔しさをともに分かち合え、競技の面白さや楽しさに気付くこともできました。きっと部活をしていなければできない経験を得ることができ、マネージャーとしてチームの一員で関わられたことに誇りに思います。思いきった挑戦は自分を変えてくれると感じました。何事にもやってみることが大切だと改めて気づきました。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って、私が一番大変だと感じたことは、就職活動です。コロナ禍によって予定されていた説明会はなくなり、行きたいと思っていた企業もコロナによって採用を取りやめにされたのでとても悲しかったです。またコロナの最中でも沢山の企業に足を運ばなくてはならないとっていたので、いつコロナウイルスにかかるのだろうという恐怖も同時にありました。しかしそれでもめげずに頑張った結果、無事内定を頂くことができたのでとても嬉しかったです。私は5月の初め頃に内定を頂いたのですが、友人はなかなか内定が決まらずとても悩んでいました。コ

ナ禍によって説明会を開催している企業が少ないことによる情報不足や採用人数の縮小など様々なことが積み重なり、なかなか内定を頂くことができないと嘆いていました。しかし、そんな中でも諦めずに頑張り、友人も無事内定を頂くことができました。友人が内定を頂いたときは、自分のことのように喜んだことを今でも覚えています。またそれによって友人との絆も深まったと実感しています。コロナ禍によってたくさん辛い思いを経験しましたが、その辛い思いが今の私の原動力になっています。

このコロナ禍を振り返ってみて行動を制限されることも度々ありましたが、別の角度から見ると良かったこともある一年だと思えます。まず、授業面では新型コロナウイルスが特に猛威を奮っていた時期はオンラインでの授業でした。オンライン授業では対面授業の時よりも自主性を試されているような気分になり、いつもより積極的な姿勢で授業に臨むことが出来たのではないかと思います。その他にもパソコンを使う頻度が増えたのでパソコンの扱いが上手になった事が変化として挙げられると思えます。次に生活面では、アルバイトの事を挙げようと思えます。私は短大生になってから居酒屋でアルバイトを始めました。石川県が蔓延防止対策を出していた時期は、お酒の提供が制限されたり、営業時間の短縮などで約二ヶ月間お店の方が休業する事態になってしまいました。その期間アルバイトをする事が出来なかったのも、自分の思っていた短大生活よりアルバイトに励む事が出来ませんでした。その事が今でも少し心残りになっています。新型コロナウイルスの社会が当たり前になって数年経ちますが、マスク社会に適応したように人は一つずつ地道に環境に適応する事が出来るのだなと実感しています。また、このコロナ禍は続くので油断せず終息を待とうと思えます。

コロナ禍になって一番大きく影響があったのは家庭であると思う。前期の頃は感染状況が悪く、遠隔授業が多々あったため、家にいる時間が長かった。コロナが拡大する前までは、家事など一つも手伝っておらず、すべて母が行っていた。以前は何とも思っていなかったけど、家にいる時間が長くなって家族を観察する機会が増えてから、働きながら家事をすべてこなす母の負担に気づくことができた。遠隔授業で、学校に通っている時よりも時間が多くあったので、母の負担を少しでも減らすことができると、料理、洗濯など家事をするようになった。母にもたびたび感謝され、辛そうだった母も楽になったと喜んで笑ってくれることが増えた。コロナが流行せず、家にいる時間も以前と変わらないままだったら、母の負担にもきつと気づくことはなかったと思うし、これからも家事をすることはなかったと考えたらぞっとする。そういう面では、自分と家族を見つめ直す良い機会であったと思う。

圧倒的なコロナ世代として私は大学受験をしました。コロナ世代で、高校3年生の時から学校行事は制限のしかつた状態で行って来ました。短大生活1年目の終盤の今もまだ毎日マスクをつけて感染予防を徹底しながら授業や文化祭など学外授業をこなしてきました。やはり、コロナがなければ毎日学校に行っていた普通に授業を受けたり、文化祭ももっと充実した楽しみ方が出来たと感じています。コロナ禍で、オンラインでの授業が増えたことによりオンライン授業の良さも感じるようになりました。ブレイクアウトルームを使った授業などでは直接会ってはいないけど、zoomだと対面で話すよりも気楽に顔を見て話し

たり聞いたりすることができました。他にも授業と授業の間の休憩、移動時間がない分、予習に当てたりと自分のための時間に使うことができるようになりました。これからの社会、コロナが落ち着いてもこういったzoomを使用した会議やプレゼンは増えてくると思います。その時に対応できるように今のうちにオンラインを使ったものに触れておくことはとても大事なことだと感じました。2年次は1年次とは違い自分の就職や編入について考えることが多くなってくると思うので、今のうちに進路について真剣に考えたいと思いました。

コロナ禍の1年を振り返り、自分自身の行動を見つめ直した年になったと感じました。就職活動やアルバイトなど、多くのことが新型コロナウイルスの影響で制限されました。全てが初めての経験で、様々なことが制限されている今、自分ができること、すべきことは何なのかを考えるきっかけになりました。就職活動に関しては、マスクをつけての実施・オンラインでの実施で意識すべきことを考えました。マスクをつけて面接を行う場合は、目元しか顔の情報がいないため、目に表情を出せるように意識して取り組みました。オンラインでの選考ではラグがあるため、面接官との意思疎通が難しく、苦戦しました。また、画面を見てもどうしても目線が下にいってしまうためカメラを見る必要がありました。このようなことを防ぐために友達に頼み、オンラインでの練習を重ね、徐々にオンラインでの会話に慣れていき、自



信に繋がりました。アルバイトをしていた飲食店は、コロナウイルスの影響で4月～7月まで休業となってしまいました。そのため、家にいる時間が増えました。そこで私は家にいる時間を有効活用しようと考えました。私が行ったことは料理や部屋の掃除・洗濯などの家事です。私以外の家族はコロナウイルスの影響で仕事が休みになったりなどはなかったため、家に1人になることが多く、そのときに母が家事と仕事を両立している姿を見て、少しでも力になればと思います、家事をしよう決めました。掃除や料理は元々好きだったため少し慣れていたのですが、洗濯などの慣れない作業は初めは苦戦しました。しかし、やっていくうちに効率も上がっていき、楽しくなりました。このようにコロナウイルスの影響で様々なことが制限されていることをマイナスだけで捉えるのではなく、自分自身の行動でプラスに変えていく意識を持って取り組むことで制限がありながらも充実した1年を過ごせたのではないかと感じています。

**ま**ず学校生活が2年生に入ってから激変し友達に会えなくなったのがとても悲しかったと思っています。そして就職活動では、面接がリモートになったりなど人と会う機会が画面越しになったことにとても不安になりました。自分の就活だけでなく周りが今のような状況なのかも分からずとても不安になったり、友達のなかで情報を交換したりなど分からないまま進んで行くのがとても怖かったと思いました。しかし、友達と会えない中でも電話やLINEで話したりいつもはした事の無いことをできたのかなと思います。授業もリモートになったりなど少し不安があったけれどきちんと単位を取得できたのでよかったです。これから社会人になるために家にいる時間を利用して今しか出来ないことをたくさんやっていきたいと思っています。そして会社もこの時代にあった働き方に変わっていくと思うので、それに自分も対応出来るようにしていきたいです。本当に学

生生活は楽しかったなと思っています。

**コ**ロナウイルスが流行り出した時期がちょうど私たちの就活が始まる頃でした。ただでさえ就職活動に対して不安がついていたのに、コロナウイルスが流行り始めてさらに不安がつりました。異例のリモートでの説明会や、リモートでの面接などが各地で行われ始めてそれに対応するだけでも必死でした。私はリモートでの面接ではなく対面での面接でしたが、当然のことですが、マスクは必須で行いました。面接で会社側に入りたい意思を伝える時、話す内容もですが表情もかなり重要になってきます。その中で、マスクをずっと付けていなければいけないのがとても不安でした。笑顔が大事でも目でしか表せないし、やはり普通の面接よりも不利ではないかという気持ちがありました。そうならないためにも、できるだけマスク越しでもわかるように笑顔でいることを心がけ、表情が見えない分、相槌や話す言葉により気をつけて面接に挑みました。その間、学校はリモート授業で、2年生になってからは学校に後期まで行くことができずでした。就職活動中は、友達と直接会って情報交換や励まし合いができないことも不安のひとつになりました。自粛しなければいけない状況で、ビデオ通話などを使ってみんなで励まし合いながらなんとか終わることができました。想像していた短大2年の学生生活は送ることができなかったけれど、コロナウイルスがなくなる生活に戻れるよう、自分自身の行動などに気をつけていきたいと思

**私**は、このコロナ禍の一年を振り返って何が起きても対応していかなくてはならない状況であり、やはり大変だったと感じる。入学当初は、コロナ禍ではあったものの、通常授業を行うことができていたため友達もでき、楽しく過ごすことができていた。しかし、しばらくしてコロナが流行し、授業が遠隔となった。夏に遠隔になった時には兄弟が

夏休みに入っており家で授業を行いく、自分だけではなく家族にも気を遣わせてしまうことがむず痒く感じた。幸い、スムーズに授業を出来ていることが多かったため授業の遅れなどは感じなかったが、やはり、学校で授業をした方が良いと感じた。その後は、コロナが落ち着き通常授業に戻り、生活リズムも安定していたが、いつ遠隔になるのかわからなかったため、やはり通常通りとはいかなかった。就職についても、友達の状況などもあまり知ることができなかったため、不安がたくさんある。その後も期末試験期間にコロナが急増し、また遠隔授業となった。今後の不安は、正直たくさんある。一番困惑したのは、学校でコロナが出てしまって遠隔になるかと思いきや、学校まで提出しなければならない課題があったことである。正直、コロナが怖かったため、課題はすべて遠隔のほうが良かったのではないかと思う。しかし、遠隔対応の授業も多かったため基本的にはそういった不安は解消されたという風に考えている。次年度は、何とかあまりコロナに困惑させられないように収まってくれば良いと感じる。

**こ**の一年で、私たちが当たり前だと思っていたことの大切さに改めて気づくことができた。初めて経験した遠隔授業では、機械を通して相手とやり取りをしているため、対面の時よりも自分の意見や気持ちをうまく伝えることができず、相手を誤解させてしまうことがあった。また、それらから相手に言葉で説明することの難しさを実感した。現在は、人と直接会うことができている。しかし、これは当たり前のことではない。いつ、私たちの行動が制限されてもおかしくはない。コロナ禍によって、家族とだけ過ごしたり、一人で過ごしたり、身近な人以外と会話をする機会が減った。それによって、言葉の伝え方が雑になってしまったり、指示代名詞で会話を済ませてしまったりしていた。例えば、物の名称を使わずに、「あれ」「これ」「その」などの言葉を多用したり、主語を飛

ばしてしまったり、自分本位になっていた。この経験を通して、相手と会話をする時、もっと「相手に伝わること」を意識すること、また、今の生活に感謝しようと思うことができた。これからも、この意識を忘れずに日々を過ごしていきたい。

**コ** ロナ禍は私たちの生活に大きく変化をもたらすこととなった。私たち短大生が一番変わったことといえば、リモート授業ではないかと思う。最初は戸惑ったが、スムーズにリモート授業へと変換していくことができたのは、電子機器が常に身近にあったことなのではないかと思う。今ではスマートフォンが当たり前になっており、持っていない人の方が珍しい。手元にあるもので簡単に授業に参加できたのは、この世代だからこそなのではないかと思う。ITが発達しているとはいえ、まだ紙など古典的な方法が根付いているのではないかと思う。これからこのコロナ禍のような、もしくはそれ以上のことが起こるかもしれない、または5Gが進んでいるようにどんどんIT化が進んでいくかもしれない。そんな事態に臨機応変できるためのきっかけとこのコロナ禍はなっているのではないかと思う。そのためには、今学んだことを様々な人へと発信していく力が私たちの力で大事なことでないかと学んだ。

**コ** ロナ禍の私の生活を振り返って1番苦労したことは勉強面である。去年の春休み明けから約半年間は、リモート授業であった。家での勉強は時間を有効的に使えたり良い面もあったが、とにかく集中が続かないことが多かった。周りに誰もおらず緊張感が全くないことから勉強の内容が頭に入りにくかった。最初は、zoomの扱いが慣れず手こずったり、ネット環境が悪ければ先生の声が聞こえづらかったり、画面をずっと見ているのもかなり疲れてくる。みんなで教室に集まって授業をする環境がとても恋しくなった半年だった。一方、アルバイトの方では、コロナが騒ぎ始めて

から、マスクや体温計などの商品が不足、そのことをお客さんに説明する手間などが増え苦労した場面もあった。しかし、バイト中のマスク着用が義務付けられてから、私はとても接客がしやすくなったと感じる。息苦しさや声を通りづらい、表情がお互いにわかりづらいということもあったが、人見知りな私的には逆にいつもより明るく接客しやすくなったと感じた。悪いことも良いこともあった約1年は、当たり前にあったものの大切さにとっても気づかされる時間であった。

**4** 月に星稜短大に入学した当初は、友達ができるか、勉強についていけるかなど不安が多くありました。また、2年後自分がどんな職に付けるかなど将来に対しても不安なまま私は入学しました。授業の中で私が一番苦労した、苦手意識が強かった科目は簿記の授業でした。初めは授業には全くついていけず、先生の言っていることすら理解できない状態でした。しかし、家での復習や先生や友人に積極的に聞くなどした結果、少しずつですが理解できるようになってきたので良かったです。また、全商簿記3級の資格も取得できました。部活動では、剣道部に入部し、大学生と共に日々稽古に励む毎日を送っています。同級生で女子が私しかいなく、周囲の部員は強く、練習にもついていけず、つらい日々を過ごしました。しかし、「1人倍練習し強くなりたい」という思いで日々稽古に励むと練習にもついていけるようになり、毎日の部活動がやる気に満ち溢れ、とても楽しく充実して部活動に取り組んでいます。また、自主練習も行い更なる上の段を目指し日々頑張っています。アルバイトでは学内アルバイトをしています。英語技能検定やTOEICの試験官をしています。私の性格上初対面の人と接するのが苦手であったり、自分に自信がないために堂々と行動することができない性格です。その性格を少しでも克服することを目標にアルバイトでは与えられたことプラスαで行ったりしま

した。まだまだですが少しずつ克服できるように今も頑張っています。星短に入学し、入学前にはできなかったことや苦手なことが徐々にできるようになり、自分自身が日々成長し続けています。コロナ禍で学校にいけない期間や勉強など不安や大変なことが多くあった1年でしたが、充実しとても楽しく過ごすことが出来たので良かったです。来年度は、この1年で身に付けた多くのことを武器に就職活動を頑張っていきたいと思います。

**コ** ロナ禍の2021年を振り返って、最初は不安の気持ちが大きかったです。高校生から短大生へと変化し、環境が大きく変わったことから、慣れるまで大変でした。本格的なリモート授業で、1人で受ける授業は、なんだか物足りない時間でした。ですが、学校へ通えるようになってからは、自ら同級生に声を掛けようという思いが強くなり、たくさんの人と仲良くなることが出来ました。この気持ちは、1人で授業を受けたからこそ、強く思えたことだと思います。また、私は短大生なので、就活への心配がありました。上手くいくのか、分からないことだらけでしたが、進路支援課の方々が、様々な企画を計画してくださり、少しずつ、働くことへの意識作りが出来ました。短大生活では、自主性が大切だと感じた1年でした。自分のために何が 필요한のか、それを考えながら、授業を受けたり、資格勉強をしたり、合説に参加したりしなければいけないと思いました。コロナ禍で自分の時間が多かった1年でしたが、自分のために何が出来るか、そのような事を実行できた1年でした。ですが、まだまだ満足はしていないので、これからも自主性を持って行動したいと思います。

**短** 大生になって大変なことは沢山ありました。きっと今の2年生の方が苦労していたと思います。私たちの場合は初めの方はまだ対面でした。だから遠隔授業に変わるまでに少したけ短大の雰囲気を感じることが出来たのは大きかった

と思っています。ですが、初めて会う人の顔の半分以上マスクで覆われていたので、顔と名前を覚えることにとても苦労しました。1度長期間遠隔になった時期もありましたが、その頃には最初よりは名前と顔が一致している人が多かったので不安はありましたが、周りの人と連絡を取りあったりしながら協力して乗り越えることが出来ました。私は高校の時、コロナで色々な行事が無くなったりしていたため、短大に来てコロナ禍の中、その行事をみんなと笑顔で行えたその瞬間だけはコロナ禍ということを忘れるくらい楽しかったことは覚えています。マスクをずっと付けているので友達などに想像していた顔と違うというような反応をされないかと外す時はとても怖かったです。今では1日のうちマスクをつけている時間の方が長いので外している時は違和感があります。コロナが終息してマスクのない生活が早期戻ってくることを願いたいと思います。

**コ**ロナの関係で、思いもしてなかったような短大生活を送りました。授業はオンラインになり、就職活動にもかなり支障がありました。例年とは違うことばかりで、簡単に友人と会うことができず、正直行って短大2年生になってからは楽しくないことばかりでした。しかし、オンラインの授業では、自分のペースで取り組みやすく、予習や復習を定期的に行うことができるなど、オンラインならではのメリットも感じました。友人とも、zoomを通して顔合わせすることができたので、zoomの授業でも楽

しく受けることができる時もありました。就職活動中の会社説明会や面接までもオンラインになることがあり、分からないことばかりではありましたが、このご時世ならではの体験ができました。これから先、いつコロナが終息し元通りの生活に戻れるかはまだ分かりませんが、今に合った生活の仕方で、楽しみながら社会人になっていきたいと思います。コロナのせいで、旅行にも行けず友達にも会えず、思うような充実した学生生活は送れませんでした。それでも、オンラインならではの学べたこともあったので、良かったのかもしれない。

**短**大生になって一年たった頃にコロナウイルス（COVID-19）が流行りはじめ、私たちの生活に大きな打撃を与え続けています。インフルエンザとは違う驚異的な感染力と命の危険性。外に出ることもなくなりこれからもこのような生活が続き、だけど世界の終わりとはまでは思えない、不思議な狭間の中、自粛生活が余儀なくされています。その結果好きなように生きられなくなり、大切なもの・人も失いこれ以上何をなくせばいいのか分からないと思う人も沢山いるでしょう。そんな中、外に出られない状況で授業を再開できたのがリモート授業でした。最初は目や頭が痛くなり集中できていませんでした。ですが画面と教科書を交互に見ることを出来るだけ控え、瞬きを増やしたり飲み物を飲んだりしてこの生活に慣れました。慣れるまではかなり時間がかかりました。外に出られないという異常事態を普通と思えと突然言わ

れても、飲み込むことができずストレスが溜まり、ストレスが溜まると家族と衝突したりと中々毎日がハードでした。コロナウイルスはいつどこで感染するのかも分からず、どれだけ細心の注意し

ていても感染してしまったら新聞に載り、周りから「何も対策していない」と思われるかもしれないという恐怖と毎日戦い続けています。私は祖母と一緒に暮らしています。祖母は認知症で、母は何年間か引きこもってようやく外に出ようと頑張っている最中でした。祖父は祖母の介護に勤しみ家事もこなしてくれます。私たちが家の中にいない方が祖父は自分のペースで介護できるそうなので、最初は邪魔扱いされていると思い怒りを覚えていました。ですが、冷静に祖父から話を聞くと、こんなにも忙しい仕事を一人でこなしているという事実を孫に知られなくなかったそうです。こういうことを言うのは不謹慎ですが、自粛期間があるからこそ話し合う機会が増えて知ることもありました。家にいる分、自分の思った通りにならないと愚痴をこぼし、それを聞いた家族の誰かがまた愚痴をこぼす。その連鎖自体とてもストレスでした。家に居たくないし家出したい、友達に会いたいなど沢山の感情が爆発すると喧嘩が勃発です。それでも家にはいなくてはいけない、引きこもっていても必ず部屋からは出なくてはいけない、その結果顔を合わせる。見る度にイライラしていました。だけど、何が楽しいかわからなくなり、「楽しい」という気持ちも今日の“出来事”もなくなったことに気が付きました。元々家族全員、仲は良いはずなのに喧嘩をして、日に日に口角が上がるのが少なくなりました。一度家族で話し合うと、ストレスをどこに発散すればよいか全員が分からない状況でした。それから話し合うことがしばしばあり、お互いの気持ちを言葉で交わすとスッキリするということが分かりました。コロナ期間中、自分の大きな変化は生活の改善です。友達からは「朝起きられない」「昼夜逆転した」「夜ご飯しか食べていない」といった声をよく耳にします。ですが私の場合朝早く起きて、母のお弁当を作ってお見送りし、課題に取り掛かるといふ学生らしい生活が送れています。コロナウイルスは関係ないかもしれませんが、本当に起きられなかった私



が朝早く起きて弁当と朝ご飯、昼ご飯、晩御飯を作っているのは奇跡だと思います。色々な料理に挑戦できることは、時間にゆとりがあるからかもしれません。だけど、本当は友達と遊びに行ったりご飯食べたりお泊りしたかったです。学生らしいことってできたかなと今になって思います。どこかから「友達とご飯いってきた」とか「県外行ってきた」という話を聞くことがありますが、正直減茶苦茶羨ましいです。卒業旅行も春休みに入ってから誘われたご飯も全て断り、周りからは「真面目だね」と言われました。自粛期間泣いたことの方が多いです。ですが、学んだことも多く大切だと改めて思えるような生活とも思えます。

**2** 021年に星稜女子短期大学生として入学したが、待ち受けていたのは狭苦しい学生生活だった。新型コロナウイルスが中国で発症し、瞬く間に日本全国に感染拡大。飲食店や遊園地など娯楽施設が大赤字を負うなか、学校も例外ではなかった。一つの学校に大勢の生徒が集まるため、飛沫、接触による感染の可能性が高まってしまう。その被害を最小限に抑えるために、多くの学校は自宅待機と遠隔による授業の実施を施した。当時は突然のことに戸惑うなか、この状況に納得し受け入れる人も少なくはなかった。私は遠隔授業になったことを知ると最初は嬉しかった。なぜなら早起きや朝の身だしなみを入念にしなくてもよいからだ。怠惰な私は遠隔の開始を大いに受け入れた。ところが、後にこの対策の欠点を知ることとなった。1日中家の中にいるため生活習慣が乱れたり、外に出られないため外食も友達にも会えなかった。また、授業のなかで先生に質問をしたくても直接聞きに行くことができず、窮屈な学生生活を送ることとなった。しかし、家にいる時間が長くなった分できることが増えた。短大生はたった2年で就職するため、時間が大学生より限られている。制限された時間の中、就職に向けて私たちができることは自己学習である。特に資格取得のために

勉強ができる環境が整っており、その環境を資格の勉強時間として大いに活用した。遠隔授業による自宅待機は外に出られない狭さや、人との交流不足によるストレスの発生などが起こったが、その裏で、可能なことを探り挑戦する人も存在した。私も不自由な気持ちであったものの、資格の勉強をする時間があることに喜びを感じ、活用することができた。今後も今まで可能だったものが不可能になることもあるかもしれないが、異なる視点からできることを積極的に行動することが社会の中でも重要だと知ることができた。

**新** 型コロナウイルスが流行っている中、私は、なるべく自粛するように心がけました。不必要な外出は避け、必要な外出だけするようにしていました。外出したとしても、必ずマスクは着用し、アルコール消毒を見つければ、必ず消毒を行い、いつも以上の、手洗いがいを心がけました。これらの心がけもあり、体調は崩すことなく、家族にうつしてしまうなど、そういうことは一切起きていません。少し、新型コロナウイルスが落ち着いたからといって、気を抜かず、これからもこういった心掛けをしていきたいと思っています。だんだん身近にも新型コロナウイルスに感染したという声を聞き、凄く近くまできているんだなと、不安になりますが、一人一人が、感染予防を徹底することで、クラスターなどを防げると思っています。友達、家族などと、外食や外出したい気持ちも分かりますが、今の現状を考えると、やはり不必要な外出は避けるべきだと思うため、終息に向け、皆で協力していけたらいいと思います。

**1** 年間を振り返って、最初はすごく不安だったけど、たくさんの方に支援してもらい、就職活動を無事に終えることができて良かったと思います。また、想像していた学生生活のようなやってみたいことや、行ってみたい場所に行くことができなかったのは残念でした。

しかし、自分なりにできることで新しいことに挑戦できたのが良かったかなと思います。そして、この1年はコロナ禍で、前期はオンライン授業になり、友達に会う事ができない生活になりました。学校生活でたくさんの友達と話したり、会うことができるのは当たり前では無いのだと感じました。いつも当たり前で生活していたことが急に難しいことになることもあると改めて実感し、常に当たり前と感じていることにも感謝して大切にしていきたいなと思いました。今後、コロナウイルスが収まり、今、できないことがまたできるようになったら、この1年間で出来なかったことや旅行に行くなど色々なことを少しずつやってみたいと思います。

**こ** の一年間コロナ禍の中でいろいろなことがありました。一つ目は入学したのに学校には行けず友達もできなかったこと。9月から学校が始まり、慣れないこともたくさんあったし、その分不安も多くありました。でも新しくできた友達のおかげで楽しく過ごすことができました。また、資格試験がコロナ禍のため9月以降に詰め込まれていて、勉強と授業の両立がとても大変でした。授業内での課題もしないといけないし、資格試験の勉強もしないといけないというのがとても大変でした。本来なら2回ほどは受けられる試験でもコロナの影響で私たちは3月に就活が始まるため、履歴書に書きたいので、一回しか挑戦することができないなど、とてもしんどかったです。友達と遊びたくても、どこにも行けないなど、ストレスが溜まっていく一方でした。でも、その分学校で友達と勉強したりして、友達と楽しく学校生活を過ごせました。コロナ禍での学校生活はとても大変でした。大変なのは生徒だけではなく、先生たちも同じであって、通常であればできたことでも、コロナの影響でできない授業内容もありました。その時はとてもショックでした。それでも違う形で授業を教えてくださいました先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。早くコ

口ナがおさまってほしいと常に思う一年でした。

**短** 大生活が始まってすぐに授業が遠隔になり、慣れないパソコンを一生懸命に使って、短い対面授業の中でできた友達と相談しながら遠隔授業を受けた前期が懐かしいです。わからないことがあってもすぐに友達に聞けないし、ひとりでやらなければいけない不安が多かったです。その一方で、学校まで通わなくてよかったことや、着替えてメイクをする必要もないため、遠隔ならではの気楽さもありました。だから、コロナ禍だったからと言って、この一年のすべてがよくなかったとは思いません。たしかに、短大での新生活は、コロナによってグループワークで思うように交流出来なかったり、なかなかサークルに行けなかったりなど、イメージしていた新生活とはかけ離れたものでした。しかし、そんな中でも、バレーボール大会やピンゴ大会、流星祭も開催されて、ちゃんと思いができました。with コロナでの思い出ではありますが、大人になったらそれも全て含めて、楽しかったと思えるのではないかと感じる一年でした。

**コ** ロナ禍の1年、私は当たり前のように普通の毎日を送ることができるとのありがたさに気が付きました。多くの人の楽しみが無くなったことだけでなく、仕事、一生に一度の学校行事、結婚式など、子供から大人までみんなの当たり前の生活が失われてしまったと感じました。そして、私がこれまで中高生の時の修学旅行や星短のセブ島留学、そして学校生活を送ることが出来たことがとても嬉しくありがたい事だったのだと思いました。私はこの1年、就職活動とアルバイトで、自分が将来働く職種について考えました。予想のできない世の中に変化してしまうと、無くなってしまおう仕事、出来なくなってしまう仕事もあるのだと分かりました。私のアルバイト先は飲食店ではなくレンタルビデオショップで、おうち時間のため来店数が更に増

えたので忙しくなりましたが、アルバイトが無くなってしまった人は沢山いたと思います。変化に対応できる職種を選ぶだけでなく、何か起きた時に臨機応変にアイデアを出し、工夫する力も大切なのだ学びました。

**楽** しみにしていた短大生活が半年なくなり、学校が再開したと思ったら就職活動が始まるという大変な一年でした。さらに、行事などもなくなり思い描いていた大学生活が消えました。アルバイトも月に一回と減り、急に与えられた空白の時間ができました。しかし、悪いことばかりではなく自分の時間が増え、趣味に没頭できたり、自分を見つめ直す時間でもありました。授業もオンラインだったので、移動時間もなくて楽でした。逆に家におりすぎると嫌になってきたり、この状況でユニバやディズニーにいてる人を見ると、羨ましかったです。あと一年で短大生活が終わるので、ユニバとディズニーに行ける状況に早くなればと思います。正直、全く遊べてない短大生活を振り返ると、もう2年大学に通おうかと悩みました。求人も減って、枠が狭くなったので、不安しかありません。何とかこの状況を乗り越えて、今後の人生を楽しみたいです。前向きにという言葉を常に発しながら、自分を高めていきたいです。

**コ** ロナ禍で、授業の形が大きく変わったと思います。前期は、遠隔が多かったです。遠隔でも、良いことはたくさんありました。まず、2年生と違い、私たちは友達ができてから遠隔に移りました。おかげで、分からないことがあってもLINEなどのSNSのツールを使ってコミュニケーションを取りやすかったです。また、私の場合登校まで1時間以上かかっていたので、その分を他のことに充てられました。さらに、普通なら学校に行くため色々準備が必要ですが遠隔だったので、その分の時間も削ることができました。マスクもする必要がないので、息苦しく感じないです。こ

のように良い点もたくさんあります。悪い点で言うと、先生に質問しにくい、なかなか勉強に集中出来ない、などがあります。授業が無ければ外に出ないので、人と会う機会も減りました。私からすると、コロナ禍で良いこともありました。自分自身がコロナにならないか周りの人も安心して暮らせるかが心配でした。

**ま** ずアルバイトの面では、コロナウイルスが流行りだしてから、シフト希望を出しても入れて貰えないということが何度がありました。家族の収入も減り、自分もアルバイトを頑張らないといけない時に働かせて貰えないというのが非常に辛かったです。次に学校生活では、入学してから直ぐに対面ではなくなり、オンライン授業になりました。友達も思うように作れず、課題提出の方法や授業で分からない所があっても質問することが大変でした。zoomの授業で、ペアワークやグループワークがありましたが、顔も見えない人と上手く会話をして問題を解くのは難しかったです。対面授業に切り替わった後期は、電車で1時間半ほどかけて学校に通っています。毎日沢山の人が乗っている電車で通学するのは、感染リスクがあり心配でした。そのため、手洗い、うがいやアルコール消毒を以前よりも気にしながら生活するようになりました。友達と遊びたいと思っても、コロナ禍で皆が外出を控えている時に遊ぶのは駄目だと思い、なかなか会うことが出来ませんでした。高校の同級生で東京に進学する子がいたので、最後に遊ぼうと計画していたものもなくなってしまったのが、大変悲しかったです。この事で、いつ何が起きるかは分からないので一日一日を大切にしながら生活しなければならないと感じました。コロナウイルスが、これからどうなるのかは分かりませんが、臨機応変に対応できるようにしたいです。

**私** はこの一年間で、改めて友人の存在の有難さを身に染みて感じた。去年は友人と直接会って話し合うこと

で、助けてもらうことが多かった。具体的には、テストや資格試験の勉強をしなければならない時期には、どこまで勉強しているか報告し合い、教え合うことで勉強のモチベーションを上げることができた。勉強以外でも、心配事があったときには、率直な気持ちを聞いてもらうことで心が安らぐこともあった。今年は就職活動という人生の中でも大きな転換点を迎える年だった。その重みもあったせいか、面接がうまくいかない事が続き、不安になり、自分だけが取り残されたような心細さを感じた。就職活動の時期が自粛期間だったということもあり、出歩かず部屋で過ごすことが増え、考え込むことが以前よりも多くなった。そのような中でも、友人と電話やメッセージのやり取りを通じて悩みを相談し、アドバイスし合うことで、悩みが解決し、気分が晴れるようになった。相談すると、自分の事でもないのに一緒に考えてくれる人がいることが嬉しかった。このような経験から、友人の存在の有難みを再認識し、感謝の気持ちが溢れてきた。短大で出会えた友人とこれからも支え合っていきたい。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って、私は多くの経験をしました。まずは学校の授業です。対面授業から遠隔授業に切り替わり、入学して間もなかったこともあり、全てに不安を感じながら授業を受けていました。また遠隔授業は家で一人で受けることになるので上手く出来なかった時、スムーズに入れなかった時は焦りしかありませんでした。また、遠隔授業になったことにより、友達と会う機会が減ってしまったため、一緒に会話したりすることが少なかったと感じています。学校だけではありません。アルバイトにも影響がありました。私は飲食店でもアルバイトをしています。時短要請が出て、長い時間働くことが出来なかったり、「人が来ないから今日は出なくていいよ」などと言われる機会が多くありました。また、アルバイトだけではなく、親の仕事にも変化がありました。毎日会社

に行くのではなく、時にはリモートで仕事をしている時がありました。みんなと直接会えなくてもなんとか工夫してやっていた、柔軟な対応だなんて思っていました。このように多くの影響がありましたが、いいことがありました。それは家族と過ごす時間が増えたことです。今まで以上にみんなで揃う時間が増え、会話する機会も多くなったのはいいことだと思っています。コロナ禍ではありましたが、コロナ禍ならではの楽しみ方で楽しむことができ、充実した1年でした。

**コ** ロナ禍でも入学式は対面で行うことができたので嬉しかった。本格的に授業が始まり、友人が少しできて学校に慣れてきたタイミングで遠隔授業が始まったので、遠隔授業後の人間関係が心配だったが会わなかった期間があったことすら忘れるくらい和気あいあいと仲良くおしゃべりができたので安心した。また、どのスペースにも毎日定期的にアルコール消毒がされていたり、アクリルボードが設置してあるためコロナを気にせず安心して登校し、勉強に専念できた。遠隔授業だと学校への移動時間が短縮できるので時間に余裕ができるなどメリットも多いが、やはり対面ではできていたこと（講師と生徒の気軽な会話など）ができなくなってしまったり、Zoomにて通信状態が上手くいかず授業に集中できないなどのトラブルがあり、対面授業ほどの満足のいく授業が受けられなかったのは少し残念に思った。しかしコロナ禍という状態を逆に利用し、Zoomではブレイクアウトルームにて様々な学生との意見交換をスムーズに行ったり、余裕のできた時間を使い資格勉強に取り組んだりと意外と充実した日々を送れたので良かった。

**2** 020年3月。世界中に新型コロナウイルスが感染拡大し、たくさんの人々の命を奪い、今までとは考えられない生活になるとは正直思ってもいませんでした。外出することも出来ず、日本中が自粛生活となり、学校はオンライ

ン授業、アルバイトも休み、就職活動もまともにできない中で、不安だけが大きくなっていく一方でした。このコロナ禍で仕事を失う人も少なくなく、難しい時代と言われていましたが、そのような中で、私は就職活動の面接を受けることができ、内定を貰うことができました。感染拡大の原因は若者にあると多くの大人が言っていますが、実際はそうではないと思います。自粛生活でストレスが溜まっているのは自分だけではありません。コロナ患者に携わっている医療従事者の方のためにも3密を避け、不要不急の外出禁止、うがい手洗いはもちろんのこと、アルコールスプレーや除菌シートを常に持ち歩くよう心がけていました。コロナが完全に収まるのにはまだ時間がかかると思いますが、一人一人が考えて行動すれば収まっていくのは確実だし、当たり前なことが当たり前でできる生活に戻る1歩だと思うので、これから社会人になってもしっかりと考えて行動していきたいと思いました。

**コ** ロナ禍で遠隔授業が多く、ズームを使う機会が何度もありました。その中で私は、ズームを使ってコミュニケーションをとることがこんなに難しいとは思っていませんでした。遠隔とはいっても、カメラはオンで相手の顔は見えるし、自分の顔も見え、言葉も交わすことができます。なので、対面とさほど変わらないだろうと思っていました。しかし、見えていても表情をしっかりと読み取ることはできないし、機材トラブルで音声途切れる、すれ違いが起きるということも何度かありました。また、チャットでの会話も何度かあったのですが、文字だけで自分の意見を伝えるというのはとても大変でした。句読点のつける位置によって捉え方が変わってしまったり、文字に感情は現れないので、相手の意思がよみとれなかったりしていました。今では慣れてきて、伝え方や表現の仕方を工夫するようになりました。今の時代、会社でリモートワークを採用している会社は多いと思うし、就職面接で

web面接というものを行っている会社も多いので、この遠隔授業の期間はとても練習になったと思います。

**私**は生まれて初めての経験をしました。2020年2月～3月頃コロナウイルス感染が始め、数か月経てば元通りの生活に戻っていたと思います。しかし、感染は拡大していき「マスクの着用」や「オンライン授業」など新たな生活習慣へと変わっていきました。2020年3月から就職活動が始まる時期に、コロナウイルス感染により合同説明会の中止やオンラインによる就職フェアの開催など、昨年とは異なることが多く、戸惑いや不安を感じることがありました。しかし、友人や短大の教授、進路支援の方の支えがあったからこそ何事にも立ち向かうことができたと感じています。不安なことなど悩みを話すことで、少しでも気持ち楽になり、前向きな気持ちへと切り替えることができました。悩みなど抱えるだけでなく誰かに聞いてもらうことが大切だと気がつきました。スーパーのアルバイトをしており、店内は感染拡大防止対策を徹底して行っていました。レジの担当であったため「お客様との対応の変化」や「手袋の着用」など慣れないことが多々ありました。お客様から「ありがとう」と感謝のお言葉を頂いたとき、コロナウイルスが感染する前の時と変わらず、感謝のお言葉を頂くことで業務に励むことができました。何かをきっかけに今までとは違う生活へと変わっても対応していくことができると確信しました。このような状況の中でも誰かに支えてもらったり、誰かを支えたりすることでお互いが新たな生活を過ごすことができると感じました。今後、この経験を活かし、人生を歩んでいきたいです。

**コ**ロナ禍の一年間を振り返ると、とてもあっという間の一年間でした。2年の初めでは、石川県にも緊急事態宣言が出され、大学ではオンライン授業が始まり、一年次とは全く違う新しい生活スタイルへと変わりました。その中

で、人との関わりが大きく減ったことで成長というものではないかと感じました。就職活動をするにあたり、緊急事態宣言を理由として、なかなか自ら行動を起こすことができずに

いる中でも、内定を貰い就職活動を終えている友人が多くなり、焦りからやっと自分が本当にしたい職種が決まりそこから本格的に就職活動を始めました。コロナの影響や、エンジンをかけるのが遅れたことで、会社の求人が停止したり、自分が入りたい職種の応募が終わっていたりと、焦りから妥協しようかと考えました。しかし、自分の性格上、何が何でも妥協を許せず最後の最後まで精一杯、就職活動をしたことで、したい職種などの条件にも当てはまる満足のいく就職先に内定を頂くことができました。最後まで負けない気持ちと妥協しない気持ちを持ち続けたことで、コロナ禍の就職活動に勝ち抜くことができたのではないかと思います。

**私**が星短に入学した2020年はコロナで今までの生活とは変わりました。入学直後から遠隔授業が続き、憧れていた短大生活は叶わずひたすら家で過ごす日々でした。ほとんどの人がインターネットを利用しなければいけない世の中に変りました。私は小学生の時から家でパソコンに触れることがあったので、はじめは不慣れだった遠隔授業やドットキャンパスの利用もすぐに使えるようになりました。先生たちはファイルの作成や私たちの授業の準備があり、私が話を聞いた先生は遠隔でもわかりやすいように音声ファイルをつけるなどとても工夫をしてくれていました。おかげで遠隔でも理解がしやすく、私達のことをとても考えてくれていて嬉しかったのを覚えています。しかし、その分時間がか



かって大変そうでした。その時に私は受け取る側は与えられたことだけ受け取るだけじゃなく、自分から情報を集めなければいけないことに気づきました。1年の前期の授業は与えられるまで待っていることばかりしていました。その時していたのは自粛と与えられたことを黙々とするということです。今思えば、あの自由にできる時間に考えて生活するべきだったと思います。今は気づいたことをもとに、就職活動の情報を自分から得ることを大事にしています。それは、授業や就職情報だけでなく他のことも同じだと思います。人が動くことが少なくなると自然と話や行く先々で得られていた小さな情報も、入ってこなくなりました。そのため、コロナの情報も同じで、テレビやインターネットでこまめに情報集めをするようになりました。情報を発信する側はわかりやすく的確に伝える必要があります。お互いが努力と配慮が必要です。みんなが1人のために、1人がみんなのために思った行動をしなければいけません。自由な時間がたくさんあった頃、何も考えずに生活していた私はとてももったいないことをしているなと思います。そう感じないように、どう動くべきかを考えて欲しいと思います。そして自分に時間を費やせるので、今まで興味のなかったことに挑戦していくのがいいと思います。私も2年になります。就職活動で忙しいけれど自分に費やせる最後の1年です。努力した分、自信になっていくと思います。自分にも、他の人にも目を向けて生活していきたいです。そしてコロナが早く収まることを願

いながら、頑張りたいと思っています。

**私**はコロナ禍の一年を振り返ると、一番に就活が思い浮かびます。合同説明会が無くなったり、面接が対面ではなくオンラインになったりと自分が今まで練習していたこととは違う本番を迎えなくてはいけないのが辛かったです。採用が中止になる企業が沢山出てきたり、説明会が急遽中止になったりとスケジュールを組むのが大変な一年でした。また、就活という不安がある中、学校の授業もオンラインになったりと、友達に会うことが難しくなっていたので孤独に感じるが多かったです。今まで当たり前前に感じていたことが当たり前でなくなり、また今後も当たり前でないことが普通になっていくかもしれないという不安があります。しかし、コロナ禍の就活という不安な状態から頑張って就活をしていた自分に自信を持ち、これから頑張りたいと思いました。卒業旅行や、大勢の飲み会など今は出来ませんがコロナが収まったら沢山旅行に行こうと思います。

**コ**ロナ禍だったからこそ経験できたことが多くあり、得たことも多かった一年でした。学生生活最後の年は、去年思っていたものとは大きく違うものでした。授業、就職活動など多くのことがオンラインで行われたり、外出も必要最低限しかなかったりと、思ってもみないものでした。はじめは、せっかく学生生活最後の年なのに不運だと感じていました。しかし、オンラインで授業

や就職活動をしていく内に、コロナ禍以前にはできていなかったパソコンの操作が多くできるようになっていることに気づきました。私はパソコンに苦手意識をもっていたのですが、その苦手意識も薄くなっていました。また、コロナでオンライン化が進んだことによって出会えた人もいました。ゼミナールの一環としてzoomで講演会を聴くことがあったのですが、本来なら遠くまで来られなかったけれどオンラインだから参加できたとおっしゃっている方がいました。この言葉を聴いて、今までだったら出会えなかった人に会えることができたことはとても幸運なことに思いました。このほかに、コロナ禍だったからこそ得たことは多くありました。コロナではなかったら、もっと色々なことができたのにと考えるのではなく、コロナだったからこそこんな経験ができたと考えることができてよかったです。今後もこのように前向きに考えて過ごしていきたいです。

**私**は、コロナウイルスのせいだと思うような短大生活が送れなかった。ほとんど学校が行けず、友達との交流が少なかったり、取ろうと思っていた資格が中止になったりしたからだ。就職のことも不安でしかない。家で過ごすことが多かったので、勉強を頑張ろうと思っても、すぐダラダラしてしまうことが多々あった。この1年は、自分に甘く生きていたと思う。オンライン授業だったので、朝も授業ギリギリに起き、夜更かしをする日々が続いた。テストもないので、出席すれば何とかなるだろうと考え

があったと思う。勉強も分からないところはいつも先生や友達にすぐ聞くのに、分からないままにしていたこともあった。自分にとって良くないと分かっているのに、後回しにし、

締切ギリギリの提出が多かったと思う。ガイダンスに毎回出席していても、いざ合同説明会に行くと、大学生が堂々としているのを見て、経験も少ないのに適うわけないと弱気になってしまう自分がいた。その合同説明会から、資格を取得し、就活対策講座を受け、自信が少しずつついてきたと思う。

**コ**ロナ禍の1年を振り返って、初めは中々学校に行けず、オンラインの授業だったため、友達作りがとても不安でした。また、授業もついていけているのかなど多くの不安があり、葛藤する日々でした。なんでこの時期にという気持ちがありました。学校に行くと、皆優しく、気の合う友達もできて、今では楽しい日々を送ることができています。大変で不安だった気持ちも、今はなくなったので良かったです。実際に学校に通えないという経験をして、改めて友達の大切さだったり、普段の生活の何気ないことがいかに幸せなのか実感することができました。また、アルバイトも行けずに、外に出ることがない日が続いて暇な日が沢山ありました。初めは、生活リズムも崩れてしまっていました。でも、この経験も貴重だと思って、普段しない料理を試してみたり、掃除を試みることで、家族との時間を作ることができたので良かったです。とても困難な状況でしたが、その時に出来ることは何かを考え、行動することで、不安もあつたけど充実した生活も送ることが出来ました。

**2**年生の半が遠隔授業と決定した時は心配でしかなかった。実際授業がスタートすると、提出物はちゃんと提出されているのか、見逃しているお知らせは無かったらどうかなど不安な事があつた。隣に友達がいないのですぐに聞くこともできなかった。またZoomも初めて触ったので、最初は戸惑った。しかし、慣れてくると、学校に行かなくても提出物は提出できるし、授業を受けることもできるし、通学に時間をとらない分自分の時間が増えたりといいことがたく



さんあった。Zoomでも、プリントを一人一枚配らなくても画面で共有し見ることができたり、海外と繋いで日本人だけではなく外国人とも交流ができたりなどいいところが沢山あった。その時に応じて、人は対応していけるとわかった。便利な時代に生まれて、自分自身対応して学んでいけることに嬉しく思う。学生時代に貴重な体験ができてよかったと感じる。

**入**学してまだ二か月も経たない頃に、対面授業からオンライン授業へと変わったり、部活動が活動停止になったりと思い描いていた短大生活とは違った生活となってしまいました。約一か月間のオンライン授業は私にとってとても寂しいものでした。入学前は新しい友達ができることに期待を抱き、星短で生活することを楽しみにしていました。しかし新しい友達が一人もできないままオンライン授業となってしまう、「短大生は楽しい」と心から思うことができず、そこで私は「このまま新しい友達ができないのは寂しい」と思い、オンライン上で積極的に話すことを心掛けました。すると自己紹介で共通の趣味の人と意気投合したり、何気ない会話で盛り上がることができました。また、対面授業だとクラスが違い、話す機会がない人もいましたが、オンライン授業では全クラスの人と話す機会もあったおかげで、対面授業が再開したすぐの学校ではオンライン授業で仲良くなった人とたくさん話すことができました。それは私にとって本当に楽しく、幸せなことでした。新型コロナウイルスの影響で思い描いていた短大生活を送ることはできませんでしたが、コロナウイルスのおかげで仲良くなった人もたくさんいるので、すぐに環境のせいにしないで自分で環境を良くしていく大切さも学ぶことができました。また授業だけでなく、部活動でも新型コロナウイルスの影響が大きく響きました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、部活動が約二か月間活動停止になってしまいました。高校生で現役を

引退し一年のブランクがあったこともあり、早く練習を再開したいと毎日のように思っていました。やっと部活動が再開することが決まった時、とても嬉しかったのを覚えています。しかし、いざ練習を再開してみると、何もできなくなっており、私ははじめてここまで大きな挫折を味わいました。毎日泣きながら練習し、次第にましになっていくことができ、12月に行われた大会では個人優勝をすることができました。優勝したときは自分のやってきたことが正解だったと感じることができ、部活動をしてきた中で一番嬉しかったです。コロナウイルスがなければ、もっと多くの時間練習することができたり、大会に参加することができたりしたと思います。ですがコロナウイルスのおかげで自分が部活動に対する思いを見つめなおすきっかけを作ることができたと思います。また、本来部活動を行っている時間が空いたことにより、筋トレや勉強をする時間が増えたことで自分の目標がイメージできたので良かったです。正直、コロナウイルスがなければ良かったと思うことの方が多いですが、コロナウイルスが拡大したことで今まで自分がどれだけ恵まれた環境で学校生活を過ごしたり、部活動を行ってきたのかを知ることができました。まだまだwithコロナの生活を送らなければなりませんが、その中に自分なりの楽しいと思えることや、幸せだと思える瞬間を増やしていきたいと思っています。

**短**大に入学してから、コロナ禍で一  
年過ごしてきて、リモートや対面を繰り返していたので振り回された一年だったと思いました。対面授業では、友達と直接話すことが出来ることでコミュニケーションが取れるので、楽しく授業を受けることができました。しかし、リモートでは友達がいない寂しかったのですが、いないことにより授業にしっかりと集中することが出来たので、メリットもあったと感じました。コロナ禍ということもあり、旅行には出かけることはせず、近場で友達と遊んだり楽しむことを

しました。しかし、高校と違いアルバイトを始めて、自分で稼ぐことができたので、旅行に行くなど楽しみたかったです。マスク、手洗い、消毒、人混みに行かないという行動を1年間、コロナが流行ってから行ってきました。その結果、コロナにかかることなく学校に通うことが出来て良かったと思います。また、コロナと共に過ごしていくと思いますが、気をつけて過ごして行きたいと思います。コロナ禍でも、学校生活を楽しみながら充実させていきたいと思っています。

**コ**ロナウイルスの影響で講義がオンラインになる機会があった。その際に、他のクラスの人達と関わることが多かった。ディスカッションが多かったため、話し合いをする際に誰も話さないことがあった。緊張したが、自分から話しかけることができた。そのことによって、話し合いが上手くいき、課題解決に繋がるための案を提案した。このことによって、以前の自分より積極性が向上したと思う。また、オンラインになったことによって、パソコンを使う機会が増えた。対面の時と違ってわからないことがあったらすぐに聞けるという状況下ではなかった。一度、ネット回線がひどく繋がらなかった時があった。そのため、授業に入ることができなかった時焦った。しかし、担当の先生にすぐ連絡を取り、解決方法を教えてもらい、無事参加することができた。この時、とても焦っていたため、どうすればいいかわからなかった。しかし、周りの人に相談したことで解決することができたが解決できなかったらどうしようという不安もあった。この経験から学んだことは、焦らずまず落ち着くことだ。このことによって、何かアクシデントが起きても冷静になると考えることができた。周りが困っていたら助けるという協調性や臨機応変に対応する力などといった様々なことをコロナ禍で学べた。「ピンチをチャンスに変える」という言葉を信じて何事に対しても取り組んでいきたい。

**コ** ロナ禍の一年は最後の学生生活でしたが、中々学校に行けず友達と会うことができませんでした。海外旅行や、国内旅行の予定も立てていましたが、新型コロナウイルスの流行でどこにも行けず悔しいです。就職活動も思うように出来ず不安でいっぱいでしたが、オンライン上で相談ができる機会を設けていただけたり、友達とも情報を共有したりして乗り越えることができました。公務員を目指していたので、勉強に集中できる環境は作れていたと思います。新型コロナウイルスの影響で、友達に会うことや旅行をする事が出来ない一年でしたが、オンライン上で繋がったり家族と過ごす時間は増えこれまでとは違った一年を過ごす事が出来ました。家にいる時間も増えた事で、今までにない取り組みや家の手伝いなどをする機会も増え、自分なりに成長できた一年だったと考えます。また星短ではオンラインでの対策を多くしてくれていた学校だったと思うので、コロナ禍でも授業を受講できていたのでよかったです。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って今までの生活の違いに戸惑うことが多かったように思います。就職活動は初めてのことだったので、コロナでどのような形になるかと、より不安になりました。面接でもリモートになったりなどして、ふだん機械にあまり触れてこなかったのが、ちゃんと繋がっているかなど不安になりました。就活はすごい不安しかありませんでした。ですが、時々、友達と電話をして、相談にのってもらったり、話を聞いたりすると、不安に思っているのは自分だけではないと気づくことができました。友人のことを改めて大切な存在だと実感しました。そして無事に就職先も決まり、よかったですと思いました。学業はやはり対面の授業の方が理解できるし、楽しいと感じました。前期はリモートでしたが、後期はほとんど学校で授業がありました。後期であった対面授業は分からないことがあれば隣の人に聞くことができ、とても受けやすかったです。

友人とも会う機会が多くなるので嬉しかったです。

**冬** 休み中だっただろうか。いきなり新型コロナウイルスというものが現れた。そして、早い収束を願っても、なかなか見通しが立たなくて自粛続きの生活となった。それは、引きこもりの生活が始まったみたいだった。初めの頃は、家事や勉強、祖父母との時間が増え、充実していた。だが、しだいに誰かに会いたくても会えない、目標を持って取り組んでもすぐに見失ってしまう、こんな私がもし、内定をもらえたとしても4月から働けるのか、役に立てるのかなど不安が積み重なっていった。そして、公務員試験の勉強、その上家事も、というふうにしなければならないことがたくさんあるにも関わらず、何もすることがないかのようにだらだらと過ごすようになった。さらに、家族と居ることも、楽しかったはずが顔を合わせるのが嫌になってきた。私は、今まで明るくて、何か体を動かしていないと気がすまない性格だったため、このようなストレスだらけで頭で分かっているのに何もしない自分をなかなか受け入れることができなかった。そのような日が続き、いつのまにか公務員試験の一ヶ月前になっていた。私は、こんな軽い気持ちで公務員試験を受けてはいけない、目先のことでなく将来を決めるのだからと、何とかして不安とストレスの悪循環から抜け出そうと思った。そして、友達と電話で相談したり今まで撮ったたくさんの人との写真を飾ったり、クラコみやゼミで先生からもらった言葉を読み返したりして勇気ももらった。そのお陰で、自分が以前と違うことも受け入れることができたし、やるべきことに一つ一つしっかりと向き合うことができるようになった。気づけば、以前の笑顔に戻ってきていた。私は、このことから、人とのつながりの大切さやありがたさを身にしみて実感できた。人はそれぞれ性格も顔もちがい、合う合わないはあるけれど、今まで出会った人との出会いがあったことがとても素晴らしいこ

とでかけがえのないことだったと気づくことができた。また、家族に対しても、今までどのように接してきたのか、親はどのような気持ちで私を育てているのかなど考えるきっかけにもなった。いろいろなことを考えるうちに、やはり、人はひとりで生きることができないのだと強く感じた。そして、誰かに支えてもらっているのだから、私も誰かひとりでもいいから支えていきたいと思った。今は、そのために、毎日毎日、今できることを精一杯努力している。そうすることで、気分も晴れ晴れとし、コロナに負けず立ち向かえていると思う。このように考えると、コロナ禍である今、目を背けたり落ち込んだりと、逃げてコロナに負けていては、一日一日せっかく生きているのにもったいない。私は、このコロナの状況によって、現状を少しでも受け入れて正面から立ち向かっていかないといけないのだと思い知らされた。いつまでこの状況が続くかは誰にも分からないが、これからも正面から受け入れることを努力して一日一日少しでも成長できるように、誰かを支えていけるように精一杯頑張ろうと思う。

**コ** の1年間はすべてがコロナに影響された年でした。星短に入学する前、パンフレットで京都や海外旅行に行っている先輩の姿を見て、私も行きたいと思っていました。しかし、コロナの影響でこれらの行事がすべてなくなってしまいました。憧れていた短大生活とはかけ離れていると感じることが多くありました。コロナがなければ今頃もっと楽しいことがあったのではないかと考えることが増えました。しかし、コロナ禍であっても、流星祭はとても楽しかったです。コロナ対策した上だったので、制限されていることもありましたが、みんなとても楽しめていたと思います。今までリモート授業が多く、あまり人と関わって来なかった分、たくさんの人と話したり活動したりすることが新鮮でした。流星祭という機会があったからこそ、新しい人と関わることもできたの

で、コロナ禍でも規模を縮小して開催して下さったことに感謝しています。友人と遊ぶとなっても、遠くへ旅行することに制限がかかることが多かったです。計画していた旅行もコロナのせいで中止になってしまいました。しかし、コロナ禍だからこそその楽しみ方を見つけ、家や密にならない場所でパーティをしたり、ご飯を食べたり、自分たちなりに工夫した生活を送っていました。今のご時世だからこそその楽しみ方を見つけることによって、この苦しい生活も乗り越えられると思います。これから先、コロナが終息するかはまだ分かりませんが、今のような生活が続いても、ネガティブな気持ちでいるのではなく、今の状況を自分なりに楽しんでいけたらいいと思いました。

**前** 期は授業や課外活動があまり出来なく充実した学生生活を送ることが出来るのかと不安でした。その中で、私は今できることをしようと思い、3つの資格取得に励みました。その内の2つは授業内で勉強し、何度も過去問題を取り組むことができたため、自信を持って試験に挑むことができました。しかし、MOS-Excelは授業では少し勉強しただけで、自習がメインでした。まずはテキストに沿って問題を解いていきました。慣れてからは過去問題を繰り返し解きました。初めは操作や語句の意味を覚えることが大変ですぐに集中力が切れてしまいました。ICT活用実習のメタ認知の授業より、自分の気持ちをコントロールする方法を知りました。そこで私は、勉強する時間を決めてメリハリをつけることを意識しました。その結果、勉強する習慣が付き、資格取得が終わった今でも、集中して勉強することができるようになりました。私は資格勉強により自主的に勉強する方法や力を身につけることができました。また、コロナ禍のような社会の変化に対応して、今できることを精一杯取り組むことの大切さを実感しました。今後は、課外活動ができることを期待しつつ、授業や資格取得に挑戦してい

きたいです。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って、どのような状況下であっても、継続し努力することは重要なことだと感じました。短大に入学し、前期は慣れないまま遠隔授業に移行しました。何度も、遠隔授業と対面授業を繰り返していたため、遠隔授業の多くはZoomなどを利用した授業が行われました。Zoomでの講義は、その場に全員が集まらなくても授業を受けることができる反面、相手の反応が分かりにくいことや、対面ではすぐに解決できることでも解決するまで時間が掛かってしまうことなど、大変なこともありました。良かったことは、時間を有効活用できた点です。通学の時間などを有効活用し、予習復習をすることや、トラブルがあった場合はすぐに連絡を取るように心掛けました。学生生活では、資格取得という目標を持って、学習に取り組むことが出来たと思います。また、日々の講義の参加や、課題、試験勉強などを通して、継続的に取り組む力をつけることができたと感じます。

**私** は2020年度からのコロナ禍においてその影響を受け、人と人との繋がりの大事さを改めて学びました。また、前期のオンライン授業を通し、自分なりに適切な時間の使い方を身につけることができたのではないかと思います。前期のオンライン授業では、不慣れたパソコンを使いこなし、さらにこれまで勉強したことのない新しい科目の勉強を、外出自粛のため家で1人で頑張らなくてはいけないという環境が大変でした。また私は地域のバレーボールサークルに入っており、地域の方々と体を動かす汗を流すことがストレス発散方法だったのですが、コロナウイルス感染予防のためそれもできず、自宅での学習とアルバイトのみをこなす時期が数ヶ月以上も続いたことはかなり苦痛だったように思います。しかしそのような環境下に置かれたことで、今まで当たり前のように毎日会っていた友人と会えること自体が幸

せなことなのだと気付くことができました。また、アルバイトを2つ掛け持ちしていたこともあり、アルバイトの空き時間に復習、予習をこなすなど、高校生のときまでにはなかった自分なりの時間の使い方を身に付けることができたのではないかと思います。このことから、自分にとって苦しく辛い状況に置かれても、悲観的に捉えるのではなく、その中でしか得ることの出来ない学びや経験を今後の自分にどのように活かしていくのか考えていくことが大事なのだと思いました。未だにコロナの影響は多々ありますが、その中でも主体的に学びを得る機会を見つけ、その中で出てくる困難を乗り越えていく「過程」そのものを大事にしていこうと思いました。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って、私は遠隔授業がとても大変だったと感じました。なぜなら、今までパソコンを使うことがあまりなく、遠隔授業の際に使うzoomというアプリも知らなかったからです。初めてzoomを使って授業を受ける時は、自分が出席扱いになっているのか、また自分の声が聞こえたり、顔が見えていたりしていないかととても不安でした。パソコンでレポートを提出する際も、きちんとレポートが届いているのか心配になり、何度も提出するボタンを押してしまうということもありました。遠隔授業になったことで、不安などを感じることもありましたが、同時に遠隔授業で良かったと思うこともありました。例えば、人と気軽に話すことができるということです。私は、人と話す時に緊張してしまい、フレンドリーに話せないということがよくありました。しかし、遠隔授業になったことで、人と顔を合わす必要がなくなり、緊張が少し和らぎました。その結果、対面授業の時よりも気軽に人と話すことができるようになったと思います。このように、遠隔授業は大変なこともありますが、良いこともあったと感じます。コロナ禍の1年を通して、遠隔授業について深く知ることができたため、これからは遠隔授業で学んだ

ことを授業や就職活動で活かしていきたいです。

**私**はコロナ禍で沢山の生活の変化が起きました。まず、学校の授業は全てオンラインに変化しました。オンライン授業では家にいる環境ということもあり、英語のスピーキングや、授業のグループ活動が出来なくなりました。その分課題が増えて1人で課題に取り組む機会が増えました。今までは友達に気軽に相談する事ができていた分だけ、不安を感じるようになりました。しかし、文字や通話での相談をしたり、1人で取り組んだからこそ違いが強く出て良かったりしたとも感じました。オンライン授業では成績に差がつけにくいことから皆の成績が平坦になったように感じました。そのため自分の成績が対面授業時よりも下がったことは少し不満はありました。他の変化としてはアルバイトでも大きな変化がありました。私はスーパーのレジ部門でアルバイトをしていました。レジにはビニールが貼られ、私自身もマスクと手袋を着用して接客にあたりました。マスクはともかく、手袋は中が蒸れて気持ち悪い思いもしました。お客様もどこかビリついている人が多く、コロナならではのクレームもありました。そのため私はお客様の心配を減らすために消毒等のコロナ対策を徹底しました。精神的にまいてしまいそうな出来事もありましたが、感謝をしてくれるお客様や、頑張ろうと言ってくれるバイト仲間のお陰で元気にアルバイトができたと思います。このように沢山のマイナス面も感じたコロナ禍ですが、それでも周りと協力して、その状況に対応していくことでなんとか乗り越えていくことが出来ました。厳しい環境でもそれを乗り越えようと、それに合わせて変わっていきこうとする力がコロナ禍で身についたと思います。

**私**がアルバイトを始めたのはコロナウイルスが少し落ち着いた頃だったのですが、落ち着いてはいても、流行っているものは流行ったので、お店

に来る人は少なく、やることも少ないのでとても暇でした。私がアルバイトをしている飲食店には隣接してスーパーマーケットがあります。しかし、そのスーパーマーケットもコロナの影響で時短営業をしています。コロナが流行る前は、そのスーパーマーケットで買い物をして、隣の飲食店でご飯を食べるという人が多かったと店長から聞きました。そのため、コロナが流行る前はさほど暇ではなかったと仰っていました。緊急事態宣言やまん延防止宣言の発令によって、お店はかなり打撃を受けたと感じます。コロナ禍によって消毒の徹底やソーシャルディスタンス、マスク着用など、どこへ行っても強要されています。誰か一人の身勝手な行動が全体に迷惑がかかり、このコロナ禍が終わりを迎えることなく、ずっと続いていく恐れがあるということを知りました。コロナ禍が早く終わるためにも、みんなが気を抜くことなく政府の要請を聞くべきだと感じました。

**コ**ロナ禍の中で短大生活がスタートし、通常とは違う形で授業をすることも多かったのですがとても学びの多い1年でした。短大生になってから初めて遠隔での授業をしてちゃんとしていけるかどうか不安でしたが、自宅にいても効率の良い学習ができるよう自分で時間や目標を決めて取り組むことができました。特に印象に残っていることは学食改善の企画案を出したことで、学外授業で地域の方と直接かかわることができたことです。普通に授業を受けるのではなく活発にグループワークを取り組んだり楽しい授業が多くモチベーションを向上することができました。この1年を振り返って、1つやり残したことは資格取得です。もっと力を入れて積極的に自分のスキルアップをするべきだったと思いました。この反省を活かして2年次では何事も後回しにするのではなく、すぐに行動に移すことを目標に頑張ります。そして、この一年間は友達と助け合って学業に励むことができました。短大で出会った友達にとっても恵まれ、ともに頑張る心

強い仲間ができて嬉しかったです。

**2**020年度は、正直不安や心配事が大きい1年だったと考えています。短期大学への進学が決まり、短い学生生活と就職活動に恐怖を感じていました。私がそんな感情を抱く中で、世間ではコロナウイルスの流行が話題となりました。このニュースが私の不安をさらに加速させました。4月から7月までの授業が全て対面からリモートに切り替わるという事態となり、知り合いもおらず慣れないパソコン作業に心の整理が出来ない時もありました。知り合いのいない短大を選択したことは間違いだったのだろうか、短期大学ではなく、大学を選択すべきだったのだろうか、この先、私は自律して生きていくことはできるのだろうか。学校のことを考えれば考えるほど悪い方向に考えてしまうようになってしまいました。そんな前期を送った私ですが、後期に入りこれらの感情は緩和されるのでした。なぜなら、9月から対面授業が始まったからです。学校に行き始め、友人が少しずつできました。話をできる人がいるだけで学校が楽しくて仕方がありませんでした。4月から普通に学校が始まっていたらもっと早く友人たちに出会うことができていたかもしれないと考えるとコロナウイルスは非常に残酷でなぜこの時期なのだろうと何度も考えました。しかし、考えても仕方ありません。友人ができ、私にも心の余裕が出てきました。コロナウイルスを恨むのではなく、こんな状況だからこそ得られた力に目を向けようと考えられるようになりました。初めは慣れなく苦労したパソコン技術やこんな状況だからこそ自分から動かないと考えられるようになったことが私の成長です。この状況を経験することが出来たことやこの状況で得た力は非常に貴重なものであると感じます。この経験から身についた力で2021年度も頑張っていきたいと思っています。

**コ**ロナ禍の1年を振り返って、初めての経験で戸惑うことが多かった

と感じました。授業では前期は全てオンラインとなり、テキストレポートでの課題やzoomを使用した授業が多く、初めはとても苦労しました。また、地元を離れ一人暮らしを始め頼れる人も近くにおらず、学校に行かないので友達もなかなか出来ないという状況が長く続きました。しかし、そんな中でも私は、多くのことに挑戦しました。ひとつは、サークル活動です。オープンキャンパスサークルに入り、コロナ禍の中でも夏休みに全員集まって活動しました。友達が増え、先輩とも話すことが出来、とても充実した1ヶ月を送ることが出来ました。もうひとつは、アルバイトです。コロナウイルスの影響や一人暮らしをしているということで、人と話す機会が少なかったのですが、アルバイトをして、幅広い年代の人とコミュニケーションをとることが出来ました。他にも、MOONSHOTやCDP講座など多くのことに挑戦しました。この1年間では、戸惑うことも多くありましたが、初めてのことに多く挑戦することのできた、素敵な1年になりました。

**コ**ロナ禍の一年を振り返り、言葉の伝え方、表現の仕方が良くなったと感じます。コロナウイルスの影響により、家から出ることも少なくなったことから、人と話す時はZoomやビデオ通話、電話、LINE等の文面など機械を通しての会話が増えました。電話をする時は、声のトーンを気をつけながら会話をするようになりました。Zoomなどのビデオ機能を使う時は、声のトーンに加え表情をオーバーに作るような工夫をしました。そして、LINEなどの文字を使って会話をする時は、相手の受け取り方が分からないため、コロナ前は全く使わなかった絵文字を使っての会話をするようになり、言葉遣いも丁寧になったと思います。以前は、言葉が足らずとも表情で雰囲気や困らせていたものも、中々できなくなったからこそ、これまでは気にしていなかった部分にまで気を使えるようになり、人の気持ちをより考えるようにな

りました。また、入学したばかりで相手のこともよく分からなかったからこそ、深く考えられるように努力しました。コロナウイルスは悪いことだらけだと思っていましたが、気にしていなかった

ことにも気を配れるようになったため、自分の成長にも繋げることができて良かったと思います。

**急**な新型コロナウイルスの流行で私たちの短大生活は激変しました。毎日友達と学校で会うのが当たり前でしたが、外出自粛要請によるオンラインで授業を受けることになり、今までとは180度違う学校生活になりました。私たち2年生も戸惑いましたが、もっと戸惑ったのは、一年生だったと思います。楽しい大学生活の一部がコロナの影響で、想像していたものとは全く違ったと思います。しかし、慣れないオンライン授業も先生方のおかげでスムーズに受けられました。私は、就職ではなく、進学希望だったので就職活動の大変さは友達から聞いていました。その中でも、進路支援課の方が手厚くサポートしてくれたそうで、とても感謝していました。私自身も、編入試験の時に何度も進路支援課に行きアドバイスをいただきました。毎回、的確でわかりやすいアドバイスでたくさん助けていただきました。とても感謝しています。コロナ禍での学生生活は、ある意味私たちの年代でしか味わうことができない経験だったと思います。この経験をマイナスに捉えるのではなく、プラスに捉えこれからの生活に生かしていきたいです。

**私**にとって2020年は新型コロナウイルス拡大の影響を受け、何事も自分の思うようにならなかった1年だった。私は高校生の頃から様々な短大



生活を思い描いていた。サークルに入り、先輩との交流を深める。友達を沢山つくり、夏休みにはその友達と旅行に行く。海外に行き、沢山の経験を積む。など沢山の夢のような短大生活を思い描いていた。しかし、入学直後すぐに前期は遠隔授業で実施するということが決まった。その連絡が来たとき、私は不安や焦りなど様々な気持ちが入り混じり、深く落ち込んだ。そして、その日から遠隔授業がはじまり、最初は操作が分からなかったり、苦労することが沢山あった。授業では、zoomのビデオで会ったことも話したこともない人と会話をする場面あり、私は極度の人見知りのため非常に緊張した。毎日、このような誰にも会わず、ただパソコンを見ながら1人で授業を受ける日々が続き、正直私は本当に苦痛だった。しかし、辛い思いをしているのは私だけではなく、世界中全員が辛い思いをしながら頑張っているのだと思うと前向きに頑張ることができた。後期に入り対面授業がはじまり、やっと沢山のひとと顔を合わせて会話することができ、友達も作ることもできた。後期でも運動会が中止になったり、流星祭が縮小開催になったりと思うようにいかないことが沢山あった。しかし、多くの素敵な友達に恵まれ、毎日楽しい学生生活を送ることができ、私は幸せを感じていた。2021年は早くも学生生活最後の年である。このコロナ禍のなかでの就職活動は非常に大変になると思う。そんな時こそみんなで励ましあいながら頑張っていきたい。また、絶対に後悔しないような学生生活を送りたいと強く思う。

**短**大生活を過ごす中でコロナの影響から遠隔授業での授業参加をはじめ様々な影響があった。その中で学校面とアルバイトの面で生活を振り返ってみる。まずは学校面だ。入学したての頃はコロナ禍での学校生活はスムーズに授業が出来るのか、友達が出来ると不安が多くあった。しかし、先生方のサポートや分かりやすい説明のおかげで何の心配もなく過ごすことができた。遠隔授業が終わり、後期の授業では友達も増え、楽しく毎日過ごせるようになった。短大生活は資格や試験などコツコツと勉強しなければならない。ずっと家の中だとだらけてしまい私は勉強しづらい環境だと思った。そこで私は今日中にやらなければならないことをリストアップすることにした。そうすることで自分の中でけじめをつけて生活できるようになった。コロナ禍で計画性をもって生活出来るようになったと思う。次はアルバイト面である。7月からはじめたアルバイトだったが、8月、9月と自粛期間のため休業が続いた。慣れてきた仕事が突然できなくなり歯痒い思いもしたが、今では2つの仕事を掛け持ちして行えるようにまどなった。アルバイトではお客様とのコミュニケーション、言葉遣い、優先順位をつけて行動するなど様々なことを学べた。社会人になるにあたって、とても良い経験ができたと思う。今ではアルバイトと学校生活の両立がきちんとでき、充実した生活を送っている。自分を律することを忘れず、これからの生活に活かしていこうと思う。

**私**はコロナ禍の一年を振り返って自分自身のコミュニケーション能力が鍛えられ、表情が豊かになったと感じます。私はコロナ禍で短大生になってからアルバイトを始めました。現在も続けておりますが、このアルバイトは接客業でお客様との会話を弾ませることが重要視されます。アルバイトを始める前の私は親にも言われてしまうほど無愛想でした。アルバイトを始めた当初は人見知りが発動して、初対面の人と話せないかも

しれないという不安や、少し飽き性な部分があるので続けられるのかという心配がありました。しかし、アルバイト先の先輩やオーナー、お客さんの人の良さに恵まれて楽しく充実したアルバイトが来ています。アルバイトを続けていくうちに私のコミュニケーション能力と豊かな表情が育まれたのか、お客さんもお礼を言うようになってきたり、話しかけてくださるようになりました。このようにアルバイトを通して私にはプラスの要素が増え、弱みを強みに変えることが出来ました。この先新型コロナウイルスの情勢がどうなっていくのかは分かりませんが、何事にもめげずに日々元気いっぱい全力で過ごしていきたいと思えます。

**2**020年を振り返ってみて、今までではあり得ないことだったり、新しいことをしなければいけない状況がたくさんあり、対応力が鍛えられる一年だったと思えます。星短を受験するときは、新しい場所に行って新しい生活を始めることに、ウキウキしていました。しかし、コロナで入学式を行なってから通えるようになるまで、何ヶ月も間が空いてしまい、入学したのにしていないような感覚でした。学校に通えなくて一番悲しかったのは、新しい友達を作れないことでした。入学式でしか会うことができず、今仲良くしてくれている友達とも一年の半分は思い出が作れませんでした。コミュニケーションが上手な友達には、zoomなどのグループ活動で喋った子とInstagramを交換して友達を作っており、オンラインになったからこそ、自分のコミュニケーション力の低さに気づくことができました。ですが、前期の授業でzoomを使ったグループ活動をたくさん行ったことで、少しずつ克服することができ、オンライン授業で新たなスキルや、自分の苦手なことなどが分かるいい機会だったと思えます。オンライン授業のわからないところや、トラブルなどは高校から一緒に友達に相談したりして、なんとかオンライン授業を乗り越え

ることができましたが、県外から来て友達もいない人たちにとつたら、もっと大変だったと思えました。また、コロナの時期は、学校以外でも、今まで関わってきた友達の価値観の違いにも気づくことができました。コロナが流行ってから外にご飯に行くことや遊びに行くことが難しくなり、誘いに断ることが増えました。コロナに対して、同じぐらい危機感を持っている友達は、予定を立てるにしても、同じ考えを持っているのですが、私よりも危機感が少ない友達は、コロナが流行っていても遊びに誘ったり、ご飯に誘ったりということがあったので、毎回誘いを断るのがとても心苦しかったです。私はあまり否定をしたり、自分の意見を言うのが得意ではないので、毎回曖昧に断ってしまっていたのですが、はっきり断る方が相手にとってもいいということを学ぶことができ、自分の考えを言う力もつけることができました。コロナになって、お出かけができなかったり、学校に通えなかったり、大変なこともたくさんあったけど、その分新しいことを行なう機会がたくさんあったことで、時代や状況に対応する力が身についたと思うし、コロナだからこそ気づいたり、感じたりすることもあって、精神的にも成長できたと思えます。大変な年だったけど、とてもいい経験だったと思えました。

**コ**ロナ禍の一年を振り返って一番印象的なのは、やはり遠隔授業があったことです。短大に入学して周りに友達もいない中、授業まで遠隔になってしまい、これからの友達作りや就職活動への不安がとても大きかったことを覚えています。実際に授業が始まると、最初はzoomが途中で止まってしまうたり、授業内のグループディスカッションでなかなか話し出せなかったりして、対面で表情を見ながらなら容易にできそうなことが遠隔だとどうもいかないことに悩みました。しかし、遠隔授業になったことで得られたことも多くありました。最初はうまくいかなかったzoomでのディス

カッションも、回数を重ねるうちに自分から話しかけて会話を進めることが出来ました。また、顔が見えないからこそ、相手に自分の伝えたいことがしっかり伝わるような言葉や説明を心がけて話すようにしていたと思います。さらに、遠隔授業で一番身についたと思うことは、しっかりと自己管理を行うことです。授業の開始時間に合わせてパソコンなどの準備をするのはもちろん、提出物を出す時はもし不具合があった時のために、期限までに余裕をもって課題やレポートを提出するようにしていました。授業の予習や復習を自分のペースで考えて取り組むことが出来た点は、遠隔の良い点であり自分が成長できたところだと思います。他にも就職活動が困難になることを考えて、MOSのExcel、Word、PowerPointの3つの資格全てを取得を目指しました。何度も自分で模擬テストを練習し、最終的に3つ全ての資格を取得できたことは大きな自信につながりました。対面で授業が出来なくても、自宅で自分なりに勉強して得られるものもあるのだと実感し、とても嬉しかったです。コロナに感染して命を落とした方や今も後遺症で苦しんでいる方、飲食店の経営者の方、イベントや旅行が出来ないことなど、コロナは私たちから色々なものを奪ったかもしれません。しかし、同時にコロナによって得られたもの、考えさせられたことも多くあるのだと今は感じています。もしコロナが流行していなかったら、家族や友人と会って当たり前の生活が出来ることの幸せに気づけなかったと思います。そして、医療従事者の方々が私たちの命を救うためにどれだけの力を注いでくれているのかを知らずに過ごしていたと思います。私はこの一年を通して、人への思いやりや助け合い・支え合いの精神を持つことの大切さを改めて実感しました。これからも今自分が出来る対策を行いながら、何事にも感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。

**コ**ロナがはじめに中国で出たというニュースを見た時はそこまで深刻に考えていませんでした。海外でのことだから日本にいる自分には関係ないかと軽い気持ちでした。でも、日に日に感染者が世界中で増え続けて、死者まで始めてようやくこれは軽く考えて良い問題ではないのだと思いました。一年の頃は普通に友達と登下校して、授業も受けて、休み時間にダラダラと話すことが当たり前だったのに、コロナの影響で当たり前だったことができなくなりました。前期はオンライン授業になり、電車を通っている私としては時間を気にしないでよかったです。メイクや服装も気にしないでよかったです。いいこともあったけれど、外出することも厳しく、友達と会う機会が減ったことが寂しかったです。私たち2年生は就職の時期と被ってしまって、普通の就職とはまた違っていたと思います。会社訪問は日数をいくつか設けて人数制限をして行ったり、zoomなどのツールを使っての会社説明会があったり、外出する際には常にマスクをつけないといけないといけなく、第一印象が重要な面接でも、マスクで表情が見えないことで、目だけが見えている状態で笑顔で、いかに自分の印象を伝えるかが大変でした。私は飲食店でアルバイトをしているのですが、日本にもコロナ感染者が増え、国から休業要請が出されたことでバイト先も、1、2ヶ月程休業していました。久しぶりのバイトに行った時には、お店の人たちや、いつも来てくださる方たちの元気な姿が見れたことが嬉しかったです。今もコロナ感染者は増え続けていて、以前の生活を送ることは難しいけど、落ち着いたらどこか旅行したいです。

**私**は、このコロナ禍の1年を振り返って初めての体験ばかりだったと感じました。入学式は行うことが出来ましたが、高校の友人の学校では入学式をせずにすぐに始まるというところもあったので、入学式をしてケジメをつけることが出来て良かったと思います。

説明のガイダンスが全て終わるとまたコロナが流行りだして1ヶ月後からのオンライン授業に切り替わりました。初めは戸惑うことばかりでZoomの設定やカメラの調整、ネットワークを整えるなどとても苦労しましたが、授業のない期間に設定を済ませておくことでスムーズに授業に参加することが出来て良かったと思います。逆にコロナ禍で良かったことは、夏休みや春休みなどの混んでいない時期に運転免許をとる事が出来たことです。私は短大生になってすぐアルバイトを始めたのですが、対面で授業だと学校から帰ってきてアルバイトに行く自動車学校に行く時間が無くなってしまったためオンライン授業を終わらせてアルバイトが始まる前に自動車学校に行くことが出来たことや、混んでいない時期で短い間にたくさん通うことでスムーズに免許を取ることが出来ました。このことから、コロナ禍で大変なことももちろん多かったです。得ることもたくさんあったと感じることができました。

**コ**ロナ禍の1年で最も大変だったことは就職活動です。コロナの影響で大規模な合同説明会が中止になったり、面接の時にはマスクの着用で話づらかったりと様々な面で苦労しました。毎日短大で会っていた友人とも会うことがなくなったので寂しい時もありました。就活の情報交換や近況報告など直接できないのは多少なりとも不安でした。ですが、進路支援課の先生方が親身になって話を聞いてくれたり、時々私に電話をかけてくれて「就活どう？」と声をかけてくれたので乗り越えることができました。ステイホームの期間があったので、とことん自分の趣味の時間に使いました。私は絵を描くとき、普段はボールペンだけで済ませていましたが、戸棚の奥から絵の具セットを引っ張り出して描いたりしました。私が所属している吹奏楽サークルも活動できなかったため、自宅でサクスを練習したりしました。時には映画やアニメを見たりして時間を過ごしていました。母から料理を教わった

りして食事の時間も楽しみました。私の趣味は自宅でできることばかりだったので自粛期間はそれほどストレスは感じませんでした。予想外の事態で不安なことがたくさんありましたが、家族や友人、短大の先生方が支えてくれたおかげで心身ともに健康な1年を過ごすことができました。友人らと旅行や外食が気兼ねなくできる日が待ち遠しいです。

**私**は、コロナ禍の一年を振り返って当たり前前の日常は、幸せだったのだと実感した。なぜなら、コロナ禍の中で日常が大きく変わったからだ。短大入学後もコロナ禍は続き、リモート授業になることも多々あった。しかし、コロナ禍にも慣れてきていたこともあり、お家での過ごし方も工夫することが出来た。リモート授業になったことで、時間に余裕ができ、予習・復習を徹底的に行うことが出来た。また、予習・復習ができたことにより、授業へのモチベーション向上に繋がることが出来た。このように、リモート授業になったことを、自分のメリットに工夫することが出来ると実感することができた。コロナ禍で学生にとって苦しいのは、行事が出来ないことではないだろうか。私も、短大生活で楽しみにしていた行事は惜しみなくなってしまう。そんな中、流星祭を開催してくれた学校にはとても感謝している。制限はたくさんあったが、とても楽しむことができ、来年の流星祭も楽しみである。コロナに負けないよう、残りの短大生活を楽しみたいと思っている。

**2** 020年度の自分自身の生活を返ってみて、正直想像していた短大生活を送れなかった年だった。私は短大生という短い学生生活を家で過ごした気持ちや不満をどこにぶつけたらいいか、学校の費用はどうなるかなど、不安な気持ちを持ちながら短大生活一年目の9割を過ごした。誰が悪いとかでもないし、私達がどうすることも出来ない状況の中で過ごしていく事は初めてだったので、1日をどう過ごせばいいのか、考え

てはみるものの、家にいなくてはならないし、外に行く怖さもあり、これから世の中はどうなっていくのだろうと考える時間が多くなった。毎日毎日、コロナが何人出たのか、ニュースで確認することが当たり前となり、友達とのメールの内容もコロナのことばかりで、正直うんざりしていた。しかし、この状況になったからこそ気が付くことが出来たこともある。それは、今までの何気ない生活のありがたさや、友達との距離、そしてどこでも気軽に行けていたことなど、今までの生活で普通と思っていたことが、出来なくなってしまい、まるで自分自身が檻の中で生活しているような状況になったからこそ実感できた今までの「普通」のありがたさ。本当に今までの生活が遠く感じるようになったからこそ気が付いたことがたくさんあった。今では、コロナのワクチンや、緊急事態宣言など、いろいろな対策をして、出来るだけコロナにかかる人数を少なくできるように、国や世界では様々な対策を行っているが、いまだに夜遅くまで大勢で飲み歩いたり、ソーシャルディスタンスを守っていないニュースをよく見る。そのニュースを見るたび、私はなぜ自分からコロナにかかりやすいところに行くのか？と疑問を持つ。確かに少なからず歩出く人はいるけれど、長時間お店に居座ることを避けたり、飛沫を防ぐためにフェイスシールドやマスクを絶対に外さない人がいるのに、守らない人の考え方が分からない、と私は疑問をもつ。コロナにかかれば周りにも迷惑をかけることを理解してほしい。この状況はいつ完全に終わるのか、分からないが、また多くの人とご飯に行ったり、シールドが無くとも会話が出来た時代が来ることを願う。

**突**然コロナ時代になり、緊急事態宣言が出され家にいる時間が増えたことにより、不安でいっぱいでした。一番不安だったのは就職活動でした。会社説明会や面接など、どんどん先延ばしになったり、無くなったり、誰に何を相談すればいいかも分かりませんでした。し

かし、進路支援課の先生達や友達が色々支えてくれたのでとても感謝しています。様々な人が色々な壁にぶつかり合っていますが、それでも一生懸命それぞれに戦っています。1人で戦っているのではなく、世界中の人々がコロナと戦っています。自分だけが苦しいのではなく、もともと苦しんでいる人がいるかもしれない。その為に今自分が出来ることは何かを考えて行動していこうと思いました。家にいる時間が増えたことで家族との時間が増えた人、将来のことやこれからの事について改めて考える事ができた人。こんな時代にならなかつたら、出来なかつたこともあると思います。これらの時間は必要な時間だったと思うので、これからもコロナと向き合いそれぞれに協力しながら生活していこうと思いました。

**私**は、この1年間を振り返ると、思い通りにできないことや、今までとは違うことが多くあって辛いと感じたこともあったけれど、同時に成長できた一年だったと思います。短大に入学し、新しい生活を楽しみにしていた時に休校になり、前期は全て遠隔授業になってしまいました。遠隔授業が始まると、高校では無かったレポート課題があつたり、専門的な科目があつたり、特に簿記は今までやったことがなかったので、遠隔授業では文章から理解しなければいけないため、予習に時間を費やしても大変でした。また、遠隔授業の期間で私が一番辛かったことは、友達に会えないことと外へ出かけられないことです。今までは友達と遊んだり、疲れた時は気分転換に出かけたりすることが多かったのですが、それができず、一日中家で一人で、授業や課題をする生活は今までに経験したことがなく、寂しい気持ちになったり、色々なことを考えて落ち込んだりすることが多くありました。他の大学へ行った友達は対面授業が始まり充実していると聞くと自分と比べてしまいとても辛かったです。私はこの遠隔授業の期間を通して、時間の使い方や計画を立てる

ことの大切さを学びました。遠隔授業では通学時間がない分時間にゆとりができていたけれど、そうではなく課題や予習に時間がかかるため、計画を立てて時間を自分で作る必要があると思いました。計画を立ていつ何をしたらいいかをわかっておくことで物事をスムーズに進められるようになりました。また、コロナ禍ですべて家族以外と会ってない期間があったこともあり、夏休みからアルバイトを始めたり、自動車学校へ通ったりして、今まで以上に人と接する機会が増えたことで、今まで知らない人と話すことが苦手だったけれど、人と関わるのが好きになりました。これからは、就職活動が始まり、これまで以上に大変だと思うけれど、この一年間を通して我慢したことや耐えたことでメンタルが少し強くなったと思うので、これからもっと頑張りたいと思います。

**私**にとってこの1年は大人になってもぜったいに忘れない1年だと思います。学生最後の1年はたくさん旅行に行き遊びたい！と楽しみにしていたのですが、コロナウイルスの影響で思うようにならないことがたくさんありました。前期は学校にも行けず、みんなとも会えない中でこのまま会えずに学生が終わるのではないかと不安もありました。成人式も時短になり楽しみにしていたものがだんだんなくなっていくのがとても辛かったです。学校生活の中で唯一思い出に残っていることはサークルです。本番に向けてみんなで一生懸命練習したり、たくさんのお客さんの前で踊ることが楽しかったです。コロナ禍だったからこそ当たり前前かが当たり前ではなくなる中で踊ることができたことや、イベントが開催できたということに感謝しないとけないなと思いました。春から社会人になりますがたくさんのことを我慢した1年を忘れず、学生＝楽しい、学生ではなくなる＝楽しくなくなる、という考えをなくしたいです。社会人になっても様々なことに挑戦し努力することを忘れないようにしたいです。

**コ**ロナ禍の1年を振り返って、私コ特に変わったなと思った面は外出が減り、運動量が大きく減ったことです。対面授業があった時は40分ほど自転車で通学していたり、また、ダンスサークルに所属していたため、ダンスをして体動かすなど活発に動いていました。しかし、コロナの状況が酷かった時は学校に行くことも出来ずサークルもなく、不要外出を控えるようになって外に出るといって自体が少なくなりました。運動量が減ったことによって、少し動くとも体力がなくなったり、反対に家にずっと居ると体力が余っていて眠りにつく時間が遅くなり、なかなか寝付けないうなど、不規則な生活になってしまいがちでした。だんだんと自分でも意識するようになり、家でストレッチや筋トレをするようになったりしてできるだけ外に出ずに体を動かすようになりました。今では毎日かさず行っている新たな趣味の1つのようにも感じられ、コロナ禍に向き合ったからこそできたものだったのだと思います。マイナスなことばかりでなくプラスに捉えられることもあったと思えました。

**2**020年1月頃には、すぐにおさまらるだろうと思っていたコロナウイルスだったが、3月に行われる合説フェスは多くの人が集まるため全て中止になっていくのを見て、就職活動への影響の大きさや不安を感じた。もともと早めのうちから企業説明会には参加していたが、自分の中で受けた会社や職種が上手く定まっていなかったため、実際に企業の方にあつて雰囲気を知ることができないのが辛かった。本格的に就職活動がはじまって、かなり上位に希望していた会社や履歴書を送った後に、2021年の採用を中止するといった

パターンもあった。リモート授業になったため、不安が多く、友達にあつて相談することはできなかったため、LINEで連絡をとりあつて、互いの状況を報告し合い励まし合ったりした。例年と違い1社の内定がすごく価値があるように感じた。コロナウイルスで採用枠を減らした会社が多かったため、内定を頂いた会社がそこそこ満足できる場所なら、そこで就活を辞める人が多かった。実際に私も最初考えていたやりたい仕事とは全く違うが、働く上で理想とした条件にあつた仕事という時点で就活を終えた。仕事をしながら次のやりたい仕事に就くための準備をしたいと考えている。また、コロナウイルスの影響で良かった点もある。アルバイトが休業になったため就職活動に専念できたことや、普段は旅行に行く時は県外ばかりだったが、友達と県内の温泉に行ったり、隣県までドライブしたりと近場の魅力をたくさん知れた。おうち時間が多くなったため取りたいと思っていた色彩検定を取得できたり、やりたいと思っていた韓国語の勉強、洋裁教室の体験参加など趣味の充実にもつながった。学生生活の思い出としては少し悲しいものになったが、コロナウイルスによって今までの生活のありがたさにも気づけた1年だった。

**学**業面では、前期がオンライン授業に変わってしまい、「自分はこのオンライン授業で何か学べて成長しているのだろうか」と思いながら、授業を受けていました。最初の頃は、ZOOMの使い方に慣れず、すごく戸惑ってしまし



た。対面授業になってから、みんなに会えるのは嬉しかった反面、友達作りに少し苦労しました。私は、あまり自分から話しかけられるタイプではないこともあり、中学、高校時代と比べると、今年は、友達は数人しか出来ませんでした。休日に友達と遊ぼうと思っても、今まで以上に遊ぶ場所や人数を考えなければいけなかったのが大変でした。高校を卒業したので、友達と遠出して旅行等に行つて楽しみたい！と思つていましたが、感染リスクなど考えると、今年はその機会は訪れませんでした。私は、カラオケが大好きなのですが、この1年は全然行くことが出来なかったのが、悲しかったです。少しストレスも溜まってしまいました。今は、就職出来るかどうかという不安でいっぱいです。一刻も早くコロナが収まって、普通の状況に戻って欲しいです。そして、是非景気もアップしてほしいです。早く友達と気軽に話せる、遊べる状況に戻って欲しいです。今年、戸惑うことばかりですが、今出来ることを頑張るしかない！という気持ちが今の私の正直な気持ちです。前向きに日々を過ごしていきたいです。

**外** 出ができなくなって、友達ともあまり遊べなくなり家族という時間が増えました。普段よりも会話が増えて、パズルをしたりお菓子作りをしたりしました。また、東京にいる従姉妹とビデオ通話をしたり、オンラインで親戚が集まったりして、いつもだったら忙しくて従姉妹ともあまり電話ができないのですが、たくさん話すことができました。テレビやYouTubeなど動画を家族で見ることが増えたので、楽しみを共有することができました。普段だとみんなで一緒にテレビを見るのが少ないので、同じものを見て楽しむというのは大切だと感じました。家族とコミュニケーションをきちんと取るというのは一番大切なことだと改めて思いました。コロナで旅行とか友達と遊ぶことは減ってしまったけれど、家族とのコミュニケーションが増え、家族との仲が深まった気がします。

当たり前だと思つていたことが当たり前ではなくなって不安な時もあったけれど、自分なりに楽しむことができたと思つています。

**コ** の1年はコロナ禍でしたが、私自身は充実できたと思つています。理由は、春は今よりもコロナ感染者が多くて入学するときは余計に緊張していたからです。ですが、友達ができ、勉強も高校生ときよりも頑張ることができたので充実していたと思つています。また、何回か休校期間がありましたが、自分で勉強を進めたり、体力づくりをする癖が高校時代に身につけていました。なので、その自粛期間は自分なりの過ごし方ができ、充実できていたと思つています。また、家族と話す時間がコロナが流行する前よりも増えたと感じています。自粛期間は、家族の仕事の終わる時間も早くなりました。なので、いつもより食事を食べる時間が早くなり、その後も話をお互いに話すようになったので、良かったと思つています。コロナ禍になって、多くの行事が縮小されたり、中止になったりして悲しい気持ちも多々ありますが、その分、誰かと話す機会が自分から作ることができたと思つています。

**コ** ロナという感染ウイルスが広がり、ここまで大事になるとは思つていなかった時は短大生活どのように送ろうかなと楽しみにしていました。ですが、コロナが流行り遠隔授業となつてしまい、友達も作れないまま前期が過ぎました。外出も出来ない日々が続き、慣れないパソコンでの遠隔授業が始まり、最初は凄く不安で心配でした。でも、段々と授業をしていくにつれて慣れていき、パソコンの使い方も少しずつ分かってきました。そう考えると遠隔授業はして良かったことだと思うようになりました。また、家に居る時間が長かったため、普段出来ない整理整頓や家での映画鑑賞など、家の中で楽しめることを見つけていきました。家族とも一緒にいる時間が長く、前よりも沢山話す機会が出来たこと

は自分にとってとても良い事に繋がつたと思つています。コロナは増え続けてはいけなしいし、これ以上死者が出ないことを祈るばかりです。ですが、この経験があつたからこそ、遠隔で何かをするという新しい社会への1歩に繋がつたと思つています。

**コ** の一年は、変化がないところのところが少ないと感じるぐらいに、身の回りすべてで変化が起こつたと思つています。学業はもちろん人との関わり、日常生活などで変化しました。一年次の春休み後コロナが拡大し、春休みも延期、授業のオンライン化、人と会うことがなくなりました。一人暮らしをしています。たまたま実家に帰省している時にオンラインになったため、会話がなくなることはありませんでしたが、一人で体験するとなるとかなり精神的に追い込まれると感じました。二年しかない大学生活、二年生にとっては最後の学生生活で、夏休みや春休みなど長期休みも最後になるのにコロナウイルスによって旅行など出かけることはもちろん人とご飯を食べるだけでも、出歩いていいの、と悩むことになりました。私は、何度も楽しみにしていた旅行計画などが中止になりました。そのたびに早くなくなればいいのかと思つていました。日常生活の変化では、マスクの着用、アルコール消毒、ソーシャルディスタンスなど今まではあまり意識しないようなところの徹底をしなくてはいけなくなりました。行動にすることに関しては特に問題はなかったですが、マスクをしていない人やソーシャルディスタンスが保たれていないと過敏に反応してしまうようになりました。過敏に反応してしまうことでニュースで出回っているような批判的な人間になってしまうのではと考えたこともあります。自粛をしなくてはならない中、そんな中でもできることを探しているいろんなことに挑戦してみたいと思うし、自分一人が行動しても大丈夫、感染なんてするわけない、なんて思わず、いつ感染してもおかしくない、自分の行動で自分も周りも変

わってしまうという気持ちで行動できる人になりたいです。周りにもなってほしいと思います。そして一刻も早くこれまで通りとまではいなくても人と気軽に会えたり、出かけられるような世界になってほしいです。

**2** 020年度は「コロナウイルス」という未知のウイルスに振り回され、例年よりもかなり激動な1年となりました。特にこの1年は自身の中で就職活動が本格的に始まる時だったため、とても不安でした。何より、例年のように対面での面接が難しくなっている状況で、新たに『リモート面接』というものが出てきて、初めは戸惑いしかありませんでした。けれども、お互いに初めてこのような形式を実施するという面ではフェアでもあるなどは感じました。しかし、このご時世だからというせいにはしたくありませんが、私自身なかなか内定先が決まらずとても焦っていました。正直、6月頃まではまだ大丈夫とたかをくくっており、周りも内定先が決まっている人は少ないだろうと思っていたら、あっという間に取り残されていました。3月頃までは履歴書や面接対策等の前準備はしていましたが、それでどこか満足してしまっていたことは今ではとても後悔しています。ようやく焦りだしたのは8月頃でした。そこから何社か受けましたが、焦りが先行していたのとは半ば自暴自棄になり事務職であればどこでもいと手当たり次第受けていました。もちろん、受けた全ての会社から“お祈りメール”（不採用通知）が送られてきました。そんな時に、進路支援課の方からこの会社はどうかと教えていただいたのが、無事に今年就職することが決まった会社でした。事務職であることはもちろん、事務職の中でも経理事務職であることになり惹かれ（当時見ていたドラマの主人公が同じ職種でそこから影響を受けていたため）、何よりその会社は主にピアノ中心に様々な楽器を取り扱っている会社で、中学高校と吹奏楽部に所属し、音楽好きな私にとってこれ以上好条件など

ころはないと思い、自分の中ではこれがラストチャンスだという覚悟で受けました。その結果、見事内定をいただくことができました。コロナウイルスや自身の考えの甘さにはとても苦しめられました。それもあって今の会社に務めることが叶ったのかと思うとそれはある意味運命的でもあり、より会社に貢献したいという気持ちが高まりました。これからは、仕事にはもちろん精を入れて務め、自身の趣味も十分に謳歌して、何よりコロナウイルスに負けないよう対策しながらも今まで以上に人生を楽しむことを目標にして、何事も頑張っていきたいと思っています。

**私**は、コロナ禍の1年を振り返って、失ってしまったことばかりではないと感じました。その理由は2点あります。1点目は、自分の時間が増えたからです。コロナが蔓延してしまっただけからしばらくの間、リモート授業になりました。対面の授業とは違い、気軽に先生や友達にわからないことを相談したり、なかなかスピードについていけなかったりと、不便だと感じることもありましたが、しかし、学校への通学の時間や空きコマの時間は、家で一人の時間に代わり、自由な時間を作ることが出来ました。その時間で、自分の将来について深く考える時間になることが出来たので、良かったと感じています。2点目は、悔しさをばねにすることが出来たからです。コロナの影響で様々なイベントが中止になったり、今までのように100%ですることが出来なくなりました。しかしその悔しさから、今回できなかったことを、次の機会にその分も果たそうと、次の目標に対する活力にすることが出来ました。

**私**がこの1年で最も不安だったことは、就職できるのかということです。なぜなら、コロナウイルスの影響で企業の説明会が次々と中止になり、業界研究が上手くいかなかったり、企業の求人も例年に比べて少なかったりしたから

です。また、私は公務員を目指していたため、CDPプログラムを受講していましたが、その授業を含め2年の前期は全て遠隔授業となり、大事なポイントを押さえることに苦戦しました。しかし、世間がこのような状況になってしまったことは仕方がないので、私は今、コロナ禍でもできることを考えました。自分自身を見つめ直してみると、上手く時間を使うことが大切だと感じました。家で過ごす時間が増えたため、公務員試験の勉強にあて、遠隔授業を受ける際は、自分の知識を増やそうと思いながら受けていました。私は、学生最後の年に、コロナウイルスが流行るなど想像していませんでした。学生最後の年だったので、友達とたくさん思い出を作りたいと思っていましたが、それは叶いませんでした。ですが、コロナ禍での生活を通して、今まで当たり前を送っていた生活は恵まれていたんだと改めて実感しました。私は、1日1日を大切に今自分ができることをしっかり考え、社会人として頑張っていきたいと思っています。

**コ**ロナによって遠隔の授業が増え、対面の授業のようにはいかず、短大に入って新しくできた友達に会えないなどのマイナスな面もありました。しかし、コロナ禍だからこそできることがあるのではないかと、前向きに考えることができた一年だったと思います。自分にとって、プラスになったと思うことは3つあります。1つ目は、通学に使っていた時間を勉強の時間に使えたことです。私は、富山県の実家から通っており、学校までは電車と徒歩で通っていました。しかし、授業が遠隔になってからは通学に使っていた時間に勉強できるようになりました。習慣化したのか、対面授業が始まってからは、電車の関係で早く学校についているので学校でも朝、勉強できるようになりました。2つ目は、家族と進路の話をする時間ができたことです。母はフリーでヨガインストラクターをしており、とても忙しいです。しかし、コロナで仕事が少し減ったことにより、一

緒に過ごすことができました。今までできなかった母の仕事についての話や、私の進路の話をする事ができて、明確な目標を持つことができました。3つ目は、遠隔授業で新しく友達ができただけです。zoomのブレイクアウトルームでいろいろな人と関わることができて仲良くなれたり、自分と違う考えを持った人に興味を持てたり、たくさん学べる事があったと思います。また、コロナの勢いが増しており不安なこともあります。2021年に経験したことを活かして、価値のある1年にしたいと思います。

**4**月に入学してから、新しい友達もできて学校生活に少し慣れてきたかなという頃に新型コロナウイルスの流行によって、全ての授業が遠隔で受ける体制に変わりました。遠隔での授業を受けたことがなかったため、遠隔授業の時に必要なzoomの操作も全くわからず、不安だらけのまま遠隔による授業が始まりました。先生によって、授業の行い方が全く異なるため、大変苦労しました。そんななかでも、わからないことがあつたらすぐに友達に聞き、逆に聞かれたら自分が分かることは教えるなど、友達と助け合いながらなんとか遠隔授業を受けることができました。そして、遠隔授業に慣れてきた頃、新型コロナウイルスは少し収束し、学校に行けるようになり、対面での授業に戻りました。対面での授業は、遠隔での授業と違い学校に行かなくてはならないので、準備の時間が必要になります。対面での授業になってから、この時間配分に慣れることに苦労しました。それでも、一ヶ月ほど経てば対面での授業にも慣れてきました。新型コロナウイルスに振り回された4月からの10ヶ月間、友達との助け合いもあり、なんとか乗り越えてきました。これからも友達との繋がりを大切に、残り少ない学生生活を楽しまたいと思います。

**2**020年は新型コロナウイルスによって私たちの生活が奪われた年でした。就職活動や友人、趣味など様々

な面で悩まされました。就職活動ではリモートでの説明会や面接など、初めてのことが多くあり、大変でした。就職活動で精神的に追い詰められる中、楽しみにしていたライブやプロレス観戦が中止・延期になりストレスが溜まりました。当たり前前に会えていた友人に会えない、当たり前前に行っていた場所に行けない、苦痛でしかありませんでした。マスク生活が馬鹿馬鹿しくなってやめようとした時もありました。一日に何千人も感染しているというニュースは嘘ではないかと疑ったこともありましたが、怒りをぶつきたいけど、ぶつける矛先がわかりませんでした。しかし「誰も悪くない」「1人ひとりが対策を徹底しながら生活していけば必ずこの不自由な生活は終わる」と信じながら過ごしました。これからは健康に過ごせていることに感謝しながら生活を送っていきたいと思います。

**昨**年の春から現在にかけて、世界的に流行している感染症、新型コロナウイルス。空気感染するという特徴を持ち、防ぐことが非常に難しく、政府からは、個人の良識ある行動を求められた。この新型コロナウイルスにより、日常生活が大きく変化し、「当たり前」は少しのきっかけで崩れ去ってしまうということから自ら身をもって知ることになった。しかし、依然としてウイルスの状況が変わらぬ中で、今年度無事に本学を卒業することができることに安堵している。このような状況で、前年度の前期授業はオンライン上での受講となり、後期授業は、対面とオンラインでの講義を適切に使い分けての受講であった。また、学内への入る際の検温、消毒等徹底された感染対策により、学内で新型コロナウイルスに感染することは無く、毎日安心して講義を受けることができた。これは教授、支援課、警備の方等、様々な方々の尽力によって実現したことだと強く感じている。心よりお礼を申し上げたく思う。

**新**型コロナウイルスの影響で、学校の講義が全て遠隔授業になる前、2年間の短大生活を充実したものにしたいと思っていたので、全ての講義が遠隔授業に切り替わった時は、自分はこれから充実した短大生活を送ることは出来るのだろうかという気持ちになった。また、遠隔授業になると友達と直接会って会話をすることも無くなり、寂しく感じる事が多くなった。しかし、遠隔授業に切り替わったことで良いこともあった。電車での通学時間が無くなり、対面授業の時よりも自分の時間を確保することが出来て、趣味の時間などにあてることが出来た。また、遠隔授業ではパソコンを使う機会が多かったため、以前よりもパソコンの操作に慣れることが出来た。遠隔授業を振り返ってみると、遠隔授業になったことで良いことも悪いこともあったが、良い経験をする事が出来たと思った。遠隔授業が終わり、対面授業に切り替わってからは、友達との何気ない会話を楽しんだり、対面授業の有難みをより感じたりした。コロナ禍の一年を振り返って、一年間で色々なことを経験することが出来たと思った。

**新**型コロナウイルスの影響でさまざまなことが制限される世の中になった現在、私たちは例年と異なり入学してまもなくオンライン授業になることが決定しました。入学して何もわからないままの状態、また県外出身の私は、知り合いも少ない状態からのオンライン授業は正直不安が大きく、やっていけるのかという気持ちでした。自分のパソコンを持つのも初めてで、使い方もなかなか慣れず、初めのズーム授業はやり方がわからず授業に遅れてしまうなどトラブルも多くあった中、わからないことは友達に聞くなどしながら徐々にオンライン授業に慣れることができました。また、就職活動にも多大な影響が出ており、例年より採用人数が少なかったり、オンライン面接になったり、オンライン説明会になったりと就活に対して不安になることが多いですが、前向きに頑張りたいと思

います。今後は、新型コロナウイルスの影響でオンラインを利用する企業が増え、利用する機会が大幅に増えていくと思うので、コロナ禍の現在でも柔軟に対応していきたいと思います。

**オ**ンラインの授業が多くなりましたが、学校に通うよりも家で受けるほうが私にとって快適でした。大学受験はコロナにより、様々な制約があったり、厳しいものでした。受験以外にも夢を諦めなければいけなくなり、悔しい思いをした学生が多くいます。これらの思いを上手くくみとって対処することが大人の役割だと思います。制限をつけることは必要ですが、どうすれば学生の生活が豊かになるのかを考えることも重要であると感じました。また、最近ではオミクロン株が流行り、感染者が増える一方です。取り返しのつかないことになる前に素早く確な対応が必要であると感じています。コロナ禍で人と人とのつながりが薄れている中で、人を思いやる気持ちはとても高まったように感じます。遊びに行く時には、相手の友達の家族の職業をさりげなく気にしつつ、遊ぶ場所を選ぶなどをするようになりました。制限が多く、思うようにいかないこともたくさんありますが、周り助け合いながらこれからも過ごしていきたいと思います。

**2**020年は新型コロナウイルスが流行り、今までとはまったく違う生活様式に変化しました。大変なことの方が多い1年だったように感じます。何よりも一番辛かったことは友達と会うことや出かけることが制限されたことです。まったく遊ばないということはないけれどやはり去年などと比べると頻度が減りました。遊ぶとしても、まったく家から出ず自粛している方もいると思うと、今会うのはよくないのか？など罪悪感を感じます。そのため、早く収束し人と躊躇なく会えるようになることを願っています。ただ、家の中で遊んだり県内でお出かけをしたりと、制限がある中でも楽しむ策は沢山あると感じました。ま

た、これまで友達と会っていた時間で読書をしたり、料理を作ったり、違う種類の楽しさも見つけました。そして、友達と会うことは想像以上に大きな活力になっているのだとこの機会を通して実感しました。次に大変だった点は就職活動です。偶然コロナウイルスと就職活動の年が重なってしまい、採用枠が減ったりオンライン面接に切り替わったりとイレギュラーがありました。私の志望していた企業の一つも事務職の採用を取りやめたため、私は不運な年だと嘆いていました。しかし就職活動に関しては良い点もありました。オンライン面接が増えたため、一日に受けられる回数が増えました。説明会や面接が重なっていても、自宅から参加できるため時間に余裕ができて、様々な企業を知ることになりました。そのような点では上手く時間を使うことが出来たと感じます。大変な状況でマイナス思考になりがちだけれど、何でも楽しもうとする気持ちを持って過ごしていきたいです。

**私**にとってコロナ禍の1年は、とても大変なものでした。新型コロナウイルスの感染が一瞬にして全世界に広がり、私の住む町にもたくさんの感染者が出ました。初めの頃は他人事のように感じていましたが、少しずつ危機感を持つようになりました。以前の暮らしと比べると、とても不便になり環境も大きく変わりました。マスクで外出することが当たり前になり、大人数でいることや他人との距離を気にするような時代になってしまいました。そんな時代に変わってしまった中で、私は就職活動を行いました。先が全く見えず、とても不安でいっぱいでした。しかし、環境が変わり選考が遅れ始めたことで、時間に余裕が生まれました。そのため、就職活動のための準備期間が長くなり、少し得した部分もありました。コロナ禍の1年は、大変で苦しいことがとても多かったです。辛いことばかりではなかったようにも感じます。このコロナ禍を通して学んだことをこれからの人生に活かし、与えられた

環境の中で精一杯生きていきたいと思えます。

**新**型コロナウイルスの流行により、今までに前例のない大きな状況の変化がたくさんありました。私は、コロナによる変化の中でも特に、就職活動への影響が大きく、過去のレポートや以前までの様式と大きく変化しているところがあり、就職活動を終えることができるのか不安を感じました。しかし、自分なりに情報を集めたり、SNSやZOOMなどを活用した就職活動の新しい形に対応していくことで、内定を頂くことができました。また、授業が遠隔での実施になったことで、友人と直接学校で会う機会が減ったことが残念でした。そのこともあり、就職活動を行っている時に、友人と情報を交換したり、不安な気持ちを共有するといったことがなかなか出来なかったことが、とてもつらいと感じました。コロナウイルスは未だ収束の兆しが見えず、今後も生活の変化が進むことが予想されますが、悲観的になるのではなく、変容する世の中に対応していくことが必要だと思います。

**コ**ロナ禍の一年を振り返って、短期大学生活一年目で緊張と楽しみがある中、リモート等であまり人と関わることのなく、不安なことが多かった。その中で、学校でリモートの詳しい説明を受けることができ、少し安心して授業を受けることができた。また、テストが遠隔で行われるということもあり、きちんと反映されるのかどうかなど不安な点があり、後期になっても慣れなかった。しかし、将来的にPCを使う機会も多いと考えられるため、PCに触れる機会が多くなったことはよかった部分であると考えられる。遠隔授業で学校へ向かうための時間が空いたため、読書等々自分の趣味の時間も多く取れたことは良い点であると考えた。人間関係について、対面で会う回数は大分少なく、不安な気持ちが大きかったが、友人関係でも特に困ったことはなく、良かったと考える。サークル活

動について、同じ学年の人がおらず不安ではあったが、先輩方が話しかけて下さったこともあり、先輩方にはとてもお世話になった。コロナ禍の一年間は非常に不安定なものであったが、周囲の人々に支えていただき、何とか過ごすことができた。

**コ** ロナが急速に流行りだし、急に遠隔授業に変更になったことで、自分の思い描くような学生生活を送ることはできませんでした。しかし、コロナだったからこそ新たに得られたこともありました。もともと初めてのことに對し、挑戦することが苦手でした。しかし、遠隔授業になってしまい、空き時間が増えてしまいました。そこで、私は今なにか始めないとにも挑戦することができなとを考え、初めてアルバイトに挑戦することにしました。アルバイトでは、コミュニケーション能力を身に着けることができました。大きな声で話せるようになったり、お客様それぞれに合った接客方法で対応ができるようになったりしました。他にも、空き時間を使って検定に挑戦しました。今まで学校に登校していた時間を、検定勉強に費やしたことで、最終的に合格をすることができました。コロナになって、満足する学生生活を送ることはできませんでしたが、コロナだからこそ得たことも多くあったため、良かったです。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って、一番印象に残っていることは前期に経験した2度の遠隔授業です。高校時代もコロナによる休校を経験しましたが、リモートで授業を受けることは初めてだったので、非常に印象に残っています。遠隔授業は、大学へ通学せず自宅で受けることができるため、通学時間が長い私にとっては少し嬉しい気持ちもあった反面、やはり入学して間もない頃だったので不安に思うことも多くありました。何より、新しくできた友人と会えないことが一番辛かったです。ですが、SNSを通して友人と分からないことを相談し合っ

たり、何気ない世間話をしたりと、直接会えなくても連絡を多く取り合ったことで、より仲を深めることができたと感じています。また、空いた時間を有効制限しようと思い、授業の予習や復習、資格試験の勉強にも取り組みました。コロナ禍で多くのことが制限されていても、今できることに精一杯取り組んだことで、この一年を乗り越えることができたのではないかと思います。今後も、何事にも精一杯取り組み、困難を乗り越えていきたいです。

**コ** の一年は、新型コロナウイルスの影響で思い描いていた短大生活を送ることができなかった。前期は遠隔授業となり、数回しかキャンパスに行くことなく、講義が始まった。慣れないパソコン操作に苦戦しながらも講義を受けていた。特に、前期の遠隔授業では、実際に先生に質問することができないため、分からない部分は友達に聞いたり、インターネットで調べたりしていた。しかし、遠隔授業だったからこそいいこともある。短大に入学して資格をたくさん取りたいと思っていたので、資格取得の勉強に時間をあてることができた。また、家族との会話も増え、自分のしたいことに時間を多く使うことができた。後期からは対面授業となり、不安に感じていた、友達作りも積極的に話しかけることで仲良くなった。このように、デメリットだけでなく、メリットもあり、自分で計画することの重要性を学ぶことができた。どうすれば、通常の講義と同じように理解を深めることができるのかを自分で考えることで、学習する姿勢を見直すことにもつながったと思う。

**コ** ロナ禍を振り返って、初めは授業がリモートになり、授業が楽になると思っていました。しかし、思った以上にきつい生活でした。リモートで授業を受けていても、しっかりと頭に入っているのかもわからず、できるはずの新しい友達もいないので、気合の入らない授業は自分のためになっているのかという

疑問がありました。また、せっかく夢見た大学生活を迎えることなく、本当に入学したのかと実感のない日々と自分は何をすればいいんだろうという不安が入り混じった日々でした。コロナでの自粛生活を通して、マスクのない日々や人と触れ合える日々がどれだけ幸せだったかを、痛いほど思い知らされました。また、普段から面倒くさいと思っていた学校も、今では足を運べることに満足しながら登校しています。これからは、人と接することや、外の色んなところで過ごす瞬間を大切にしていかなければならないと思いました。最後の学生生活も、授業でも遊びでも真剣に取り組みみたいと思いました。

**コ** ロナウイルスの影響で前期は遠隔授業になってしまいました。春休みの自粛期間と含め、今までの人生で経験のしたことのないくらい家にいる時間が長くなりました。私はそこで、授業の合間に家事をすることに決めました。お昼ご飯の時間には弟の分もご飯を作りました。空きコマを使い、お皿を洗い、洗濯物を畳みました。私は今まで全く家事をしてこなかったため、初めは効率よく手際よくすることが大変でした。家にずっといて憂鬱になることもあったのですが、家事などをして少し気持ちが明るくなったような気がしました。後期授業は対面になりました。コロナウイルスが完全に終息していない中の学校は正直とても不安でした。なので、消毒液を持ち歩いたり、電車での飲食を控えたり、学校と自宅とアルバイト先以外はなるべく立ち寄りないように心掛けました。今まで学校に通っていなかったり、検定が受けられなかった分、たくさんの検定試験の勉強をし、充実した学校生活を過ごすことができました。この一年、世の中は、以前とは全く違う景色になってしまい、当たり前になっていたことが、できなくなりました。コロナウイルスの影響を受けている人が世の中たくさんいることは、これからも変わりありません。私にできることは、これからも感染対策を徹底し

続けることだと思っています。

**コ** ロナ禍の1年をふりかえって私が思ったことは、自由に移動できないことがストレスだったということです。県外に出ることはもちろん、すぐそこにあるスーパーに買い物に出かける時やコンビニなどふらっと出かける時にも細心の注意を払って出かけるなければいけないことがストレスでした。特に大変だったのが、京都へ編入試験を受けに行った時でした。キャリアケースを持って外に行けば周りの視線を少し感じ、試験当時だんだんと感染者が増え続けていた京都でなるべく人と接さないでおうと密集しているところを徹底的に避け、帰りにも周りからの視線を少し感じ、ストレスでしかなかったです。以前は当たり前のようにしていた事が出来なくなり、逆に非難される時代になったんだと改めて感じた時、少し虚しくなりました。短大生活の2年しかない時間の半分をコロナに奪われたので、切実にこの貴重な2年生の学生生活を返して欲しいといつも思っています。

**コ** の1年を振り返って、本当に大変だった1年でした。消毒やマスクの着用が当たり前になって、透明な板を挟まないといけなかったり、机は離れて座らないといけなど、180度生活が変わりました。短大も最初の数日だけ行ってから、休みになり、遠隔授業が始まりました。授業も高校とは違って、新しいものばかりで分からないことばかりでした。また、パソコンをほとんど使ったことがない中でのZoomを使った授業。パソコンは短大に入る前は、ほぼ使ったことがなく、分からないことが多かったです。でも、授業で使う機会が増えたことで、今ではほとんど不自由なく、使うことができるようになりました。コロナで大変なことが多かったけれど、学ぶことも多かったなど今では思っています。コロナは今でも続いていて、出始めたときは、去年の7～8月には収まるだろうなと思っていましたが、私の

予想よりも長く続いています。まだまだ、この生活は続いていくとは思いますが、感染予防しながら、頑張っていきたいです。

## 入 学して対面授業にやっ

と慣れてきたという時にオンライン授業に変わって情報量が多く大変でした。パソコンにも慣れていなかったので授業を受けることに精一杯でした。友達もあまりできておらず不安な気持ちでしたが、ブレイクアウトルームでの活動が多くあったので話すことに慣れる機会になり良かったと思います。資格の勉強も分からない点を聞けないという難点がありましたが、自主勉強に取り組む癖がついたように思います。アルバイトの面では、4月から新しいバイトをしようと考えていましたが、理想のバイト募集がなく結局見つけられたのは9月でした。元々していたバイトもコロナウイルスの影響であまり入れず貯金ができなかったのが辛かったです。ですが、悪い部分だけでなくパソコンに慣れるという点や通学時間が削られ睡眠時間を伸ばせたことで、授業の集中度が上がったなど、良い点もあったので大変でしたが自分自身にとって1つの経験になったと感じました。

**私** は短大生活を振り返って、3つの観点から話します。まず、一つ目に課題についてです。コロナ禍での授業は、自宅から遠隔で受けるということが多く、パソコンに向かって行う作業なので、姿勢が悪くなったり目が疲れたりと体に支障の起きることが多いと感じました。また、私は一度パソコンが壊れてしまったこともあり、スマートフォンだけでは操作のできない授業があったので、その期間は困ったと感じていました。次に、二つ目として友人についてです。コロナ禍では、遠隔授業でグループ



ワークを行い同級生やクラスの人と話す機会ががりましたが、それ以外では関わる機会がなく、名前と顔を覚えられないまま友人を作れずに過ごしていたと思いました。最後にアルバイトについてです。私は飲食店でアルバイトをしていますが、やはりコロナ禍であると時間に制限ができ、短期時間でしか働くことが出来ず、もらえるお給料が少なくなるといったことが困った問題だと感じました。

**今** 回、新型コロナウイルス感染拡大のため、初めて経験するようなことばかりでした。まずはじめに、授業が全てオンライン化されたことです。今まで対面で受けていた授業を家で受けることになり、パソコンの操作やzoomというアプリなど、慣れないことばかりで最初は苦労しました。学生もたくさんの苦労があったと思うけれど、先生方が1番大変だったろうと感じました。次に、就職活動です。就職活動自体初めての経験であるため、わからないことがたくさんありました。さらに、新型コロナウイルスが感染拡大防止のため初めての面接もリモート面接でした。ただでさえ、面接は緊張するのに、オンラインであったため、声に時差を感じたり、相手の表情を伺うことが難しかったりしました。今考えると、これまでにない特別な経験であったと思います。今年度は新型コロナウイルスの影響で様々なことを我慢することが多かったと思います。春から社会人となり、より辛いことが起こると思います。しかし、めげずに何事も挑戦して

いきたいと思います。

**コ**ロナの1年を振り返り、こんな世の中になるとも思っておらず、初めてのことで最初は戸惑いました。特に、短大生になり1年目の年で友達も全く居なかったので心配なことが多かったです。リモートでの授業は初めてだったので、段々と慣れていき、4月に話した友達ともSNSですが、話すことが多くなりました。コロナの1年で、直接会うことができなくても、こうして繋がれることが出来てSNSが普及されている時代で良かったと感じました。8月末からは学校が始まり、どんな人がいるのか全くわからなかったので緊張しましたが、なんとか友達を増やして行くことが出来ました。授業を通してコミュニケーションとっていくことで、その不安はいつの間にか消えていった気がします。会わなくても繋がる事が出来ることと、会って話すことの素晴らしさを知った1年になりました。今までにない経験でしたが、コロナ禍はこれからも続くと思います。家に居ると、考えることが多くなり、気分が落ち込んでしまうのですが、自分の気持ちに負けずに頑張りたいです。

**こ**の自粛期間で、私は充実して過ごすことができました。やりたいことに挑戦できたり、新しいことに気づけたりしました。私が挑戦したことは、料理です。私は、一人暮らしをしていて、元から毎日自炊をしていたのですが、家にいる時間が多くなり、簡単な料理ではなく手の込んだ料理を作ることに挑戦しました。その一つが、うどん作りです。粉から作り始め、その生地を練って寝かせてという作業をしました。その麺を、作ったカレーと合わせてカレーうどんにして食べました。長い時間がかかったので達成感があり、いつもの食事よりおいしく感じました。そこで、料理をする楽しさを改めて感じたと同時に、何かモノを作るという大変さを感じました。料理だけに限らず、様々なモノや場所が人

の苦労や努力によってあるのだということを感じることができました。そのため、物を作ったり食べたりできる喜びや良い環境で過ごしている感謝を忘れずに過ごしていきたいと思いました。新しく気づいたことはコミュニケーションについてです。この自粛期間中人と話したりあつたりする場面が少なくなりました。私は今まで人と極力話したくないし家にいたいというような考えを持っていたので、最初は自粛期間がうれしかったです。しかし、思ったより自粛期間が長くzoomばかりの授業だったので少しつまらないと感じるようになりました。やっと対面で授業ができるようになり、久しぶりに学校に行って友達と話したり多くの人と会ったりすることが楽しいと感じました。コミュニケーションが楽しいと感じるようになり、もっと多くの人と関わったり遠くに行ってみたりしたいと思うようになりました。今までだと周りに関わらず今いる場所のできることを中心の考え方をしていました。そのため、この自粛期間で自分を見つめなおし新たな一面に気づくことができよかったです。

**短**大1年生の半分を奪った新型コロナウイルス。2年間しかない短大生活の、最初の学校に慣れたり、友達を作ったりする時間を奪われました。最初は正直、家に居られることを嬉しく思う時もありました。ですが、日が経つにつれ、短大に入ってから友達ができていないことや、授業で得たものが明確にわからないことに対して不安を感じるようになりました。後期になってやっと学校生活を送れることになりましたが、知り合いも少ない中、学校に行くのは不安だらけだったし、すぐ就職のガイダンス等がはじまり、焦りました。今はやっと慣れてきて、ガイダンスなどへのモチベーションも保てるようになりましたが、ほんとうに最初はついていけませんでしたが、ですが、コロナウイルスのせいで短大生活の時間が奪われたのは自分だけじゃないし、すぐに就活で焦ったのも自分だけではないと思います。本当に大変

な世の中だし、就職もできるのかとても不安ですが、今自分にできることを考え、時間を無駄にしないよう、行動していきたいと思います。コロナウイルスなんかには負けてたまるか。

**ど**うしてこんな苦しい思いしなくてはいけないのだろう。それが入学して最初に思った気持ちでした。親すら入ることが許されない閉鎖的な入学式、せっかく仲良くなった友達とも会えない日々、常に探り探りの授業と、コロナのせいで、私が思い描いていた短大生活は理想のままになりませんでした。アルバイトも、始めてから一か月経たないうちに休業になりました。受験予定だった検定も、コロナのせいで延期になりました。受験が終わればいっぱい遊ぼう、取りたい資格が沢山あるから早いうちに受験しよう、そんな計画はあつてなく崩れていきました。「大学生より社会人の方がつらい」「大学生は遊べないだけ」大学生を見下し比べるような文句を嫌になるほど聞きました。結局人は不幸自慢をほのめたいだけの小さい生き物だと心の底から思いました。しかしよく考えてみれば、私自身もなんで私たちだけ...と何度も思っていたことを思い出し、日に日に疲れていきました。はやくこの日々が終わってくれと願っていた時、短大のみ後期から対面授業を再開するという知らせを受けました。更にバイトも少しずつ再開していくとのこと。光が見えました。ずっと暗闇で兆しすら見えなかった状況が、少しずつですが変わっていくことに、強い感動を覚えました。こうしてコロナ禍でいつ大学に行けるかすらわからない状況の中、対面を再開してくださった教職員や事務の方々には本当に感謝しています。それからは凄く楽しい日々でした。友達も増え、教授も優しい方ばかりで、学ぶ内容も高校の時よりも深いことばかり、本当に毎日が学びの連続でした。サークルの制限も徐々に減っていき、ようやく待ち望んでいた大学生生活を謳歌できました。コロナによって思い描いていた生活はできないことが多かった

のですが、それによってギターを始めたりとずっとやりたかったことに挑戦できたり、当たり前毎日がどれだけありがたいことに気づくことができました。嫌なことやダメなことばかりに目を向けるのではなく、プラスであるところに目を向けて、これからも過ごしていきたいと強く思いました。

**コ** ロナ禍の一年を振り返ってまず思ったことは学校に行けないことのもどかしさです。短大は2年しかないのにそのうちのほぼ1年間が遠隔授業という形になってしまったので友達に会うことも難しくなり、話せなくなって、とても辛かったです。あまり学校の友達に会えないまま卒業となり、後輩にも就活や授業のアドバイスを直接言えなかったのも悔しいです。パワーポイントでスライドを使って遠隔で説明するだけでは伝わらない部分も多いと思うのでそういう面で活動できなかったのは悔しいと思いました。次に就活は、途中から大きな合同説明会が無くなり、会社ごとの個別説明会を受けていたので、一気にいろいろな会社の話を聞くことができないというのが大きかったです。就活をする中ですごくきついこともあったけれど、第一志望の会社に入ることができて、こんな世の中でも努力すれば報われると感じました。コロナで卒業旅行は行けないし、2年生での大きな活動もなかったけれど、短大で出会った友達とずっと友好関係を築いていきたいです。

**私** は、今年の春から一人暮らしを始めた。慣れないことばかりで、毎日が不安で不安で仕方なかった。学校面も友達が出来るのだろうか、授業についていけるのだろうかなど、不安しかなかった。環境がガラリと変わり、その環境に慣れるまでには非常に時間がかかった。友達、家族色々な人に助けられ、支えられて私は学校生活を送ることが出来た。私が悩みを相談する度に、友達は優しい言葉をたくさんかけてくれた。「一人で抱え込まないで何でも相談してね」

という言葉に、私は何度も助けられた。家族も、たくさんの言葉をかけてくれた。私が前に進めるように、背中を押してくれた。どんな時でも、私の味方でいてくれた。友達、家族のおかげで、一人暮らしや学校生活の不安が徐々に小さくなっていった。友達や家族には、感謝してもしきれない。改めて、友達や家族の存在の大きさを感じた。「一人じゃない」と感じる事が出来て、一人暮らしや学校も頑張ろうと思えた。友達や家族にたくさん助けられたから、今度は私が友達や家族を助けられるような存在になりたい。友達や家族に、恩返しをしていきたい。

**春** から始まった短大での新生活から、現在に至るまで、私たちはコロナ禍に大きな影響を与えられてきた。当たり前の生活が変わり、新しい当たり前ができた。例えば、コロナ禍前ではマスクは病気の人だけがつけるものという印象が強かったが、今ではマスクをつけることが社会にとっての当たり前となっている。コロナ禍による影響を最初に受けたのは、やはり学業面であった。授業開始日の遅れや、講義の夏休みへの移動、今まで存在は知っていても使ったことのなかったZoomなどのアプリを使用する授業などで、不安要素がたくさんあったのを覚えている。家族や親戚からは、せっかくの新入生なのに、学校に行けなくて気の毒だと何度も言われた。しかし、私自身は遠隔授業に慣れてくると、感染防止や、通学時間を考慮しなくてもよいこと、Zoomの知識が身についたことから、遠隔授業に肯定的な気持ちを持つようになっていった。ある時、LINEでの友人との会話の流れで、電話をすることになった。コロナ禍でも友人と連絡は取っていたが、ほぼLINEで行っていたので、電話で話すことを決めた時は新鮮な気持ちになった。約1時間、私と友人は話し続けた。これは、私にとって驚きの時間だった。コロナ禍前でも友人と話すことはあったが、せいぜい15分程度で終わっていたからだ。そし

て私は、コロナ禍により遠隔授業になったことで、友人と会う機会がなくなったことを寂しいと思う自分と、今までの対面授業は貴重な機会だったことに気が付いた。今まで当たり前を受けていた、対面での授業や、学校での友人との世間話は、今はとても貴重なものになっている。学生生活では遠隔授業が増え、食事をする場所にはアクリル板が張られている。私の短大1年生としての生活は、確かにコロナ禍での影響を受けたが、今まで当たり前に行われていた対面授業や、対面での友人との会話がどんなに貴重な物であったかを知るきっかけにもなった。この発見は、コロナ禍前であれば気が付かなかったと思う。しかし、コロナ禍でなければ、Zoomの使い方や、web会議に慣れることもなかったのではないかと思う。コロナ禍に沈んで日々を生きるのではなく、コロナ禍だからこそ新しい発見や経験があったとポジティブに考え、短大2年生の生活もがんばりたい。

**4** 月から入学をしたと思えば、入学式は学生だけで両親も入れませんでした。入学式後は緊急事態宣言が出て、1ヶ月ほど授業も何もできませんでした。感染拡大が広まっていて、外に出て友達と会うこともままならず、悲しかったです。5月からは、オンライン授業が始まりました。初めてのことばかりで、まだ友達もできておらず、何もかもが不安でした。中学生や高校生は学校に行っているのになんで私達は行けないんだろうと、不満ばかりが募りました。前期は全てオンラインになりました。先生と会うこともなく、顔を見ることもなく、授業が終わっていききました。夏休み中には集中講義が入り、ようやく大学の友達と会う機会ができました。後期からは、対面で授業をすることができました。授業内でのグループディスカッション等はコロナ禍により、控えられていました。あまり、オンラインでの授業と変わらない気がしました。コロナにより、1年前までは当たり前だったことも当たり前ではなくなりました。一刻も早く、コ

ロナが収まり、以前のように暮らしていけるようになりたいと思いました。

**去**年の3月頃から日本でもコロナが流行しだした。コロナが流行する前は、マスクをしないで友達に会ったり、学校に行ったり、電車に乗ったりすることが当たり前だったのに、今では、マスクをして外に出ることが当たり前になった。生活環境も変わった。本来なら学校に行っている時間帯でも家にいる。必要最低限のこと以外、外出を控えていたため、以前よりストレスがたまりやすくなった。だから、人が少ないところで散歩をしたり、趣味のお菓子作りを練習したりして、発散するようにした。若い人は無症状の人が多いということを知って、もし自分が感染し、大事な家族にうつしてしまっていたら、どうしようという不安が毎日あった。帰ってきたらすぐに手洗いをしたり、自分が口をつけた食べ物は人にあげないようにしたり、エスカレーターの手すりを触らないようにしたり、自分なりに対策をした。自分が感染しないことが一番だが、感染していたときのことを考えて行動することも大切だと思った。そうすることで、周りの大事な人の命を救うことができるかもしれないからだ。これからも、コロナは収まらないと考えている。だから、自分は大丈夫と思わずに、今まで通りしっかり対策していきたい。

**コ**ロナ禍で短大生活が一変しました。春休みがいきなり伸び、リモート授業になりました。今までの学生生活でリモートというのは初めてで、戸惑ったこともたくさんありました。どのように使うのか、電波の状況など、円滑に授業を進めることが困難な時もありました。zoomで画面が止まったり、繋がらなくなるなど今までとは違う授業内容になったりもしました。そのため、課題が沢山あり、レポートに追われた時もありました。しかし、社会全体が今後このような在宅ワークというのも出てくると思うと、その練習ができてよ

かったのではないかと思います。また、就活もリモート面接になることがありました。今まで練習してきた対面の面接とは全く異なり、リモートの練習もできないまま臨むことになりました。これから後輩たちには、リモートの練習もして、本番うまく行くように頑張ってもらいたいと思います。大変な一年になりましたが、私はとても充実した短大生活を送れたと思います。

**コ**ロナ禍が始まり私たちの生活はガラッと変わりました。高校を卒業して短大という2年の短い間で新しい学校、新しい友達とワクワクしていましたがコロナウイルスが始まったことにより夢見る生活とは全く違いました。4月から学校！と思ったら遠隔授業に変更になり、とても悲しい気持ちもありましたが、約半年遠隔授業で過ごし夏休みが終わって学校に通えるようになりました。友達がいなかったので学校が始まって新しい友達が出来るのがとっても嬉しかったです。今では3ヶ月半という短い時間でステキな友達にも出会うことが出来ました。この一年はあっさり過ぎていったように感じました。これから就職活動があり就職氷河期よりも就職難との事でとても不安です。ひとつのウイルスから一年で世界的に生活などがこんなにも変わってしまうという事に驚きました。マスクの生活にも慣れ、今では外出する時はマスクは必須になり、会社に出るのではなく「在宅ワーク」「密」や「ソーシャルディスタンス」という言葉も生まれました。コロナ禍を通し当たり前前の事、当たり前前に感謝し、2年生では1年生の時の分も含め学生最後の1年間、楽しい学校生活を送りたいと思います。少しでも早くコロナウイルスの終息を願います。



**私**は、コロナウイルスが蔓延してきた頃、本格的に就職活動を始めようとしていた。行く予定だった企業説明会が延期になったことから、地元に戻り就職活動をすることにした。最初は困惑したが、マイナビやリクナビで企業を探し、説明会に参加することで、自分にあっていると思える企業を見つけた。面接では、コロナで不安はより大きくなったが、社員の方から温かい言葉を頂き、安心して試験を受けることができた。そして内定も頂けた。金沢星稜大学女子短期大学部に入ったことで、入学当初から、2年後には社会人になるのだという自覚を持っていた。また、コロナの中でも今までしてきた面接練習や自己分析などを糧に、自信をもって行なうことができた。この学校に入学していなければ、不安な気持ちも大きく、自分に自信を持てなかったと思う。2年生になってからは、zoom授業がはじまり、本来なら経験できない体験をすることができた。そこでは、web授業の良さと対面授業の良さを両方知れた。現在は単位を全て取ることができ、ほっとしている。2年間という短い間、就活やコロナや友達との時間や、zoom授業など様々な体験をさせてもらい、とても成長できたと思う。この2年間の思い出は、これからの人生でも一生忘れることはないと思った。社会人になってからもこの2年間を生き、人の役に立てるように頑張っていきたい。

**2**020年はまさに怒涛の年であった。コロナウイルスの影響で外出自粛が余儀なくされ、当たり前前の生活が

困難になった。就職活動や大学の講義がオンラインに変更になり、慣れないzoomの操作に苦戦することも多々あった。だが、コロナウイルスの影響でも私が笑顔でいられたのは、家族の存在と趣味に没頭できたからである。家で過ごす時間が増えたため、自然と家族と接する機会が増えた。大学生活での自分の様子や勉強のこと、また友人の話を深く話すようになったことで家族との仲がより一層深まったと感じる。話を聞いてくれる温かい家族の存在が私を笑顔にしてくれたのだ。そして、もう一つは趣味である。私の趣味は小説を執筆することだ。普段は講義やその他の予定で執筆する暇がなく放置気味だったが、コロナ禍で家で過ごすようになってからは執筆の進み具合が順調にいくようになった。普段は忙しくてできなかったことをやるチャンスだと思い、自分の好きなことに没頭して自粛生活を有効に活用した。「コロナ禍で外出できないから」と何も行動を起こさないのではなく「限られた場所でもできることを探す」ことが重要だと思う。

**2** 2021年の短大生活を振り返って、思い描いていた生活は、短大の行事にたくさん参加し、新たな友達を増やし、2年後の就職に向けて勉強をしていくことでした。入学して、遠隔授業メインとなっていた時期は不安しかありませんでした。パソコン技術もほとんどなく授業内容も分からないことがあり、たくさんのお話を友達に聞きながら過ごしていました。新たに出会えた友達は優しい人ばかりで、かなり親しくなれました。学校への登校時間が私は長いので、かなりあわただしい生活を落ち着いて過ごせるようになりました。アルバイトも始めて大学生らしい生活を送ることができています。ワクチン接種が広まり、少しずつ昔のように戻れそうなところもありますが、また最近では感染者数も増えつつあるので、全国民でまた小康状態になるようにしたいです。コロナ禍で、高校生の頃はつらいことの方が多かったですが、いろいろ自分のことを考えられる時

間ができたので良かったと思います。

**コ** ロナ禍の中で人生最後の学生生活を過ごしました。行きたかったコンサートにも行けず、行事も無くなり、旅行にも行けない、大勢で集まることもできない、というような状況でした。正直、悔しいし悲しいです。しかし、コロナ禍だったからこそ学べたこともたくさんありました。対面授業の大切さ、友人と会えることの大切さ、自分は大丈夫...ではなく、家族、友人、アルバイト先、周りの人のために行動することの大切さ、このような環境ではないと学べないこともたくさんありました。コロナウイルスが広まったせいで本来送るはずだった生活ができず、とても悲しかったです。私の趣味はコンサートに行くことだったので、趣味を取られるのはとてもしんどかったし、生きがいがありませんでした。しかし、ステイホームで新たな趣味ができました。それは、料理と掃除です。あとどのくらいで収まるか分からないけれど、これからも手洗い、うがい、マスク、アルコール消毒を徹底していきたいと思います。

**コ** の1年間を振り返り、1番最初にかけることは「最後の学生生活をどれだけ楽しめたのか？」ということだ。新型コロナウイルスが流行り始めた4月頃はすぐ収束するだろうという気持ちがあり、友人とは「夏休みはどこに旅行に行こうか」とか「卒業旅行は韓国に行こう」という話ばかりしていた。授業はオンラインになり、就職活動が本格的に始まって、新型コロナが落ち着かないことへの不安と自分の就職活動への不安が大きくなった。しかし、友人とSNSを使って実際には会えなくても励まし合いながら就職活動を乗り越えることができた。春に友人と計画していた旅行や、チケットを確保していたコンサートも諦めた夏休みだった。去年までは、夏休みはたくさん旅行に行って遊んでいたのにそれができなくて何をして過ごしたらいいのか分からず、ただ家で引きこもっていた。

今になって思い返すと、友人と電話やメッセージのやりとりがいつもより多くなっていた気がする。いつもなら学校やバイト先で会えるから必要な時しかメッセージのやりとりはしていなかったが、特に用事がなくても自然と「元気？」と聞くようになっていた。これは今でも続いている。春休みになってからもお互いの近況を話したりしている。新型コロナウイルスが流行し始めて、家にいる時間が大幅に増えたがいつもと変わらず元気でいられたのは気軽に連絡ができて、たまには外に連れ出してくれた友人のおかげだと思う。早く新型コロナウイルスが収束し、今年行けなかった「卒業旅行」に行ける日が来ることが今の私の楽しみだ。

**新** 型コロナウイルスの影響で、生活がガラッと変わり慣れない生活が続きました。今まで普通にできていたこと、普通に行けていたところもマスクをしないと入れない、距離をとらないといけないこと等、辛いことも多かったけど、コロナウイルスを減らすためにはしないとイケないことなので、責任をもって行動をしました。授業も対面授業がオンライン授業に変わり、みんなと会う機会が少なくなって、ほぼ家にいる状態で、学校の意味があるのかなと考えたこともありましたが、自粛期間を無駄遣いせずに、自粛期間を利用して自分のやりたいことなどをしました。いい時間になったなと私は思います。ネガティブに考えすぎず、ポジティブに考えることも大事だなと思いました。パソコンに慣れず、トラブルなども多く大変だったけど、徐々に慣れてパソコンの便利さにも気づくことができたので良かったです。まだコロナウイルスは終息する可能性は低いと思うけど、1人1人が責任をもち、行動をして、少しでもいいからコロナウイルスが減つたらいいなと思います。コロナウイルスに負けず、みんなが幸せに過ごせたらいいなと思います。

**2** 021年の授業では、対面授業と遠隔授業の両方とも経験した。遠隔授業は家で受講するため、気が抜けた状態で授業を受けることが多くあった。その反面、対面授業は内容もしっかり入ってくるため、集中して授業を受けることが出来た。しかし、遠隔授業ではzoomを使うので、将来就職した時に役立てることができると思ったので、その点ではメリットだと感じた。就職活動では、短大なので1年生から力を入れた取り組みをたくさん行ってきた。コロナで大変なことも多くあったが、合同説明会やガイダンスなどで貴重なお話をたくさん聞くことができ、就活の準備が少しずつできたと思う。学校生活全体では、正直コロナが流行っていなかったらもっと楽しいことができたと思う事がたくさんある。しかし、その中でも自分なりに楽しく学校生活を送ることが出来たのでよかった。2022年は就活をするので、自分に合った企業に内定をいただけるように頑張りたい。

**私** がこの一年を振り返って最も特別だった事は「コロナ禍による就職活動」です。「例年と同じく」が通用せず、また採用枠が狭まる事態に不安を抱きました。そこで私が徹底したことは「自己分析」です。今年の夏は自粛により就職活動を一時休止しており、自分の時間がたくさんありました。その期間を利用して、自分を見つめ直しました。具体的には「自分の特徴」を知ることに徹しました。なぜなら、私は「自分の好きな事は？嫌いな事は？」というシンプルな問いでも、明らかな答えを出す事はできない状況だったからです。しかし「なんでもやります」という考えは曖昧で、面接においても自分をアピールできないと共に、他者との差別化を図れない事を自粛前の面接で知ったので、日常生活を通して自分のこだわりや行動の共通点を探すように生活しました。その結果、自分は「周囲を見て動いている、すべき事を察知して自ら行動している」という特徴を見つけました。普段は何気なく動いてい

たが、家族との生活において血洗い、洗濯畳みなど些細な事ですが、気付いた時に動くようにしていました。それは過去の自分にも当てはまることで、部活動や集団行動の中で自分のポジションは「支える側」であったこと、また周囲を見る「鳥の目」を持っていると言うキャッチーな言葉を面接でアピールポイントとして組み込むことに繋がりました。他にも「active writing」という日記のような事を行い、自粛期間でノート1冊埋めました。私が就職活動を終えるのは周囲より遅く、不安や焦りと闘う日々でした。しかし、それは過去の自分も同じことで「勉強も覚えるのは遅いが、テストではしっかりできてる。初めは周りに遅れを取っても最終的にはしっかり同じゴールに追いついている」という事を小学生の頃から言われてたので、自分のペースでやればなんとかなると信じて粘りました。ハローワークにも通った事で知識を得られたり、不安などを相談する場にもなっていたのでモチベーションを保てていました。その結果、満足いく内定先に決まったので大変嬉しかったです。現在も自粛生活を強いられる日々です。大学の勉強も終え、春休みという大人になる前の自由な時間を得ている今、友人と旅行に行きたいところですが、我慢しています。人と自由に会って話せる状況がどんなに楽しく幸せな事だったか、コロナ禍で身に沁みて感じています。早くコロナ禍が鎮まる事を祈っています。

**短** 大生活の4分の1を、自宅からのオンライン授業で過ごした。“大学生生活楽しみにしてたのにな”全国の大学生がきっとそう思っているのではないだろうか。履修登録の仕方も教科書販売の仕方も、新しくできた数少ない友達と協力しながら乗り越えた。“コロナだから仕方がない”という言葉で楽しみにしていた多くの行事が無くなり、私が1番に期待をしていた海外への語学留学も無くなった。正直、家からのオンライン授業で友達にも会えず、退屈な毎日を過ごしていた。しかし、後期になってやっ

と学校が始まり、久しぶりの友達や新しい友達に囲まれて制限はあるもののオンラインの100倍楽しい大学生生活が始まった。はじめは、校舎で迷子になったりと慣れないことが多く、戸惑いもあったが、友達と乗り越えた。私は、このコロナ禍の中で、友達の大切さに改めて気づくことが出来た。短大生活残りの1年を悔いが残らぬよう、精一杯学び、楽しみ、新しい友達と沢山の思い出を作っていきたいと思う。コロナだからと妥協した日々を過ごさないように、コロナだから気づけたこと、コロナでも出来ることを見つけながら、withコロナの時代を生き抜いていきたい。

**コ** ロナ禍の1年を振り返ると、本当に大変だったと思います。たった2年間しかない短大生活なのに、残りの1年の半分は学校に行けなかったし、行けるようになってもマスクを付けたままだったので残念でした。私は短大に慣れるまで1年かかったので、2年生は本当に楽しみにしていました。このコロナの影響でとてもショックでした。就職活動では、リモートの説明会や面接で不安も大きかったです。私は今まで面接をした事がなかったのにも関わらず、一番最初の面接がリモートで、とても緊張しました。でも、そういったことに挑戦できたと前向きに捉えることが出来ました。今まではあまりパソコンを使って、勉強したりすることはしなかったけど、コロナ禍でパソコンを多く使用したことで、社会人へのいい準備になったと感じました。これからもまだまだコロナは続くと思いますが、前向きに捉えて頑張っていきたいと思います。

**私** は、星稜短大に入学して、オンライン授業というものに初めて触れました。zoomを使ったのも、初めてでした。家で一人授業を受ける際はとても不安でしたが、丁寧に指導して下さったおかげで今ではzoomにも慣れました。そして世間では、ほとんどの人がマスク生活に慣れてきた分、普段からの風邪予

防にもなって良い面もある半面で、マスクは顔が覆われている面積が広く表情がよくわからないところは難点でした。最初は、友達ができるか不安でしたが、オンライン授業に移り変わる前に、グループワークの授業でお互いを知る機会があり、意気投合し、グループワークを経て今でも仲良くなる友達もできました。大学生は、一人でも生きていけるでしょと最初は強気でいましたが、頼りになる、頼ってくれる存在は必要不可欠だと思いました。第六波がやってきて、石川県も感染者がたくさん出ていますが、コロナに負けず自分のしたいことに突き進んでいけるように、アフターコロナに備えた準備を今から行っていきたいです。

**高**校3年生の始まりは休校から始まりました。部活動をしていた私にとっては、目標であったインターハイが中止になるなど、悲しい現実が突きつけられる最後の高校生活でした。実際にインターハイ予選の代わりに大会が開かれたりと私は恵まれた環境でしたが、全国的に見ると悔しい思いをしている私たちと同じ歳の人とはたくさんいると思います。希望を持って短大に入学し、初めから学校に行けるといふ喜びをとっても感じました。しかし、途中から休校となり、やっと少し慣れてきた学校生活から離れ、慣れないオンライン授業ということに不安を感じ、日々過ごしていました。コロナ禍になって高校生活から短大生活を通し、今まで当たり前だと思っていた環境は当たり前ではなく、感謝すべきことだと感じました。今、コロナがまた増えてきていますが、こうやって友達に会え、直接話せることがどれだけ幸せなことなのか改めて実感し、感謝の気持ちを持って日々過ごしていこうと思います。

**コ**の一年間は人と直接会えることの有難さを実感した年でした。前期は授業が全て遠隔になり、対面できない寂しさや心苦しさを感じながら授業を受けていました。大学の学務システムを利

用することでコロナ禍でも学ぶ環境があることに感謝し、日々工夫を凝らしながらオンライン授業にも慣れていきました。授業面では、教授方の丁寧な説明や友人との連絡相談により、ほとんど滞りなく授業を受けることができました。私たち二年生にとって大きな不安となったのは、やはり就職活動でした。就活が本格的に始まる三月ごろから企業説明会等が中止となり、この先どうなるのか、果たして就活はできるのかと心配になりました。しかし、進路支援課の方々からオンラインでの添削・面接指導をして下さり、対面できなくとも会話することによって少しずつ前向きな気持ちになり頑張ろうと思えました。やるべきことを明確にし一つ一つ進めていくうちに、自分が納得するまでやりきろうという思いが芽生え、苦しい時も乗り越えられました。そして、無事内定を頂くことができ、ここまで頑張ってきたよかったですと思えたと同時に、支え、助けてくださった方々への感謝の気持ちが湧き出てきました。人は一人では生きていけないというのはその通りで、私自身も家族や友人、進路支援課の方々の応援を励みにして力を発揮できたのだと感じています。後期からは対面授業が再開し、友人と直接会って話せることがこんなにも素晴らしいものだったのだと再認識しました。大学には授業を受けに行くのはもちろんですが、友人と会えるというのもとても嬉しく感じていました。遠隔授業は非常事態や科目によっては有効かもしれませんが、私はやはり対面で授業を受けたいと思いました。前期にはサークルでの活動もほとんどできなかったのですが、後期には少人数で対策を徹底して開催することができ、とても良い思い出になりました。県外でのイベントに代わって県内の魅力を再発見する良い機会となったと思います。今年の成人式は、コロナ禍と大雪が重なりさまざまな意味で思い出深い式典でした。まず、着付けをしてもらう会場に行くまでが大変でしたが、何とか辿り着き成人式に参加することができました。数年ぶりに再会できた友人もいて、

懐かしいなと思いつつ時を越えて会話が弾むものだなとも思いました。成人という一つの大きな節目に立ち、自分自身が大人としての行動をとり、これからも成長し続けたいと決意を新たにしました。この一年間は未曾有の危機でありましたが、その中でもステイホームでの楽しみや自身の心を明るくあたたかくする新たな方法が見つかったのではないかと思います。人は環境や周りの人の影響を受けて生きていくからこそ、互いが互いを思いやり助け合って生きていくことが大切だと感じました。

**2** 020年度の生活を振り返り、新型コロナウイルスが流行する以前に想像していた1年とは、全く別の1年になっていたと感じる。この年は、自身は20歳となり気持ちを切り替え、学生生活最後で今までにした事のなかったことを挑戦したり、就職活動に力をいれたり、社会人となる準備を頑張りたいと考えていた。しかし、コロナ禍で日常生活はもちろん、学校や就職活動も制限が掛かったことで、思い通りにはいかなかった。友人と出掛けたり、就職活動で企業を訪問したりと人と会う事が簡単に出来ない日々が続いた。自宅で企業のオンライン説明会に参加したり、友人と通話をして近況報告をすることが普通となっていて、窮屈な思いもたくさんしたし、今までとは全く違う1年になっていた。未だに完全にコロナ禍は収まらず、行動に制限が掛かったりと以前と異なる生活を送ることになるが、自分だけでなく、周囲の人、みんながコロナ禍と戦っている、それぞれが相手を思った行動ができたらいと思う。

**コ**の短大生活の一年を振り返ると、コロナの影響で想像とは違う学校生活でした。前期で、学内でのコロナ感染者が増えると、対面授業から遠隔授業に切り替わりました。最初は、遠隔授業に対して不安もありました。パソコンでの操作が上手くできるか、周りに先生や友達などの相談や質問できる相手がいな

い状況でしっかり授業を受けられるかなどです。遠隔授業になってから、Zoomの機能や使い方に慣れることができ、遠隔授業での良い点や悪い点なども分かった気がします。良い点は、自宅で受けられること、人前で発言することが苦手な人からすると発言しやすかった、ということです。良くなかったと思う点は、顔を映す授業が少なかったため、授業に集中できないことがあったことです。このことから、対面授業の大切さが改めて分かりました。対面授業では、先生が直接分かりやすく説明や解説をしてくださるので、授業にしっかり集中することができますけれど、遠隔授業だとZoomを使わずに配信された解説動画や資料などを見て行う授業もありました。このことから、私は対面授業の方がしっかり集中して受講できると感じました。また、分からない所をすぐに友達に聞く事ができないことから対面授業の重要さが分かりました。しかし、この状況に慣れておいたからこそ、前期でも後期でもテストなどが全て遠隔になった時に不安を感じることなくスムーズに受けることができました。コロナ禍での学校生活は、不安や想像とは違ったものだったけれど、その分学んだことや覚えたことも沢山あったので、様々な経験をする事ができ良かったと思いました。これらの経験から、将来役に立つこともあると思うので、しっかり慣れておきたいと思いました。

コロナ禍の1年を振り返って、当たり前前の環境に感謝しなければならぬと身をもって感じました。新型コロナウイルスが流行する前は、当たり前のように学校に行き、当たり前のように友達と遊ぶといったような生活を送っていました。しかし、学校に行く回数は減り、友達ともなかなか会えなくなったため、これまでとは生活が大きく変化しました。私は遠隔授業に切り替わった時に、だらけた生活を送ってしまうことがよくありました。その時、今までメリハリをつけた生活を送っていたのは「学校」と

いう場所があったからだ実感しました。また、友達と会って話すことはかけがえのないもので、友達という存在は非常に大きいのだと感じました。マイナスなことはありましたが、そのようなことに気づけた1年で、自分にとって価値があったのではないかと思います。今後も日常を大切にしながら、自分にとってプラスになることを吸収し、成長していきたいです。

コロナ禍の一年を振り返って、沢山の初めてを体験した。入学式では、誰もが新たな出会いに緊張と期待に胸を膨らませて居たことだろう。だが、入学直後の授業は全て遠隔になってしまい、新たな友達ができないと嘆いていた方も居るのではないだろうか。最初は初めての遠隔操作で慣れないことが多く戸惑いもあった。それは、アルバイトも例外ではない。店の客足が減ると同時にシフトも減り、それに比例して給料も減った。今こうして振り返ってみたら、沢山の戸惑いや不安を抱えてたのは私だけではないと思う。ですが、遠隔授業のおかげで情報がどれだけ大切かを知ることが出来たり、自宅謹慎期間があったからこそ改めて家族の存在の大切さを知ることが出来た。コロナ禍でマイナスなことばかり考えるのではなく、何事もプラス思考で、遠隔だからこそ今の自分に何ができるのか。必要なことはなにか。を自分に問いかけることの重要さを知った。こうして、今の自分がいるのだろう。

の1年を振り返ってみると、授業や課題提出にパソコンが必須になりキーボード操作が大学入学以前より格段に速くなりました。またワードやエクセル、パワーポイントを使った作業もスムーズに行えるようになりました。同じような課題を提出する場合でも、徐々に時間をかけずに行えるようになったことは大きな成長だと感じています。また自宅にいる時間が増えたことで、ちょっとした気分転換に掃除や洗濯などに取り組み、家族が家にいる時間の生活がよりよ

いものになってほしいと考えて行動するようになりました。また前期は約8年ぶりに未完成だったパズルをするという「おうち時間」を過ごしました。1000ピースほどのパズルのため途中で嫌になるだろうと始めたところ最後まで諦めることなく完成させることができました。これにより自分では気づいていなかった集中力やとても細かな作業も好んで行えることが分かりました。自分の知らなかった自分を知る機会ができてとてもよかったです。

コロナ禍の一年を振り返ると、耐え凌ぐ一年だったと思います。金沢星稜大学女子短期大学部に入学し、わずか一ヶ月ほどでリモート授業となりました。毎日化粧をしてバスと電車に乗り、約25分歩いて通学する必要がないと嬉しい反面、入学したばかりで友人もあまりいないため不安も大きかったです。しかし、そんなリモート授業も終わり、いざ対面授業となると自然と友人ができ、マスクを着用しなければいけないこと以外不便なことは何ひとつありませんでした。オープンキャンパスや流星祭にサークル活動として参加することもできました。このことから、日々生活している中で辛かったり不安に思ったりすることの大半は永遠ではなく、次第に解消されるものだ改めて感じました。絶望を感じるのではなく、良い方に目を向ける大切さを学びました。コロナ禍においては、いつまた感染拡大するか予想ができません。しかし、不満ばかりをもらさずコロナが収まったあとの楽しいことを考えていくようにしていきたいです。これからも自分自身の行動に責任を持ち、コロナ禍を乗り越えていきます。

コロナ禍の2021年を振り返って、諦めることに慣れてしまったと感じます。コロナ禍になって2年目ということもあり、行事が延期、そして中止になることにも大きなショックを受けることは無くなりました。友達と高校の卒業旅行を計画していましたが、やはりコロ

ナが危ないということでもなくなりました。すごく残念でしたが、私たちのこのような小さな諦めが、コロナの収束に繋がると信じています。短大に入ってすぐに、コロナの影響で授業が全面オンラインに切り替わりました。いきなりのことだったので、初めはとても動揺しました。いざ始めてみると、対面で直接授業を受けるということがすごく恵まれていたことなのだと感じました。やはり画面越しだと伝わりにくかったり、グループワークもぎこちない感じになってしまって少し苦労しました。しかし、少しずつ慣れてきて、友達に分からない部分を聞いたりして協力しながら、オンラインの1ヶ月を乗り切ることができました。コロナ禍になって、みんな困っているのは同じなのだから助け合おう、と以前よりも人に優しく接することができるようになったと感じます。このコロナ禍をみんなで助け合って、協力して乗り越えていきたいです。

**短** 大一年生が始まろうとした時、コロナが流行り出した。楽しみにしていた学校生活もオンラインへと代わり、学習はもちろん友達づくりやキャンパスライフの不安を抱くことがあった。しかし、それもだんだんと慣れオンラインであることの違和感がなくなった。学校の他にもアルバイト先ではマスク着用、レジの前にはシールドが貼られており、コロナ対策が万全だった。やはり最初は慣れないため、マスクは暑苦しく感じ、シールドはとても邪魔であった。だがこの長いコロナの状況でマスク着用、シールドが当たり前になり、反対にマスクをしないと違和感があるようになった。このようにコロナが始まってからのことを考えると変わったことが無数にあり、前にあった環境が非常識になってしまっていることを実感した。コロナ禍はいつまで続くのだろうか。そして非常識になってしまった今までの生活に戻ることはできるのだろうか、とても疑問に思った。一年が終わり、次は就活も交えた二年生が始まる。コロナの影響により

就職活動が難航すると思われるが私は頑張りたい。この難しい状況を乗り越えてこそ強い人間になれると思うからだ。このコロナ禍での就活を新たなチャンスとして励んでいきたい。

**前** 期は、対面とリモートの切り替えが何度もありました。今まで、パソコンを使うこともそれほどなかったもので、zoomなど初めてのことが多く、心配な部分が多くありました。リモートの事も考え、家のネット環境を良くしたり、自分の部屋を授業の受けやすいよう整頓したりし、対面授業と大差のないようにしました。先生たちも臨機応変に対応してくださっていたので、リモートでもしっかりと本来の授業と変わらないものを受けられたと思います。この1年で最も頑張ったことは、検定取得です。簿記やパソコン系の勉強は今までできていなかったため、高校で学んできている人達よりも努力する必要がありました。分からない部分は友達に教えて貰ったりしながら、検定勉強に励みました。結果は、順調に合格することができました。コロナの影響で、検定が中止になることもなかったため良かったです。後期はリモートになる事もなく、順調に学校に行くことが出来ました。全面对面授業にしている大学が少ない中、コロナの状況が良い時には通常の授業を受けさせて貰えていることに感謝したいと感じました。

**高** 校3年生の時に自粛期間があったけれど、リモート授業そのものは短大で初めて経験したので、最初は戸惑いが大きかったです。パソコンでzoomを設定するのも、初めて話す子と画面越しで話し合うことが凄く難しかったです。しかし、徐々にその緊張は無くなっていき、誰とでも話せるようになりました。



zoomの扱ひも慣れてきました。でも、短大で自粛期間に入ったのが入学して少ししか経ってない時だったので、友達と交流する時間がなくなってしまったことはとても悲しかったです。オープンキャンパスの時も、コロナが広まり、延期になってしまったので、高校生と交流する機会が減り、気分が暗くなりました。しかし、コロナ禍で唯一良かったことは、家族との時間が増えたことです。コロナ禍の前はご飯を食べる時間がバラバラで話す機会も少なかったけど、仕事の時間も早まり、一緒に食べる時間が増えて話す時間が増えたので、嬉しかったです。悪いことだけでなく、いい事もあった自粛期間でした。

**2** 年という短い間で、友達ともっと沢山交流したかったと思いました。当たり前のように、学校へ行き、授業を受けたり、放課後友達と遊んだり、たくさんの思い出を作りたいという心残りが残ります。しかし、会えない自粛期間で分かった当たり前の素晴らしさや人間の温かさは生きていく上でとても重要なものであると感じました。今までは当たり前のようにできていたことも、すべて感謝しなければいけないと思った。また、人に会えないという寂しさも経験したからこそ、どのような人にも優しく接していかなければいけないと思いました。そして、悔いのない人生を送れたらいいなと思いました。卒業しても、人の温かさを忘れることなく生きていきたいと考えています。1年間ほとんど、友達と交流することはできませんでしたが、

いくつかの思い出を作ることができた星稜短大に感謝したいと思います。星短に進学して良かったと思え、今後もたくさんの事を学んでいきたいです。

**私**は、この1年を振り返って、とても充実したように思えます。前期は、対面授業が出来なくなり、友達とも会えなくなったりして悲しい思いをしましたが、後期は、対面授業ができたので、とても良かったと思います。前期のリモートになってしまった時は、家であまり授業に集中できない時がありました。やはり、対面授業の方が集中できるのでいいと思いました。生活面では、アルバイトをしたくて探していたのですが、求人が少なくて困りました。しかし、いいアルバイト先が見つかったので良かったです。友達と遊ぶ時も、感染しないようにあまり人の多いところは避けて遊ばなければならなかったのが、気を遣いました。制限された生活は、少し窮屈に感じました。コロナウイルスの流行で、コロナ前と比べて求人が減っていると言われてるので、就職活動がとても心配です。不安ですが、自分に合っている企業をしっかりと調べていこうと思います。コロナウイルスの感染は、少しずつ収まってきていると思いますが、気を抜かずに感染対策を怠らないようにしたいと思います。

**前**期の授業は、新型コロナウイルスの影響で遠隔授業になり、資格取得や就職への不安がありました。また、不要不急の外出もできない環境で一年を通して、うがい、手洗い、消毒、マスクの着用が日々の日課となり、私の思い描いていた学生生活とは程遠いものになりました。感染予防のため、校内の立ち入りが制限され、周りの友達と意見を交わしながら行う対面授業とは違い、一人でパソコンと向き合いながら先生の話聞く授業がほとんどでした。遠隔授業になって残念だったことは、人とのコミュニケーションが減ったことです。人と会う機会が少なくなり、友達と会ったり話

したりすることが当たり前ではないと実感し、改めて友達の大切さを知ることができました。一方、良い点もあり、以前までは勉強をやらされているような感覚でしたが、遠隔授業になったことで自主的に勉強に取り組むようになりました。学校に移動する時間が無くなるので時間に余裕ができ、提出課題や学習時間に時間を当てるなどと時間を有効に使うことができました。新型コロナウイルスの終息が見込まれず、季節を問わずマスクの着用が必要不可欠になりました。マスクをしていると、相手に表情や思いを伝えることが難しいので、相手に自分の思いを伝えるときは明るく笑顔で話すように心掛けていきたいです。

**新**型コロナウイルスの影響で沢山の影響を受けました。入学直後にも関わらず、前期の授業では、緊急事態宣言のせいで全ての授業がリモートになってしまいました。そのため、友達も出来ず不安のままリモート授業を過ごしていました。後期に授業が始まった！と思いきや、今年の冬に県内にコロナウイルスの感染が広がっているとの事だったのでまたオンライン授業に戻ってしまいました。いつになったら普通の生活に戻れるのだろうかと思っても不安になりました。また、私はコロナウイルスの影響で夏に行く予定だった自動車学校を安全面を考えて行くことを取りやめました。そして、私は高校生の時から3年間アルバイトをしていたのですが、コロナの影響で倒産してしまいました。それほどコロナウイルスの影響は未知で凄いものなんだと改めて実感しました。私は、ライブに行ったり旅行に行くことが好きだったので、よく遠征していたのですが、そのような事すらも出来なくなってしまいました。せっかくの学生生活にも関わらず何も出来なくなってしまったのがショックでしかありません。ですが、最前線で戦う医療従事者の方には感謝でいっぱいです。早く終息し、いつも通りの普通の生活に戻る未来を楽しみにしています。

**私**は、コロナ禍の中、短大に入学しながらの対面授業が行われ、新しい仲間ができた。初めての電車通学、初めて学習する内容、お昼、短大で過ごす全ての時間、コロナウイルスに気を付ける必要があった。マスクの着用、アクリル板など、あこがれていた授業風景とは少し違ったが、楽しく、充実した短大生活を送っていた。学務システムを使用した課題の提出や授業課題を、時には仲間と協力しながら進めていた。しかし、電車通学や授業にも少し慣れてきた頃、対面授業はすべて遠隔授業に切り替わった。周りにいた仲間がいなくなり、一人でパソコンに向かう日々が続いた。WEB会議ツールを使用した授業では、チャットやビデオ通話機能によって、コミュニケーションをとることができた。しかし、学務システムのみを使用した授業では、一人で授業を受けることになった。また、試験も遠隔で実施されることになった。以前は、友人と問題を出し合いながら試験対策を行っていたが、オンラインとなってからは、一人で黙々と対策に励んだ。試験が終了した達成感も一人で感じていた。遠隔授業になって、一人で学ぶ時間が増え、孤独感を感じていたが、遠隔授業だからこそできたこともある。電車通学だった私は、レポートなどの授業課題を、限られた時間の中で行っていた。しかし、遠隔授業になると、通学時間がなくなり、対面授業の時よりも自由な時間が増えた。そのため、レポートの推敲する時間が増えたり、課題にじっくりと取り組む時間が増えたりした。コロナウイルスが生んだ新しい生活様式には、様々な課題がある。しかし、新しい生活様式だからこそ、情報技術が発展し、様々な生活の仕方が生まれた。短大生活での遠隔授業やコロナ禍での経験をこれからの人生に生かしていきたい。

**私**が短大に入学しもう少しで1年が経とうとしています。その一年間には今まで経験したことの無い経験が沢山ありました。入学式は短い、授業は対

面で受けられない、サークル活動は進まない。パソコンを使いリモート授業。私が見ていたキャンパスライフとはかなりかけ離れたものとなりました。そんな中で私が進んで取り組んでいたことは音楽です。私は音楽が大好きです。サークルでは軽音楽部に入部しドラムを主に頑張っているのですが、家でドラムを叩くことは出来ず自粛を機にギターを始めよう！とギターに挑戦しました。好きなことをして時間を潰す。趣味を見つけて時間を潰す。自分の時間に作り替える事で自粛の期間はより良いものになりました。サークルが始まり、ドラムだけでなくギターも進んで弾くようになりました。ドラムだけではなくギターを通じて知り合えた人もたくさんいます。私の好きな音楽を通じ、幅広い人と関わることにごく嬉しく思います。今は検定や勉強が忙しいのですが、それよりもサークル活動がとても楽しく、自分が一番ありのままでいられる場所だと思っています。自粛でサークル活動が始まったのは9月ごろからでしたが、ギターに挑戦し、音楽の良さを肌で感じ、それがあったからこそより良いものになったと思います。まだまだと音楽を通じいろいろな体験をしていきたいです。

**2** 020という年は、私にとって変動の年になりました。「今年は就職活動の年だ。頑張ろう」と意気込んでいましたが、新型コロナウイルスの流行により、毎年3月に開催されていた合同説明会も中止になり、就職活動も長期化、オンラインでの面接など様々な変化に対応せざるを得ませんでした。世の中の士気が落ち込み、出口の見えない生活の中で、「感謝」について改めて気づかされ、考えることが多くありました。今年度は、半年間学校に行くこともできず、外出自粛が呼びかけられ、最低限度の外出を心掛けていました。そのような中で就職活動。不安がとてつもなく押し寄せてきました。慣れないコンピュータを駆使し、オンラインでの説明会や授業に翻弄される日々でした。そこで、支えて

もらったのが、進路支援課の方々や先生方でした。対面で話せないながらも、真摯に話を聴いてくださったり、就職活動で授業についていけない時も、詳しく内容を教えてくださったりしました。いつも当たり前だと思っていた生活が、当たり前でなくなった時、人の温かさに再度気づかされたと思います。それは母の温かさだと思います。自宅にいる時間が増え、母と一緒に過ごす時間がとても多くなりました。楽しいことを共有したり、喧嘩する時間も増えました。どんなことがあっても、私と一緒にいてくれた母にとっても感謝することができました。外出自粛をし、人との距離や心の距離が少し離れた年でしたが、親子の絆が深まり、楽しい一年を過ごすことができました。

**2** 020年は自分の人生のなかで忘れられない一年になると思う。マスクをしなければ外出できない生活になり、一年前には想像もしなかった生活に変わった。新型コロナウイルスのせいで生活が一気に変わり、ただでさえ不安だった就職活動も手探り状態でしていた。就職活動の大きなイベントも中止になり、経験もしたことがないオンライン面接になり、初めてのことが多くてとにかく大変だった。オンライン面接は練習すらしたことがなく、ちゃんと機器が繋がっているかなどの不安もあり、例年とは違った就職活動になって戸惑っていた。また、4月には緊急事態宣言が発令され、学校の先生と面接練習をしたり、アドバイスを頂いたりしたかったが、できるだけ外出を避けなければならなかったために電話対応になり、直接先生からアドバイスをもらう機会が少なかった。そのことが不安につながった。緊急事態宣言のせいで就職活動が前倒しになり、例年内定をもらえる時期に内定を一つももらえていなかったことがとても不安だった。このように新型コロナウイルスのせいで初めてのことがたくさんあって大変だった。授業もオンライン授業になり、テストも遠隔で行い、まさかこのようになるなんて思ってもいなかった。コ

ロナウイルスのせいでただでさえ大変な就職活動も苦労したし、学生最後の一年を思うように遊べなかったことはとても残念に思う。いち早くコロナウイルスを収束させて、元の生活に戻れるよう一人ひとりが意識していくべきだと感じた。2021年は去年より幸せな年にしたい。

**こ** の1年を振り返って、自分のしたいことが制限され思うように出来なかったと感じています。短期大学に入学して数日後オンライン授業に変更になり、友達が少ない中、半年間会うことなく、授業が進んで行ったので正直不安の方が強かったです。その反面、自粛期間に地元の友人や家族とのコミュニケーションが増え、改めてありがたさを感じることが出来ました。不要不急の活動を控える中、不安やストレスから後ろ向きな考えが頭をよぎることも何度もありました。そんな時に相談に乗ってくれたり、zoomなどを使用し雑談をしたりと、たくさんのことで支えられてきました。このような状況だからこそ、改めて大切さを深く実感することができました。コロナウイルスが終息後は、少しでも支えてもらった分、たくさんの方々に恩返しをしたいと考えています。また、残り少ない短大生活を少しでも充実したと思えるように今からでもしっかりと行動して行きたいと思います。

**新** 型コロナウイルスの影響により、学校生活において大きな影響を受けた。2年の前期は全てオンライン授業になり、家から出ることがなくなった。ひとりの部屋で、机を広々と使えたり、プリントが配られないから紙だらけになることがないなど、いい点もいくつか見つかった。私は通学に時間がかかるので、余裕を持って一限の授業に出られるのも魅力的だった。しかし、周囲に人がいないことで不安になることも多かった。困ったときに周りに聞くことができない、メールやコメントを送っても気づいてもらえないということが何回もあり、自分の今やっていることが本当

に合っているのか不安になった。また、zoomではWi-Fiの接続状況によっても声が聞こえなくなったり、操作が反応しなくなったりすることも多かった。しんと静かな部屋の中でひとりだったので、やっぱり周りに友達がいる方がいいなと思った。後期は対面授業と遠隔授業の両方があったため、友達と久々に会うことができ、授業も普段通りに近い感覚で受けられた。それでも試験前からまた遠隔授業に変わってしまったため、またひとりの寂しさを感じるようになった。試験の予定も大きく変わり、情報にとっても敏感になった。就活においても予定が大幅に狂ってしまい、説明会や面接の予定が何度か変更になることが多かった。面接では、感染対策のためにマスクをつけたままで、なかなか笑った顔をうまく作れず、とても苦労した。笑うときは主に口を使っていることを強く実感し、目で笑う難しさを感じた。私は1回目の緊急事態宣言前に内定をいただけたので、まだ良い方だったと思う。私が内定をいただけた直後に緊急事態宣言になり、説明会も面接も全て延期や中止になり、とてもヒヤッとした。何もかもがイレギュラーで、これまでの経験や前年度の様子をそのまま参考にすることが難しい、手探りの一年間だった。それでも、こういう事態になったからこそ、より自分で考えるようになったし、情報や予定にも敏感に反応できるようになれたと思う。就職した後もこの経験で学んだことは生かしていきたいと思う。

**ま** さか短大生活1年の半分が遠隔授業になるだなんて最初は思ってもいませんでした。こんなにもコロナ感染者が増え、家からも出られず、友達にも会えない状況が半年続くのは初めての経験でとても戸惑いました。新しい友達がちゃんとできるかなという不安や授業が遠隔になるためついていけないのかという不安が沢山ありました。しかし友人の友人などと話す機会が増えたりなど出会いは沢山あり、思っていた以上に幅広く友人と呼べる程の友達ことができました。コ

ロ患者が減らない中、消毒や検温、マスクなど自ら学生が心掛けて行った対策などの結果により後期には対面授業がほとんどになりました。その時はとても嬉しかったです。友人と会える喜び、サークルにも所属していたので、先輩と仲良くなれるチャンスでもあり、対面授業などが増えた時は喜びが大きかったです。友人と会える時間が増えて楽しいことは多々ありましたが、まだ収まらないコロナはこれ以上増やしてはいけないうと思ひ、友人と徹底的に消毒、検温をしたりと様々なことに心がけました。今でもコロナは収まってはいませんが、これ以上感染者を増やさないためにも、また行事やイベントができるようになるためにも、自分ができることは確実にこなしていきたいです。私達はもう就活の時期に入っています。コロナという理由で自分の思い通りにいかないことがなくなるように、しっかりとやるべきこと、できることをしていき、いい就活だったと言えるようにしたいと思います。

**私** の2020年度は、今までとは違った生活スタイルの中で、色々なことを考えたり、実感する一年であった。高校を卒業し、初めての短大生活は私が想像していた学生生活とは大きく違うものであった。初めての一人暮らし、知らない人しかいない環境、PC操作での授業選択など初めてづくしの生活に不安とワクワクだった4月。そんな中コロナ禍となり、入学式の短縮や前期は遠隔授業となり学校に通えなくなってしまった。私は地元へ帰省し、遠隔授業が5月からスタートした。PCもろくに触ったことがなく、かつ友達もいない。分からないことも自分で調べるしかないし、自粛が当たり前の世の中で外出も出来ずかつ友達とも会えない中、毎日向き合うのは遠



隔授業のために使用するPCのみ。毎日不安で押しつぶされ、何をしているのか、意味はあるのかと自暴自棄になり心身を弱らせてしまう期間も少なくなかった。そんな中、毎日レポートやzoomでの授業をこなしていく中で、気づくことや考えることも多かったように思う。通学の時間の短縮により自分の使える時間が多くなり、趣味の時間に使うことができ、今までしなかった料理にも挑戦するようになった。毎日過ごしていく中で次第に生活にも慣れ、心にも余裕が生まれ、体調も回復していった。ネガティブにしか考えることができなかつた日々も今のうちに色々なことを吸収し、学んでいこうとポジティブに捉えることが出来るようになっていた。私一人ではこの一年を乗り越えることはできなかつたと思う。両親のサポートや友達と時々話すことが私の支えにもなっていた。今は半年間、外出も我慢して色々なことを我慢したことは無駄ではなかつたように思う。当たり前に出出したり、友達と遊べること、学校に通えることは当たり前ではないことであるととても実感することができたからだ。感謝の気持ちをより持てるようになり、この経験は今後の私の糧になると思う。今も前の世の中とは違い、マスクや消毒が必須であったり、都市部では外出自粛が続いている。前のような生活に戻ってくる保証はまだない。学生生活は残り一年間だ。どんどん時間は過ぎていく。社会人になる前にまだまだ経験したいことがある。厳しい世の中だが、諦めずに色々なことに挑戦し、まだまだ学びを深めたいと思う。そう一層考

えることのできた一年にもなった。

**コ**ロナ禍の一年を過ごして、改めて人とのつながりの大切さに気付くことができました。友達に会えなくて寂しい思いをしたし、大好きなダンスを仲間や生徒と伸び伸びと踊ることが出来なかったのが一番辛かったです。今までなら対面の授業があってマスクもせずに過ごしていたのに、コロナウイルスという得体の知れないウイルスのせいで何もかもが変わってしまいました。イベントやコンテストも全部なくなってしまい、生徒たちが成果を発揮できる場所がなくなってしまいました。コロナ禍に慣れてない今、開催をしようと考えてもとにかく気をつけられないことだらけで大変です。当たり前のように過ごしていた日常は当たり前ではないと痛感しました。だからこそ、自粛期間中はSNSを大いに利用して人とのつながりを大切にしました。ダンスもオンラインレッスンに切り替わっていつも以上に一人一人をみれるように意識しました。instagramを活用して自らをしっかりと発信し、自分のダンサーとしてのブランディングを進めていきました。今はなんとなくコロナ禍に慣れてきて、人にも会えるしレッスンも対面できるようになってきましたが、油断はできません。また自粛ムードになったとしても対応できるようにSNSは上手く利用し、これから人とのつながりも大事にして行きたいです。これからも続くであろうコロナ禍でダンスに関しては新しい文化、新しいイベントの形を探していきたいです。

**新**学期が近づく三月、二年生になる私は短大生活もあと半分となり、残り少ない学生生活を楽しもうと思っていた。しかし、新型コロナウイルスの影響で、短大生活も予想しなかった状況になってしまった。前期は全面オンライン授業となり、学務システムのdotCampusやZoom等のオンライン会議システムを使って初めて一人きりで受ける授業となった。使い方がわからな

いZoomや時々起きるネット回線のトラブルに困惑しながらも何とか授業に付いて行こうと必死に試行錯誤した。後期からは通常の学校生活に戻ったとはいえ、感染対策のために常時マスクを着用し、「密」を避けるために一席分間隔を空けて着席した。また、アルバイトでも新型コロナウイルスの影響でお客様の数は一気に減り続け、売上が3分の1にまで減少した。緊急事態宣言が出されてからはアルバイト先も休みになり、家から一步も出ない生活になった。そのような環境の中では、沢山の大事な事に気付かされたり価値観が変わったりした。私たちが家の中でご飯を食べることができたり、安全に生活が送れたりするのは、スーパーで働く方やご飯を届けてくれる方、そして医療従事者の方々が支えてくださっているからだと改めて気づくことができた。コロナ禍という危機の中で日常のライフスタイルを支えてくださっている人達に感謝の気持ちを忘れず、人への感謝というのをもう一度きちんと学ぶ機会となった。そして、新型コロナウイルスの影響は就職活動にも及んだ。合同企業説明会が相次いで延期となったり、オンライン選考になったりなど、「自分が想定していたのとは違う就職活動」になった。本来であれば、志望先の企業が開催している説明会や、就活イベントに出向き、企業の方と直接話をして、その場で感じたことを判断材料できるが、コロナの影響で直接会社に訪問することができない機会を失い、インターネットやその企業のホームページなどの誰でも得られる情報でしか判断出来なかったことは、マイナス面だったと感じる。しかし、就活はどれだけ自分で動けるか、自分でどれだけ情報を集めて、準備できるかが鍵になってくるため、コロナを言い訳にせず、この環境で努力し、どれだけ主体的に動けるかが大切だと意識が変化がしていった。また、今までも世界は変わってきていて、今回の新型コロナウイルスでの影響を受けているのも自分だけではなく、皆同じ不安のなかで進もうとしている。ひとりで壁にぶつかっているので

はないと気づき、ぱっと視界が広がった。コロナ禍でも、今、置かれている状況で与えられていることに一生懸命向き合わなければいけないと考え、停滞している気持ちを前に進めることが出来た。コロナ禍の一年を振り返って、先行きがわからない状況に不安が膨らむ毎日で、初めは未来が見えなくなってしまったが、それと同時に当たり前だと思っていた毎日は、かけがえのないもので、好きなことができることや、将来について考え、行動できることは本当に幸せなことだったのだと身にしみて感じる機会にもなった。私は4月から社会人になるが、これからも多くの人々の世話になっていることへの感謝の気持ちを持ち、どんな時でも前向きさを忘れずにいたい。

**コ**ロナ禍の一年は、面倒で嫌だと思ふことも良かったと思ふことも、両方あった一年だった。まず、嫌だと思つたことは、家で過ごす時間が長くなったことだ。私の家族は仲が悪く、家庭の雰囲気は良いものではなかったため、家にいる時間が長くなると思うと、とても憂鬱だった。また、遠隔授業でZoomを使った授業だと、家族がいる家の中で参加しなければならなくなり、発言しにくかった。次に、良かったと思ふことは二つある。一つ目は先ほど述べた家族の仲についてだ。コロナ禍になり、家族の間で体調を気にするような会話が増え、以前よりも少しだけ、家族間でコミュニケーションをとれるようになった。それでもまだまだ家庭の雰囲気は良いものといえる状態ではないが、少しでも改善することができて良かった。二つ目は自分の好きなことに時間を使うことができたことだ。遠隔授業が行われていた期間では、学校へ行く時間がなくなったことで、趣味に時間を使えるようになった。入学してからは、長い通学時間や想像よりもはるかに多い課題などに圧倒され、好きなことを思う存分に楽しむことが出来なかったが、コロナ禍になり、時間的な余裕だけでなく精神的な余裕も生まれ、自粛生活を案外有意義なも

のにできた。このように、コロナ禍において良い面も悪い面も両方経験した。感染対策で制約されたこともたくさんあったが、コロナが良い影響となったことの方が多い気がした。

**新**しい大学生活が始まると希望と不安を抱きながらも、楽しみにしてきた大学生活が最悪のスタートとして始まりました。誰もが予測していなかった生活になり、私は旅館でアルバイトをしていたため、そのアルバイトも無くなり学校生活もろくに送れず家に引きこもり、誰とも会わない毎日でした。また、大学の友達はできず、授業の進み具合や課題の提出などわからないことがあっても聞く人もいないため、大学に行っている意味はあるのか、辞めた方がいいと本気で何度も考えました。また、コロナ太りというものがありますが、私は逆にコロナ禍で5キロ体重が落ちてしまいました。そんな中でも、その時は高校の友達に支えられながらオンライン授業を受け、課題提出を頑張っていました。そして、後期の授業ではまず夏休みがなく集中講義を受けるために学校に通い始めて、そこでやっと友達ができました。しかし、マスクをつけているため顔が全然覚えられなかったりという事もたくさんありました。ですが、後期から学校に通い始めて大学が楽しいと思うようになりました。毎日友達に会える喜びや分らなかったところはすぐに聞いたり、みんなを確認しあったり、普通のことかもしれないかもしれませんがその事でさえ自分の中では大きな喜びになっていました。誰も予測しない、対応できない世の中になってしまっただけで当たり前だと思っていた人に会えない辛さや苦しさを味わった人は私の他にいます。その中でも亡くなってしまった人も多くおり、自分が予防するだけで周りの人の命が救えるという事、自分の行動で周りの人の命を左右する事も強く実感しました。まだまだ、収まらない気を抜いてはならない世の中です。慣れてしまったらまた多くの人達が苦しんでしまうと思います。私は

一刻も早くコロナ禍を脱出して、元の生活に戻って欲しいです。たくさん行きたいところもありやりたい事もある今だからこそ、自分の行動に責任を持ちたいと思います。そして、マスク生活が無くなることを願います。全世界のみんなが協力すべき今だと思います。

**コ**ロナ禍で過ごした1年を振り返って私は、自分を支えてくれた周りの人たちのありがたさを改めて実感することができた年だと感じました。新型コロナウイルスの流行をきっかけに、本来予定されていた就職活動に関する重要なイベントがことごとく中止となりました。1年次では“例年”と同様の就職活動の準備をしてきたため、予想外の出来事に対して今までの準備が無駄になったような気がしたのを今でも覚えています。大学への立ち入りが禁止され、遠隔での学習のため自宅にいる時間が増えたことで、同時に自由に過ごせる時間も増えたのは良かったとはじめは思っていました。ですが、就職活動に対する漠然とした不安や悩みだけは消えることなく、自分の心の中に残ったままでした。そこで私は、今までのガイダンスで学んだことや先輩方からいただいたアドバイスなどをまとめたノートを見返すようにしました。例年とやり方が異なっても、活かせるポイントはいくらかもあると考え、ノートに書いてあることをもとにどのようにしてこの状況を乗り越えるか行動するようにしました。また、友人と通話で情報を共有したり、面接の練習をしたりすることでお互いに支え合いながら今できることを精一杯取り組みました。周りの友人たちの頑張りを知ることで励みになり、気づけば漠然とした不安も消えて、自分自身のやる気にもつなげることができました。その結果、満足のいくかたちで就職活動を無事終えることができました。一緒に頑張ってきた友人たちや先輩方、大学の職員の方の支えのおかげでこのような状況でも乗り越えることができました。支えてくれる人たちがいたことで孤独を感じることなく、落ち着いた

て対応することができたと思っています。もしまたこのような困難な状況に陥ったとしても、今回の出来事をきっかけにまた乗り越えていけるような気がします。

**こ**の1年を振り返って、1年が早く感じた。特に前期はオンライン授業だったため、授業と授業でない時のメリハリがなくパツとしない感じだった。また、サークルや部活動など入りたかったけど短大に入ってすぐにオンライン授業になったため、入るタイミングがわからず、結局何も入れなかった。しかし、夏の集中講義から授業は対面になり集中して取り組むことが出来た。前期がぱつとしなかった分、後期の授業は一生懸命頑張ろうと勉強に力を入れた。そのおかげで、資格を取るなど充実した生活が送れたと思う。オンライン授業とサークルや部活動に入れなかったことで、友人を作るのがすごく大変だった。私はすぐに打ち解けられる性格ではないため、とても苦労している。しかし、他のみんなはこのような状況にもかかわらず、友人と早く打ち解けて仲良くなっていた。だから私も見習いたいと思う。コロナ禍によって不利だと感じることはあったが、それでもしっかり学業に取り組めたので良かったと思う。

**コ**ロナ禍の一年を振り返って、今までの生活から出来なくなることや制限されることが増えて自由に行動する事ができなくなった一年でした。外出や学校など普通にできていたことが出来なくなるなんて考えたこともなかったし、ここまで長くとも思っていなかったの、最初はいつになったら元の生活に戻れるのかすごく不安でした。だからこそ自分に今出来る事を考えて行動するようにしていました。休校になり今まで時間がなくてできなかった運動や料理をする時間ができたりとデメリットばかりではなくメリットもたくさんありました。コロナ禍になったことで悪い方向に行くことが多かったからこそ、悪いことも良い

方向に変えられるように考えていけるようになりました。まだ完璧にコロナが収まったわけでは無いけれど、一人ひとりの行動が大切になってくると思うので、自分なりに手洗いうがいやアルコール消毒などを徹底してコロナ禍になる前の普通の生活に戻って欲しいです。

**私** は今年星短に入学しました。コロナの影響により、自分が思い描いていた学校生活とは少し異なっていました。しかし、その中でどれだけ取り組めるかが重要だと言いついて聞かせて前期から真剣に授業に取り組むことができました。オンライン授業の中で友達が少しずつ増えました。それは先生方が他の人との関わりが少ない中で、交流する機会を設けてくださったおかげだと思います。そうしてできた友達とお互いに励まし合い、助け合い辛い時や不安になった時も乗り越えられました。後期からは対面授業が始まりました。ようやく友達と会うことができたり、新しく友達ができたりと自分が憧れていた学校生活に近づいたように思います。対面授業がはじまり、早起きや時間の調整など意識しなければいけないことが増えたけれど、1日1日こなしていくことで頑張っているという実感が湧いたし、自信を持つこともできました。友達とも日が経つにつれて仲を深めることができましたように思います。毎日一生懸命に過ごすことができていたように感じます。

**星** 稜短大に入学が決まり、ひとり暮らしをするための準備を着々と進めている頃でした。コロナウイルスが広がって学内にも入れず、実家で授業を受け、画面越しに顔を合わせるだけの日々を過ごすことになりました。家から出ることが少なくなり、友達との会話はLINEのトークやたまに電話をするくらいで、face to faceでの会話は一気に減りました。寝て起きて画面を眺めるだけの時間が続いて暇な時間が増えました。それでも遊びに行くことは出来ず、精神的にも身体的にもストレスになっていま

した。後期もこのままの生活が続くのでは無いかと不安になりましたが、なんとか学校に出ていけることができ友人も作ることができました。やはり、対面授業の方が学校に通っている、授業を受けているということを強く実感することが出来ました。ひとり暮らしもやっと始めることができ嬉しかったです。アルバイトも見つけることが出来て充実した半年を過ごすことが出来ました。1年間なにかと大変なことばかりありましたが、コロナ禍の中で耐える力をなにか身に付けることが出来たと思うので、就活でも活かしていきたいと思いますし、2年次も頑張っていきたいです。

**私** はこの1年間、前年度とはまるで違う年になったと感じています。前期は学校に行くことがほとんど出来なくなり、自宅で授業を受けるだけの毎日でした。後期になっても、友達とワイワイ話すことが憚られる日々で、学校全体の活気も無くなっていくように感じられました。ですが、コロナウイルスを言い訳にせず、学生も社会人もリモートや自宅学習で各々がやるべき事をするという意識が見えるようになってからは、人間の生きる強さを実感しました。コロナウイルスのようなパンデミックを体験するのは、今を生きる人にとっては初めてのことです。混乱や不安を巻き起こして、病気そのものだけでなく感染者への差別や偏見などの問題も出てきました。戦っている相手はウイルスであって人間同士ではないのに、感染者を目の敵にするような風潮は無くなってほしいです。私は周りでコロナウイルスに感染したという人を見たことはありません。近しい人が感染してしまわないように自分自身対策をしっかり行おうと思うのと同時に、もしも近しい人が感染してしまった場合にも決して差別の目で見たり責めたりはしないようにしたいと思います。

**新** 型コロナウイルス感染症の影響で、リモートの授業が多いように感じました。初めは、慣れないリモート

授業で、授業について行けなかったり、新しい友人を作れなかったりと不安な点が多数ありました。しかし、リモート授業を続けていく中で、対面よりも先生との距離が近く感じられたり、グループ活動の中で新しい友達が増えたりなど、振り返ってみればとても充実した楽しい1年間だったと思いました。また、短大生になって初めて居酒屋でアルバイトを始めました。居酒屋でホールスタッフとして働く中で、接客業の楽しさに気付く事が出来ました。飲食業は特に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、時短営業や休業を予期せず行うことになりました。お客さんが少ない中でも、ひとりひとりに合った接客を行えるよう意識しました。この事でより、お客さんとの距離も近くなり、常連になられる方も増えました。最後にコロナ禍で出来いことが増えたりもしましたが、それと同時に今まで出来ていなかった事が出来たと思うので結果的に良かったと思いました。

**短** 大生になりこれまでよりも時間に余裕ができたことで友人との遊び、家族との旅行などを楽しみにしていましたが、新型コロナウイルスによって外出が制限され、外に出られない、会いたい人に会えないなどたくさんのストレスを感じた一年でした。学校の授業は前期はオンラインで行ったため、新しい友人を作ることもなかなかできず、短大生活の4分の1をオンラインで過ごすという生活に、せつかく短大生になったのもったいない…という気持ちでいっぱいでした。アルバイトでは、時短営業、人員の削減が行われ希望通りにシフトを入れてもらえなくなり、自分の欲しいものが買えないことにもストレスを感じました。しかしそれ以上に、友人や家族の大切さに気づくことができた一年でもありました。友人とは、それまでよりも連絡を取る回数が増えたり、お互いに相手を気遣うことで不安な気持ちを解消していました。家で過ごす時間が増えたことで、家族ともコミュニケーションを多く取るようになり、コロナが収まったら行

きたい場所などの話をして少しでも皆が明るい気持ちになれるような会話をしていました。今までに経験したことの無い事態に最初は戸惑うこともたくさんありましたが、一年を振り返ると新しい発見もたくさんできた日々だったように思います。就職活動が本格的に始まり、まだまだ不安もたくさんありますが大変な状況なのは皆一緒なので、精一杯頑張りたいと思います。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って、短大に入学してからもコロナウイルスが止まらず進行していたため、実際に学校に通いながら授業を受けることができるのか心配になりましたが、遠隔授業の時期もありながらもなんとか学校に通うことができて良かったです。学校に通えたおかげで、友達とコミュニケーションをとる機会もたくさんありました。もし学校に初めから通えていなかったら、話しかけることが苦手な自分は友達ができなかったかもしれないなど考えたこともありました。ですが、今こうして話せる友達がいて、本当に良かったと思います。そして、自分の中で1番コロナ禍が影響したことはバイトです。飲食店でバイトをしていたのですが、コロナウイルスの影響でなかなかシフトを入れてもらえず、続けようか他のバイト先を探そうか悩みました。ですが、他のバイトを探すのにもとても苦勞したので、コロナ禍でとても苦痛に感じた年でした。今はまだ状況があまり変わっていませんが、コロナ禍において何事にも学びの多い一年でした。コロナウイルスが終息すれば、もっとたくさんの経験ができると思うので頑張っていこうと思いました。

**2** 020年、この1年は新型コロナウイルスの1年と言っていいほどコロナばかりの報道が多かったなと思います。実際、コロナが拡大し、多くの被害があったと思います。飲食店の時短や休業、リストラ、学校の休講など。学校は、新学期が始まり、直ぐに休講となりました。そのため、友達も上手く作れず、慣

れないオンライン授業を通して大変なことが多かったのではないかと思います。2年生も、就職活動と重なってしまったため、今まで以上に就職活動ができず、就職のイベントも少なく、あまり動けなかったのが、悔しいところでした。しかし、就職活動も落ち着き、無事終わることができた今は、アルバイトも再びすることができ、最後の学生生活を楽しんでいます。今は、まだコロナが完全に収まっていないので、卒業旅行も行けないのが凄く残念です。しかし、この1年、コロナと戦った1年は忘れることの無い1年になったと思います。この苦勞を忘れずに頑張っていこうと思います。

**コ** ロナ禍の一年を振り返ってみると、自分なりに上手く過ごすことができた一年だったと思います。自肅期間は、もうこんな期間が来ることはないと思い、自分の好きなことをして過ごし、また、就職活動の準備に上手く利用することができました。就職活動が辛かった時は、みんな大変な状況の中で自分なりに頑張っていると思えば、私も頑張ろうと前を向くことができました。遠隔授業になり学校に行けず、友人に会えないのは寂しかったですが、みんな同じ状況だと考えればそこまでストレスは感じませんでした。コロナの影響でできなくなったことがあったり、気持ちが暗くなることもありましたが、置かれた状況で自分なりに考えて過ごすことの大切さ学びました。また、考え方ひとつで前向きになれることも知りました。私は、こうして学んだことがあったので、この1年は決して無駄ではなかったと思います。いつまでこの状況が続くかはわかりませんが、これからも自分なりに上手く対応して過ごしていこうと思います。

**今** 年度はコロナ禍で従来通りに学校に行けなかったため、前期は全てオンラインで友達もできず初めはとても不安でした。しかし、悪い方にはばかり考えるのではなくオンライン授業になった事を何かに生かすことは出来ないかと考

えるようになりました。私は、在宅により増えた自由な時間を車の免許取得やExcelの勉強に当てました。オンライン授業の合間を縫って自動車学校に通ったり、Excelの勉強をしたりして自肅期間中に免許とMOS Excelの資格を取得することが出来ました。今後の生活でも、自分が思うような活動や従来通りの活動が出来なくなることがあるかもしれませんが。そんなときは悪い方向にばかり考えるのではなく、逆にその状況を活かしてなにか出来ないかと不便を利点と捉えた行動が出来るようにして行きたいです。また、後期からの対面授業では友達ができるかがとても不安でした。しかし、皆いい子ばかりで仲の良い子や話せる子が沢山で楽しい1年でした。次年度は就活などもありますが、残り1年を精一杯楽しみたいです。

**コ** ロナウイルスにより、昨今の頃から以前までの生活とはだいぶ違ったもの、不便なものに変わったと思います。何をしても、どこに行ってもウイルスに感染してしまう可能性がありとても怖かったです。芸能人でも、しっかり対策をしていたのにも関わらず感染してしまった人がいました。一時期、石川県は日本の中でも多い時があった気がします。ずっと家にいて、気分転換で遊びに行くこともなかなかできず辛かったです。辛かったと過去形になるというよりは今もなかなか遊びに行けず辛いです。県外に旅行に行きたいですし、好きなアイドルのコンサートにも行きたいです。やはり、娯楽が制限されるのはどの人間からしても辛いと思います。そんな私は1人で出かけることが多くなりました。どこに行っても消毒は欠かせないですし、マスクをしていない人を見ると「なんで？」って思います。今、気が緩んでいる人は少なからずいると思います。全員が意識して生活していきながら、いつかまた前のような生活に戻りたいです。

**私** が金沢星稜大学女子短期大学部に入学して、1年の間に受講したす

すべての講義を終えました。昨年度、高校3年生の時に新型コロナウイルスが流行し、3か月の休校がありました。大学に入ってから途中リモート授業やテストを余儀なくされることもありましたが、大学生になったことで意識が変わり、自主的に動くことができるようになりました。例えば、遠出ができないため、サークル活動に興味を持ち入部することにしました。以前までなら「立ち止まってしまった」とマイナスに捉えていたことも、「時間があるから良いのではないか」とプラスに考えられるようになりました。できないことが増えた分、新しくできることも増え、良い方向に向かえたと思います。反対にコロナ禍から抜け出せないことで、学校行事や実践的な講義内容は行えないままでした。実際に訪問することで新しい視点を持つことができるようになると思うので、悔しいと思いました。特に海外研修に参加したいと考えていたため残念です。しかし、こう考えたことで、コロナ禍が落ち着いたときに自ら計画を立て海外に足を運ぼうと考えるようになりました。これからも悲観しすぎず生活していきたいです。

**私**はコロナ禍の1年を振り返って本当に貴重な体験をした1年だと思いました。その理由としては、初めての経験が沢山あったからです。例えば、大人数での会食や県外旅行の制限などです。今まで当たり前に出ていたことが急に徹底的にできなくなるという残念な気持ちをとても味わいました。しかし、残念なことばかりではなく良い発見や経験ができたと感じたときもあります。その例としては、オンライン授業です。高校生まで私は学校の授業をあわせても数回しかパソコンに触れてきませんでした。そのため、パソコンに対しての知識が全くありませんでした。しかし、今回このコロナ禍でオンライン授業やパソコンを使う機会が増えてきたおかげで今はパソコンを十分に扱えるようになっていきました。その点では、いい経験ができたのではないかと考えています。その他にも

自分の時間をたくさん持つことができたことです。オンライン授業や学校への立ち入り禁止で家にいる事が前よりも格段に多くなりました。そのため、自分のしたいことができる時間が多くなった気がします。これもコロナ禍ならではの貴重な体験だと思っています。今回のこのコロナと言う状況で苦労してきたことや残念な思いをしてきたことはもちろんたくさんあります。しかし、その分いい経験もあります。今はこのような状況であまり動けなかったりしますが、いつかまた前のような状態に戻るまで私は前向きに考えていこうと思いました。

**コ**ロナ禍の1年を振り返ってみると、日常生活と大学生活どちらにも様々な影響を及ぼしました。大学生活で一番大きく変化したと感じた点は、授業が遠隔で行われたことです。特に星稜大学ではクラスターが発生してしまい、前期の授業は半分ほど遠隔となってしまいました。最初は、遠隔の授業に慣れずデメリットしかないのではないかと思いましたが、試行錯誤して回数をこなしていく内に、時間の使い方を有効に使えるようになりました。1つ目は、運動をする機会が増えたことです。人混みを避けるようになったことで、友人と遊びに出掛けることが減りました。その結果、私は元々体を動かす事が好きだったので、その余った時間をランニングの時間に当てることが出来るようになりました。運動不足解消にも繋がりが、これは大きなメリットでした。2つ目は、友達や家族と過ごす時間です。当たり前のように毎日友達と顔を合わすということが、とても貴重な日々だったと実感しました。2年間という短い時間の中で、友達と過ごす時間をもっと大切にしようと感じましたし、何より一日一日を大

切にしたいと思いました。何かあった時に、友達が横にいてすぐに会話ができる環境がとても幸せだったと改めて気が付きました。友達と過ごす時間は減りましたが、家族と過ごす時間は、とても増えました。以前は、自分の考えや正直な気持ちを親に話す事はあまり無かったのですが、一緒に過ごす時間が増えたことで、将来のことや日常的な話を親と話す機会が増えました。自分の将来について、不安な気持ちがあったのですが、親に話してみると意外と理解をしてくれて助言を貰い、自分の気持ちが明確になったように感じました。そして家族に理解して貰えたということが、凄く心の支えになりました。コロナ禍によって、消えてしまったイベントや日々は沢山あるけれど、どんな環境に置かれても、プラスに考えて行動していくことが大切だと思いました。望んでいなかった環境や厳しい環境に置かれても、デメリットをメリットに変えて前向きに行動していきたいです。

**私**が思い描いていた短大生活は、勉強、就活、アルバイトはもちろん、メイクをして、オシャレをして、恋を楽しむといったキラキラに輝く学校Lifeだった。高校生ではできなかったことができる胸を踊らせていた。しかし、新型コロナウイルスの影響は深刻になっていくばかり。入学式を終え、無事に学校生活が始まるかと思いきや、1ヶ月の自粛期間、そして遠隔授業が始まったのだった。友達はいない、勉強を気軽に聞く人がいない、家ではひとりぼっち、アルバ



イト先は倒産。コロナウイルスが憎くて憎くて仕方がなかった。ぶつけようのない怒りはただただ私のストレスを溜めていくばかり。そんな中、私はYouTubeを見ることにはまった。そのYouTubeの内容はルーティーン動画だった。ルーティーン動画とは、モーニングルーティーンや、ナイトルーティーンなどといった年齢性別の問わないYouTuber達が自分達の一日の様子を撮った動画だ。私は一日の最後にこの動画を見るのが日課になっていた。人の日常なんて見て何の意味があると思うかもしれない。だが私はこれにより、自分自身の考え方が変わった。ルーティーン動画を見ると、「これいいじゃん、私も試してみよう」、「掃除しよう、お母さん助かるかな」、「こんな勉強の息抜きがあったんだ」と考え方が豊かになり、たくさんの知識がついた。家にいることが当たり前の生活。人のルーティーン動画を見ることで、自分の生活の質を見直すきっかけにもなり、性格も柔らかくなったと思う。確実に思う。おかげで部屋が毎日綺麗だ。コロナウイルスのせいで短大生活が楽しくなくなったと決めていた4月の自分。でも今は、コロナウイルスがあったからこそ、だらしのない自分自身の悪い所を見つめ直せたい機会だったと思う。今までの私は、分からないことがあったら人に聞く、すぐに頼る性格だった。しかし、この状況で、この生活があったからこそ、「自分で考えて、動く」という今までの私には足りなかった強みがついたと思う。今までがだめだっただけかもしれない。他の人には当たり前過ぎるかもしれない。でも、私に一番足りなかったもの、欠けていたものはこれだと思う。私は、この経験を糧にこれからも前向きに生きていきたい。絶対無理なんてことはない、無理だと決めつける前に、自分で違う道を考えて、探して、それを行動にする。これが大切なのではないかと思う。尊敬される女性になりたい、手本になれる女性になりたい。私は、これからも自分自身と向き合い、自分の考えに自信を持てる人間でありたい。

**2** 020年4月、私は「4年制大学の人に負けないくらいの濃い2年間を過ごす」という目標を胸に星稜短大に入学した。入学ガイダンスは、周りは知らない人ばかりでとても緊張したが、出身高校や趣味、好きな食べ物などの話題で話をする事ができ、これから始まる短大生活に胸を弾ませていた。しかし新型コロナウイルスの影響により、新入生歓迎会の中止や前期の授業は全てオンラインで行われることが決まった。私はその時、「不安」という気持ちしかなかった。初めての短大生活、2年間という短い学生生活をオンラインでスタートさせることは、暗い未来しか見えてこなかった。自分自身パソコンの操作が苦手ということもあり、オンライン授業には苦手意識しか持っていなかった。しかし入学ガイダンスやSNSを通じて出来た同じ星短の友人と話をしているうちに、辛いのは自分だけではないのだと思い始めたのである。同じ状況の仲間がいると考え、少し不安も和らいできた気がしたのだ。この時から新型コロナウイルスの影響で自分たちの学生生活や未来が壊されたと捉えるのではなく、小さなことでも良いからこの状況下でも自分たちに来ることを考え、このような逆境をバネにして何事も頑張っていこうと思うようになった。そのためにオンライン授業では自分なりの工夫を心掛けた。対面授業に比べて慣れないパソコンの操作などが多いため、友人と分からない所は連絡を取り合い、先生にはメールやZOOMで積極的に質問をするようにした。そうすることで授業への理解をより深めることが出来たと思う。資格取得を目指して履修していた簿記の授業は、初めて習うことが多く一人で勉強することがとても大変だったが、先生から事前に配られる資料などを自分なりにノートにまとめるという、予習を大切にすることで理解を深めていた。このようにオンライン授業は大変なことがたくさんあったが、それを解決するために自分は今何が出来るのかを考え、自分で積極的に行動を起こす力をつけることが出来た。また新型コロナウ

イルスによって自分自身を以前よりも成長させることが出来たとも考えている。なぜなら自分自身とても積極的に行動を起こせるようになったからである。高校時代は友人と何かに参加するということが多かったが、短大に入学してからは今まであまり経験してこなかった、学内の行事などを運営する学友会に自分なりに情報を得て入会を決め、就職に関連するイベントも積極的に参加してきた。このようなチャレンジ精神はコロナという状況だからこそ、少しでも今自分に出来ることを見つけていこうという気持ちになるため、身についたのだと思う。これからはコロナ禍の就職活動ということでも大変ではあるが、チャレンジ精神を忘れずに、最後にはコロナの状況でも頑張った自分自身を褒め称えられるように頑張っていこうと思う。

**春** から金沢星稜大学女子短期大学部に入学して現在まで、多くのことを経験し学び得ることができました。前期では多くの授業をzoomなどオンラインで受講しました。その中で学んだことは、準備能力と臨機応変な対応が大切であるということです。高校時代には経験しなかった授業の仕方であったり、PCやアプリの登録であったり、これまでの学校では経験がなかった点が多くありました。また、授業を受けている中でも、電波や機材のトラブルなど予期していなかったことも多く経験しました。このことから、事前に万全の準備を整えておくこととどんな状況でも落ち着いて臨機応変に対応できることが大切なのだわかりました。また、非対面の授業を受けていた期間、短大でできた友人と会えないことがとても辛く不安に感じました。zoomやLINEなどでコミュニケーションをとっていても、直接顔を見て話せないことが寂しいと実感しました。そのため、対面授業に切り替わり、友人と会えるようになったことがとても嬉しかったです。コロナ禍の経験が、友人への思いをより深めることになったと感じました。今このコロナ禍の一年を振り返

ると、辛く大変な経験もしましたが、私にとって学びの年にもなったと実感します。今後は、短大でのこれまでの学びを活かして、就活やその他の活動も頑張りたいと思います。

**短** 大生活2年目を振り返ってみると「我慢の年」でした。学生最後の夏休みは、友達と県外へ遊びに行こう、あれを食べに行こうとやりたいことが沢山あったが、コロナで外出自粛が求められ、ほとんど叶えることができなかった。天気の良い休日は友達と沢山遊びたかったが、それも叶えられず、家ですることがない無駄な日を過ごすことが多かった。もうすぐ卒業式で卒業旅行も県外に行こうと一年生の時から約束していたのに、コロナが流行したので、県内で温泉旅行に変更になった。やりたいことがほとんど叶えられず、学生生活が終わってしまうことがとても悔しい。外に出て沢山遊びに行きたいが、行くと周りに迷惑がかかるかもしれない、そう考えて自分のしたいことをたくさん我慢した。社会人になると友達と休日が合わないことがあるだろうが、学生生活沢山我慢した分コロナが終息したら、めいっばいしたいこと、やりたいことを叶えようと思った。

**ち** ようど去年の今頃にコロナが流行し始め、2年の前期はすべて遠隔授業となりました。最初は、通学に時間がかかる私にとっては嬉しいなと感じていましたが、1日家から出ない日が続くと、気分的にも辛くなっていきました。友達にも会えないまま、家とアルバイト先の往復するだけでした。気づけば、あっという間に2年の前期は終わってしまい、友達との学校生活での思い出が全然無いということが本当に悲しいです。就職活動もWEBでの企業説明会や面接もZOOMなどで行ったりと、例年と全然ちがった方法で進み、うまくいかないことや不安がたくさんありました。しかし、そんな中でも家族や友人、先生方に助けられて頑張ることができたと感じて

います。この一年はあっという間で、大変でした。一刻も早く、以前のような生活が送れることを望んでいます。4月からは社会人として新しい生活が始まるので、コロナにも気をつけながら責任のある行動を取っていきたいです。

**私** はコロナ禍の1年を振り返り、自粛、遠隔授業など、慣れないことの連続ではありましたが、自分自身と向き合える機会となったことが1番の思いです。就活が不利な状況となり、将来のためより行動力を起こし、自分の意思を尊重するということが大切になってくるという自覚を持ちました。それによって、アルバイトを始めたり、運転免許を取得したり、資格の勉強をしたりと、可能な限り自分自身の為のできる学習をしてきました。中でもアルバイトでの頑張りは、今の自分にとっても立派な経験値となっています。ただでさえ十分な学習が出来ないとしても、この自粛期間でのアルバイト経験を利用して社会に入り込み、理解をしながら自身の短所を補っていくという目標を掲げ頑張りました。おかげで今はそれが結果として現れ、今後の就活への自信となっています。このコロナ禍の1年は、全てにおいて慣れないことがあり、それがかえて今までの環境にいた自分自身のことを理解する機会となりました。

**私** は、コロナ禍の一年を振り返って、短大生活に多くの影響を及ぼしたのが「コロナ」だったと振り返ります。なぜなら、テスト期間に、毎回遠隔であったり、遠隔授業をたくさん経験し、学校に行く機会が減ってしまいました。せっかく入学し、新たな道に進もうとしても、「コロナ禍」というだけで失うものが大きすぎたのではないかと考えます。勉学に力を思うように発揮できていなかったのではないかと感じる一年でした。ですが、しっかり検定の勉強と期末テストの勉強を両立し、コロナ禍であっても変わらないものや、やるべきことがあるため、頑張ろうと再度思う一

年であったとも思います。家での自習時間というのが、苦手ではありますが、休憩をこまめに挟んだり、リラックスできる環境で勉強をすることで、より良い勉学に繋がったと思いました。授業では、社会に出てから役立つことを多く学びます。なので復習だけではない勉強が大事になってきて、両立するという面ではそういうところにも意識していかないといけないと思いました。短大生というだけで、短く忙しい日々の中、コロナウイルスの影響でも短大で学んだことを忘れずに今後に生かせるようにしていきたいと思います。私は、コロナ禍でも良いことが沢山あったと思います。家族や友人と過ごす時間が増え、前よりも仲良くなったように思います。飲食店やお店に買い物に行くなど、あまりできない中でおうち時間というのを楽しみました。家族や友人と話をする時間を作ることで、社交性も上がるし、コミュニケーション能力の向上に繋がると考えます。ですが、一番大切なのは楽しむことであり、家族や友人がこれほどにも大きな存在だったのだと気づかされました。今後生きていく中で、大切にしたいのは家族と友人であり、何をすることも支えになってくれるのだと思います。これからもコロナ禍は終わりを迎えることはないのだと考えます。そのような理解の上で行動するというのは決して簡単なことではありませんが、私にできることや、私たちにできること、というのを考えていきたいと思いました。

**コ** ロナ禍の今年一年は初めての環境での大学生活が始まり、不安もあったが成長することが出来たと感じる一年であった。高校生に引き続きコロナが収まらない中、金沢に引っ越してきて一人暮らしが始まった。初めての一人での生活に加え、慣れない環境での学校生活が始まり、不安を感じる事が多かった。コロナにより授業も遠隔に切り替わり、実技の授業が出来ないことや周りの友達の様子が分からないことから、今迄のように指示を待ち、受け身になってい

ては遅れを取ってしまうと感じるようになった。このような思いから以前に比べて、やらなければいけないことを考えて、自ら行動することを心掛けるようになった。また二年間しかない学生生活のなかで一年生の内に多くの資格を取り、就活に向けての準備を進めるために取りたい資格を調べ計画的に勉強すること、就活に向けての講座に参加するなど自分から行動に移す力を身に着けることが出来た。コロナ禍の中、新しい環境での生活が始まるということで不安もあった。しかしこのような状況であったからこそ自分で行動していかなければ周りとの差が生まれると感じ、自ら考えて行動することが出来たため、成長した一年になった。

この1年を振り返り、改めて人に会える時間の大切さに気づけたと感じる。新型コロナウイルスが流行し、外出をする時はマスク、用事がない限りは外出しないという生活が身についた。そして、学校までもが休校となり、授業はオンラインになり、友達と話したり会う機会がなくなった。夏になり、新型コロナウイルスが少し落ち着き、対面授業になることが発表され、久しぶりに友達と会った時は感動した。会えなかった期間に髪型が大きく変わった人や、マスクをしていると誰かわからないということもあった。授業ではいつものようにみんなと一緒に受けることができ、お昼ご飯を一緒に食べれるなど、今までは当たり前だったことに幸せを感じた。今も新型コロナウイルスの流行は収まらず、最後の授業も急にリモートに切り替わったためとても寂しかった。新型コロナウイルスの影響で最後の学生生活がこのようなになってしまい、戻ってくるものではないためとても悔しい。ただ、友達と会える時間がどれだけ大切なのかを知ることができた。そして1日もはやくマスクをつけずに友達と会える日が来ることを願う。

コロナ禍の1年を振り返って、日常生活が大きく変化しました。まず初めに、学校生活では対面授業ができなくなり遠隔授業になりました。短大に入学して、なにもかも分からないままの遠隔授業のため、さらに不安が増していきました。そして、私は今まで学校の授業以外でパソコンを使う機会が無かったので、周りのみんなと差が生まれないようにしていくのが精一杯でした。しかし、遠隔授業になり、得ることができたこともありました。パソコンを使うことが苦手だと思っていましたが、遠隔授業で必ず使わなければいけない状況だったからこそ身につけることができたことがありました。コロナ禍が私たちの日常を奪ってしまい、普段どおりの生活ができない世の中になってしまいました。しかし、自分の考え次第でコロナ禍を充実することができたと思っています。困難があったとしても、自分の考え方を良い方に考えることで乗り越えることができると実感しました。

私が焼肉屋さんでアルバイトをしていたとき、コロナで時短をする前はとてもたくさんの人で満席状態が続いていましたが、時短営業が始まり、お客さんも数えられるくらいでアルバイト自体も勤務できることが減りました。来るお客様には、「最終注文が19時30分なので」と言って、せっかくなので帰ってもらおうとすると、快く帰らない方もいました。店長など上司の方々も、「売り上げが良くない」と言っていたので、本当にコロナの影響で飲食の業界は苦しんでいるのだと思いました。また、石川県でこの状況だったら東京の方などはもっと大変な目に合っていたのだらうと思います。時短営業が明けても、すぐには人出は戻りませんでした。少し



ずつお客様も増えてきて、通常に戻ってきて賑わいを取り戻した店内に、私は喜びを覚えました。忙しいのは大変だけど、暇でお客様が来ないのを体験して得たものもあったし、気持ちにも変化が生まれました。私は早くコロナが世界から消え、今までの通常の生活ができることを本当に待ち望んでいます。

コロナ禍の一年は、楽しみにしていた学校生活がオンラインとなり、とても悲しかったです。大学生活の楽しみの一つであるアルバイトも始めてから2ヶ月で一旦お休みとなってしまいました。学校にもアルバイトにも参加できず、ただ時間が過ぎるばかりでした。そんな中、家にいるばかりではすることもなく、退屈なため、何か始めてみようと思いました。そこで近所の友人を誘い、朝にランニングをすることにしました。少なくとも2km、多い時は10kmほど走りました。幼稚園の頃から運動をしていた私にとって、運動して汗をかくということはとてもいいストレス発散になりました。この経験から、出来ること、行ける場所が限られていたとしても、何もできないわけではないと学びました。家の中だからこそできることや、近所でもできることはたくさんあるのだと改めて気づくことができました。早くコロナウイルスが落ち着いてほしいけれど、新しい発見ができてよかったです。

この1年間を振り返り、私は良かった部分と悪い部分を見つけました。まず、悪かった部分としては、新しい

環境になり楽しい大学生活が始まろうとしている中コロナの影響でオンライン授業になり、友達も作れるか不安という部分あげられます。私はとても人見知りなので余計に不安になることが多かった。また、緊急事態宣言が出て友達と遊ぶ予定もなくなり、嫌なことだらけでした。でもこれは、多くの人の命に関わることなのでしっかりマナーは守るべきだと思います。良かった部分としては、緊急事態宣言が出てずっと家にいる時間が増えたので、それをきっかけに何か始めようと思ったのが読書でした。私は読書など減多にしません、何か1つでも見つけるために読書を始めました。本を読むたびに本の良さを見つけ出すことができました。このようにして、今大変な状況の中多くの人が不安や困難と立ち向かう中、1日でも早くコロナウイルスが終息するのを願うだけです。早く元の生活に戻れる時がくることを願いたいと思います。

**コ** ロナ禍の1年を振り返って私は有意義な時間を過ごせたと自分なりに思えます。しかし海外旅行に行ったり友達と何も気にせず遊んだりしたかったのが本音です。そのようなことは出来なかったけど私は良かったと思える1年を過ごせました。自粛期間中リモートワークで家から出ることが少なくなり運動不足になりました。なのでこの時間を使ってダイエットをはじめました。いつもと違い毎日同じ風景で同じことが起こる日々でしたが、自分でカレンダーをつけて目標を持って一日一日取り組むことが出来ました。その結果マイナス9キロのダイエットに成功することが出来ました。コロナ禍でネガティブなニュースが沢山ありましたが私は素晴らしい1年にすることが出来ました。いつもよりゆったりとした時間の中でその時間を大切に過ごすことが出来たからかなと思いました。時が過ぎるのは遅く感じましたが、その分忙しい日々がどれだけ充実していたかを知れたし、一人暮らしでなかなか会えてなかった家族と何ヶ月か過ごすこ

とが出来たので良かったです。

**2** 021年のウィズコロナの生活を振り返って、私はコロナに負けられないような、活動的な1年だったと思います。そう思う理由として、以下の2つが挙げられます。まず1つ目は、オンライン期間はあったものの、ほぼほぼ対面で授業を受けることができたという点です。コロナ対策として席を開けたり、発言や外国語学習での発声をなるべく避けたりして、完全に思い通りの授業にはなかったと思いますが、グループワークをしたり、意見交換をしたり、学外活動をしたりなど、対面だからこそ活発な活動ができたと思うからです。2つ目は、サークル活動でさまざまな経験ができたという点です。私はダンスサークルに所属しているのですが、コロナの落ち着きをうかがいながらさまざまなイベントに参加することができました。ウィズコロナなのでマスクをつけたままの練習となってしまう、苦しく感じることもありました。サークル内でのショーケースや文化祭でのダンスステージ、さらには惜しくもコロナの悪化で中止となってしまいましたが、up公演という石川県の大学のダンスサークル仲間が集まるイベントの練習でたくさんの人との交流もでき、コロナに負けず、活発に活動することができたと思ったからです。このように私は、ウィズコロナの生活の中でも、充実した学生生活を送ることができたので、コロナに負けられないような活動的な1年だったと感じました。まだまだコロナウイルスの終息はいつになるのかわからない状態ではありますが、2022年も多くのことにチャレンジできる、活発な1年にしたいと思います。

**コ** ロナ禍の1年を振り返ってみると、失われたこともあるが、得たこともあると感じる。まず、当たり前な日常が崩れたことで、これまでの生活の豊かさに改めて気づくことができた。遠方にいる家族や友人に会うこと・学校生活・就職活動・外食・旅行やライブ等、

様々な面で不自由を感じたり、実現できなかったことがあった。しかし、そんな中で人の温かさ・支え合うことの大切さを実感した。緊急事態宣言が出てオンライン授業が続き、毎日パソコンやスマートフォンの画面ばかりで実際に人と会うのは家族だけという期間があった。その時は車で移動することはあっても、電車で移動することがなく、気軽に人と会うことができないことにストレスが溜まっていた。しかし、会えなくてもスマートフォンを通して、顔が見られたり声を聞けたりした時は非常に活力をもらった。また、対面授業に切り替わる時期になると、長く会えていなかった友人とも実際に会えたので、非常に嬉しくて感動したことを覚えている。就職活動では、会社説明会に行くには外出しなくてはいいけれど、感染することが怖くて身動きがとれなかった。そこで、私はWeb説明会ばかりに参加していた。しかし、実際に会社説明会へ行く方が雰囲気が掴めるので、怖がりすぎずに行動できれば良かったと感じる。時間が経つと、人が集まる時は少人数であるべき、間隔を空けて座る、換気対策をすると良いなど、新型コロナウイルス感染症への対処法が見えてきて様々な場所で導入されるようになった。したがって、会社説明会へ行くことへの不安はなくなっていった。私は敏感になりすぎていたことを自覚した。そして、実際に会社説明会に行こうと考ええるようになった。そのようなことを含めて、就職活動では多くの人に支えてもらったと感じる。様々な不安があっても支えてくれる人がいたことで、非常に救われた。不安なことがあっても、抱え込んでしまい、すぐに相談できないこともあったが、それを受け止めて聞いてくれる人や温かい言葉をかけてくれる人、アドバイスしてくれる人がいることに気づくことができた。そして、気分が落ち込んでいる時に、何気ないことを話しているだけでも元気が湧いてくることもあった。このように力を与えてもらって喜びを感じたので、周りの人に私と関わることで同じ喜びを感じてもらえるように過

ごしていきたいと考えた。また、コロナ禍を過ごしたことで、予想外のことが起こるかもしれないと身をもって感じた。これから事前に準備できそうなことに対して対策するべきだと改めて感じる事ができた。自然災害はいつ起こるか分からない。しかし、被害を抑える環境を整えていきたいと感じる。具体的には、家具を固定することや非常食を揃えておくことなどである。それらをしておくだけで、被害が軽くなったり未来の自分や家族を守ることができる。これはコロナ禍も同じだ。感染しないよう行動することで周りにいる人達を守ることができる。しかし、気をつけていても感染してしまうこともあるだろう。それは、その人がマスクをせずに毎日過ごしていたり、数十人で会食していたとなれば厳しい目を向けられてしまうと思う。しかし、感染対策をして、気晴らしに少し出かけたというようなのであれば、周りの人も認めてくれると思う。早く終息すれば良いが、まだ時間が必要になると考える。それまでの間どのように過ごすか良いのか考えてみた。私はできないことに目を向けるのではなく、できることに目を向けて生活することでストレスを軽くして過ごせるのではないかと考える。新型コロナウイルス感染症が終息した時のために、現在は実現不可能なことでも、思いっきり楽しむことができるように情報収集したり、自分磨きをして過ごすことと良いのではないかと感じた。

**始**めに、コロナでの影響を強く感じたのは高校の卒業式でした。それまでは毎日コロナ関連の報道が流れ、学内や受験でも対策がとられ始めていましたが、すぐに収まるだろうと軽く考えていました。ですが、収まる気配はなく寧ろ悪化する一方で当時は石川県も危険区域に入っていました。そんな中で行われた卒業式は本来あった合唱や在校生の参列がなくなり、入退場や式中でもマスク着用・一定の距離を保つといった見たことがない異様な光景でした。式が終わった後は拡大を防ぐためにすぐに帰宅する

よう促され、友達との歓談は電話やSNSでとることとなりました。その日、私は今までやっていた対面での会話すら困難になってしまったのだと身をもって痛感しました。しかしその後の短大への入学式では、全員のマスク着用・ソーシャルディスタンスは常識へと変化していたので当たり前のこととして受け取るようになりました。授業がオンラインになるといわれても、不安はありましたが世間でもリモート対応になっていたりと変化があったので、すぐに受け入れることができました。ただ、周りの人となかなか会えず遊べないことやコロナの影響でアルバイト先がなくなった友達の話聞いて、受け入れることは出来ても寂しさはどうしても心に残ったままでした。秋頃にはコロナが一度落ち着いて、マスク着用ではあるけれど通常の日常が少しずつ戻ってきて、対面授業が始まりました。マスクで顔がなかなか覚えられず、未だに名前が分からない人が多くいるようなこともあります。リモートではできなかった授業内容が多く受けられたので楽しかったです。また、友達とともある作品のリアルイベントに行ったり、映画を見たりと今まで延期や中止、人数制限などでなかなかいけなかった催しに参加できてようやく楽しい思い出がいくつか作れました。この一年コロナによって出来なかったこと、なくなったものはたくさんあったけれど、私は私なりに前を向いて頑張ってきたつもりです。これからの就職活動でもコロナの影響は続くと思いますが、負けずに嫌なことばかり考えず自分の楽しみを考えて生きていこうと思います。

**コ**ロナ禍という状況の中で短大に入学して、1年目があつという間に過ぎてしまったという感覚がとても大きいです。数えてみれば半年も学校に登校していないことに気が付き、コロナじゃなければもっと多くのことに取り組めたのかもしれないと思わずにはられません。しかし、自粛期間という膨大な時間があつたからこそ取り組めたことも

ありました。私は前期のオンライン授業の期間で自動車免許を取ることができました。後期の自粛期間には以前からやりたいと思っていた趣味に沢山打ち込むことができました。また、オンラインでの交流を通して、県外に友達を作ることもできました。インターネットをより多く活用する世の中になり、リモートでの会話も当たり前になってきたような今だからこそできたことだと思います。自粛期間という長い時間、学校で学習することはできなかったけれど、その分家で自分から物事に取り組むことが多くなりました。「自分から動く」ということはこれから生きていくうえでもとても役に立つのだと考えます。私は行動力がある方ではありませんが、自分から動かなければいけない状況下に置かれたからこそ以前より行動力が身に付きました。この1年は大変な年ではありましたが、自分にとって実りのある1年でもあったと感じています。

**短**大に入学する前は、新しい環境で不安やワクワクする気持ちが沢山ありました。学校生活を送ってみると、仲の良い友達が出来たり、高校よりも広い範囲へ行けることに喜びを感じました。また、初めてのアルバイトで、学校ではなかった先輩との関わり方や自分でお金を稼ぐ大変さを学ぶことが出来ました。これまで、自分の遊びや食事など沢山お金を出してくれていた親に、より感謝する気持ちが芽生えました。コロナで対面授業がオンライン授業になった時、とても不安を感じると同時に友達と対面で出会える嬉しさ、対面授業の受けやすさを感じました。また、外に出ることが幸福に感じました。家で自粛している時は、いつもに比べマイナスな気持ちになることが多かったのですが、また対面になることができ、今ではポジティブに過ごすことが出来ていると思います。対面で過ごせていることを大事に思い、これからの進路に向けて今より力を入れて行きたいと思っています。

**2** 020年は新型コロナウイルスの影響で今までの生活が、がらりと変わりました。その中で私に最も関わりがあったのが、学校生活と日常生活です。まず、学校生活では授業の仕方が大きく変わり対面授業からオンライン授業になりました。今までに経験したことがなかったインターネットでの授業は学校に行かなくて良い反面、慣れないことが多く戸惑うこともありました。また、緊急事態宣言中ということもあり学校でも友達に会えない、プライベートでも友達に会えないという状況が続きました。その後、夏休みが終わり9月頃には対面授業が再開しました。その時に友達と会ったときは何ヶ月ぶりという状態なのでとても感動し、嬉しかったです。星稜短大ではこのように対面授業が再開しましたが、その他の規模が大きな大学はこの1年ずっとオンライン授業が続いていたそうです。星稜短大は学生が少ない対面授業を実施できたのだと思います。私たちの最後の学生生活が対面授業により、より充実したものになりとても嬉しかったです。次に、日常生活では、友達と遊ぶときや、旅行をするとき、遊びに行く時に慎重にならなければいけないことが大変でした。私が一番恐れていることは自分が感染することも怖いですが、知らず知らずのうちに他の人にうつしてしまっているかもしれないことです。家族とは一緒に住んでいるのでうつしてしまうことがないよう感染対策をしっかりし、日頃の体調管理を心がけています。このようなことを心配する日が早くなり、普段の生活様式に戻って欲しいです。最後に、この1年間今までと変わったことがたくさんあり、驚きと不安でいっぱいでした。しかし、この出来事があったからこそ、私たちが送っていた日常生活はなんて幸せだったんだと日々の幸せを身にしみて感じる事ができました。このようなパンデミックは昔、外国でも起こっていたそうです。そこで収束できたということは、新型コロナウイルスもいずれ収束できるということだと思います。こんな時代だからこそみんなで

力を合わせ協力し、新型コロナウイルスの一日でも早い収束を願っています。また、ウイルスのことを心配せずに友達、家族、親戚、仲間と集まりたくさんお話をしたり、海外旅行、国内旅行を満喫できる日が待ち遠しいです。

**コ** ロナ禍の一年を振り返り、考える方・社会の仕組み・学校体制などが大きく変わった一年だったと感じました。就職活動を行う中で、今までとは異なり、Web面接、説明会など事例がない中で初めは戸惑うこともありました。しかし、就職活動が終わった中では、自分自身にとって成長する良い機会だったようにも感じます。できなかったパソコンの操作も出来るようになりましたし、困難な状況を乗り越えられたことから、自分に自信や粘り強さが生まれたと思います。他にも、今まで考えることのなかった、今後生き残っていける職に目を向けることのもつながりました。結果、納得のいく就職活動になったと感じています。また、今まで出来ていた当たり前のことが出来なくなり、つらいこともありました。特に学校は、行けることが当たり前だと思っていましたが、コロナ禍を踏まえ、行けることがどれだけ大切だったということに気づかされるきっかけになりました。再開されてからは、友人に会える時間を大切に、勉強の面でも積極的に取り組むようになりました。そういったことから、コロナウイルスによって、大変だったこと、つらいことも多くありましたが、身近にあった何気ない日々の大切さに気付かされるいい機会でもあったように感じます。今後は、過去ばかりを振り返るのではなく、今ある現実を受け止め、そこで出来ること考え、判断し行動に移していきたいと思えます。

**2** 020年の1月頃から、徐々に新型コロナウイルスが広がっていきました。高校時代は、自粛や学校の休校を繰り返し、なんとか進路を決めて卒業することができました。2021年の4月に金

沢星稜大学女子短期大学部に入学し、前期の授業は、コロナウイルスが原因でオンラインでの授業がほとんどでした。オンラインが増えて、短大で仲の良い友達を作れるかとても不安でしたが、星短生はみんな明るくて優しい子が多いので、すぐに打ち解けることができました。授業は、後期から対面授業になり、先生や友達の顔を見ながら授業を受けることができたので、わからないところを聞くことができ、また教える側になったこともあり、とても充実した学校生活が送れました。ただ、前期オンライン授業が多かったため、朝起きるのが大変だったのが一番の苦勞でした。家で授業を受けていた時は、移動時間がない自分分の時間が増えるので、時々授業が始まる15分前に起きることもありました。万が一、またオンライン授業が増えてきてしまったら、時間に甘えずに早起きをしようと思えます。コロナ禍で家に出れない時間も多かった分、暇な時間も増えたので、自分の時間に当てる事ができたので、資格の勉強や趣味が増えました。そこが一番のメリットだと思いました。しかし、対面でしか行えない授業もいくつかあったので、前期のオンライン授業では、できないことも多く大変だと感じる時期でした。それぞれメリットデメリットはありましたが、急な環境に馴染めるようにいつも準備しておく必要があることを学びました。

**入** 学してすぐに遠隔授業が始まり、初めは不安ばかりでした。パソコンの使い方も分からず、授業に参加するだけでも戸惑いました。課題の提出方法が分からなかったり、操作ミスで提出できていないことがありました。わからないことがあった際はすぐに、先生方や友人や家族に聞いたり、インターネットで調べるようにしていました。そうしたところ、毎日少しずつパソコンを使うことに慣れ、できることが増えました。しかし、パソコンの操作が分かるようになって、始めて学ぶ教科である「簿記」の授業内容についていくことが困難でし

た。そこで、わからないところには付箋を貼って、後期になって対面授業になった際に、休み時間を利用して友人に教えてもらいました。そして、問題を解けるようになり、「簿記」を学ぶことが好きになりました。簿記の資格取得に挑戦し、合格することが出来ました。コロナウイルスによって、出来ないことが沢山ありましたが、普段学べないことを学べたと思います。特に友人の大切さを知った一年でした。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って、コロナ禍の真只中だった前期は、通学しているバスや大学という多くの人がある場所や多くの人と関わる環境ではコロナウイルスというものがとても怖く、大学での感染者が増えていくにつれて自分もコロナウイルスに感染してしまうのではないかとこの恐怖が大きかったです。大学がコロナウイルスのクラスターとなり、対面授業がなくなり授業の全てを遠隔授業に切り替えたときは、感染することへの心配は少なくなったのでほっとしていましたが、対面授業の時ではできていたわからないことがあつたらすぐに周りに聞くことが、遠隔になってからはできなくなったので不安が大きかったです。遠隔でも対面でも、不安なことが多かったコロナ禍の一年は、とても大変でしたが多くの人たちのおかげで乗り越えることが出来ました。また、コロナがやる前まではパソコンなどの機械類が苦手と遠隔に変わるときは不安でしたが、何度も使うことによってなれることが出来ました。コロナ禍の一年は、パソコン

に使い慣れるなどの新しいことにもいろいろ挑戦できたのではないかと思います。

**コ** ロナ禍の1年で、私の生活が大きく変わりました。大学生活に期待して入学したものの前期はオンラインと学校内での生活が思うように過ごせませんでした。中でも新しい教科の勉強が始まり、不安が大きかったです。家にいる時間が増えたことで、家族と過ごす時間が増えました。父や姉が在宅勤務になり、全員でご飯を食べることが出来ました。コロナウイルスはマイナスのイメージが大きいです、良い点もあったと気づきました。そして私は大学生になってドラッグストアでアルバイトを始めましたが、コロナ禍でお客さんとのコミュニケーションがとりづらかったと感じました。しかしお客様に「ありがとう」と声をかけられることで、感謝の大切さを学びました。そして自分が客として他のお店に行く時も感謝の気持ちをしっかり伝えるように心がけました。コロナ禍によってできなかったことが沢山ありましたが、大切なことを思い出したり、自分をもう一度見つめ直す機会になったと思います。

**正** 直に言うと去年の春はこのコロナ禍の中で何ができるのだろうかと悩んでいました。なぜなら私は星短に入学後は、海外研修に行きたいと考えていたからです。ですがコロナがなかなか終息せず、海外研修に行くことはできませ

ませんでした。コロナ禍の中で思い描いた学生生活ができなく私は落ち込んでいたのですが、このままでは学生生活を楽しめず終わってしまうと思い、今できることをして楽しもうと思いました。そ

こで私は crash というサークルに入りダンスを大学や短大の先輩方や同級生と共にたくさん練習し文化祭で披露しました。コロナが流行り、集まって練習することができない日もあったのですが、その時は1人でダンスを練習し、みんなで集まった時にほとんど踊れるように練習に励んでいました。文化祭でのステージ発表を目標にし、みんなで練習することはとても楽しくやりがいを感じることができました。文化祭ではYouTube 配信などをして学生はもちろん、学生じゃない方々にもダンスを見てもらうことができました。コロナ禍にも負けない私たちのダンスを見て、沢山のの人に笑顔と元気を届けられていたらいいなと思います。また先輩方や同級生と一緒にコロナにも負けず頑張った練習した日々や文化祭でのステージ発表は、私の1年生での学生生活で1番思い出に残っています。コロナ禍で学生生活を楽しめるか楽しめないかは、自分の考えや行動次第で変えることができました。最後の短大生活もコロナに負けず学生生活を楽しもうと思いま

**私** は正直、遠隔授業になって良かったです。なぜなら、人見知りな初対面の人と話すのが苦手だからです。新しい友達がなかなか出来なく、同じ学校の人と連絡が取れないというデメリットもありますが、対面授業を受けるまでに心の準備ができました。個人的に公立入試を後期までしていたので、受験が終わってすぐに新しい生活が始まることに戸惑いを感じていました。なので、本格的な対面授業が先延ばしになって私は、不満ではありませんでした。ですが、自粛期間にもっと自分のためになることをしておけば良かったと少し後悔しています。アルバイトや自動車学校には行くことが出来ました。早くに行っておけば、もう少し効率的に過ごせたのではないかと思います。でも、積極的には行動できる状況ではありませんでしたので、就活に向けての自己分析などを早め



にしておくことは必要だったのではないかと考えます。そして、それでも自分のためにできることはしようと思えました。例えば、運動不足にならないように毎日筋トレをしたり、筋トレをしない日は夕方にウォーキングしたり、みんなが朝から夕方まで仕事しているので、夕飯後の食器類を私が代わりにみんなの分を洗ったりしていました。予定よりは少し遅れましたが、自動車学校にも通い始めたり、気分を変えていました。また、何もせずに毎日ぐうたら、怠けてスマホをいじってたら無意識にストレスが溜まってくることもありました。自分で思うのは、SNSを見てる時間、他人の意見や考えに触れる時間が増えたからだと思います。だから、このようにずっと家にいるのではなく、体を動かしたり外に出ることは大切だと気づきました。私の母にも「最近明るくなったね。少し前まではすごくイライラしていたのに。」というようにも言われました。なので、人とコミュニケーションを取ることは非常に大事だと改めて思いました。このコロナ禍で世界中が混乱して初めてのことがばかりでしたが、この状況乗り越えたならこの先、生きていく上で何でも乗り越えられると思って生きていきたいです。

**私**たちの高校生活最後の年は全ての行事がなくなり楽しみがなかった一年だったので、それに比べると短大生活は感染防止しながら過ごせた一年だったと感じています。現在の二年生の先輩方は入学してから半年オンラインで友達ができないという状況を聞いて入学する前まではとても不安でした。前期はオンラインになった時もありましたが、友達ができただけの授業だったので心強かったです。入学する前まで見ていたパンフレットには楽しそうな行事がたくさんあったのでそれが全てなくなったのは残念です。ですが、感染対策をしながら少しずつ行事も復活してきているので来年には開催できる行事が増えることを願っています。そして今年は一人暮らしをして生活ががらりと変わった年でもありま

す。コロナ禍で一人暮らしが始まったので、不安だらけでした。感染リスクがあるので頻繁には実家に帰れなかったり、あまり買い物に行けなかったりと不便なことが多かったです。また、なかなかアルバイトを始められずやっと7月に始めたアルバイトもすぐに休業になり大変でした。大変な時期もありましたが、そんな時こそ地元に戻って友達と遊んだり家族と過ごしたりしていたので自分なりに楽しみを見つけることができました。今は前に比べると落ち着いてきていて、だいぶ自由に生活できるようになったので充実しています。大学にも毎日通っていることに感謝し残り少ない短大生活を楽しみたいです。

**私**は、駅前の居酒屋でアルバイトをしていました。駅前にあるため、お客様の半数は観光客です。そのためコロナになってほとんどお客様が来なくなりました。お酒の提供もできなくなり常連さんもほとんど来なくなりました。営業がとても厳しそうでした。私達授業員は、テーブルやメニューのアルコール消毒をすることや、テーブルを減らして離すことが増えました。そのため回転率が悪くなり、さらにお客さんが減りました。短大に入学する前は遠隔授業についていけるか、友達ができるか心配がありました。しかし、学校の授業でパソコンの授業があったのでよかったです。友達もちゃんとできたのでよかったです。今は遠隔授業がほとんどなく、この環境にまた慣れなければいけないのも少し大変です。コロナによって新しく始めなければいけないことが増えて大変だったり不安もありましたが、無事に解決したのでよかったです。今はコロナ感染者が減って通常通りの授業になり、遠隔の時より授業へのやる気も出たので、これからもっと頑張ろうと思います。

**私**がコロナが流行り出した時に、気をつけていたことは、友達と遊ぶ回数を減らしたり、遊んだとしても外ではなく、家などで遊ぶことを心がけて

いました。学校生活では、学校側がマスクの着用やアルコール消毒などを徹底していたので、私達も素直に従うことができ、対策ができていたとおもいます。アルバイトでは、感染対策のためにフェイスシールドをしたり、検温、アルコールを徹底していました。また、どこか遠出に外出した場合は、2週間アルバイトや、友達と遊ぶことを控えました。コロナが3月くらいに流行り出して、私は短大に入学する時期だったので、不安も沢山ありました。最初の半年は遠隔授業で、富山から石川の学校に入学したので友達ができるのかが特に不安でした。遠隔授業もはじめての体験だったのですが、学校の先生方ももちろん初めてだったので、私達の気持ちをとてもよくわかってくれていたなと感じました。学校生活が始まってから今でもコロナはまだ治ってないですが、これからも感染を広めないように気をつけながら生活していきたいと思います。

**コ**ロナウイルスで就職活動に大きく影響を受けた年だった。会社説明会が中止になり、Zoomでの説明会に変更になったり、面接スタイルも対面ではなくZoomに変更になるなどがあった。就職活動はだいぶ遅れをとったが、時代の変化に合わせた臨機応変な行動をすることが出来た。授業は遠隔がほとんどになったが、メリットだけではなく、メリットもあったと感じた。メリットとしては、自分はあまりネット関連について知識がなかったため最初は適応するのに苦労したが、友達の助けや、スマホだけでなく、パソコンを買うなど、オンライン授業を受けられる体制を整えた上で、授業を行えたこと、そして、普段は交流もあまりして来なかった人達とも話す機会が出来るなど、交友関係も深めることができたことだ。一方でメリットも何点がある。1つ目は、ネット環境が平等ではないと言うことである。オンライン授業をしている際に時々、先生の話が聞こえなくなったり、途切れたりしたために、話の内容が入ってこなくなったとき

があったからである。2つ目は、予習、復習、課題と常に勉強の時間となり授業ばかりでなく、他のことに挑戦することが一年時に比べて少なくなったようにも感じた。以上のことが私が遠隔授業に変わって感じたことである。しかし、このようなことは、社会人になってからも後2、3年は付き合っていかなければいけない課題である。このメリット、デメリットを活かして、会社でも立派な社会人となれるよう努めていきたいと思う。

**私**はコロナウイルスが猛威を振っている時期に就活生になりました。それまでは東京オリンピックで賑わいを見せているころに就活生になるのだろうと誰もが思っていたことでしょう。また、アルバイト先が臨時休業から閉店となり、私の生活は一変しました。それまでの自分の生活がどれほど恵まれた環境だったのかを思い知り、落胆する毎日でした。そんな状況に陥った私ではありましたが、星短に入ったころから決めていた公務員になりたいという夢は諦めたくありませんでした。そこでほぼ毎日公務員試験の勉強に時間を使いました。春期講習以外学校に登校する日はなかったので、周りの進み具合が分からないことで不安に思いながらの勉強になりましたが、その不安と戦いながら何とか最後までやり通すことができました。今の自分があるのはもしかしたら、困難があったからなのかもしれないと今になって思います。これから、生活がどうなるかなんて誰にも分かりません。それでも自分の軸になる信念や願いだけは見失わないように自分を正すことが大切だと、この経験から学びました。これから社会人になって戸惑うことがあるかもしれませんが、この苦境を乗り越えた事がきっと助けになると信じて頑張っていきたいです。

**世**の中の情勢に柔軟に対応することの重要性を体感した1年でした。その重要性を1番強く感じたのは就職活動です。リモートでの企業説明会や面接は1年次に伝えられてきた就活像とは大

きく異なり、また企業によってもその実施方法は様々でした。従来の就活にプラスし、いかに例年とは異なる状況に対応できるかという点も見られていました。また、このような形の就職活動は例がないため、私自身も企業側も手探りで就職活動であったと思います。そのような中でも無事就活を終えることができたのは、授業で積極性を学んだこと、常に情報を求めそれに応じた行動ができたことが大きいと感じています。このような情勢の中、人生で何度も経験することのない就職活動を無事終えることができ、これから社会人として過ごしていく上で大きな自信となりました。コロナウイルスにより、行動が制限されたり最後の学生生活を100%楽しむことができなかつたりと弊害もありましたが、それを乗り越えた経験を誇りに思い、次に繋げていきたいと思っています。

**私**はコロナの時代に入学しました。オンライン授業も短大生活も初めてでした。そんな中で自分でパソコンを使って操作をしなきゃいけないし友達も少ないのでどうすればいいのかわからないことがたくさんありました。このまま友達のいない短大生活かと思うととても寂しいと感じていました。アルバイトも4月5月は少なく、家からも出れないので人と関わらないから憂鬱な日が沢山続いていました。しかし、9月になり学校が始まり、学校の人たちと出会うことが増えました。とても嬉しかったです。新しい友達も沢山でき、授業も普通に受けられるようになりました。授業がいつもオンラインだったので、対面と授業時間が増えると少しきついこともありました。資格取得がひとつもできなかった前期に比べ後期は2つの資格取得に取り組むことが出来ました。前期はオンライン授業でパソコンに慣れ後期は対面授業で友達もでき資格取得もできたのでよかったことも沢山ありました。きついことが多かった1年でしたが自分で行動することができ成長できたと思います。

**コ**ロナ禍の1年を振り返ってみて、可能な範囲で充実させることが出来た1年だと思います。withコロナの時代で、ある程度コロナウイルスへの対応やマスク生活に、良くも悪くも慣れてきました。ワクチン接種が世界的に進み、新規感染者もぐっと減少し、コロナ禍以前とまではいきませんが、少しずつできる行事やイベントが増え、充実した1年を過ごすことが出来ました。2021年3月の高校卒業時には、感染リスクを考え、卒業旅行に行きませんでした。大学受験には失敗し、星短に進学先が決まり、2年でコロナが完全に無くなることは無いだろうから、学校生活はきっと楽しくないと思い込んでいました。しかし、入学して、サークルに入って、文化祭に向けて沢山の時間を先輩や仲間たちと一緒に過ごす、信じられないくらいの楽しさを感じる事ができました。また、2年しかないという事実が私自身の背中を押してくれ、やってみようと思ったら実際にやってみようになりました。コロナ禍の中でも、十分に楽しみややりがいを見つけられるとわかったので、今後もコロナウイルスと上手くやっていけるようにしたいです。とはいえ、医療従事者の方々は日々苦しい状況にあるだろうし、私たちもコロナ以前の生活に、少しでも早く戻りたいと思っています。故に、コロナウイルスの終息を心から願っています。

**短**大に入学してしばらくは対面授業だったので、仲良くなれた友達が増えて、少しずつ短大生活が楽しくなっていました。今ではその友達とゲームをしたりする仲になりました。今後もしっかりと仲良く楽しい学校生活を送っていききたいと思います。短大に入って初めてアルバイトを始めました。社会で働く大変さや楽しさ、人と関わることの面白さを学ぶことができました。卒業するまでこのアルバイトを続けていきたいと思っています。コロナが影響してオンライン授業になったこともあったけれど、わからないことがあったらみんなで協力すること

ができて、乗り越えることが出来ました。初めてのオンラインの授業だったので緊張することもあったけれど、初めての経験でとても楽しみながら授業を受けることが出来て良かったです。また、たくさん検定を取得出来て良かったです。これまでは検定取得の勉強をするのが嫌で受けてこなかったけれど短大に入って友達と楽しく勉強できたので検定取得への勉強をすることができたと思います。

**3**月から就職活動が本格的に始まったが、その約一ヶ月後には自粛期間がスタートした。就職活動はまだまだ終わっていないのに、家でじっとしていないといけない状況になった。しかし、私は焦るわけでもなく、「これからの人生は精一杯生きていくから、この一年間はダラダラする!」と決めた。とりあえず4月は就職活動もアルバイトもせずに、ニート生活をした。高校生のときから、バイトに遊びに、ありがたいことに予定がたくさんあって、こんなにも毎日ダラダラする日が続くことなんてなかった。最初は、少し気分が落ち込んで、自分の存在意義がわからなくなったり、何もしていない自分に謎の罪悪感を感じたりしていた。だけど、しばらくするとその気持ちも徐々に消えて、「ダラダラ」って最高だな、もう何にもしたくないや〜と感じるようになった。私は、コロナの自粛期間があって「ラッキー」だったなと感じている。人生における長い長い夏休みを過ごした気分だ。自分とゆっくり向き合うことができたし、好きなこともたくさんできた。そのおかげで就職活動も成功した。それから、学校も無く、出かけるのも慎重になる世の中で、それでも会いたいと思える人に会っているので、プライベートの質が良くなった。普段の友達のありがたさとか、人との関わりとかもっと大事にできるようになった。コロナ自体は早くなくなってほしいし、もちろん元通りの生活が一番良い。でも、このコロナによって、ゆっくりと過ごすことができたり、新しい発見ができたのは

良かった。

**今**年の短大生活を思い返すと、コロナウイルスにより数々の制限がありました。楽しみにしていた行事などが無くなったり、制限されたり、長期間の休校により慣れないzoom授業に切り替わったりと、私たちのたった2年しかない大事な学校生活を、コロナウイルスによって奪われたようなそんな気持ちにもなります。コロナウイルスは私たちから自由を奪い、考えれば考えるほど憎いですが、どれだけ恨んでもこの状況は変わらないですし、この現状を受け入れ、この現状でも工夫する事で有意義な時間を過ごすことも可能だと私は思います。例えば、県外に行けない分、石川県内で楽しいところは無いかと友達とインターネットで探し、普段は絶対行かないような公園で遊んだり、近場を散歩したりなど、小学生の頃の活発さを少し取り戻せたような感じがします。私は、福井の海へ行ったり富山の公園に行ったりと石川県はもちろん、より北陸三県について沢山知れたような気がします。また、コロナウイルスにより、外出が制限される分、家族や友人と過ごす時間が増えたのは、とても良い事なのでは無いでしょうか。新型コロナウイルスが流行った頃には想像出来ていないほど、いつ終息するかが見込めないぐらいの長期戦になっていますが、これからもコロナウイルスに向き合いながらもキャンパスライフを楽しんでいきたいと思っています。

**コ**ロナ禍のせいで私の1年は散々なものだった。祖父はコロナに感染して他界し、母は行きたかったイベントに参加できず落ち込み、私も親戚が感染したということで周りの子よりもより外出を自粛することになって自宅にこもる日々が続き、家族全体が暗い状況に陥っていた。最近では、日本人全体がコロナを軽視し、自粛や対策が疎かになっているように感じられる。友人の遊びの誘いを断り、SNSで友人が楽しそうに遊んでいる様子を眺めると、同じコロナ禍の状

況なのになぜ私ばかりが自粛をしなければならぬのだろうという不満が込み上がった。結局、身近な人が感染しない限りみんな他人事で、だからコロナは終息しないのだと思う。自分や身近な人が感染してからでは、亡くなってからでは手遅れなのだ。ワクチンが導入され、もしかするとこのような日々が嘘のようにあっさり終わる日は近いかもしれない。しかし、亡くなった命は二度と蘇らないし、コロナに感染してしまっただけでは、完治したとしても後遺症が残る恐れがある。もっと意識をしっかりと持って、これ以上の被害の拡大が少しでも減ることを切に望む。

**コ**ロナ禍を通して普段通りの生活を送れず、様々な場面において不便を感じたり、人と会う機会が少なくなり気が滅入る日もありました。また、少し外出しただけで不安になることもありました。しかし、自粛期間が続いたことにより、日常の中にある些細なことに気づくことができました。家での自粛生活を通し、料理などの手伝いをする中で、改めて家事の大変さに気づきました。毎日、家事をしながらどんな時も優しく接してくれる母に感謝をすべきだと感じました。自粛前は、なんとなく毎日を過ごしていましたが、外に出れなくなった今だからこそ自分を客観的にみることが出来たり、前よりも周りを見る力がつきました。他にも、なにか新しいことをやってみたいと思うようになり、今まで本を読む機会があまりありませんでしたが、本に興味を持ち、本を読むようになりました。特に、自己啓発本には、今後の役に立つことが多く書かれていて、つまらない自粛期間は、自分を見つめ直す時間へと変わりました。また、テレビやインターネットでは不安を感じるようなニュースなどを観ることが多かったので、情報を取捨選択する能力をつけていかなければならないと感じました。コロナ禍は、辛い期間ではありますが、自分にとってはマイナスな部分だけでなくプラスな部分もあった時期です。この気持

ちを忘れずに毎日を大切にしていきたいです。そして1日でも早くコロナが終息して安心できる日々に戻って欲しいです。

**2** 020年の1年間はまさに、今までで1番最悪な年だった。新型コロナウイルスが流行っていなければ、とてもいい1年になっていたはずだ。高校を卒業し、短大に入学して、新しい環境での学校生活を送ることを楽しみにしていたが、現実とは全く違っていた。まず、高校では、新型コロナウイルス対策のために何日間かの休みがあり、卒業式の練習を行うことができなかった。また、卒業式後に友達や先生と思い出を話すこともできず、あつけなく終わってしまった。短大生になり、入学式も行われたが、その後の学校生活は、まるで春休みの続きだった。やっとオンライン授業が始まった。物足りなさがあった。しかし、夏が終わった頃やっと学校に通えるようになり、少し遅れたが楽しみにしていた学校生活を送れるようになった。県外の大学に進んだ友達は、県内の学生が学校に通えるようになってからもずっとオンラインで、学校を辞めるかどうか悩んでいると話してくれたことがあった。正直、私も辞めようかと考えてしまったことがある。オンライン授業は新鮮だったが、友達もできず、先生とも親しくなれていないから分からないところも質問できず、本当に短大に入学した意味があるのかと思ったからだ。その時に短大を辞めていなくてよかったと今では思う。なぜならば、対面授業だけでなくオンライン授業も通して、友達ができただけである。もしも、先生の話聞くだけのオンライン授業だけだったら辞めていたと思う。だけど、2人でペアになって話すことができる時間を作ったりの工夫があるオンライン授業があったおかげで、通常の対面授業とあまり変わらない満足感を得ることができた。残りの短大生活は、後悔がない1年にしたいと思う。

**短** 大に入学してすぐ対面の授業ではなく遠隔授業での授業となりzoomの使い方など分からないことが多く、私はとても焦りました。通信トラブルがあったりとても不安な気持ちが大きかったです。段々とやっていくうちにパソコンに触れることが多かったことはパソコンに慣れていない私には良かったと思います。入学後すぐに遠隔授業という形になったので友達や新しい仲間など関わる機会が少なかったのもとても残念でした。でも、電話をしたり、ビデオ通話やzoomなどを使って話すことが出来たので乗り越えられました。アルバイトも入れないことが多かったりして少し困りましたが、学業に専念する時間が多く取れたので良かったです。県外に行ったりすることは難しいですがこの時代で出来ることをたくさん楽しいことを探して見つけていけたらいいと思います。これから就職活動をしていく上でWebでの面接があったりと思うので、前期での遠隔授業を活かしていけたらいいと思います。

**コ** ロナ禍で行動にも制限ができ、2年次は学外での活動があまり出来なかった。授業も対面から遠隔へと切り替わり、パソコンと向き合って勉強することが増えた。私は、遠隔でも勉強はできると考えていたが、実際にしてみると人と話すことの大切さなどを知ることが出来た。また、遠隔で文字だけで意見を述べたり、表情が見えないことから話したい内容が相手に伝わるようにすることを意識した。今までの学びを遠隔だからこそ発揮できる場面もあり、自身の経験を生かす活動もすることが出来た。今思うことは、やろうと思ったことを先延ばしにしたらチャンスを逃すことがあるかもしれないということだ。1年次に海外研修や学外の活動に積極的に取り組んだことで、様々な経験をする事が出来た。その経験や知識を次回に繋げたいと考えていたが、それが厳しい状況下で思ったのは、あの時挑戦しておいて良かったということだった。もし、次回で

いいや、と何もしていなければ後悔していたかもしれない。閉鎖的な気持ちになることも多かったが、気付かされることも沢山あった。出来ないことばかりを上げるのではなく、出来ることからしていこうと思う。

**コ** ロナウイルスの影響で一番困ったことは友達作りだ。遠隔授業で、電子機器にたくさん触れる機会が増えた。私は機械を操作するのが苦手なので1人で操作するのがとても不安だった。本来なら友達同士で相談、助け合ったり出来るものが、対面授業がないので友達が1人も出来ないのが本当に苦しんだ。実際、機器トラブルで出られなかった授業もあった。少し対面授業が増えて、サークルなどで友達がたくさん出来、今は充実した日々を送っている。本当に1人では何も出来ないんだと痛感した。

**コ** ロナ禍の一年を振り返ると、コロナ禍で前期は学校に行くこともできなくて、友達にも会えない日々が続いて、このまま学生生活が終わってしまうのかと思ってたけど、後期から友達と一緒に学生生活を送ることができたのがまずはよかったです。アルバイトもコロナで営業時間を短縮したりはあったけど、不自由なく働くことができてよかったです。この一年で大変だと思ったのが、就活だと思っています。就活が始まるようになってくるとコロナがやってきて、就活が上手く進むのか不安だらけだったけど、無事に終えることができてよかったです。コロナの影響で、実際に企業に話を聞くことが難しく、その企業の雰囲気を知ることができなくて大変でした。試験を受けたさいも、オンラインで受けて、面談もオンラインで受けました。このような形で試験を受けたのも、コロナ禍ではなかったら、経験できなかったことなので、思い出に残るような就職活動ができたと思います。

**2** 020年は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの生活

が大きく変わりました。中国・武漢で最初の感染者が確認された頃は、こんなにも拡大するとは全く想像していなかった。環境の変化に戸惑いと恐ろしさを感じました。特にこの年は、2年生の私にとって「就職」という最も大切な時期でもあったので、多くの企業が説明会中止や新規採用の見送りをした時は不安と焦りでいっぱいでした。しかし、1年次から早々に始めていた就職活動の対策が功を奏し、その後の私の自信と活力へと繋がりました。また、授業スタイルも突如様変わりし、遠隔での授業という前代未聞の展開となり、私たちから大切なキャンパスライフを奪ってしまいました。長く先生方や友達と会えない日々が続きましたが、オンラインを通してみんなが私を強く支えてくれたからこそ、乗り越えることができたと思っています。このような状況下で幸いにも就職することができたので、関わって下さった全ての方への感謝を忘れず、今後、社会人として恩返ししていけたらと思います。

**コ** ロナ禍で生活が一変して辛いこともありましたが、人との繋がりを感ぜられる一年でした。私たちの就職活動は今までと違い、非対面で面接を行ったり合同説明会が中止になったり、就活生にとって不利な環境でした。先生や友達に会うことも少なく、1人で面接対策や履歴書の記入をしました。私は中々就職先が決まらず、焦っていました。誰とも会うことができないので私だけが決まっていなかったのも不安になることがありました。しかし、友達からのLINEや電話で勇気をもらいました。私のペースで良いんだよと励ましてくれたり、同じく辛い思いを抱えている人と悩みを共有することができました。離れていても人との繋がりを感ぜられました。今までと違う環境で、不安になったり寂しくなったりしても友達や家族と心で繋がっているのだと感ぜられた一年間でした。コロナウイルスの影響は何年先まであるのか誰も分かりません。不安なことも多いですが、人との繋がりを忘れなければ明るく楽しく人生を歩んでいける気がします。この先、辛いことがあっても1人で抱え込まずみんなと支え合って成長していきたいと感じました。

く楽しく人生を歩んでいける気がします。この先、辛いことがあっても1人で抱え込まずみんなと支え合って成長していきたいと感じました。

**私** はこの一年とても不安

な一年でした。まず、短大生活一年目ということで仲の良い友達ができず、そのままオンライン授業という形になりました。オンライン授業も始めて経験するものだったので、これで本当に出席になっているのかなどとても不安でした。なんとかテストも終え、後期から対面授業が始まることになりましたが同学年の子と関わるのはほぼ初めてだったので、友達ができるか、うまく短大生活を送ることができるのかまた不安がやってきました。結果、授業がはじまると無事に友達もでき今までの不安はなくなりとても楽しく学校生活を送ることができました。初めてのことはばかりで何から手をつけていいかわからなかった一年でしたがその分、成長できた部分がたくさんありました。今後もコロナウイルスと付き合っていく必要はないと思いますが、うまく生活していければいいなと思います。

**コ** ロナ禍の一年を振り返って、一番変わったのは、やはり授業形態でした。前期では、ほとんどの授業がzoomでの遠隔授業となり、最初の方は慣れないことに苦戦しました。特に、同じ科目を履修している生徒の顔を見る機会も少なく、個人で考えることが多かったと感じます。そのため、疑問点や問題に対する解決の糸口を見つけること、またそれらを共有しにくいことが大変でした。このことから、授業で多くの人と意見の共有をすることの大切さを改めて実感しました。より多くの人と意見を共有することで、自分では発見できなかった



こと、思いつかなかったことなどを知ることができます。また、これにより、考え方の視野を広げられたり、偏った考え方をしてしまうことも抑えられ、更に、コミュニケーション能力も向上されると感じます。私自身は、こういった意見の交流はまだ得意ではありません。ですが、これからの生活で、遠隔でも対面でも必須となってくることなので、慣れていけるよう頑張りたいと思います。

**初** めはコロナウイルスが流行して、学校がどうなるかなどの不安がありました。学校側の迅速な対応もあり、安心して授業に取り組むことができました。オンライン授業というはじめての経験に戸惑うこともありました。zoomを使ったり、ドットキャンパスなど、普段はあまり使用しないものの知識を深めることができました。オンライン授業のメリットとしては自分のペースで進められると言う点があると思います。また、授業の資料や動画を何回も見直せるので、復習などにとても役立つと思いました。しかし、友人に会うことができなかつたり、コミュニケーションをとることが容易ではないと言う点があると感じました。今回の出来事で、授業のやり方は多種多様だと言うことを学びました。こういった、普段できない経験から学べることもあるので、経験することができてよかったと感じ、まだコロナ禍であるが、経験したことを忘れずに、糧にしていきたいと感じました。

**入** 学式からマスクで顔もよくわからない状態でこれから交友関係を広げていけるのか不安がありました。授業は全て遠隔で始まり、何を準備していいのか、大学の授業がどのようなものなのか、初めは不安だらけでした。しかし、遠隔の準備について先生たちが詳しく説明してくれたり、うまく参加できなかった場合にも親身に話を聞いてくれて、無事に遠隔授業でも単位を取ることができました。後期には、遠隔ではなくいつも通り学校で授業を受けることができ、就活の準備や交友関係の構築をすることができたので、とても助かりました。学校側も初めての経験だったにも関わらず私たちの授業に支障をきたさないよう多くの準備やサポートをしてくれ、コロナ禍でも満足のいく学生生活を送ることができたように思います。飲食店でのアルバイトをしていましたが、緊急事態宣言が出ている間はほとんど働くことができませんでした。しかし、その期間に免許を取得したり、検定取得のための勉強をしたりと、自粛期間を無駄にせず行動することで、自粛明けでの活動の幅を広げることができたように思います。2年間と短い期間の短大生活で、海外短期留学や、友達との旅行などできなくなり悔しいことは沢山ありますが、いつかできるようになった時のために語学能力を高めたり、知識を身につけ成長した自分で過ごせるよう悔いなく過ごせたのではないかと思います。

**2** 020年に新型コロナウイルス感染症が流行ってから、私たちの行動には制限されるようになりこれまでの生活と大きく変わった。まずは、自宅在宅勤務、授業の遠隔、マスク着用、アルコール消毒、人数制限、時短営業、飛行機停止、アジア人差別など様々なことが挙げられる。今まで当たり前だったことが出来なくなり私たちの楽しみを奪った。短大生になり、遠隔にもなることがあったが、全国的にワクチン接種者が増えたこともあり、新型コロナウイルス感染症も少しずつ収まってきた？ある程度普通の

生活もでき、旅行にも行くことが出来ていたが、最近、オミクロン株という新たな変異種が流行し過去最多を日々更新している。新型コロナウイルス感染症が収まるまで私たち一人ひとりの行動が大切となってくる。自分は大丈夫と思ってもすぐ身近にきている可能性があるため、十分な配慮が必要だ。早く収まることを願う。

**新** 型コロナウイルスの影響を受け、世界中が変わり果てた。外出時は必ずマスクの着用、手の消毒、ソーシャルディスタンスなど、数年前まではこんな生活になることをもちろん誰も想像していなかった。飲食店でアルバイトをしていた私は、緊急事態宣言が出てお店が1ヶ月間休業になり、外出することが一切なくなった。学業では、全てオンライン授業に変更され学校に行けず、2年間という短い学生生活がさらに短くなったようだった。学生最後の年でコロナが流行し、楽しみにしていた卒業旅行で外国に行くことや、学生生活を満喫することが全て不可能になった。これから就職し、今よりも自由な時間がなくなるので、時間がある今だからこそ友達と遊んだり旅行したり…というように色々計画を立てていた。全部なくなって、ただただ悔しいという思いしかない。しかし、コロナによって苦しんでいる人たちは世界中に何十万人といる。その人たちの思うと、感染せず、普通に暮らせていることだけでも幸せなことであると思う。今後、新型コロナウイルスはいつなくなるか分からない。一生なくなるかもしれない。先の見えないことで、心が折れてしまいそうな時もあると思う。それでも、医療関係で働く方々が私たちの知らないところで身を削って頑張っている。コロナウイルスをなくすために、今私たちができることは一人一人がしっかりコロナ対策をすること、不要不急の外出を避け、できるだけ自宅で過ごすことであると思う。一人一人の心がけから世の中が少しずつ、元の生活に戻れるのではないだろうか。

**こ** の1年を振り返り、1番印象に残っている事はコロナ禍での就職活動と私生活の変化です。まず、就職活動に関して、今までに経験のない状況下での就職活動は、不安な気持ちしかありませんでした。先輩から聞いていた話とは違う、WEBでの面接や説明会、採用情報の遅れなど、戸惑うことばかりで、自分の将来が見えない事に不安を抱いていました。加えて、学校への登校がなくなったことで、友人の就職活動の状況を把握出来ないことから、これで良いのかと不安にもなりました。ですが、無事、就職活動を終え、不安の気持ちを抱きながらも行動することが大切だということを身に染みて感じています。現在、後輩のアドバイザーとして、自分の経験や意見を伝える活動をしています。コロナ禍で生活が変わった中でもこうして誰かの役に立てる喜びを再確認出来ました。私生活の変化に関しては、家から出ることが出来ないという状況の中で、いかに日々を充実させることが出来るかという課題をクリアすることに力を入れた1年となりました。好きな時にマスク無しで外に出れたという日常が、必要最低限な行動とマスクに縛られた日常へと変わり、心身ともに大きなダメージをくらいました。就職活動でのストレスを発散することも難しく、体調を崩してしまったり、家の中にいることで運動不足になり、夜なかなか眠れないことも多々ありました。外出自粛に慣れず、様々なところに出ていた影響も徐々に減って行き、今ではいかにおうち時間を楽しむかと前向きに考えることが出来ています。家にいるという日常が普通になっていることはとても寂しく悲しいことですが、それと同時に、この日常が、今まで当たり前だった事が、当たり前ではなく有難いことだと学ぶ、良い機会となったと思っています。後期になり学校での対面授業が始まったことで、半年以上、会えていなかった友人に再会できたり、外の空気を吸う機会が増え、心身ともに健康になったと感じています。今後もしばらく、必要最低限の外出が求められると

と思いますが、自分の健康を考えつつ、有意義な日々を過ごしていきたいと思いません。この1年で、今まで普通だった事が普通ではなくなるという場面が多くありました。出来なくなったとネガティブな考えばかりを持つのではなく、出来なくなったおかげで違う何かが見えてきたとポジティブな考えを持つことで、この1年を乗り越えられたと思います。今後も続く新型コロナウイルス感染症との戦いを、常にポジティブな気持ちで乗り越えていきたいと思いません。

**過** 去に経験したことの無い出来事が始まってから1年が過ぎた今、この1年を振り返ると言葉に出来ない感情で胸がいっぱいになる。したいことが思うようにできないことが多い1年だった。短大に入り、この状況下に置かれていなければもっと楽しい日常を送っていたかもしれない。数多くの楽しみにしていた行事がなくなり、授業も友人と顔を合わせて受けたことの方が少なかった。そう考え続けると、マイナスな感情しか思い描かれないがこの状況下に置かれたからこそ得たものも少なくはない。普通に顔を合わせて授業を受けられる楽しさや何気ない会話をしながら食べる昼食がとても美味しいこと、一日一日と言う時間がとてもかけがえのない時間で短大生活一日一日の希少価値が高いことはきっと1年前の自分は気づけなかったことだと感じる。また、自粛期間が多かったから始めたこともある。夜に1時間のランニングをする楽しさは自粛期間、自分の気分転換にピッタリだと気づいた。元々走るのは好きだったが、なまった体を動かすことはこんなにも気持ちの良いものだと感じたことは初めてだった。失った時間は戻ってくるわけもなく刻一刻と時間は刻まれる。だったら、その時間を自分なりに楽しむべきだと、この状況下に置かれていなければ感じられなかったことだと思う。この先、困難なことが起きても少し立ちどまり今日のことを思い出したい。そして、明日の活力へと繋げて行く。

**私** にとって、この一年は「今、私にできることは何か」について考える年でした。私は「19歳だから新型コロナウイルスに感染したとしても、無症状で重症化しないから大丈夫だろう」と思っていました。しかし、その考えは間違っていました。海外では若い世代の人でも亡くなっていると知りました。そして、若い世代の人が高齢者にうつす場合もあると分かりました。そこで、私たちに今できることは家に居ることだと考え、この時間には掃除、勉強などと、一日の生活の計画を立ててお家時間を過ごしました。そうすることで、時間を有効に使うことができました。また、受験勉強の息抜きには音楽鑑賞や読書をしていました。このように、趣味を見つけて過ごす時間に幸せを感じました。長い間家に居て、時には息苦しく感じることもありましたが、お家時間を有効に使うことで、新しい発見や趣味を見つけ出すことができましたので良かったです。コロナ禍を通して、家の中に居ても楽しく過ごせると気づきました。ところが、コロナ禍の家の生活は良いことばかりではありませんでした。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で学校に行けなくなったことで、直接友達に会えず、寂しい思いをしました。また、物事が思うようにならず、悩む時期もありました。そんな時、私を励ましてくれたのは友達の言葉でした。直接友達に会えなくても、連絡は取り合えろと思ひ、悩みを友達に相談しました。すると、友達はアドバイスをくれたり、励ましの言葉を沢山くれました。その言葉に私は元気をもらいました。そして、「私は一人じゃないんだ」と安心しました。これより、直接会えなくても連絡を通して、言葉で心を通わせ合えろと思ひました。会えない中でも、友達の支えの大切さを感じました。

**2** 021年の短大生活を振り返って、私はとてもあつという間に感じました。前期はオンライン授業が多く、入学して仲良くなった友達とも中々会えずに過ごす日々が続きました。しかし、オ

ンライン授業だったことにより、普通に短大生活を送っていたら関わらなかったであろうクラスの人や違う学年の人と同じグループになって話す機会が増えました。そこで交友関係を深めることができました。対面授業に戻っても、気軽に話すことができる友達が増えたので、私にとって、このことがコロナ禍でのプラスな事だと感じました。また、オンライン授業ということで、パソコンやタブレットを使つての授業が主になったり、課題もレポートなどが多くありました。それによって今まで知らなかった機械操作を習得することができました。このように、コロナ禍での生活でも、振り返ってみると自分にとってプラスになったことが意外と多いのだと気づくことができました。制限がある中でも、先生たちは学生が楽しめるようにできる限りの準備をしてくださつたのだと実感することもできました。

**2** 021年に私は金沢星稜大学女子短期大学部に入学しました。当初は友達がおらず、不安な毎日が続いていました。しかし、少しずつ友達が増えていきました。そんな中で7月ごろに新型コロナの影響で遠隔授業が始まってしまい、友達に会えなくなってしまいました。遊びたくても誘うことすら出来ませんでした。新型コロナウイルスが少しずつ収まり学校に行けるようになりました。普通に学校に通えるようになり、友達と一緒に授業を受ける楽しさを改めて感じ、当たり前なことではないのだと実感しました。今の友達を本当に大切にしていきたいです。アルバイトでは、時短営業が続き、お客様も減る日が続きました。マスクをしているとお客様の声も聞き取りづらくなり、私の声も届きづらくなりました。もどかしかったですが、出来るだけあまり大きな声は出さずお客様に届くようにはきはき話すことを心がけました。コロナ禍になって学べたことも沢山あるので、これからの生活にも活かして行けたら良いと思います。

**短**大での授業は、前期はオンラインが多かったですが、この一年間で親しい友人をたくさん作ることができるほど学校に通う機会があったため、学校生活はとても満足のいくものでした。資格の勉強や就活についての説明など今までに聞いたことのない場所からの話が多くあり、難しいと感じることもありましたが、新しいことを知ることができ、頑張ろうという良い刺激となりました。また、サークル活動では、コロナがなかなか終息することがなく、集まる機会があったとしてもキャンセルになることばかりでした。しかし、秋になりコロナが終息すると活動が始まり、普段関わることのない大学の人たちと交流ができ、様々な話を聞くことによってコミュニケーション能力が鍛えられました。友達もでき、短大生活が充実したものだといえる思い出ができました。私が勤めているアルバイト先は、大人数でのお客様を相手にしているため、コロナの影響を大幅に受け、予約がキャンセルになり、月に一回のみの出勤だった時もありました。終息してからはその分多くの予約が入り、今まで以上に働く日数が多くなり忙しい生活でしたが、同時に充実していると感じることができ、良い経験となりました。

**私**がコロナ禍の中で1番不安だったことは、無事就職出来るかどうかということです。感染を防ぐために学校に通えなくなり、先生や友達と話す機会も減り、就職について相談することがあまり出来なくなって、とても心細い気持ちでいっぱいでした。企業の説明会や見学なども中止となり、どう動いてよいか分からない中で、友達が一足先に内定を貰っていくという状況に焦るばかりでした。私は、民間企業と公務員を併願していましたが、公務員を選んで最後まで頑張ったとしても合格出来なかったらと思うとなかなかどちらにするか選べませんでした。ですが、このコロナ禍で売上が伸びず解職が増える中で公務員はその心配がなく安心して働けると思ったこ

とと、これまで勉強してきたことを無駄にしたくなかったので公務員を選びました。しかし、学校で授業や模試が受けられず、家しか勉強する場所がなくモチベーションを上げられず、最初はなかなか集中して勉強に取り組むことが出来ませんでした。家に大量の模試が送られてきてうんざりする毎日でしたが、ひとつひとつしっかりと解答し、めげずに最後まで頑張りました。また、面接練習も学校に通い、専門の先生とリモートで対策をたくさんしました。すべて1で行い、自分の行動が合っているのか不安でしたが、信じて最後までやり遂げた結果、無事公務員として就職することが出来たので良かったです。コロナ禍で不便なことや大変なことがたくさんありましたが、自分で考えて行動する力がついたと思います。

**こ**れまでの短大生活を振り返って、最初は新しい環境で友達ができるのか、授業についていけるのかなどの不安がたくさんありました。私は、人見知りで、自分から話しかけることが苦手でしたが、勇気を出して話しかけたところ、クラスの子は優しい人が多く、今では友達も増え、とても仲良くできています。しかし、入学して数ヶ月で、遠隔授業に切り替わることになりました。初めてのことだったので、不安はもちろん、少し戸惑いました。zoomで上手く操作ができるのか、家で1人でできるのかが、とても不安でした。ですが、分からないことがある時は、友達に連絡し合うなど、なんとか乗り越えることが出来ました。高校生までとは違う点も多く、不安になることがよくありますが、周りの人が支えてくれているおかげでコロナ禍の1年を過ごしていくことが出来ました。この短大生活の1年間で、学んだこ



とを2年目でも活かして行きたいと思いました。

**コ**ロナ禍が少し落ち着いた頃は対面であったが、感染が拡大したときはリモートになった。私はZoomをこれまで使ったことがなかったし、仲のいい人も少なかったため、とても不安だったのを覚えている。仲良くなる前にリモートになってしまい、最後に会ってから時間も経ったため人と関わるのがとても難しく感じた。だから仲良くなるには時間がかかったと思う。またリモートはだらけてしまう生活にもなる。一人暮らしなので余計にだらけてしまいそうになった。しかし、意識をし規則正しい生活をするを心がけることができた。人との関わりが大切のだと実感する年でもあった。分からないことを聞くにしても人との関わりが大切だと実感した。また1人でいるよりも人といった方が楽しめると思った年でもあった。一人暮らしのこともあり、孤独と向き合う時間もあったと思う。その度に友達、家族に電話をして乗り切ることができた。人との関わりをこれまで以上に大切にしようと思える年であった。

**私**はこのコロナ禍の1年を振り返って、大変な年でしたが、何事もプラスに捉えて行動することができた一年になったと思います。新型コロナウイルスの影響により、前期は授業が対面からオンラインに変わりました。Zoomを使って授業を受けるのは初めてだったので、授業についていけるかととても不安で

した。しかし、Zoomで授業を受けてみると先生方がわかりやすく丁寧に授業を進めてくれるおかげでオンラインでの授業もしっかりと受けることができました。また、授業が対面からオンラインに変わったことで、自分の好きな場所で授業を受けることができたり、今までの通学時間や学校での休憩時間などを自分の時間に使うことができました。実際にオンラインでの授業を経験したことで、このようなプラスの面も見えてきました。これから就職活動も始まるので、コロナ禍での就職活動は厳しいかもしれないとマイナスに考えるのではなく、何事もプラスに捉えることを意識していきたいです。新型コロナウイルスの影響によっていろいろなことが制限されていますが、残り一年の短大生活を思いっきり楽しんでいきたいです。

**コ** ロナという未知の病に侵された年という事もあり、とても大変な年でした。仲のいい友達にも会えず、学校もお休みという非常事態の中、私は1人家でオンライン授業を受けていたのです。最初は慣れなかったオンライン授業も数をこなしていくうちに慣れていきました。教材だけ届き、右も左もわからないまま闇雲に授業受けていた日々が今では懐かしく思います。夏休みには、学校が解禁されはじめて友達と出会いました。SNS等で連絡は取り合っていたのですが、顔も見たことなかった為とても緊張したのを覚えています。自分から話しかけるなど積極的に友達作りに専念しました。それからは対面授業が主な授業となり学校に通うという、いつもなら当たり前な行為が新鮮に感じました。すぐに寒くなり冬が来て、あっという間に冬休みが終わりました。いよいよ就活というハードなスケジュールのなかなか私たちはよく生きてこれたと思っています。行事は少なかったですが、友人とご飯に行ったり遊んだり。いつもなら普通に感じてしまう行為の大切さに気付かされた気がします。コロナのせいにするのは、簡単な事ですがこういう状況下の中、い

かにポジティブに考える事こそが大事なのではないかと思いました。

**コ** ロナ禍の一年を振り返ると、通常の一年よりも不安な思いをしたことが多かったように思う。特に就職活動は、友人に直接会って悩みを共有する機会がなかったため、自分だけが遅れているのではないかという不安や、みんなはもう決まっているかもしれないという焦り、孤独感を感じる事が非常に多く、心細かった。また、第一志望の企業や受けた企業に落ちてしまった時もひどく落ち込み、このままどこにも受からず、就職できないと後ろ向きな気持ちになることもよくあった。しかし、電話で友人と連絡をとった時に、不安でありながらもそれに耐えて一生懸命、前向きに頑張っている話を聞き、不安なのは自分だけではなく、みんなも同じなのだからと最善を尽くして、1回1回のチャンスを大切にしようという気持ちに変わった。コロナを通して、努力や諦めないことの大切さ、仲間がいることの心強さなどを特に強く感じた。また、自分と向き合うきっかけにもなり、ひと回り大きく成長できたのではないと思う。今後、社会人になるうえで厳しい環境になると思うけれど、仕事が辛い、辞めたいと思ってしまった時、一生懸命頑張った就職活動のこと、家族・友達・先生がくれたあたたかい言葉を思い出し、自分ならもつとできるという自信に変えて、自分自身を奮い立たせていきたいと思う。

**私** は、このコロナ禍の一年を通して、「自主的に取り組むことの大切さ」を実感することができました。このコロナ禍で、遠隔授業での対応となり、自宅で授業を受けるようになりました。そのため、カメラには映っていないことでだらけた態度で授業に臨むことが多かったです。しかし、ICTの授業で、このような時代において、自主的に学ぼうとする姿勢がどれほど今後の自分にかかわってくるのかを思い知らされ、このような時代だからこそ自ら学ぶ意欲のある

人とそうでない人との差が開いていくのであると感じたのです。そのため、それに気づいてからは、授業が遠隔であってもいつもと同じ時間に起きて、勉強専用の机を用意して、そこで講義を受けたりするなどの工夫をして、授業を受けるように心がけました。これは、コロナ禍ではなくても、必要不可欠なことであると思うので、もっと身につくように努力したいと思います。例えば、遠隔授業であれば、勉強するのに適した環境を作ったり、生活リズムを普段の学校へ行く用の時間に合わせたりするなど、細かいことも面倒臭がらず、コツコツ頑張っていこうと思います。



# 4. 学生たちのコロナ・アーカイブ から見た Sei-Tan 教育

## 「遠ざかった Sei-Tan、帰ってきた Sei-Tan」

新型コロナウイルスにより大学教育は甚大な影響を受けた。本学では、危機管理と本来の学びの保障を、いかにして両立しようとしたのか。その渦中で、学生たちが寄せてくれた「生の声」は、今後の教育指針を考える上で、大きな拠りどころとなるに違いない。ポストコロナ時代のまだ見ぬ新しい脅威に備えるため、本書のおわりに代えて、想いの一端を記しておく。

2019年から始まった世界的な新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大で、2020年、わが国においても緊急事態宣言が出され、4月初旬から約1カ月半に及ぶ自粛生活が余儀なくされた。

大学教育も大きな影響を受けた。第2章で述べたように、2020年2月5日付で、学内に金沢星稜大学・短大合同の「危機管理委員会対策本部」が設置され、一元的な新型コロナウイルス感染予防対策が講じられる態勢を整えた。これらの対策で学生たちはどのような影響を受け、どのような思いで受け止めたのか、第3章で収録した2020年度・2021年度在学学生たちのコロナ・アーカイブから、その一端とSei-Tan教育を簡単に振り返っておきたい。

なお、このコロナ・アーカイブは2020年12月～2021年2月、2021年12月～2022年2月にかけて、コロナ禍の本短大における教育史資料とするため、dotCampus上で学生全員に提出を依頼、これに応じて提出された計339人分の記録である。なお、明らかな誤字・脱字および、氏名や個人の特定につながる可能性のある情報について短大部所属教員および編集段階で修正あるいは削除している。

### 2020年3月の卒業式

3月12日には、2019年度短大の卒業式が各講義室で分散開催の形で行われた。アルコールの手指消毒、座席間隔を空けた三密防止策が講じられ、保護者や来賓の出席もなかった。式は大幅に簡略化され、学長式辞や送辞・答辞は、ゼミ単位の講義室へ校内放送され、その後担当教員から学位記が授与されるという異例の形式で行われた。謝恩会など友や先生方と別れを惜しみ、晴れ着で記念写真を撮り合う十分な機会や時間さえ奪われたコロナ禍の卒業式であった。さぞや無念であったと思われるが、残念ながら当該年度の学生たちの声は収録されていない。

### 2020年度入学式

2020年4月2日、短大入学式が稲置講堂で行われた。保護者の入場は許可されず、「親にも見てもらえない閉鎖的な入学式」を嘆く学生もいた。考えてみれば、この2020年度入学生

たちの多くは、すでに高校3年時にコロナ感染によるさまざまな制約を体験しており、短大入学後も同様なかと大きな不安や失望感を覚えたとしても無理はなかろう。もちろん、それでも「対面での入学式ができた」「感染防止に配慮された入学式だったので安心できた」など肯定的な受け止めも見られた。

### 「遠ざかる大学」2020年度前期授業開始の延期

当初、感染対策を施しつつ、4月9日から全面的に対面授業を実施する予定であったが、学生及び教職員、社会的な感染拡大不安の増大などから、全国諸大学と同様、授業開始をゴールデンウィーク明けの5月7日に延期し、4月13日から5月6日まで、本学校舎への立ち入りを制限するとともに、期間中の行動等についての注意喚起を行った。

この措置は短大生に大きな影響を及ぼした。

新入生には、ほぼ全員が「焦りと不安」「不安な生活」「今後への不安」「ステイホームへの戸惑い」「何のための短大か」「理想と真逆の大学生生活」「大学生実感が無い」「初めての一人暮らしで不安が大きい」などの不安があったことがわかる。2年次生は、やはり就職活動への不安である。「生活が激変」する中で、「従来の経験が通じない就職活動」に直面し、「思い描いた学生生活を送れなかった」「環境激変のストレス」を強く感じた学生も多かった。

### 遠隔授業に向けた準備

5月5日前期授業(遠隔授業)の開始にあたり、「学長から学生へ コロナ後の社会再建のために、今皆さんがすべきこと」が発表された。このメッセージは、4月7日に発せられた「新型コロナウイルス緊急事態宣言」を受け、本短大における遠隔授業の開始にあたり、学生の皆さんへの「お願い」を簡単にまとめたものである。その骨子は、必ず訪れるであろうコロナ後の社会再建と修復のために、若き学生の皆さんが力を蓄え、備えてほしいというものである。またその際に自らの安全確保を図りつつ、周りを見渡してほしいというものであった。

| 新型コロナの世界的な感染拡大に伴って、盤石に思えた世

界の構造が案外にもろいものであることが露呈しています。日本国内でも緊急事態宣言の下、多くの企業や学校、商店も休業、人々はStay Homeを余儀なくされています。社会全体がまさに大きな危機を迎えています。そうした状況下において、感染治療や予防のため働いてくださっている医療関係従事者はもとより、Stay Home生活を支えて働いている、生産者、販売・物流関係者、など大勢の人々がいることを忘れてはなりません。金沢星稜大学女子短期大学部と金沢星稜大学の卒業生や学生もこの中に含まれているかもしれません。この方々に感謝と敬意を表しつつ、新たな負荷をかけないように、また自らと周りの大切な人の命や健康を守るべく、可能な限り今はStay Homeを心がけることは学生として当然のことです。

そして、やがて現前するであろうコロナ災害後の大きなダメージを被った社会の再建と修復に向けて、まもなく若き学生の皆さんの出番が必要になります。そのための準備と心構えをお願いします。その第一は、身体の健康と精神的なトランス（耐性）度を上げておくことです。短大の体育授業もサークル・部活動もできません。しかし、他人任せではない自分自身の創意工夫でそれは可能です。

第二に、学生である以上、それぞれの学修を最大限追究しましょう。短大が休業し、Stay Homeせざるを得ない皆さんにとっては、この期間は今まで経験したことのない「長すぎる時間」かもしれません。しかし短大に行かなくてもよい、外に出かけなくてもよいこの時間はまことに得難い自由な時間であり、これまでできなかった読書や、あるいは自分自身をじっくり見つめる得難い機会になるでしょう。それは皆さんの人生にとって貴重な機会です。

本学も5月7日からようやくdotCampusを用いた遠隔授業をスタートさせる段階までこぎつけることができました。スマホを使いこなし、パソコン操作に熟達した皆さんや大多数の先生方には、雑作もないことだったかもしれませんが、すべての先生方がそうだったわけではありません。70歳を超える高齢者の私などは、講習会に何度か参加し、飛び交う意味不明のカタカナ語に戸惑いながら、何度も教えていただき、かろうじてごく初歩的な最低限の遠隔授業ができるようになっただけです。新しいことを学ぶ学生の皆さんの気持ちが少し分かったような気になりました。皆さんも大変かもしれませんが、先生方もそれを支える職員も、ここの所、機器やシステムの整備、カリキュラムの変更など、遠隔授業実施に向けて不眠不休の努力をしてきたことをご理解ください。そして皆さんの遠隔授業整備について、大学側も総力を挙げて支援していることはご存じのとおりです。

皆さん、突然われわれを襲ったコロナショックはまだ途上にあり、私たちはまだ被害の全貌をつかむことすらできていません。それはおそらく世界システムを変えるほどの大きな出来事なのであります。しかしこの一部始終を冷静に見つめることができる時代に立ち会わせた者の経験を奇貨として、これをたくましく乗り越え、2020年令和時

代の名にふさわしい平和でそして新しい社会システムを作っていくではありませんか。その主たる担い手は若き皆さんです。今そのために学ぶのです。皆さん、短大とともに一緒に進みましょう。どうかお願いします。

突然の災害や事故などの緊急事態に遭遇した時に、最初に自らの安全を確保することの大切さは「津波でんでんこ」という言葉でよく知られるようになりました。しかし、同時に、私はその次の行動が重要であると思います。人生のライフステージの中で、おそらく最強・最大の体力を持つ時期にある若者がしなければならぬことは、自らの安全を確保した後、周りを見渡し、お年寄りや小さな子供たち、社会的弱者など、困っている人々に可能な範囲で手を差し出すということです。「タイタニック」から一番先に逃げ出すのが屈強な若者たちだとすれば、それは、私の目指す教育ではありません。

## 全学生を対象とした情報環境整備支援金支給

遠隔授業の実施に当たっては、学生の自宅や寄宿先の情報通信環境の整備が必要になることは言うまでもない。大学・短大では全学生を対象とした情報環境整備支援金（3万円）支給を決定し、5月中にはほぼ支給を完了した。「パソコンなど購入する機器によって学習環境が平等ではない」ことは事実であるが、全学生に、コロナ禍であっても最小限ではあっても大学の学びを保証しようとする大学の姿勢は、「遠隔授業に適應できた」「パソコン指導がありがたかった」「オンライン授業があつてよかった」「オンライン授業に効果的な対応策をとってくれた」など、遠隔授業に積極的に向かう学生たちの姿勢に窺うことができる。

なお、北陸地域の大学ではいち早く決断した、この全学生を対象とした情報環境整備支援金（3万円）支給を、本学ではニュース・リリースすることはしなかった。これは学生たちの本来の学びを保障するという観点からは最低限の保障であつて、決して誇らしげに広報する類のものではないという判断による。

## 遠隔授業の実施 学生たちの戸惑いと適応

5月7日、全学一斉に遠隔授業が開始された。懸念された機器やサーバーの想定容量超過や不具合もなく、次第に遠隔授業が軌道に乗っていった。しかしながら、学生たちにとってそれは本来の大学生活ではなかった。

その第一は、大学の対面授業やサークル活動などができない不満や悩み、第二に遠隔授業への戸惑いや不安、第三に自宅にいることのストレスである。

### ■「会いたい人に会えない！」

学生たちの多くは対面授業やサークル活動などができず、「会いたい人に会えない！」不満や悩みを異口同音に述べる。「大学生の実感がない」「自宅でやる気が出ない」「楽しみを奪われた」「サークルができない」「行事やイベントがない」「会いたい人に会えない」「みんなとダンスが踊れない」「最悪の年」

「やめようかと思った」「一人暮らしの孤独」「引きこもりがちになった」「自粛生活ストレス」などである。ほぼ全員がやむを得ないと思いつつも、大きな影響を受けたことがわかる。

### ■「友の笑顔がボタン一つで黒い画面に変わる」遠隔授業

遠隔授業に最初は「戸惑いや不安」が大きかったことは言うまでもないが、操作の習熟につれその内容は「周囲の状況がわからない」「友人づくりに不安」と人間関係の構築をいかに進めるかという問題に移っていったように見える。

「友の笑顔がボタン一つで黒い画面に変わる」切なさは遠隔授業ではやはり解消しきれないのである。「遠隔授業では提出物が多い」とする一方、遠隔授業のメリットに気づく学生も少なくない。「通学時間がゼロ」「オンラインがあつて救われた」「自分のペースで学べる」「自分にはリモートが適している」「人づきあいが苦手なのでよかった」「対面授業のストレスがない」「オンラインはわかりやすい」「オンライン授業のほうが成績のメリハリがでる」などである。

また短大の場合、「経営実務」に必要なMOS検定や簿記検定などさまざまな資格取得への挑戦がそれぞれの到達度に応じて段階的かつ豊富に用意されており、「資格検定に挑戦」「自分に向き合い自主的に考えて行動」「パソコンに習熟できた」「大変だったが、信じられないくらい楽しくもあった」という回答も見られた。

中には「家事を積極的に担当して家族に感謝された」「家族との対話時間が増えた」「ランニングを始めた」「運転免許や趣味に打ち込んだ」「自己啓発本に取り組んだ」「自宅でドラムがたたけなかったので、代わりにギターを覚えた」「自宅時間を利用してマイナス9キロのダイエットに成功」した学生もいる。

「寝て起きて画面に向き合うだけ」の受け身の授業から、自分自身の積極的な行動を含んだ生活を作り上げた学生は、おおむね遠隔授業のメリットを高く意識できているようである。また大学側も学生の立場に立った新たな学習目標を提示することも必要であることがわかる。これは今回得られた大きな成果である。

### ■自宅生活のストレス

すべての家庭がステイホームに適切であるわけではない。中には罹患家族もいれば、祖父母に感染死亡者が出た学生もいる。さまざまな家庭事情の中で「家庭ではやりにくい」「家族といるのが嫌になった」「家族とぶつかり、自粛期間泣いていた」と訴える学生がいたことも事実である。

そのような学生に対して大学が積極的に居場所（アジール）としての場を提供する必要があったのではないかと考えられる。今後の留意事項である。

## 短大 後期から対面授業へ

こうした前期の経験から、短大は後期授業から対面授業に戻すこととした。夏休み中の8月12日「学生の皆さんへ」でこのことを通知するとともに、8月21日、次のような学長メッセージをホームページに掲載した。

皆さん、こんにちは。8月後半。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」（藤原敏行）。8

月12日「学生の皆さんへ 2020年度後期の授業について」でお知らせしましたように、Sei-Tanは、後期から原則対面授業に戻します。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、前期はすべて遠隔授業でした。学生の皆さんはもとより保護者の皆様も対応にご苦労されたことと拝察します。Sei-Tanの教員、職員も総力を挙げて奮闘、その結果、遠隔授業実施に向けたIT関連機器の整備・拡充、ノウハウ習得も進み、大きなトラブルなく、遠隔授業がほぼ成功裏に実施できたことは、何よりのことでした。関係者の努力に敬意を表したいと思います。

遠隔授業は、何より感染の恐れがないことが最大のメリットです。先日Sei-Tan学友会の皆さんと話し合う機会があったのですが、席上「通学が不要なので直前まで別のことができる」、「お化粧品や服装も楽」、「思っていたより（かえって）授業が分かりやすい」などの率直な声もお聞きすることができました。遠隔授業に大きなメリットがあることは疑う余地がありません。

では、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない8月の現段階で、なぜ後期から遠隔授業ではなく対面授業に戻すのか、とお思いになれる方もおられると思います。本日はそのことについてお話ししたいと思います。もちろんこれは一人の老教員としての私の思いですので、そのつもりで聞いてください。

昔のことになりますが、私は教育学の授業で、ドイツ流の教育理論を学びました。授業（Unterricht、ウンターリヒト）というのはBildung（ビルドゥング）とErziehung（エルツィーウング）の2つから構成されるというのです。ビルドゥングというのはさまざまな知識や技能の教授のこと、英語ではinstruction、日本語では「陶冶」（とうや）と訳しています。いっぽうエルツィーウングというのは、判断・意志など、人格・性格形成にかかわる概念です。日本語では「訓育」と訳し、英語ではdisciplineを当てています。この2つを教育として総称する場合も同じErziehungと言いますから、少しややこしく、分かりにくいですね。またビルドゥングとエルツィーウングも画然とは区別できないという批判もあり、この教育理論は古典的過ぎるとして、現代の教育学ではあまり教えられていないようです。

でも大事なことは、授業（ないし教育）には「知識や技能を身につける」側面と、「人生や世界観といった目に見えない人格形成」の2つの側面があるということです。例えば、経営実務学科の学生であれば、簿記・会計や税務事務もこなせる「知識や技能」を身につけねばなりません。これはビルドゥングです。そしてそれとともに、例えば、脱税とか不正経理に与しない倫理観や人生観も身につけねばなりません。これは授業内容に直接組み込まれる場合もありますが、多くは先生方の言葉、態度、姿勢、行動、表情、息遣いなどから、それらを身につけていきます。いわば全人格的な教えです。これがエルツィーウングです。私自身の経験で言っても、授業内容はすっかり忘れてしまいました

が、歴史の信ぴょう性について熱っぽく語るその語り口から、学問に向き合う姿勢というのは、こういう真剣勝負なのだと思えて深く覚えているということがあります。

Sei-Tan 生の皆さんは、修業年限が2年間です。2020年度はすでに1年間の半分をほぼビルドゥングのみで過ごしてしまいました。なんとでもエルツィーウングを補完して、教育を全うしなければなりません。後期に対面授業を決定した最大の理由です。むろん学生や教職員の生命・安全は何より優先します。今後のコロナ感染状況次第では、再び遠隔授業にせざるを得なくなる可能性もあります。そのため万一の場合に備えて、前期の経験をもとに、即応可能な体制を準備しておかねばなりません。それでも教育には対面によるエルツィーウングが不可欠なのです。当世風言えば、ハイテク授業には同時に、ハイタッチな教師や友人同士の人間的な交流が伴わねばなりません。

Sei-Tan 生の皆さん。後期授業開始に当たり、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限の注意を払いつつ、対面授業でなければ得られないエルツィーウングの重要性を理解し、貴重な機会として、これまでも増して積極的に授業に取り組んでくださいますように。

## 短大が戻ってきた！ 待ち焦がれた対面授業再開

最多数の学生たちは、後期からの対面授業の再開を待ち焦がれていた。再開の報に「安堵」感や「後期から対面でよかった」「対面に感激した」「対面でやる気が出た」「これで頑張れる」と歓迎していた。それはやはり「友達や先生に会える喜び」が大きかったからであろう。「精神的に安定した」「サークルに入った」「短大の学校行事、流星祭が楽しかった」「後期からの対面授業が楽しかった」「後期からの対面授業でやっと友達ができ」「後期からやっと安心できた」などの喜びに満ちあふれた感想がみられる。

前期遠隔授業、後期から対面への切り替えは、「前期はパソコンに習熟、後期は友達ができ充実した」「パソコンが得意になっていた」「母から、最近明るくなったといわれた」のように、それまでの鬱屈した生活を一気に挽回するかのような積極的な態度や行動に結びつけ、後期における学生生活の活性化に結び付いたのである。

なお、「遠隔からの対面授業への切り替えに戸惑った」「対面も遠隔も大して変わらない」と答える学生もいた。しかし就活中の2年次生にとっては「自分だけ就職が決まらないのだと思っていたが、進路支援課の助言や友人との情報交換や励ましがあった」「希望の会社に合格した」「公務員試験に合格した」など安心感とともに、内定の喜びを分かち合える環境にあることが大きな意味を持ったようである。

## ポストコロナの短大教育

本学では、上述のように大きなエネルギーを費やして遠隔授業やコロナ感染対策事業を展開した。前期オンラインでの授業の経験は、対面授業ができないためのやむを得ない代替措置を

超えて、オンラインの方が効果的な授業と対面の方が効果的な授業である場合の両面があることがはっきりした。また知識の伝達についても、単なるオンライン授業ではなく、オンデマンド型の授業の方が有効な場合があることもわかってきた。一方、対面授業ならではのPBL（問題解決型学習）方式の授業メリットがより鮮明となり、今後教員にはそのための新たな技能がこれまで以上に求められると考えられる。

また海外協定校への相互訪問や研修、私的な国内外旅行などはこの間全面的に実施できなかった。「プロレスやライブにいけない」「卒業旅行行きたかった」「海外旅行行きたい」など、コロナ禍で実現できなかった夢や希望も、オンラインで一部可能にはなった。だが、それはやはりリアルな体験とはいいいがたい。

とはいいいながら、こうした大学教育における新たな教育方法の開発とノウハウ、またこれらを可能にする通信デバイスや機器の整備と利用方法がコロナ危機を契機に大きく進むことになった。本学でも2022年度入学生から導入を検討していたiPad端末の配布を、急遽2021年度後期から前倒し実施した。

今後、テレワークの普及とともに、女性の社会的活躍が大きく進むことが期待される。また、AIやイノベーションの重要性を考えると、理系人材の重要性がこれまで以上に増すことが考えられる。その際、理系人材といっても求められるのは文理横断型の資質であり、人文・社会科学系の学生には、AIなど最新科学の基礎や数学の素養が求められることになる。本短大は経営実務学科であり、卒業生の中には、一般事務職のほか、経理やIT機器関連の事務職に多数の人材を輩出している。今後、短大教育の中にさらなる情報関連の教育内容を整備すること、また今回のコロナ感染対策として培った遠隔授業のノウハウを活用し、遠隔授業方式で提供する新たなリカレント教育の在り方が工夫される余地も生じているといえよう。

すでに文部科学省も2度目の緊急事態宣言の発出に伴い、学生の学修機会の確保と感染防止対策の徹底を両立し、学生の修学の継続への配慮や学生に対する注意喚起などを各大学に要請、オンライン授業に関する特例的な措置（短期大学設置基準第11条、18条関連）を認めている。

## 対人力

2022年6月、『日経キャリアマガジン』『価値ある大学2022-2023就職力ランキング』小規模大学部門で、金沢星稜大学が全国1位に選出された（[http://www.seiyo-u.ac.jp/u/new/2022/0602\\_2.html](http://www.seiyo-u.ac.jp/u/new/2022/0602_2.html)）。

「就職力」の中身は、「行動力」「対人力」「知力・学力」「創造性」の4項目。「行動力」というのは①熱意がある、②主体性がある、③チャレンジ精神がある。「対人力」というのは、①コミュニケーション力がある、②ストレス耐性がある、③適応力。「知力・学力」というのは、①論理的思考ができる、②高い教養を身につけている、③理解力が優れている。「独創性」は、①創造力がある、②個性がある、③着眼点が良い、というものである。

これは大学版ではあるが、本短大は金沢星稜大学以上の高い就職率を誇る。進路支援課やエクステンション課における就職支援も共通であり、きめ細かい指導とともにゼミの指導体制が整っている。こうした「対人力」「行動力」「知力・学力」「創造性」にさらに磨きをかけるためには、安全が確保される中での

冒険に一步踏み出す知的好奇心、勇気、行動力、言語力などが必要である。進路支援課の「ほしたび」「ムーンショット・アブロード」「海外研修」「自分を超越する旅」などの活動プログラム、仲間とともに作り上げる「サークル活動」「各種行事」「音楽・文化・ダンスイベント」など、学生生活の魅力や醍醐味を高める学友会の積極的な活動支援、地域や地元企業とタイアップした新商品開発や販売など「プロジェクト・ベースド・ラーニング」(PBL) などアクティブ・ラーニングが一層進められなければならない。

コロナによって見えてきた本短大の良さや課題、学生たちの思いと期待を今後の大学教育に反映させていきたいと思う。



## あとがき

新型コロナウイルスによって国内外が未曾有の危機に直面した2020年は、歴史的にも特別な一年でした。この世の中は想定外のことが起こるのだという事実を知り、想定外の出来事が起こることによって、それまで予定していたことが一瞬で白紙に戻ってしまうという衝撃を体験しました。2021年は小康状態を保ちつつもさまざまな変異株が出現し、2022年8月の現在は、オミクロン株によって感染者数過去最多を更新しつづけています。

このようなコロナ禍をどう過ごしたのか、2020年度と2021年度に短大部に在学した学生の皆さんに対して感想文を募集したところ、たいへん多くの方にご協力いただきました。学業・課外活動・アルバイト・家族・就職・友人関係など、様々な観点から学生の皆さんの率直な言葉が綴られ、普段、授業でお会いするときとはまた違った一面を知ることができたように思います。

例えば、「コロナ禍でわたしは時間を有効活用できなかった。資格取得も勉強もなにもしなかった」と正直に振り返る学生がいました。この学生は「卒業旅行も海外研修も留学も諦めた。しかし、そこで気持ちを落としてはいけなかった。限られた中でどう行動するか、楽しむものもしないのも、人生は自分のせいである」と結んでいます。これほど自分を厳しく批判できる誠実さ、自分次第で人生が変わることに気付くことができた賢さに、勇気をもらいました。

コロナ禍を「これからもこのような生活が続き、だけど世界の終わりともまでは思えない、不思議な狭間」と表現した学生がいました。また、「元の生活に戻るよりかは変わってしまった今の生活に慣れることを考えた方がきっと合理的なのでしょう。それでも私は、何事もなく穏便に過ごせていた頃を夢見るので。いつか再び以前のように過ごせることを、マスクを外して外の空気を吸えることを、願うのです」とコロナ後に思いを馳

せた学生もいました。まるで詩を読んでいるような瑞々しい言葉です。豊かな感性、表現力に触れ、星短生の美しい心の内を垣間見たように思いました。

そして、なんと言っても、星短生の優しさには感服しました。「友達とは連絡を取っていても就職活動については話す事ができませんでした。聞くことも答える事も相手がどのような状況か分からないので、周りに内定をいただいたことは言えませんでした」と書いてくれた学生のように、多くの星短生が他者へ思いやりの気持ちを自分なりの言葉で表現していました。

私は、文学など国語系の教養科目を担当していますが、自分の担当科目で「他の人のさまざまな考え方や心の機微を広く知ること、そして豊かな情緒・他の人を思いやる気持ち・誠実さ・ユーモアのような人間ならではの心の美しさを磨くこと」を目標としています。「文は人なり」と言いますが、学生の皆さんの文章からは、まさに私が目標としている人間の姿が見えました。新型コロナウイルスの影響から、思い描いた短大生活とギャップがあったと思います。しかし、星短生は粘り強く笑顔で学生生活を送り、一人ひとりがそれぞれの想いを乗り越えて、大きく成長したように思います。この記録を広く発信することで、きっと多くの方々に勇気と感動を届けられることでしょう。

90周年の節目にこのような素敵な学生の皆さんと共に学べたことを心からうれしく思います。そして、来たる100周年に向け、他者とともに考え、お互いに助け合い高め合える星短生がこの北陸の地でリーダーシップを発揮していることを確信しています。

最後に、本冊子刊行にあたり、ご協力いただいた皆様にあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

2022年8月

編集代表 山田 範子



# Sei-Tan コロナ白書

“近くて遠い”キャンパス、当惑と奮闘の900日

2022年10月 5日 発行

2022年 9月10日 印刷

企 画 学校法人稲置学園 学園創立90周年事業実行委員会

発 行 者 大久保英哲

編集代表者 山田 範子

発 行 所 金沢星稜大学女子短期大学部  
〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10番地1  
TEL 076-253-3924(代)  
URL <https://www.seiryu-u.ac.jp/c/>

印刷・製本 能登印刷株式会社

ISBN978-4-89010-813-8 C0037 ¥3000E

©Kanazawa Seiryō University Women's Junior College, All rights reserved.







KANAZAWA SEIRYO UNIVERSITY WOMEN'S JUNIOR COLLEGE  
金沢星稜大学女子短期大学部